千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
Ａ－００	図面リスト	－	Ａ－２６	シャワー室撤去図	図示	ＥＶ－０１	昇降機設備図（１）	－
Ａ－０１	案内図・配置図	(A-1)1:400, 1:2,500 (A-3)1:800, 1:5,000	Ａ－２７	外部仮設計画図（参考図）	(A-1)1:400 (A-3)1:800	ＥＶ－０２	昇降機設備図（２）（参考図）	(A-1)1:20 (A-3)1:40
Ａ－０２	計画概要・面積表	(A-1)1:400 (A-3)1:800	Ａ－２８	内部仮設計画図１（参考図）	(A-1)1:200 (A-3)1:400	ＥＶ－０３	昇降機設備図（３）（参考図）	(A-1)1:30 (A-3)1:60
Ａ－０３	敷地求積図	(A-1)1:200, 1:400 (A-3)1:400, 1:800	Ａ－２９	内部仮設計画図２（参考図）	(A-1)1:200 (A-3)1:400	ＥＶ－０４	昇降機設備図（４）（参考図）	(A-1)1:20 (A-3)1:40
Ａ－０４	増築部　求積図・面積表	(A-1)1:50 (A-3)1:100	Ａ－３０	エレベータ設置　防火区画図１	(A-1)1:200 (A-3)1:400	ＥＶ－０５	昇降機設備図（５）（参考図）	(A-1)1:4 (A-3)1:8
Ａ－０５	仕上表	－	Ａ－３１	エレベータ設置　防火区画図２	(A-1)1:200 (A-3)1:400	ＥＶ－０６	昇降機設備図（６）（参考図）	(A-1)1:10 (A-3)1:20
Ａ－０６	エレベータ設置　１，２階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ａ－３２	千葉市中高層条例　日影図	(A-1)1:400 (A-3)1:800	ＥＶ－０７	昇降機設備図（７）（参考図）	(A-1)1:4 (A-3)1:8
Ａ－０７	エレベータ設置　３，Ｒ階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ａ－３３	日影図	(A-1)1:400 (A-3)1:800			
Ａ－０８	エレベータ設置　立面図	(A-1)1:100 (A-3)1:200	Ａ－３４	エレベータ設置　法チェック図１	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｍ－０１	雨水排水設備　配置図	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－０９	既存　平面詳細図	(A-1)1:30 (A-3)1:60	Ａ－３５	エレベータ設置　法チェック図２	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｍ－０２	雨水排水設備　1階エレベーター廻り平面図（撤去・新設）	(A-1)1:100
Ａ－１０	エレベータ設置　平面詳細図１	(A-1)1:30 (A-3)1:60	Ａ－３６	消防無窓階チェック　１階　建具キープラン	(A-1)1:200 (A-3)1:400		雑詳細図・桝リスト	(A-3)1:200
Ａ－１１	エレベータ設置　平面詳細図２	(A-1)1:30 (A-3)1:60	Ａ－３７	消防無窓階チェック　２階　建具キープラン	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｍ－０３	消火設備　1，2階平面図（改修）	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－１２	既存　立面図・断面詳細図	(A-1)1:30, 1:100 (A-3)1:60, 1:200	Ａ－３８	消防無窓階チェック　３階　建具キープラン	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｍ－０４	消火設備　3階平面図（改修）	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－１３	エレベータ設置　断面詳細図	(A-1)1:15,30 (A-3)1:30,60	Ａ－３９	消防無窓階チェック　建具表	(A-1)1:50 (A-3)1:100			
Ａ－１４	既存・エレベータ設置　天井伏図・展開図	(A-1)1:30, 1:50 (A-3)1:60, 1:100	Ａ－４０	消防無窓階チェック表	－	Ｅ－０１	案内図・配置図	(A-1)1:400, 1:2,500 (A-3)1:800, 1:5,000
Ａ－１５	消火栓改修部詳細図	(A-1)1:50 (A-3)1:100	Ａ－４１	消火器位置図　１	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｅ－０２	受変電設備改修図	－
Ａ－１６	既存　ピロティ部詳細図	(A-1)1:30, 1:50 (A-3)1:60, 1:100	Ａ－４２	消火器位置図　２	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｅ－０３	幹線設備　１階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－１７	段差解消改修　ピロティ部詳細図	(A-1)1:30, 1:50 (A-3)1:60, 1:100				Ｅ－０４	幹線設備　１階平面詳細図	(A-1)1:30 (A-3)1:60
Ａ－１８	既存　昇降口詳細図	(A-1)1:30, 1:50 (A-3)1:60, 1:100	Ｓ－０１	構造設計標準仕様書	－	Ｅ－０５	電灯コンセント設備　１～３階平面詳細図	(A-1)1:30 (A-3)1:60
Ａ－１９	段差解消改修　昇降口平面詳細図	(A-1)1:20, 1:50 (A-3)1:40, 1:100	Ｓ－０２	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	－	Ｅ－０６	誘導灯　１階２階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－２０	段差解消改修　昇降口断面詳細図	(A-1)1:30 (A-3)1:60	Ｓ－０３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	－	Ｅ－０７	誘導灯　３階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－２１	建具キープラン１	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｓ－０４	鉄骨構造標準図（１）	－	Ｅ－０８	弱電設備　１階平面図	(A-1)1:100 (A-3)1:200
Ａ－２２	建具キープラン２	(A-1)1:200 (A-3)1:400	Ｓ－０５	ＱＬデッキスラブ施工標準図（参考図）	－	Ｅ－０９	弱電設備　１階平面詳細図	(A-1)1:30 (A-3)1:60
Ａ－２３	建具表	(A-1)1:50 (A-3)1:100	Ｓ－０６	ベースパック柱脚工法　標準図　（参考図）	－	Ｅ－１０	自動火災報知設備　１階２階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－２４	雑詳細図１	図示	Ｓ－０７	伏図、軸組図、リスト	(A-1)1:100 (A-3)1:200	Ｅ－１１	自動火災報知設備　３階平面図	(A-1)1:200 (A-3)1:400
Ａ－２５	雑詳細図２	図示	Ｓ－０８	鉄骨詳細図	(A-1)1:40 (A-3)1:80	Ｅ－１２	電灯設備　１階Ｒ階撤去図	(A-1)1:200 (A-3)1:400

千葉市都市局建築部営繕課

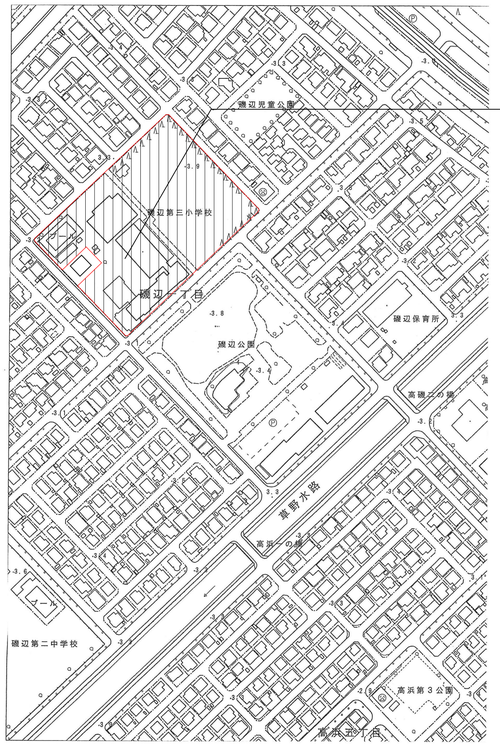
工事名　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名　図面リスト

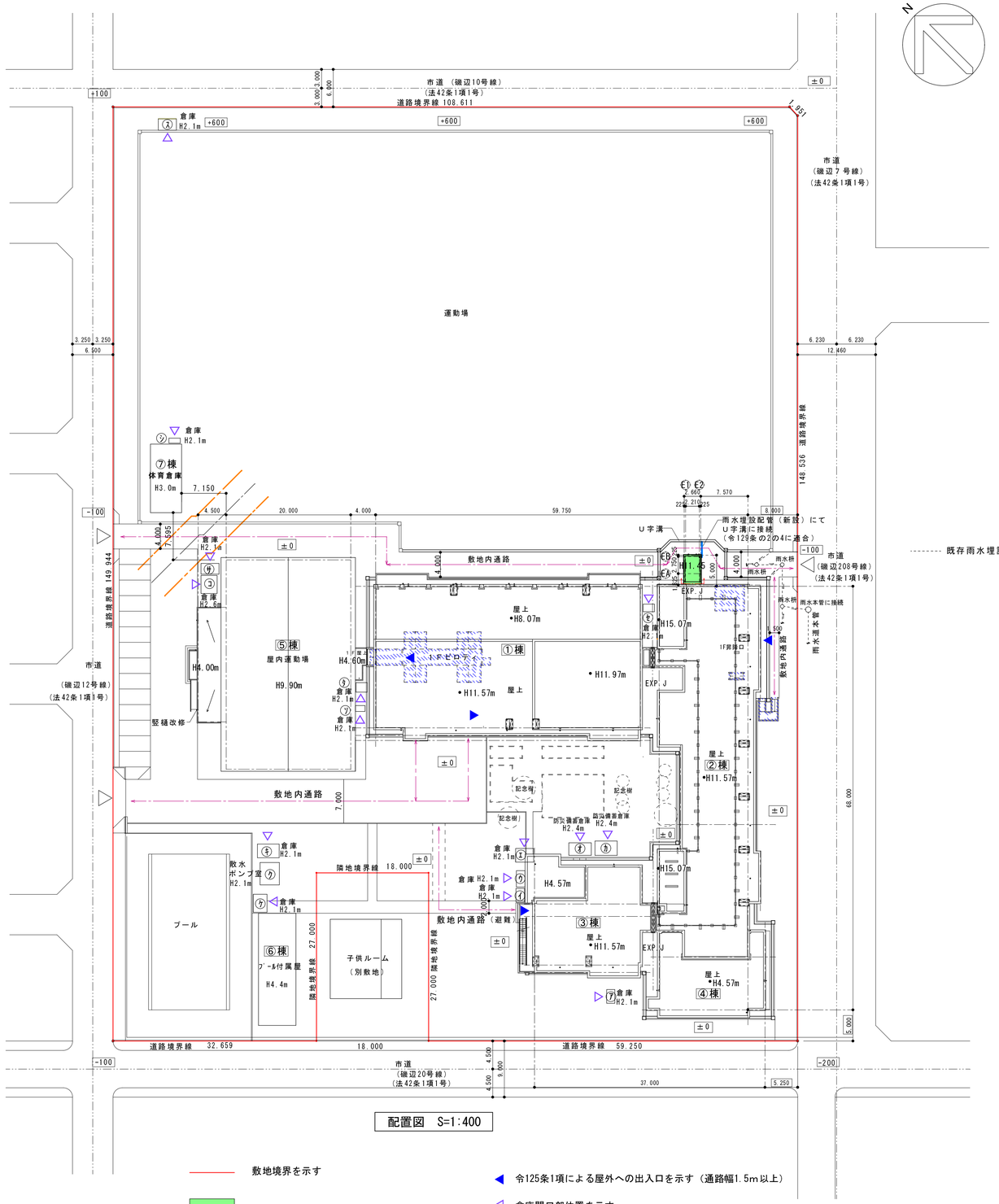
縮尺　A1　－　A3　－

図番号　A-00



千葉市立磯辺第三小学校
千葉市美浜区磯辺１丁目２５番１号

案内図　S=1:2500


N
市道（磯辺10号線）
（法42条1項1号）
道路境界線 108.611
市道
（磯辺７号線）
（法42条1項1号）
道路境界線 148.536
運動場
倉庫 H2.1m
⑦棟 体育倉庫 H3.0m
倉庫 H2.6m
⑤棟 屋内運動場 H9.90m
H4.00m
H4.60m
①棟
H11.97m
H11.57m
屋上 H8.07m
H15.07m
②棟 H11.57m
③棟 H11.57m
④棟 H4.57m
⑥棟 プール付属屋 H4.4m
H4.57m
プール
子供ルーム（別敷地）
敷地内通路
U字溝
雨水桝
雨水本管に接続
雨水埋設配管（新設）にて U字溝に接続（令129条の2の4に適合）
既存雨水埋設管
隣地境界線
道路境界線 32.659
18.000
59.250
市道（磯辺12号線）（法42条1項1号）
市道（磯辺208号線）（法42条1項1号）
市道（磯辺20号線）（法42条1項1号）
道路境界線 149.944
EXP.J
1F昇降口
敷水ポンプ室 H2.1m
倉庫 H2.4m
倉庫 H2.1m
倉庫 H2.1m
倉庫 H2.1

計　画　概　要

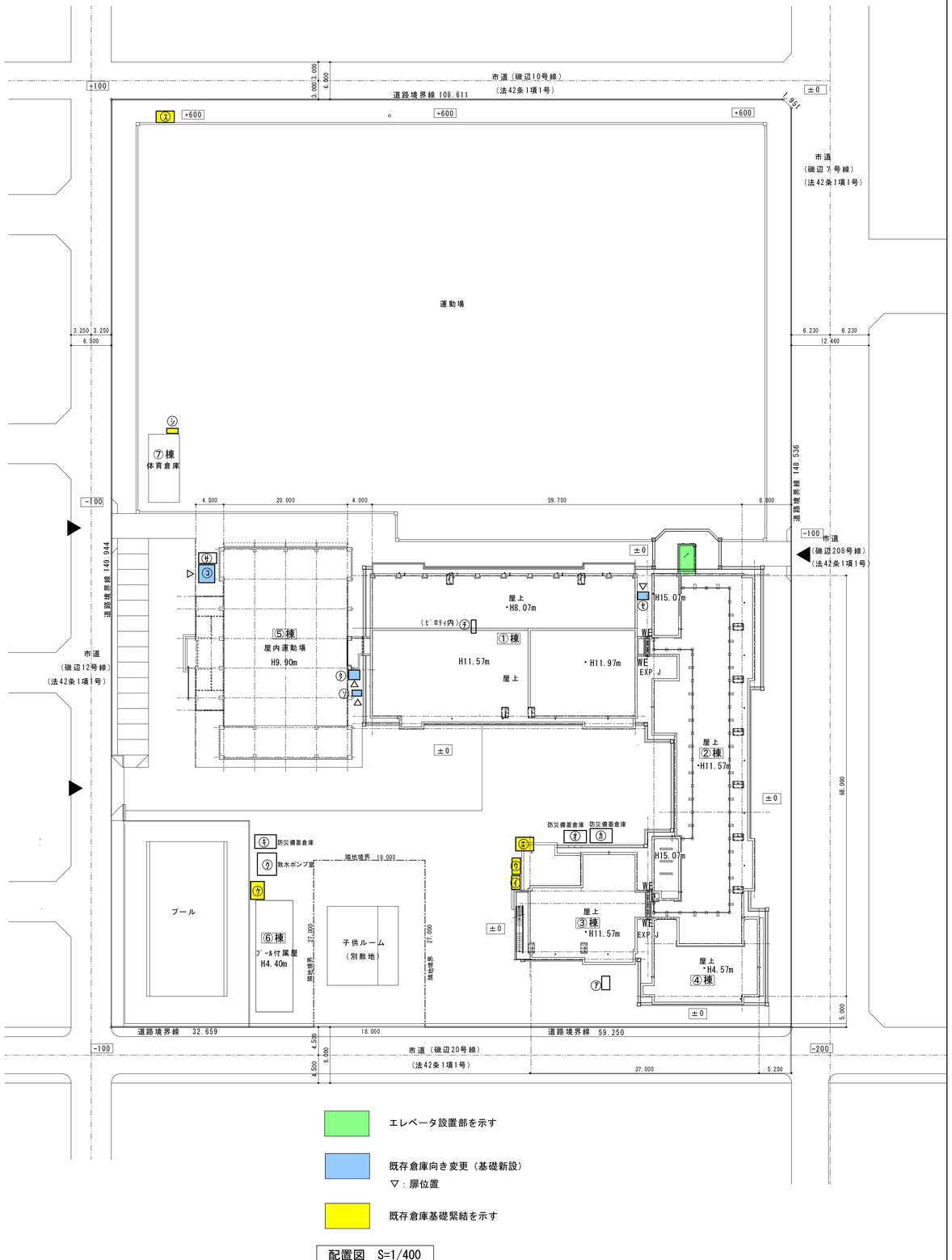
申 請 場 所	千葉市美浜区磯辺１丁目１３
敷 地 面 積	16,000.56 ㎡
地域･地区･区域 その他	第一種低層住居専用地域（１０ｍ）
	法第22条指定区域　・防火指定無し
	容積率 100%　・建蔽率 50%（角地緩和　+10%）
建 物 用 途	小学校　（申請部分：エレベータ棟）
構造・規模	既存部分（校舎棟＋屋内運動場）：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・３階建（耐火建築物）／申請部分：鉄骨造３階建（耐火建築物）

棟番号	用途	構造	階数	建築面積（㎡）		延床面積（㎡）		軒高	高さ	屋根	外壁	確認の履歴等
				既存部分	計画部分	既存部分	計画部分					
①	特別・普通教室棟	RC造	3階	2358.49		5489.44		11.37	11.97	ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 押えｺﾝｸﾘｰﾄ厚70 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水・押えﾚﾝｶﾞ積	防水型外装薄塗材Ｅ ＲＣ躯体・モルタル下地調整	小学校　新築 建築面積：2358.49㎡ 延べ面積：5489.44㎡ 確認済証：昭和55年6月30日　第計21号 検査済証：昭和56年3月20日　第計21号
②	管理・特別 ・普通教室棟	RC造	3階					10.97	11.57	ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 押えｺﾝｸﾘｰﾄ厚70 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水・押えﾚﾝｶﾞ積	防水型外装薄塗材Ｅ ＲＣ躯体・モルタル下地調整	
③	普通教室棟	RC造	3階					10.97	11.57	ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 押えｺﾝｸﾘｰﾄ厚70 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水・押えﾚﾝｶﾞ積	防水型外装薄塗材Ｅ ＲＣ躯体・モルタル下地調整	
④	給食室棟	RC造	1階					3.97	4.57	ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 押えｺﾝｸﾘｰﾄ厚70 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水・押えﾚﾝｶﾞ積	防水型外装薄塗材Ｅ ＲＣ躯体・モルタル下地調整	
⑤	屋内運動場	RC造 一部Ｓ造	2階	798.46		845.69		8.00	9.90	カラー鉄板瓦棒葺，厚0.4 （長期防錆塗料塗） ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 木毛ｾﾒﾝﾄ板 厚25下地	防水型外装薄塗材Ｅ ＲＣ躯体・モルタル下地調整	小学校　体育館 確認済証：昭和56年7月15日　第計27号 検査済証：昭和57年2月16日　第計27号
⑥	プール附属屋	RC造	1階	87.00		79.92		3.80	4.40	ｱｽﾌｧﾙﾄ防水 押えｺﾝｸﾘｰﾄ厚70 立上り：ｱｽﾌｧﾙﾄ防水・押えﾚﾝｶﾞ積	防水型外装薄塗材Ｅ ＲＣ躯体・モルタル下地調整	小学校　プール付属屋 確認済証：昭和57年5月21日　第計12号 検査済証：昭和57年7月28日　第計12号
⑦	体育倉庫	Ｓ造	1階	50.40		50.40		2.90	3.00	ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ折板屋根	窯業系ｲﾃﾞｨﾝｸﾞ張り	9.00*5.60*3.00H
	エレベータ棟	Ｓ造	3階		13.20		39.60	10.90	11.45	デッキコンクリート 塩ビシート防水 厚2.0 遮熱塗料塗り	防水形外装薄塗材Ｅ ＡＬＣ板厚125	今回申請建物
校舎・屋内運動場・附属棟の合計		建築面積		3,294.35	13.20			（合　計） 3,307.55				
校舎・屋内運動場・附属棟の合計		延べ面積				6,465.45	39.60	（合　計） 6,505.05				
校舎・屋内運動場・附属棟の合計		容積対象床面積				6,465.45	16.71	（合　計） 6,482.16				

棟番号	用途	構造	階数	建築面積(㎡)	延床面積(㎡)	軒高	高さ	屋根	外壁	備考欄	
㋐	倉庫 2.20*1.38*2.10H	Ｓ造	平屋	3.03	3.03	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	
㋑	倉庫 2.20*1.37*2.10H	Ｓ造	平屋	3.01	3.01	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	施工可能範囲へ移動のうえ緊結／RC基礎2か所新設，2カ所既存土間に緊結
㋒	倉庫 2.63*1.37*2.10H	Ｓ造	平屋	3.60	3.60	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	施工可能範囲へ移動のうえ緊結／RC基礎2か所新設，2カ所既存土間に緊結
㋓	倉庫 2.90*2.20*2.10H	Ｓ造	平屋	6.38	6.38	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	施工可能範囲へ移動のうえ緊結／RC基礎2か所新設，2カ所既存土間に緊結
㋔	防災備蓄倉庫 3.60*2.20*2.40H	Ｓ造	平屋	7.92	7.92	2.35	2.40	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	
㋕	防災備蓄倉庫 2.57*2.30*2.40H	Ｓ造	平屋	5.91	5.91	2.35	2.40	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	
㋖	防災備蓄倉庫 3.50*2.20*2.10H	Ｓ造	平屋	7.70	7.70	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	
㋗	散水ポンプ室 2.00*3.10*2.50H	ＦＲＰ	平屋	6.20	6.20	2.45	2.50	ＦＲＰ	ＦＲＰ	基礎固定有り	延焼の恐れのある部分は生じない
㋘	倉庫 2.90*2.20*2.10H	Ｓ造	平屋	6.38	6.38	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	今回緊結（3か所）／RC基礎3か所新設のうえ緊結
㋙	倉庫 2.90*2.60*2.60H	Ｓ造	平屋	7.54	7.54	2.55	2.60	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	向き変更／RC基礎新設のうえ緊結
㋚	倉庫 2.90*1.73*2.10H	Ｓ造	平屋	5.01	5.01	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	
㋛	倉庫 1.84*0.80*2.10H	Ｓ造	平屋	1.47	1.47	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	今回緊結／RC基礎4か所新設のうえ緊結
㋜	倉庫 2.92*1.85*2.10H	Ｓ造	平屋	5.40	5.40	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	今回緊結／RC基礎4か所新設のうえ緊結
㋝	倉庫 1.80*1.22*2.10H	Ｓ造	平屋	2.19	2.19	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定無し	向き変更／RC基礎新設のうえ緊結
㋞	倉庫 1.53*1.80*2.10H	Ｓ造	平屋	2.75	2.75	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	向き変更／既存土間コンクリートに緊結
㋟	倉庫 1.53*0.95*2.10H	Ｓ造	平屋	1.45	1.45	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	向き変更／既存土間コンクリートに緊結
㋠	倉庫 2.15*0.75*2.10H	Ｓ造	平屋	**	1.61	2.05	2.10	鋼板張り	鋼板張り	基礎固定有り	
㋐～㋠の合計	建築面積			75.94							
㋐～㋠の合計	延べ面積				77.55						

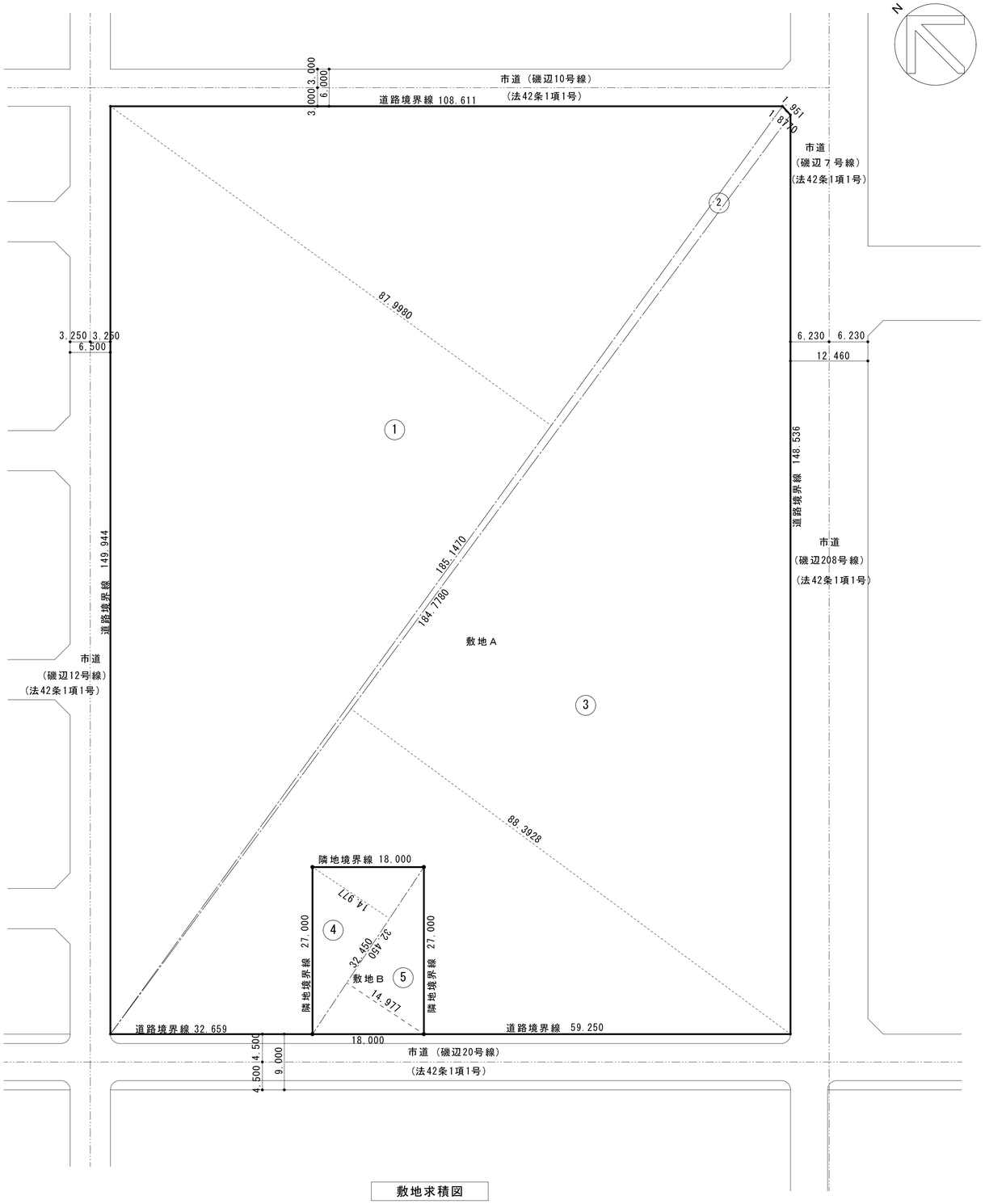
	既存部分	計画部分	合　計	
①～㋣の合計 建築面積	3,294.35＋75.94 3,370.29	13.20	3,383.49 ㎡	建蔽率 ２１．１５％
①～㋣の合計 延べ面積	6,465.45＋77.55 6,543.00	39.60	6,582.60 ㎡	―
①～㋣ 容積対象床面積	6,465.45＋77.55 6,543.00	16.71	6,559.71 ㎡	容積率 ４１．００％

建築面積	3,307.55＋75.940 ＝ 3,383.49 ㎡	建蔽率	２１．１５％
延べ面積	6,505.05＋77.550 ＝ 6,582.60 ㎡	―	―
容積対象床面積	6,482.16＋77.550 ＝ 6,559.71 ㎡	容積率	４１．００％



配置図　S=1/400

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　７年　１０　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	計画概要・面積表	縮尺	A1 1/400 A3 1/800	図面番号	A-02
			特記事項		特記事項		特記事項							



敷地求積図

S=1:400

敷地Ａ求積　16,486.56 ㎡

敷地Ｂ求積　486.00 ㎡

敷地Ａ－敷地Ｂ＝　16,000.56 ㎡

敷地Ａ求積

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
①	185.1470	87.9980	16,292.565706	8,146.282853
②	185.1470	1.8770	347.520919	173.760459
③	184.7780	88.3928	16,333.044798	8,166.522399
合計				16,486.565711
敷地面積				16,486.56 ㎡

敷地Ｂ求積

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
④	32.450	14.977	486.003650	243.0018250
⑤	32.450	14.977	486.003650	243.0018250
合計				486.0036500
敷地面積				486.00 ㎡

千葉市都市局建築部営繕課

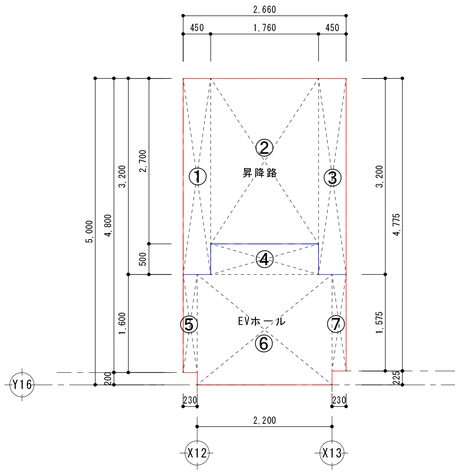
工事名　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名　敷地求積図

縮尺　A1　1:200, 1:400　A3　1:400, 1:800

図面番号　A-03



増築部　１～３階求積図 S=1:50

増築部床面積計算式						
①	3.200	×	0.450	＝	1.440000
②	2.700	×	1.760	＝	4.752000
③	3.200	×	0.450	＝	1.440000
④	0.500	×	1.760	＝	0.880000
⑤	1.600	×	0.230	＝	0.368000
⑥	1.800	×	2.200	＝	3.960000
⑦	1.575	×	0.230	＝	0.362250

増築部 床面積算定（㎡）		
１階床面積	① ～ ⑦ ＝ 13.20~~2250~~	13.20
２階床面積	① ～ ⑦ ＝ 13.20~~2250~~	13.20
３階床面積	① ～ ⑦ ＝ 13.20~~2250~~	13.20
延べ床面積	13.20 × 3 ＝	39.60
建 築 面 積	１階床面積	13.20

容積対象床面積算定（㎡）		
１階昇降路部分	① ～ ③ ＝ 7.63~~2000~~	7.63
２階昇降路部分	① ～ ③ ＝ 7.63~~2000~~	7.63
３階昇降路部分	① ～ ③ ＝ 7.63~~2000~~	7.63
容積率対象外床面積	7.63 × 3 ＝	22.89
容積対象増築部床面積	39.60 － 22.89 ＝	16.71

千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	増築部　求積図・面積表	縮尺	A1 1:50 / A3 1:100	図番号	A-04
		特記事項		特記事項		特記事項							

■外部仕上表

部　位	仕　上	部　位	仕　上	部　位	仕　上
屋　根	デッキコンクリート（３０分耐火） コンクリート金ゴテ下地、立上り共 塩ビシート防水 厚2（密着工法）（H12建告1365号第１三）遮熱塗料塗	外壁	ＡＬＣ厚125 耐火目地材（１時間耐火仕様） 防水形外装薄塗材Ｅ 換気口200φステンレス製（防虫網付）	外構	エレベーター棟（増築部）：Ｕ字溝300型＋グレーチング蓋　新設 既存：犬走り＋排水溝＋グレーチング　一部撤去のうえ、復旧，排水枡500角＋ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋新設 既存：Ｕ字溝300型＋グレーチング蓋　一部撤去のうえ、復旧，排水枡500角＋グレーチング蓋新設 既存：アスファルト舗装　一部撤去のうえ、復旧
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｰﾝ・竪樋	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｰﾝ：鋳鉄製75φ横型 竪樋：カラーＶＰ75φステンレス製受金物 掃除口付塩ビ飾り桝，塩ビ製排水管カバー	外巾木	コンクリート打放し＋撥水材塗		
パラペット	コンクリート打放し　防水形外装薄塗材Ｅ アルミ製笠木 オーバーフロー管：ステンレス製50φ	ピット外周部	ケイ酸質系塗布防水	その他	既存ＲＣ壁一部撤去，既存サッシ一部撤去 屋内運動場附属屋：既存竪樋カラーＶＰ１００Φ一部 撤去のうえ、新設（ステンレス掴み金物共） スロープ床既存竪樋撤去跡穴埋め補修 昇降口ポーチ：スロープ新設（手摺共）
ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	笠木部：アルミ製 W150（不燃）　・止水ｼｰﾄ共（１時間遮炎性能） 外壁部：アルミ製 W150・止水ｼｰﾄ共（１時間遮炎性能）	開口部	アルミサッシ（ALC用）		

■内部仕上表（エレベータ工事）

階	室　名	工事種別	床 下地	床 仕上	巾木 仕上	巾木 H	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 仕上	天井 廻縁	天井高	備　考
共通	昇 降 路	新築	ピット内：モルタル金ゴテ厚50	塗膜防水			ＡＬＣ表し ピット内：コンクリート打ち放し	現し 塗膜防水	デッキプレート	現し	－		鉄骨（梁・柱）耐火被覆：半乾式吹付ロックウール　厚25（１時間耐火仕様）
	ＥＶホール	新築	デッキコンクリート（１時間耐火） ＋モルタル下地	ビニル床シート厚2.0　新設	ビニル巾木	100	LGS65型下地 石膏ボード　厚12.5　捨張	石膏ボード 厚9.5　ＥＰ－Ｇ	軽量鉄骨天井下地	化粧石膏ボード　厚9.5 一部、石膏ボード　厚9.5　EP-G	塩ビ	2,500	天井，壁：アルミ製EXP.Jカバー　W150，１階床:ステンレス床見切りW=40 ２，３階床：アルミ製EXP.Jカバー　W150（1時間遮炎性能） コーナーガード50　L=1800　　天井点検口アルミ製600×600(3階のみ)
	廊　下	既存	モルタル金ゴテ下地（既存のまま）	ビニル床タイル貼　厚2.0 一部撤去 （アスベスト含有：レベル３）	モルタル金ゴテ　目地切 ＥＰ 一部撤去	100	既存ＲＣ躯体一部撤去 モルタル金ゴテ下地　一部撤去	ＥＰ	軽量鉄骨天井下地　一部撤去	化粧石膏ボード 厚9.5 一部撤去 （アスベスト含有：レベル３）	塩ビ 一部撤去	2,650	既存 アルミサッシ　一部撤去
		改修	一部モルタル金ゴテ下地　新設	下地調整のうえ、 ビニル床タイル貼　厚2.0 一部新設	モルタル金ゴテ　目地切 ＥＰ－Ｇ 一部新設	100	モルタル金ゴテ下地　一部新設	モルタル下地新設部：ＥＰ－Ｇ 一部　下地調整のうえ、ＥＰ－Ｇ塗替	軽量鉄骨天井下地　一部新設	化粧石膏ボード 厚9.5 一部新設	塩ビ 一部新設	2,650	ピクトサイン新設

■内部仕上表（バリアフリー工事・既存遡及工事）

室　名	仕　上	室　名	仕　上	室　名	仕　上
昇降口	床：スラブ一部撤去，防滑性塩ビシート　厚2.5一部撤去（アスベスト含有：レベル３） スラブ一部増打ちのうえ、モルタル金ゴテ下地，防滑性塩ビシート　厚2.5新設 コンクリート製スロープ新設（手摺共） 上り框：テラゾーブロック　一部撤去 排水溝蓋：スチール製グレーチング一部撤去のうえ、細目グレーチング新設 下駄箱：１か所撤去のうえ、新設	ピロティー部	床：モルタル金ゴテー部撤去 床嵩上げ：スタイロフォーム 厚100＋軽量コンクリート 厚130のうえ、モルタル金ゴテ厚30　新設 （段差摺り寄せ共：軽量コンクリート＋モルタル金ゴテ） 既存サッシ（出入口部）一部撤去・新設（バリアフリーレール改修）	１階 階段室Ａ	床：ビニル床タイル貼　厚2.0 一部撤去（下地モルタル共） 床増打ち（軽量コンクリート 厚110）のうえ、塩ビ系長尺シート張　厚2.0新設（下地モルタル共） 床：塗床仕上撤去・新設（下地モルタル共），（一部レベル調整（摺寄せ）：軽量コンクリート増打ち） 既存サッシ（出入口部）一部撤去・新設（バリアフリーレール改修，両開き扉Ｈ寸法変更）
１階 廊下	床：ビニル床タイル貼　厚2.0 一部撤去・新設（下地モルタル共） 木製スロープ新設 既存サッシ（出入口部）一部撤去・新設（バリアフリーレール改修）				

■特記事項

１．ホルムアルデヒド対策
　天井裏等を含む内装材に使用する材料（下地ボード・合板類・接着剤・塗装剤・断熱材等含む）は、
　すべて告示対象外又はF☆☆☆☆（規制対象外）を使用する。

２．クロルピリホスの規制
　クロルピリホス及び同材が添加された材料は使用しない。

３．石綿含有建築材料の使用禁止（法28条の2第1号及び2号への適合）
　石綿等をあらかじめ添加した建築材料を使用しない。
　建築材料に石綿等を添加しない。

※仕上材料の防火認定番号

石膏ボード厚12.5：不燃 NM-8619
石膏ボード厚9.5：準不燃 QM-9828
化粧石膏ボード厚9.5：準不燃 QM-0524
ＥＰ-Ｇ塗装：不燃 NM-8585
アルミ：不燃 平成１２年建設省告示第 1400 号

■アスベスト含有建材について

廊下床：ビニル床タイル（レベル３）
廊下天井：化粧石膏ボード（レベル３）
昇降口床：防滑性塩ビシート（レベル３）

■ 耐火構造リスト ■

柱　耐火被覆（１時間耐火）：半乾式吹付ロックウール厚25／ＦＰ０６０ＣＮ―９４０８
梁　耐火被覆（１時間耐火）：半乾式吹付ロックウール厚25／ＦＰ０６０ＢＭ―９４０６，ＦＰ０６０ＢＭ―９４０８
屋根　（３０分　耐火）デッキコンクリート：QLデッキの上コンクリート厚80以上（FP060FL-9101）
外壁　（１時間　耐火）　ＡＬＣ厚125　：H12建告1399号第１九（第1ート）
内壁　（１時間　耐火）　ＡＬＣ厚100　：H12建告1399号第１四（第1ート）
ＥＸＰ.Ｊ　（１時間遮炎性能）：耐火帯厚12.5㎜（EAJ-防災-3013）
床 デッキプレート（1時間耐火）：QLデッキ　FP060FL-9101　又は同等性能品

千葉市都市局建築部営繕課

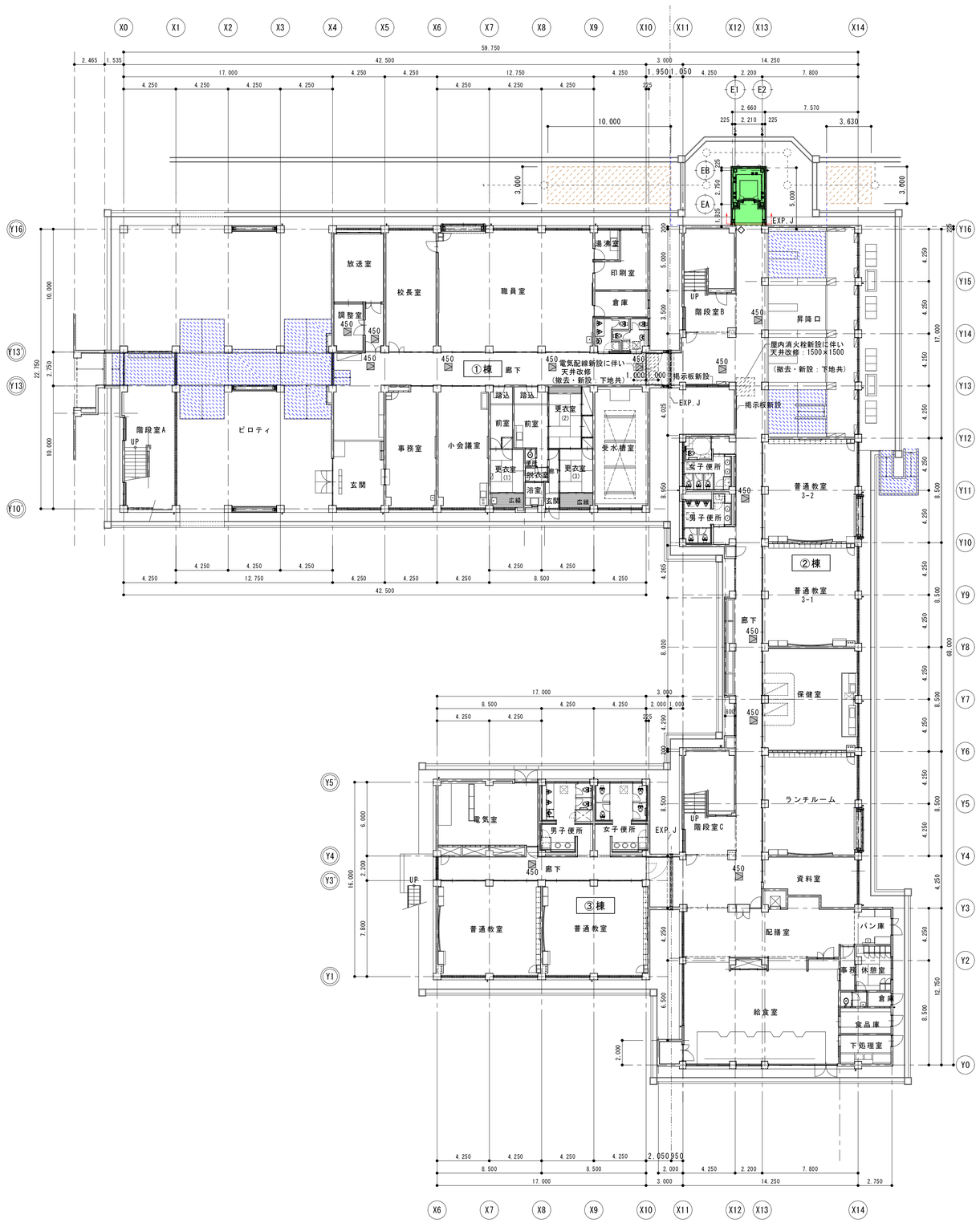
工事名　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

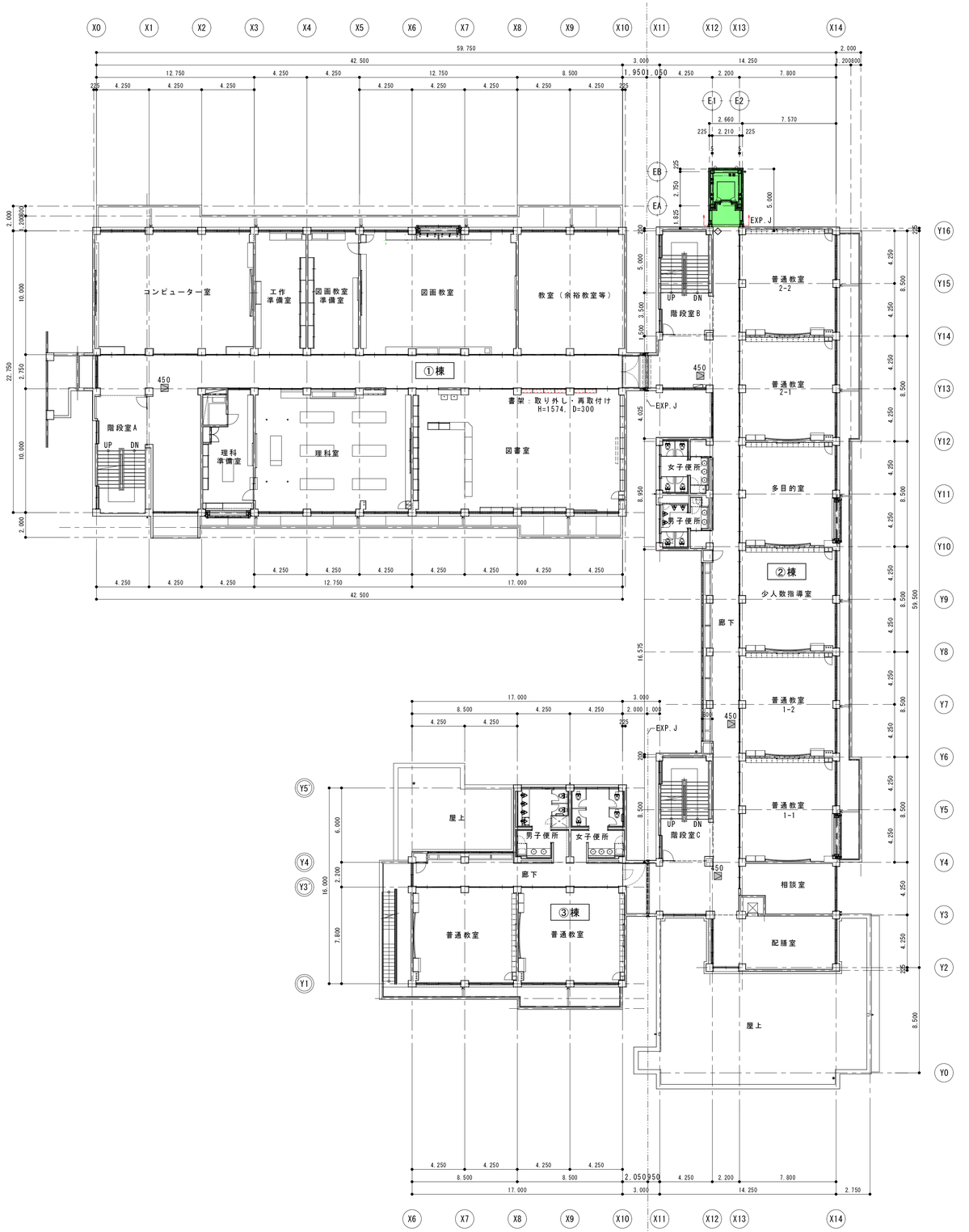
設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名　仕上表

縮尺　A1　－　A3　－

図番号　A-05





バリアフリー対策改修部

今回増築部

◇ ピクトサイン新設

設備配管切廻しに伴う
アスファルト舗装撤去・新設範囲

450 ：電気設備工事に伴う天井点検口450角新設
1階：１３か所（設置位置は現場再確認）

今回増築部

◇ ピクトサイン新設

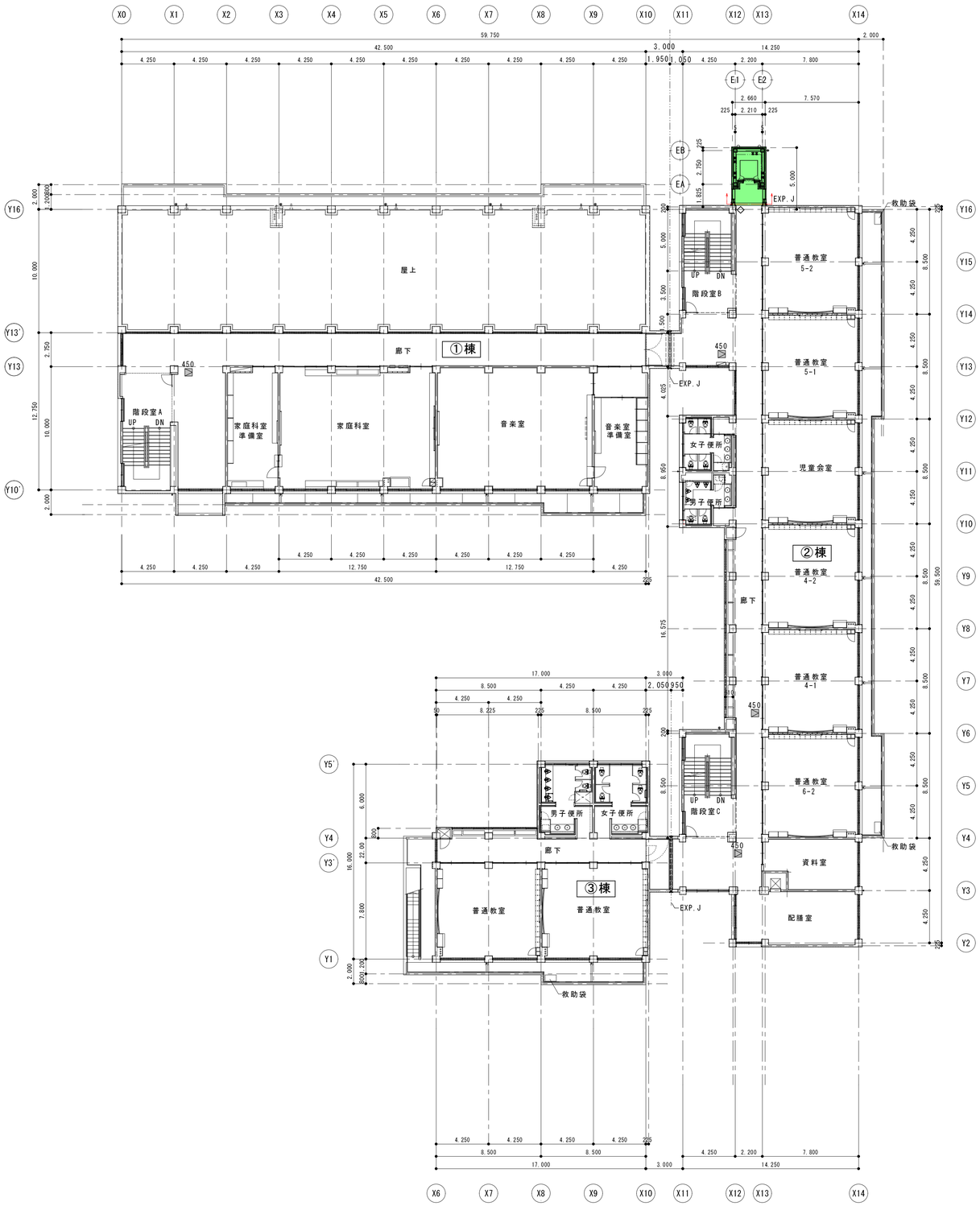
450 ：電気設備工事に伴う天井点検口450角新設
2階：４か所（設置位置は現場再確認）

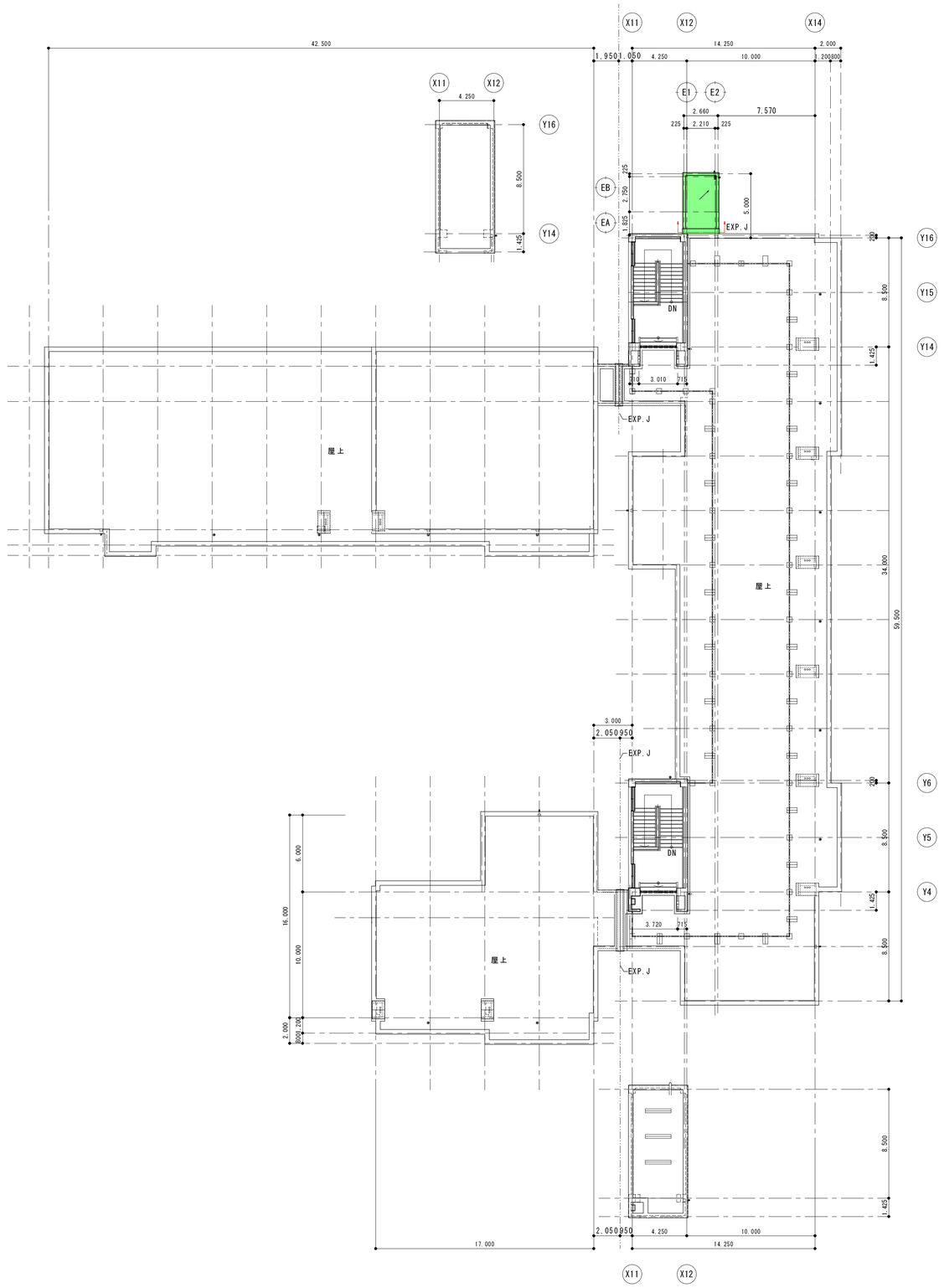
N

千葉市都市局建築部営繕課

工事名
千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	エレベータ設置 1，2階平面図	縮尺	A1 1:200	図番号	A-06
特記事項		特記事項		特記事項					A3 1:400		





今回増築部

◇ ピクトサイン新設

450 ：電気設備工事に伴う天井点検口450角新設
3階：4か所（設置位置は現場再確認）

3 階 平 面 図

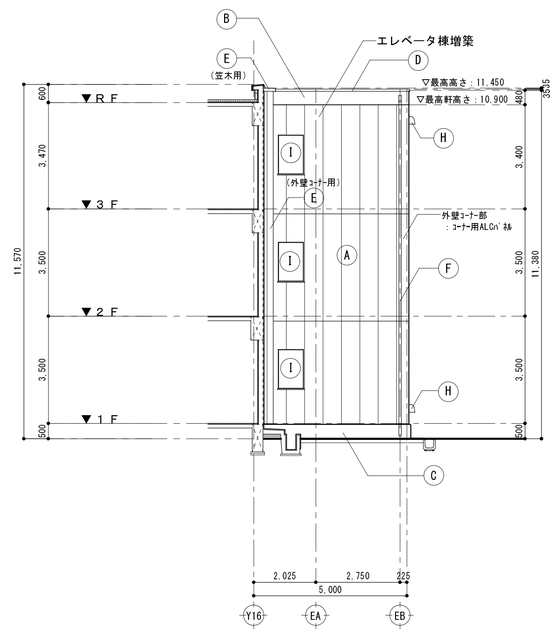
N

R階・PHR階平面図

| | | |



北側　立面図



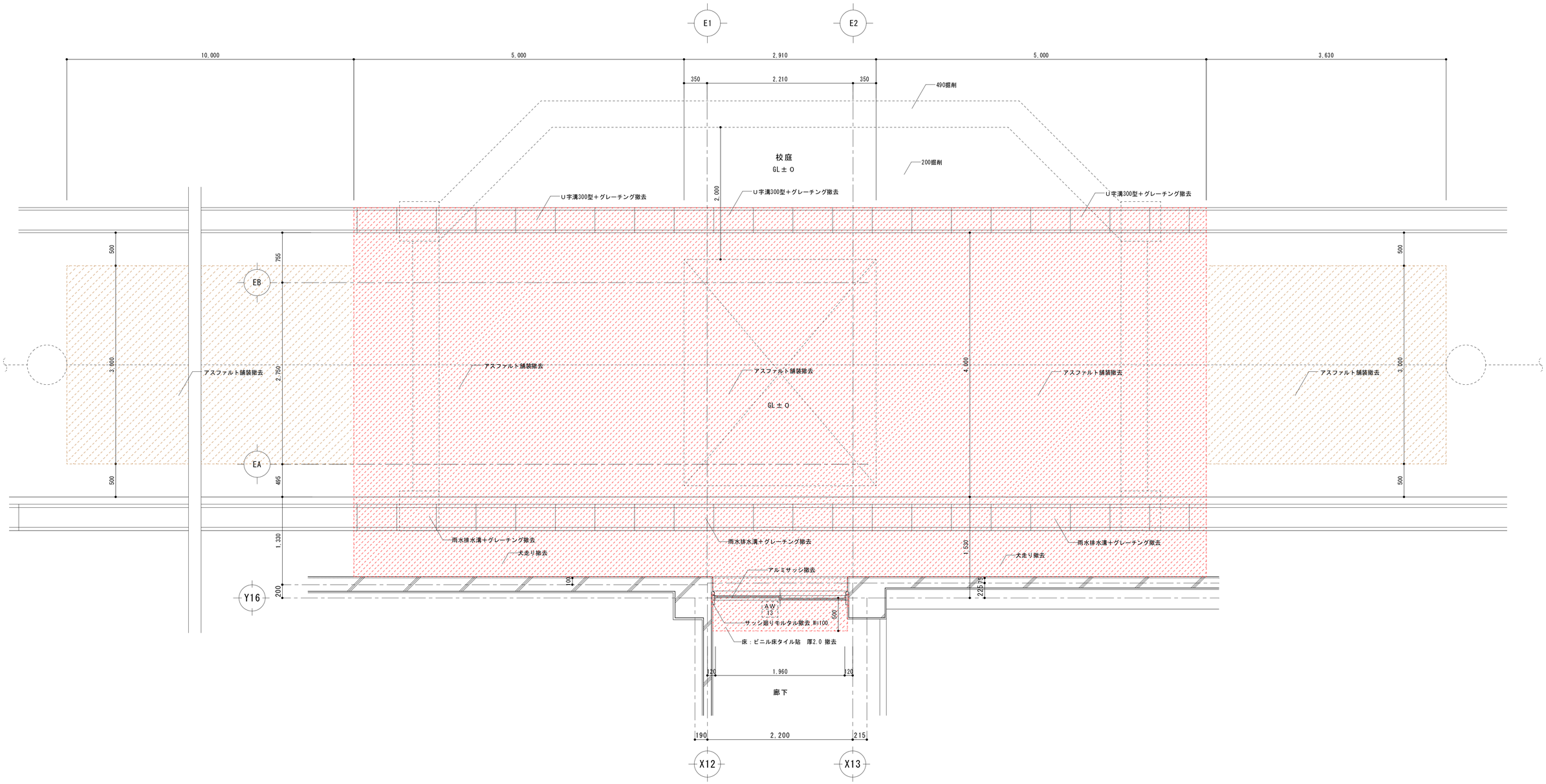
エレベータ棟　立面図

符号	箇　所	工事内容	符号	箇　所	工事内容
Ⓐ	エレベータ棟：外壁	ＡＬＣ 厚125（1時間耐火仕様）　防水型外装薄塗材Ｅ	Ⓕ	エレベータ棟：竪樋	硬質塩ビカラー管 75φ（ステンレス製掴み金物共）
Ⓑ	エレベータ棟：パラペット	コンクリート打放し　防水型外装薄塗材Ｅ	Ⓖ	エレベータ棟：オーバーフロー管	ステンレス製　50φ
Ⓒ	エレベータ棟：外巾木	コンクリート打放し　撥水材塗	Ⓗ	エレベータ棟：換気口	SUS換気口200φ（防虫網付）
Ⓓ	エレベータ棟：笠木	アルミ製笠木	Ⓘ	エレベータ棟：開口部	アルミサッシ（ALC用）
Ⓔ	エレベータ棟：EXP.J	アルミ製EXP.J（1時間遮炎性能）			

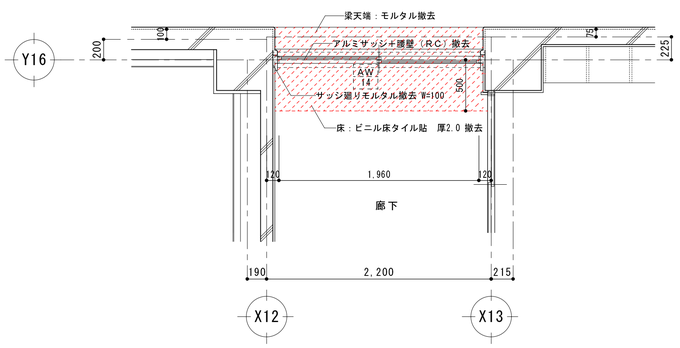
千葉市都市局建築部営繕課

工事名
千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	エレベータ設置 立面図	縮尺	A1	1:100	図番号	A-08
特記事項		特記事項		特記事項					A3	1:200		



既存　１階平面詳細図　S=1:30

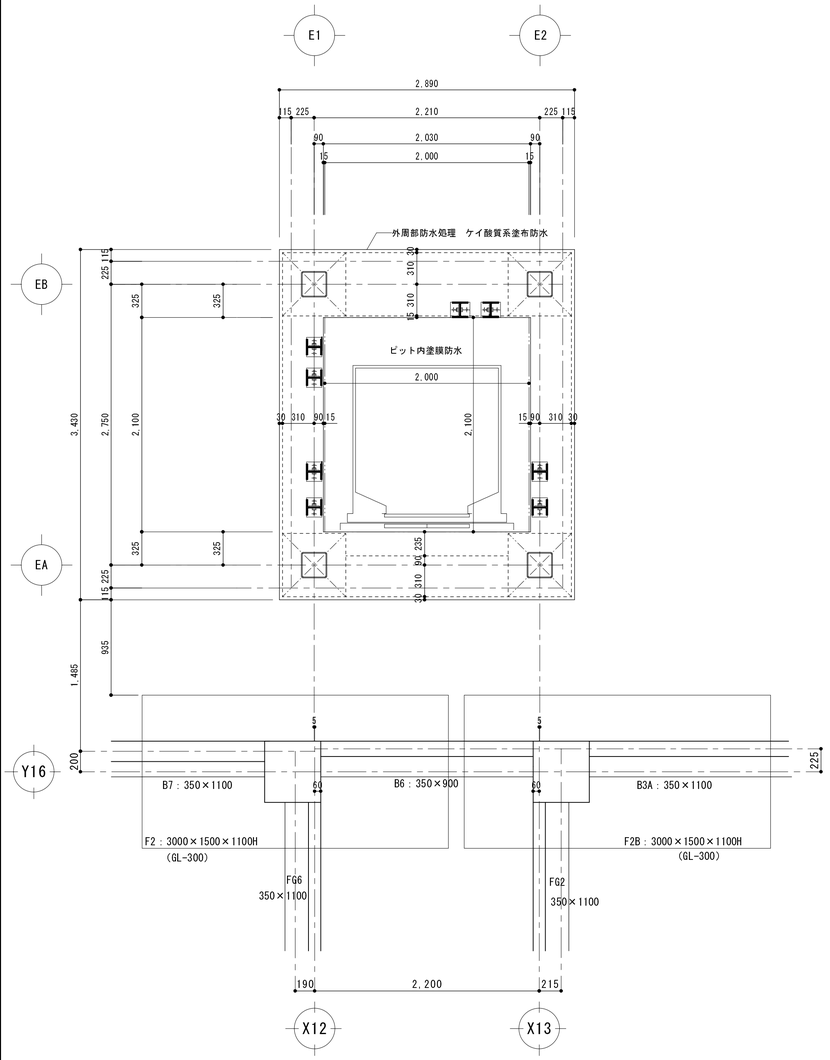


既存　２・３階平面詳細図　S=1:30

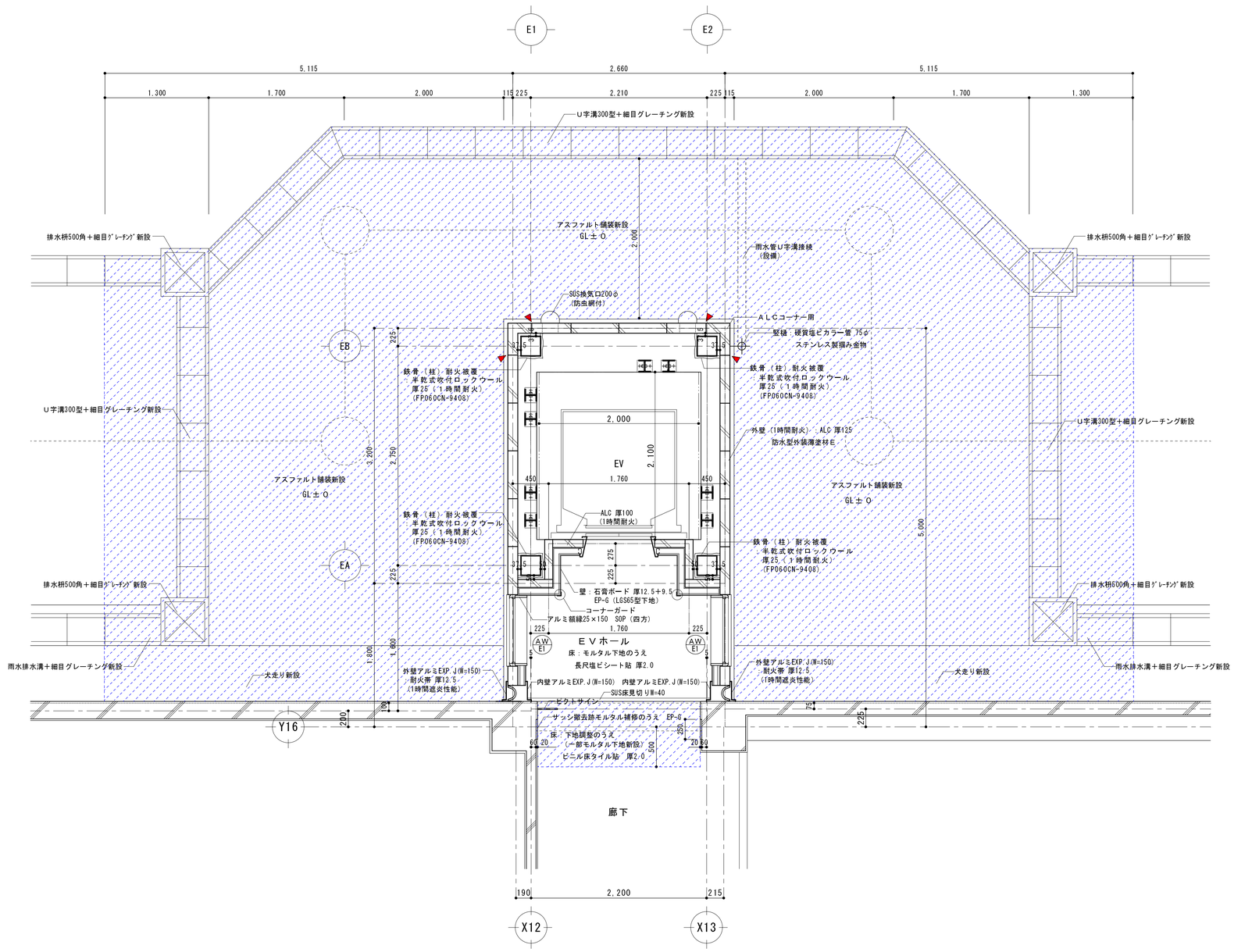
エレベータ設置に伴う撤去範囲

設備配管切廻しに伴う
アスファルト舗装撤去・新設範囲

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	既存　平面詳細図	縮尺	A1 1:30 A3 1:60	図番号	A-09
			特記事項		特記事項		特記事項							



エレベータ設置
基礎部平面詳細図　S=1:30



※耐火被覆（半乾式吹付けロックウール）を行う際、
鉄骨とALCのクリアランスが45㎜以上の場合にはラス金網等下地設置を行うこと
（FP-060CN-9408による）

※１階エレベータ扉は遮煙性能付き防火設備（防犯窓付）/大臣認定品（CAS-1074(1)）とする

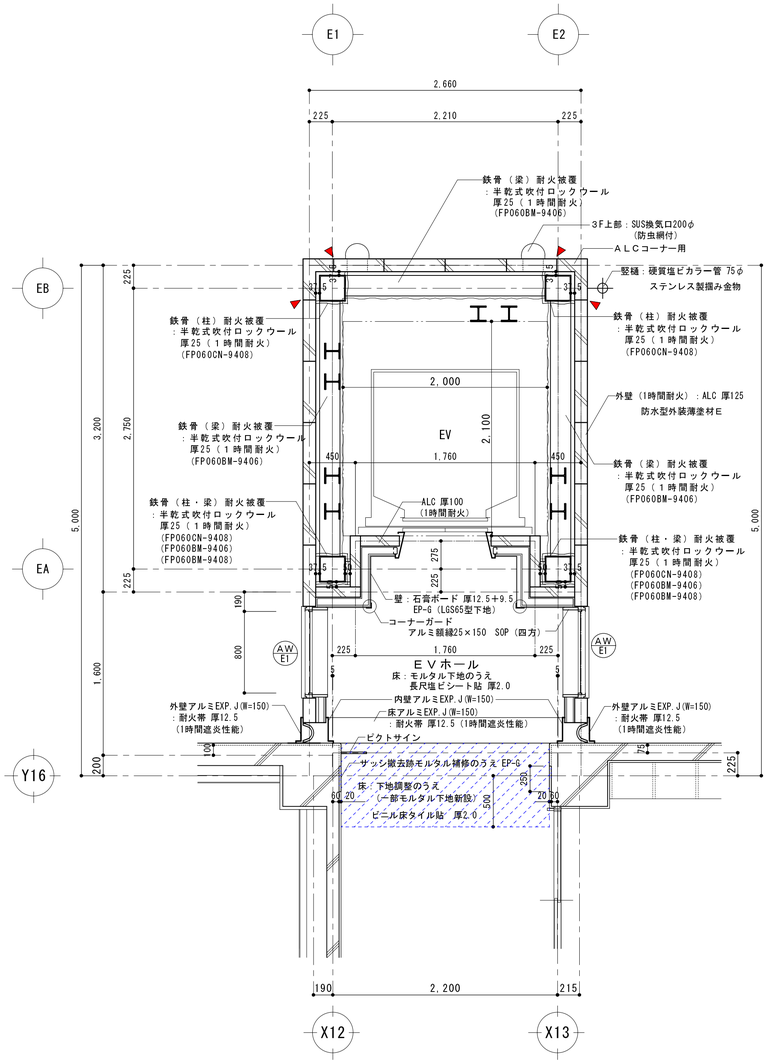
▼：耐火目地材設置位置を示す

エレベータ設置
１階平面詳細図　S=1:30

エレベータ設置に伴う改修範囲

※設備配管切廻しに伴うアスファルト舗装新設範囲は
設備配管切廻しに伴うアスファルト舗装撤去範囲と同範囲（A-09）

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	エレベータ設置 平面詳細図１	縮尺	A1 1:30 A3 1:60	図番号	A-10
			特記事項		特記事項		特記事項							

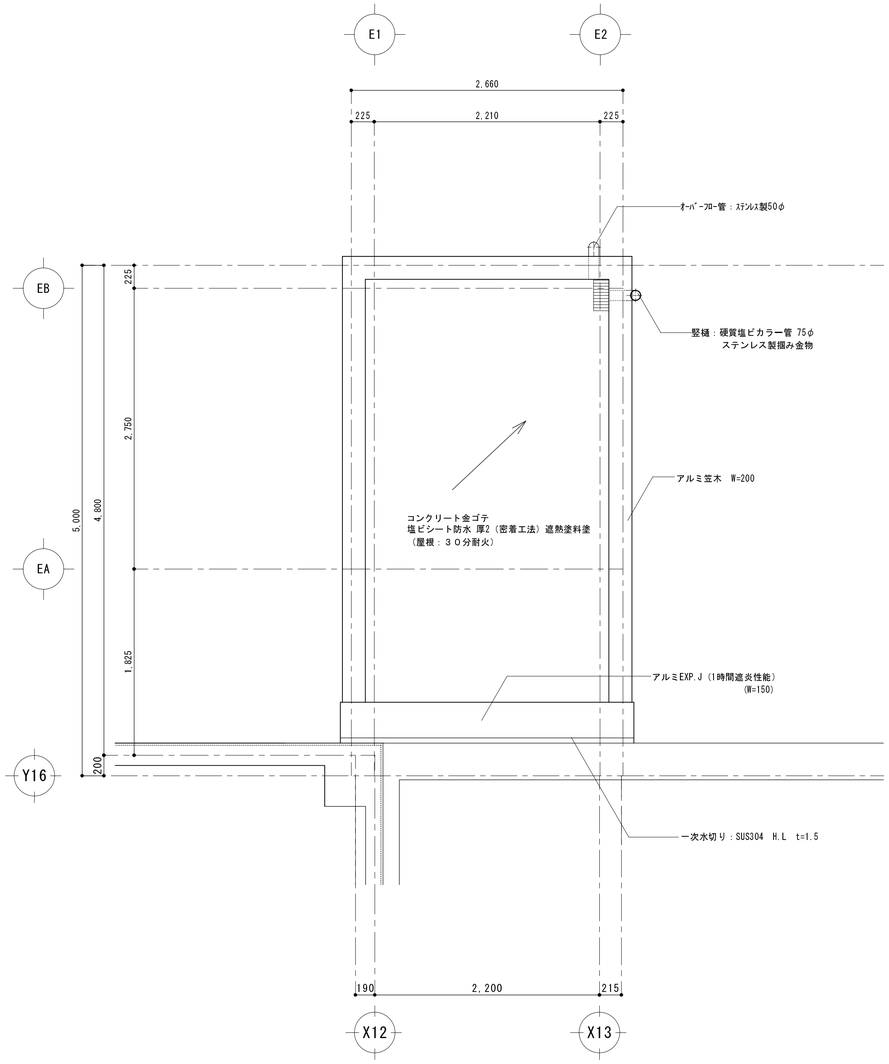


※耐火被覆（半乾式吹付けロックウール）を行う際、
鉄骨とALCのクリアランスが45mm以上の場合にはラス金網等下地設置を行うこと
（FP-060CN-9408による）

※２，３階エレベータ扉は遮煙性能付き特定防火設備/大臣認定品（CAS-1074(2)）とする

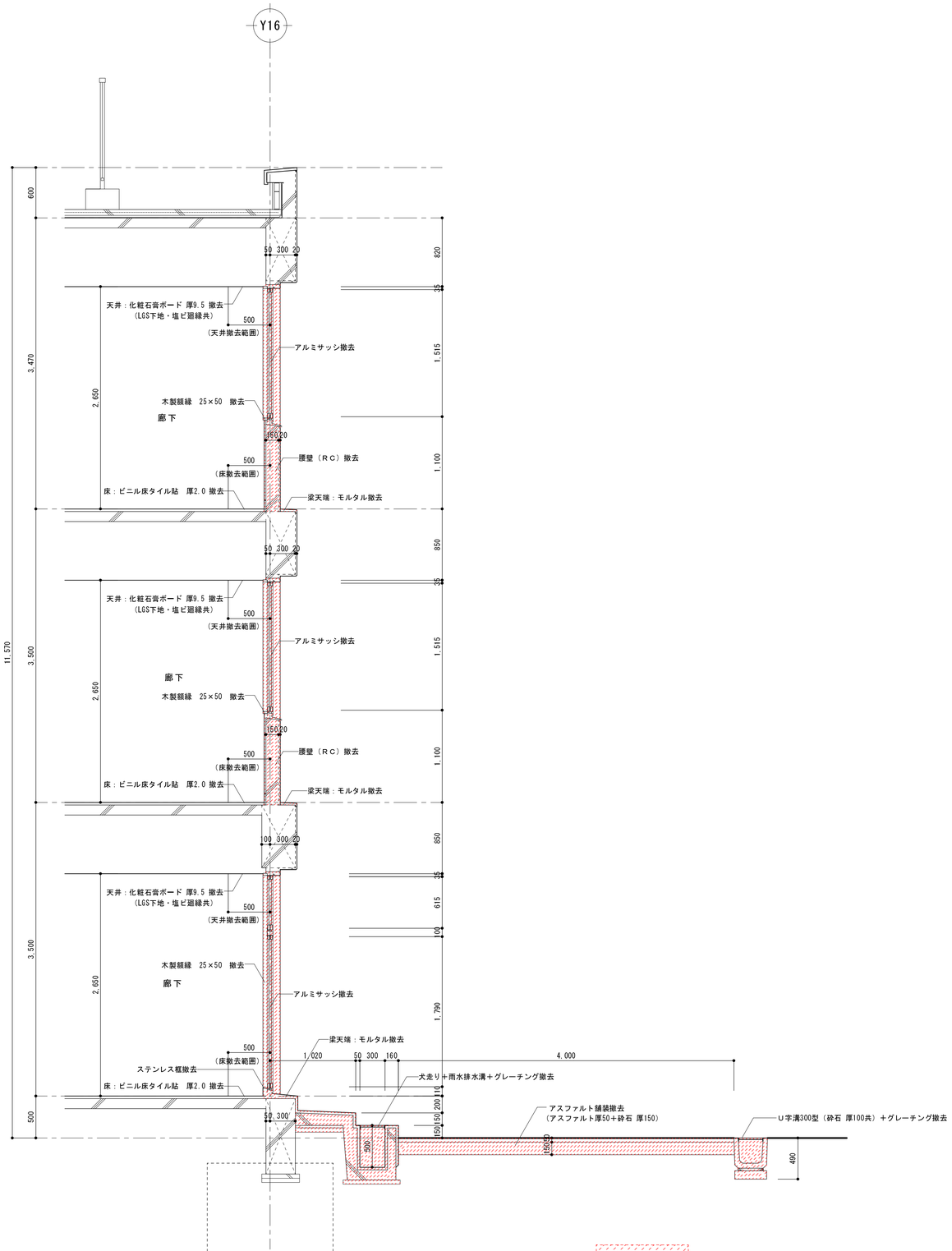
▼：耐火目地材設置位置を示す

エレベータ設置
２・３階平面詳細図　S=1:30



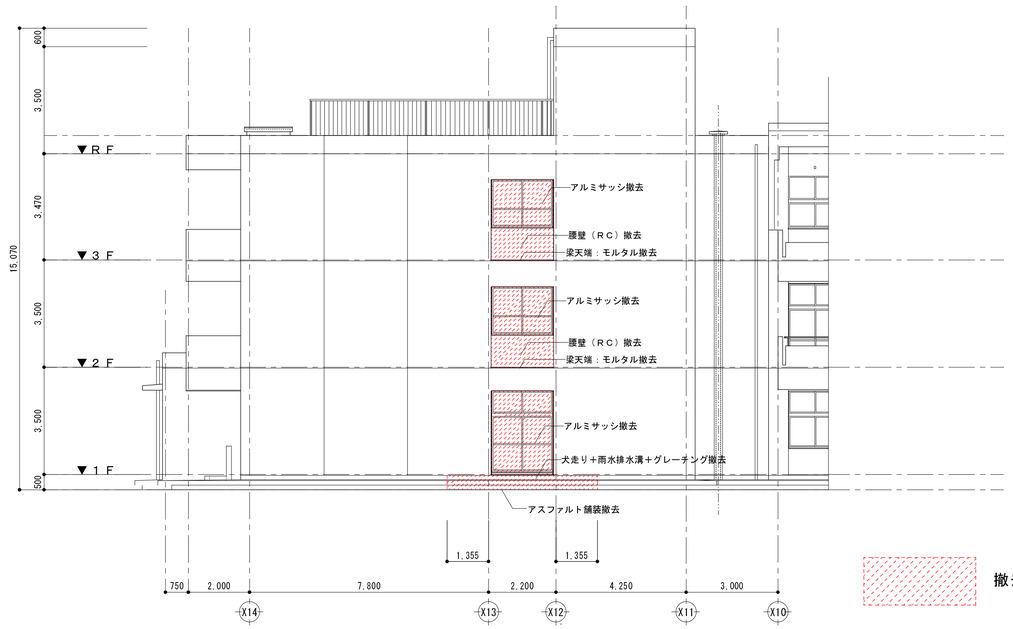
エレベータ設置
Ｒ階平面詳細図　S=1:30

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	エレベータ設置 平面詳細図２	縮尺 A1 1:30 A3 1:60	図番号	A-11
			特記事項		特記事項		特記事項						



既存　断面詳細図　S=1:30

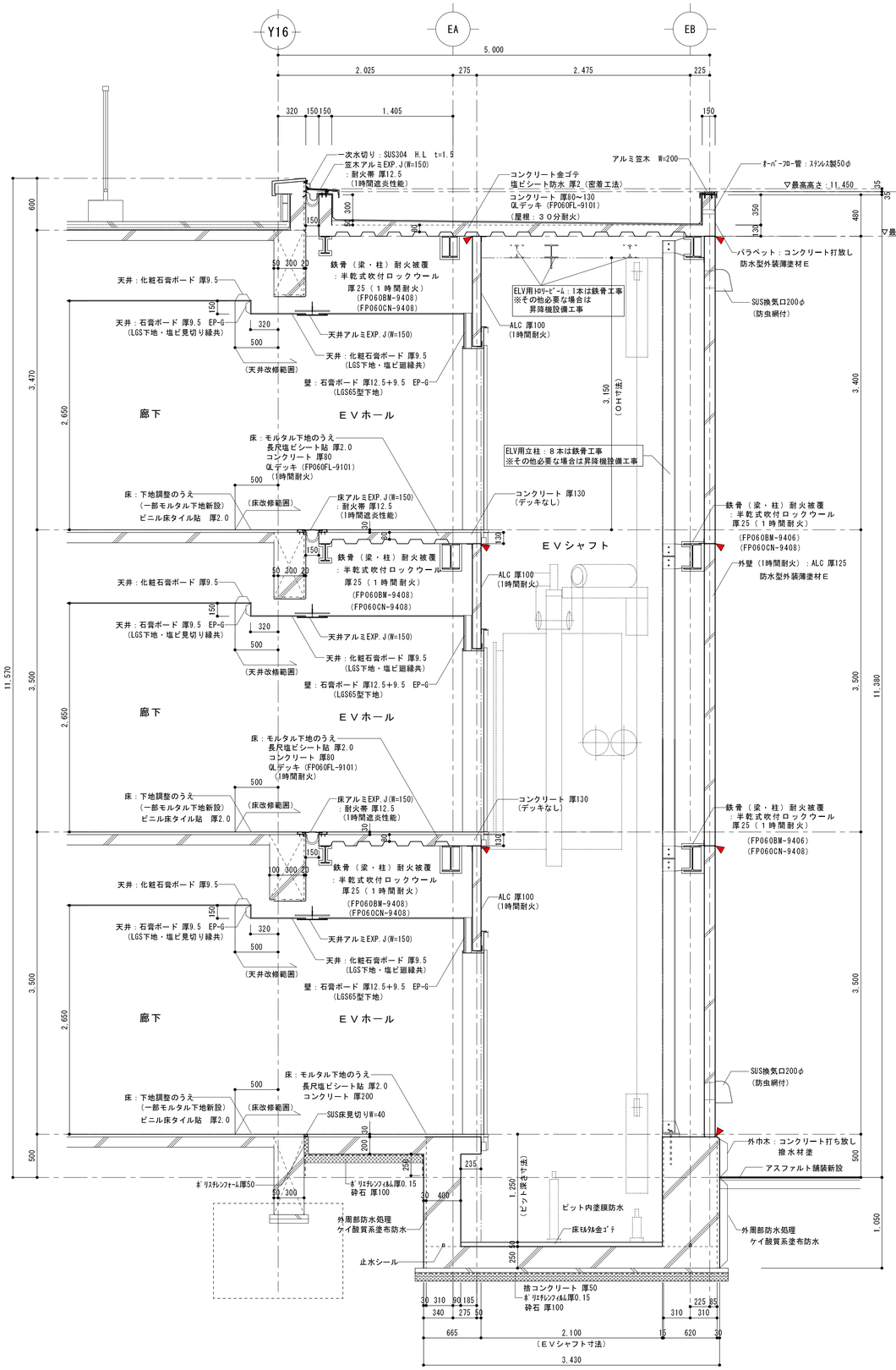
撤去範囲を示す



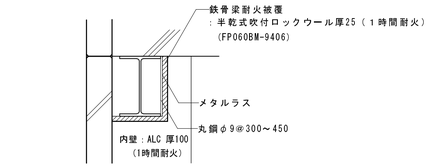
既存　立面図　S=1:100

撤去範囲を示す

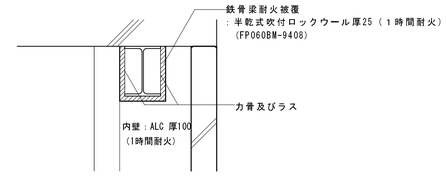
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	既存　立面図・断面詳細図	縮尺	A1 1:30, 1:100 A3 1:60, 1:200	図番号	A-12
			特記事項		特記事項		特記事項							



■内壁梁貫通部詳細図（参考図） S=1:15



※隙間に不燃材料を充填する

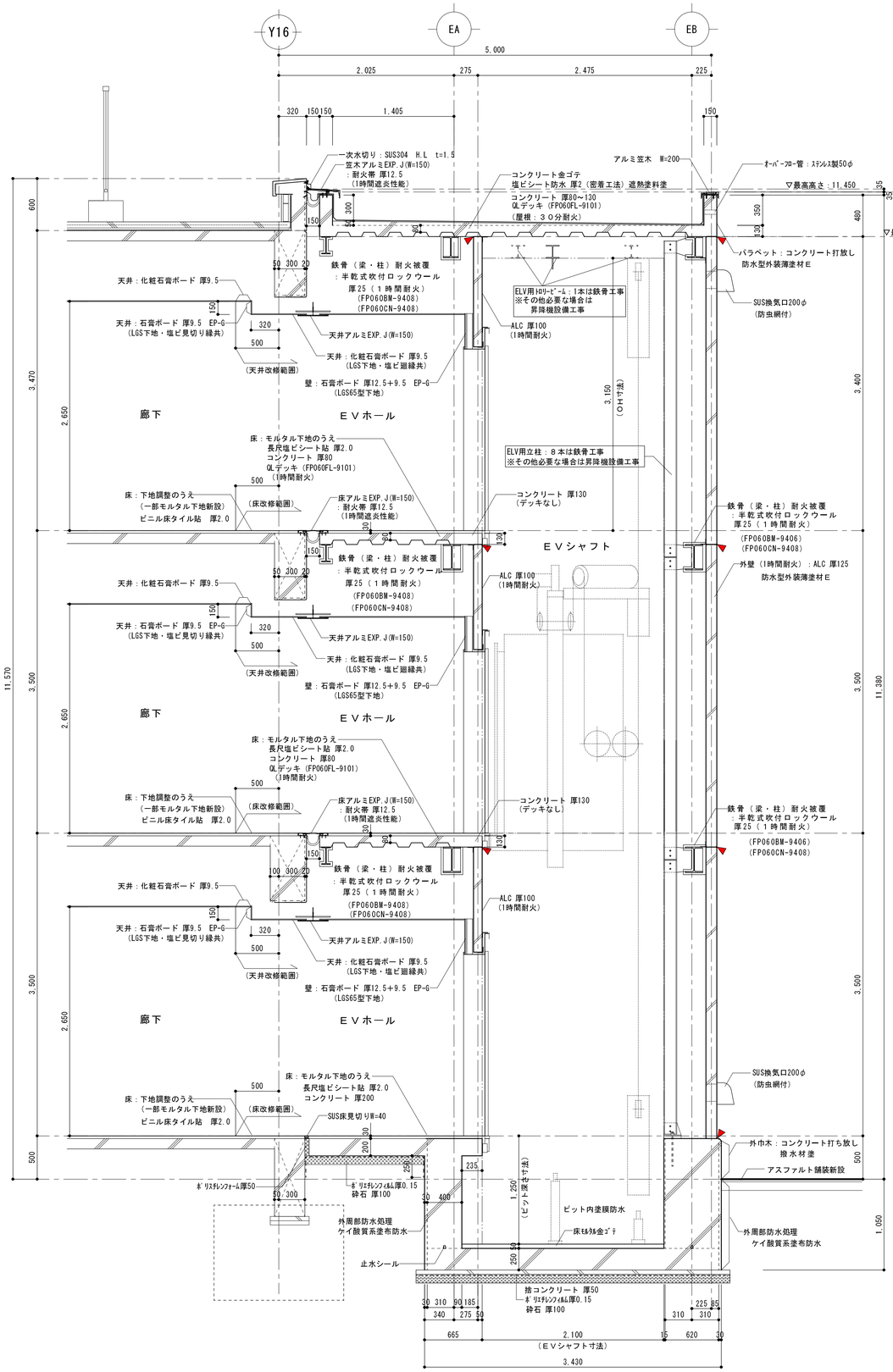


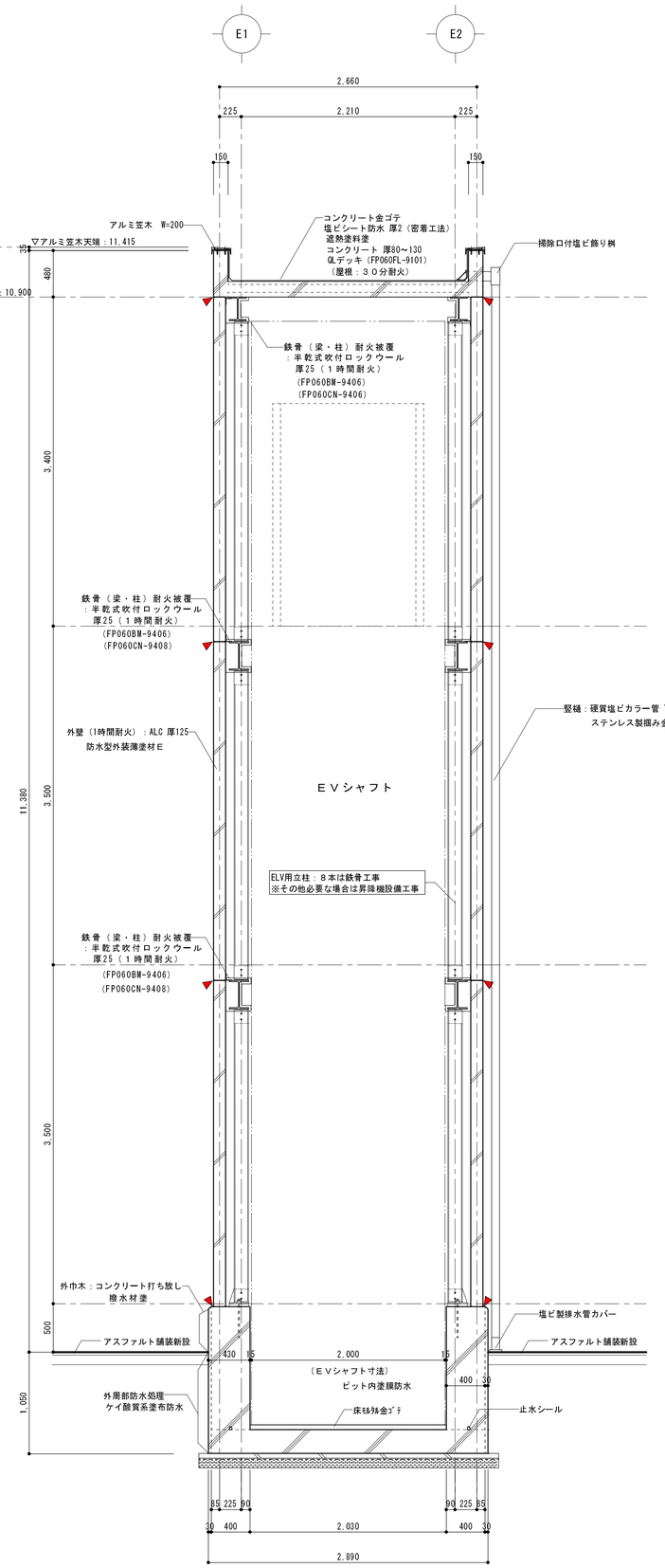
※隙間に不燃材料を充填する

※告示仕様の壁の構造方法は、防火被覆の取合いの部分、目地の部分その他これらに類する部分を、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。

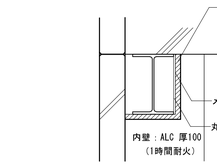
▼：耐火目地材設置位置を示す

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	エレベータ設置 断面詳細図	縮尺	A1 1:15,30 A3 1:30,60	図番号	A-13
			特記事項		特記事項		特記事項							

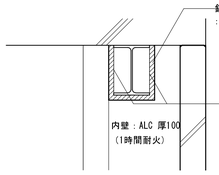




■内壁梁貫通部詳細図（参考図） S=1:15

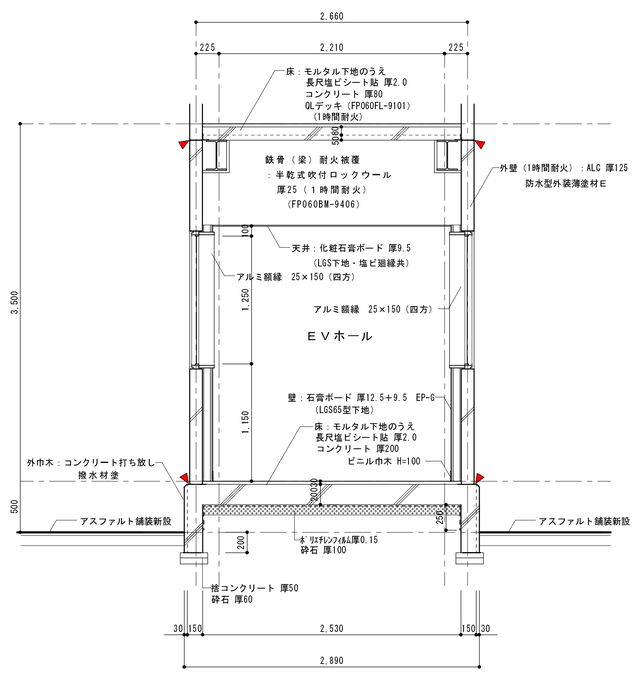


※隙間に不燃材料を充填する



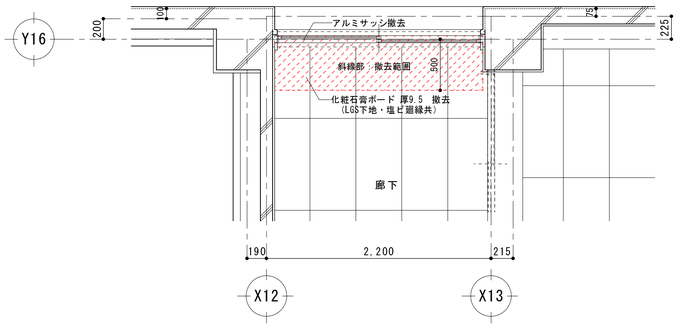
※隙間に不燃材料を充填する

※告示仕様の壁の構造方法は、防火被覆の取合いの部分、目地の部分その他これらに類する部分を、当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とする。



▼：耐火目地材設置位置を示す

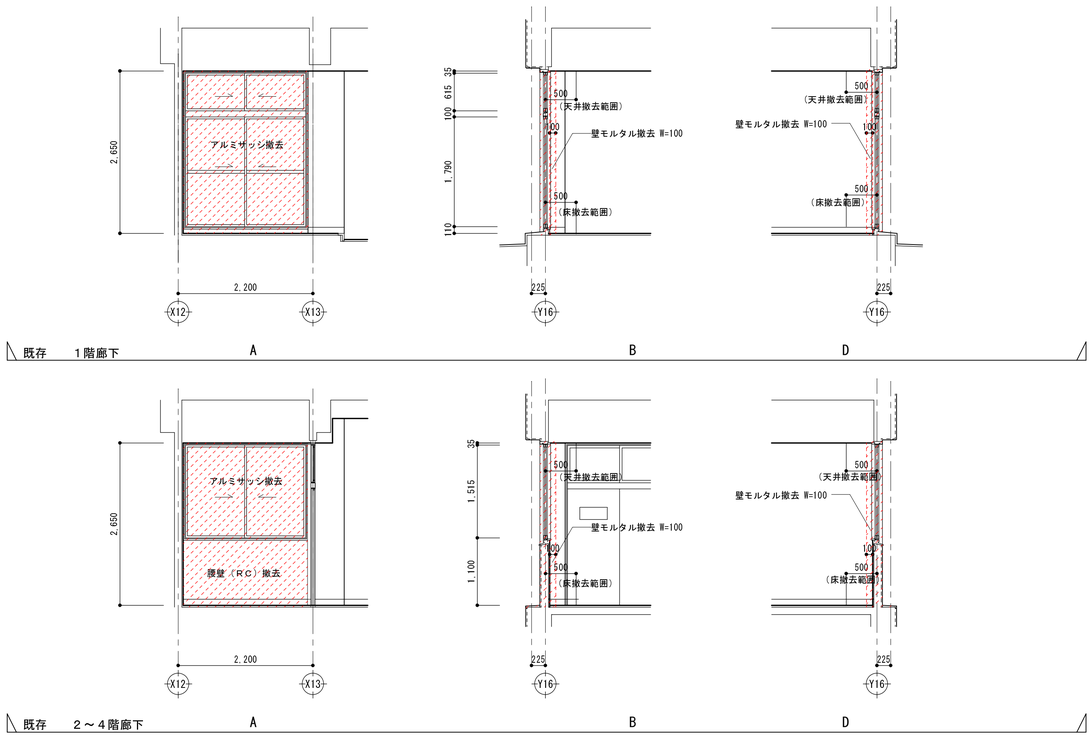
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	エレベータ設置 断面詳細図	縮尺	A1 1:15,30 A3 1:30,60	図番号	A-13
			特記事項		特記事項		特記事項							



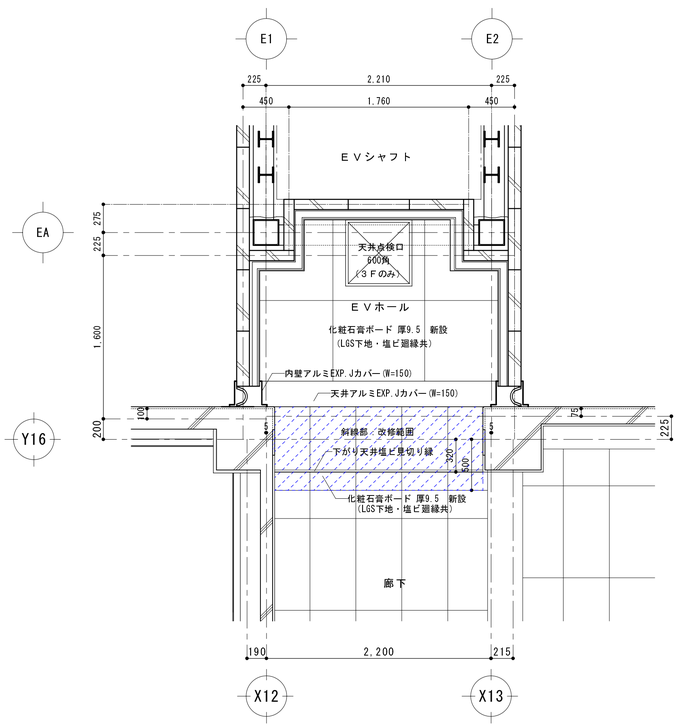
既存　天井伏図　S=1:30

室　名	廊下
床	モルタル金ゴテ下地　既存のまま ビニル床タイル貼　厚2.0 一部撤去
壁	モルタル金ゴテ　ＥＰ 一部撤去
巾　木	モルタル金ゴテ　目地切　ＥＰ 一部撤去
天　井	軽量鉄骨天井下地　一部撤去 化粧石膏ボード 厚9.5 一部撤去
備　考	アルミサッシ　一部撤去

撤去範囲を示す



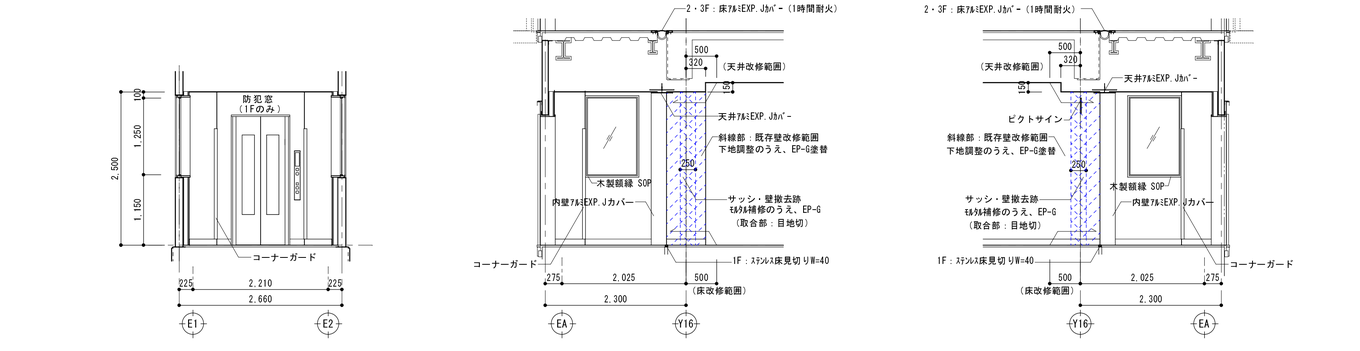
既存　展開図　S=1:50



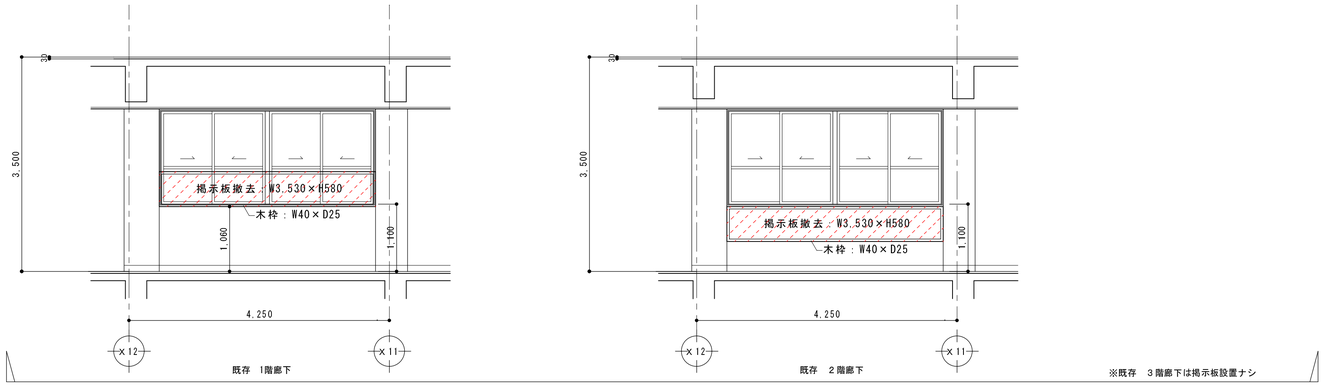
改修　天井伏図　S=1:30

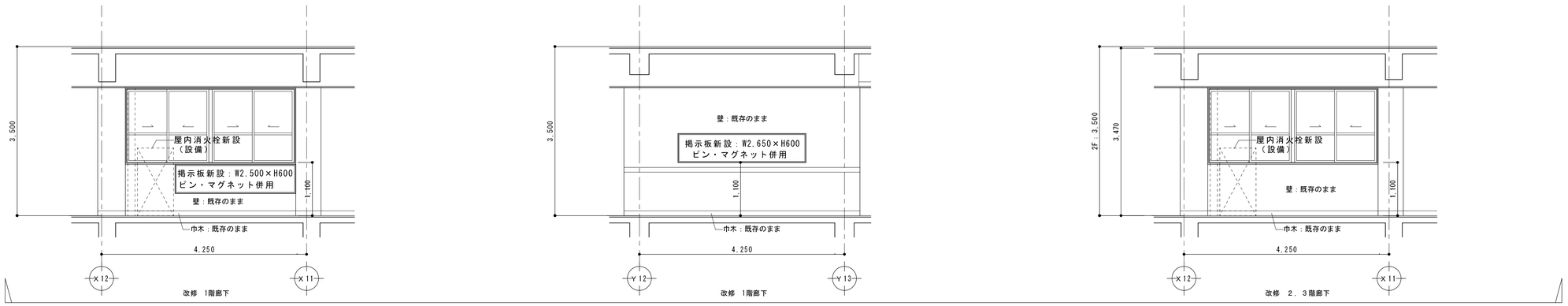
室　名	廊下
床	下地調整の上 ビニル床タイル貼　厚2.0 一部新設
壁	モルタル金ゴテ　ＥＰ－Ｇ 一部新設
巾　木	モルタル金ゴテ　目地切　ＥＰ－Ｇ 一部新設
天　井	軽量鉄骨天井下地　一部新設 化粧石膏ボード 厚9.5 一部新設
備　考	ピクトサイン　新設

室　名	ＥＶホール
床	モルタル金ゴテ下地 ビニル床シート厚2.0
壁	LGS65型下地 石膏ボード　厚12.5　捨張 石膏ボード 厚9.5　ＥＰ－Ｇ
巾　木	ビニル巾木　H=100
天　井	軽量鉄骨天井下地 化粧石膏ボード 厚9.5 一部、石膏ボード 厚9.5　EP-G
備　考	天井、壁：アルミ製EXP.Jカバー　W150 １階床：ステンレス床見切り W=40 ２、３階床：アルミ製EXP.Jカバー　W150（1時間耐火仕様） コーナーガード　H50　L=1800 天井点検口アルミ製600×600(3階のみ)

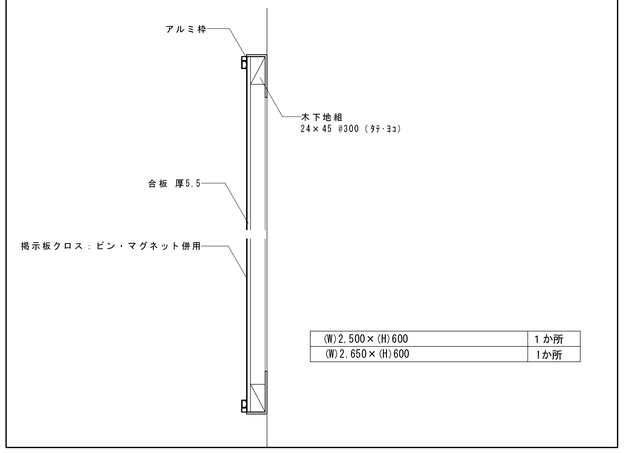


千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	既存・エレベータ設置 天井伏図・展開図	縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	図番号	A-14
			特記事項		特記事項		特記事項							





掲示板詳細図　S=1:5



(W)2,500×(H)600	1か所
(W)2,650×(H)600	1か所

千葉市都市局建築部営繕課

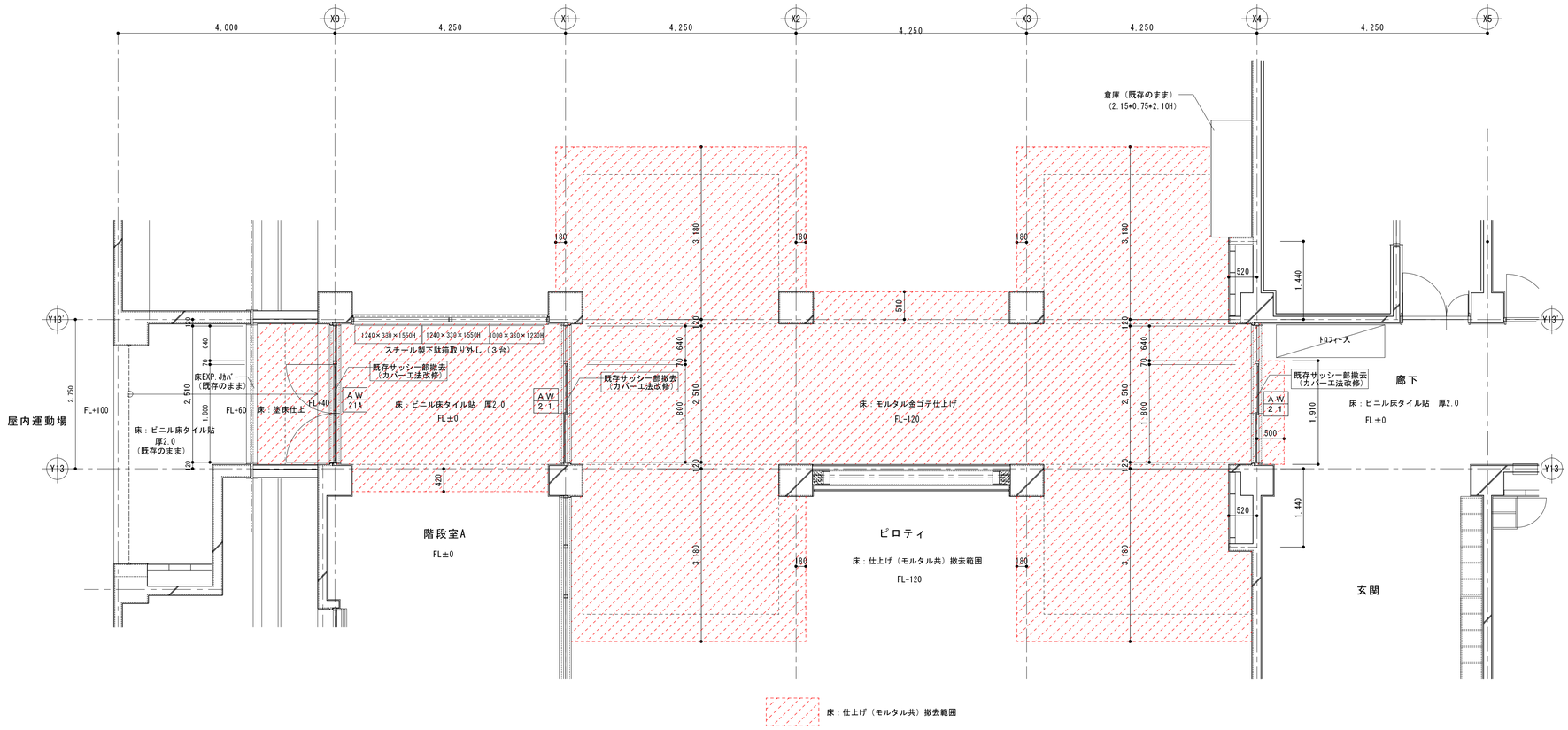
工事名　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日
特記事項		特記事項		特記事項	

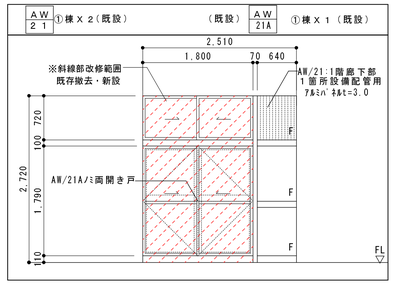
図面名　消火栓改修部詳細図

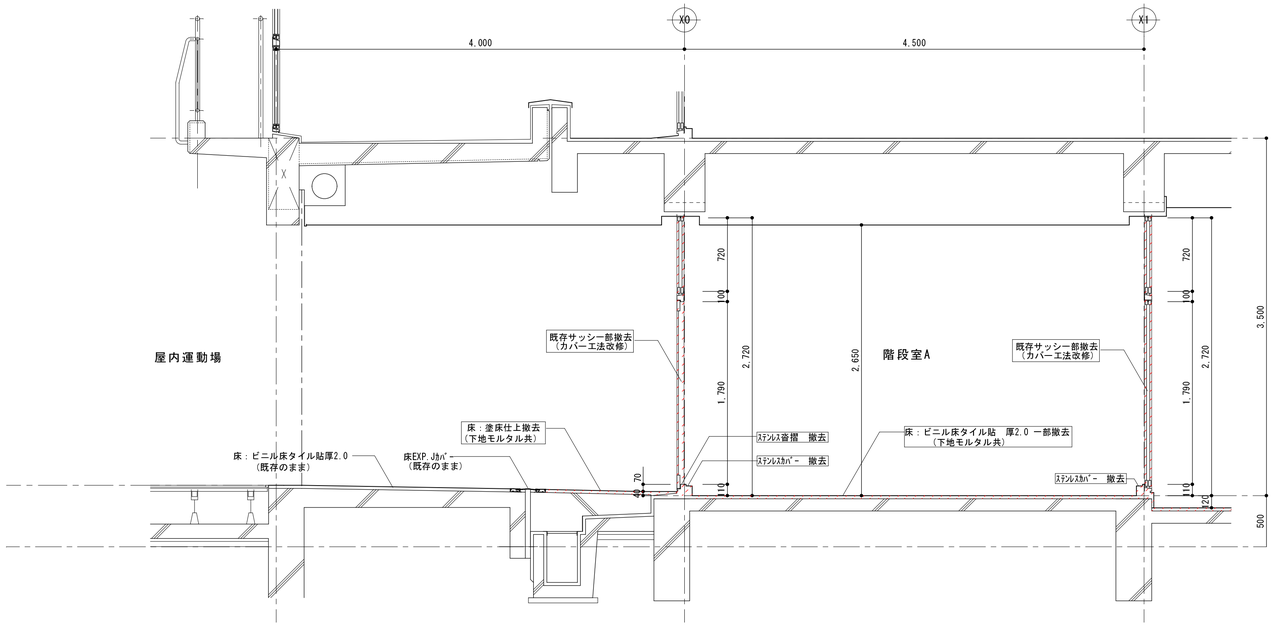
縮尺　A1　1:50　A3　1:100

図番号　A-15

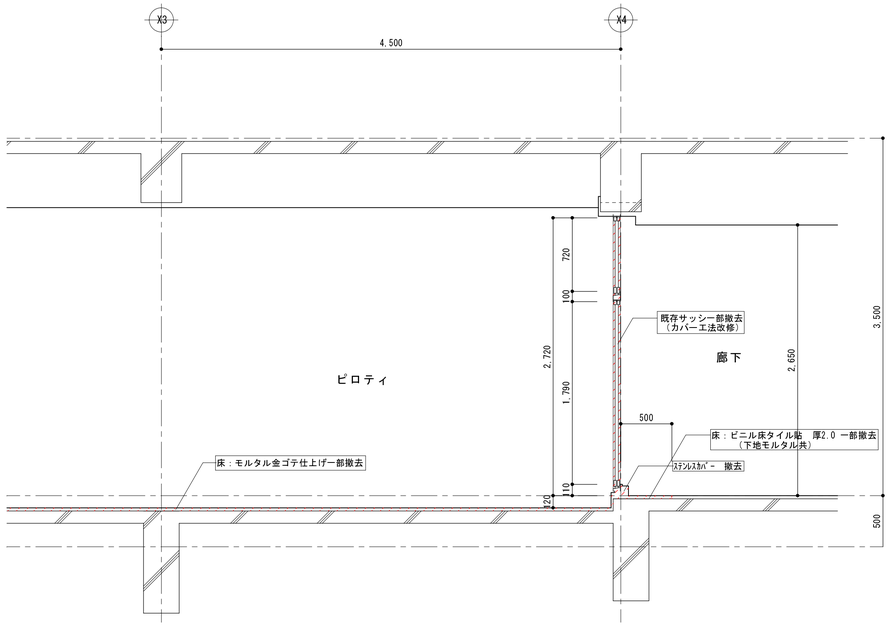


既存ピロティ部　平面詳細図　S=1:50



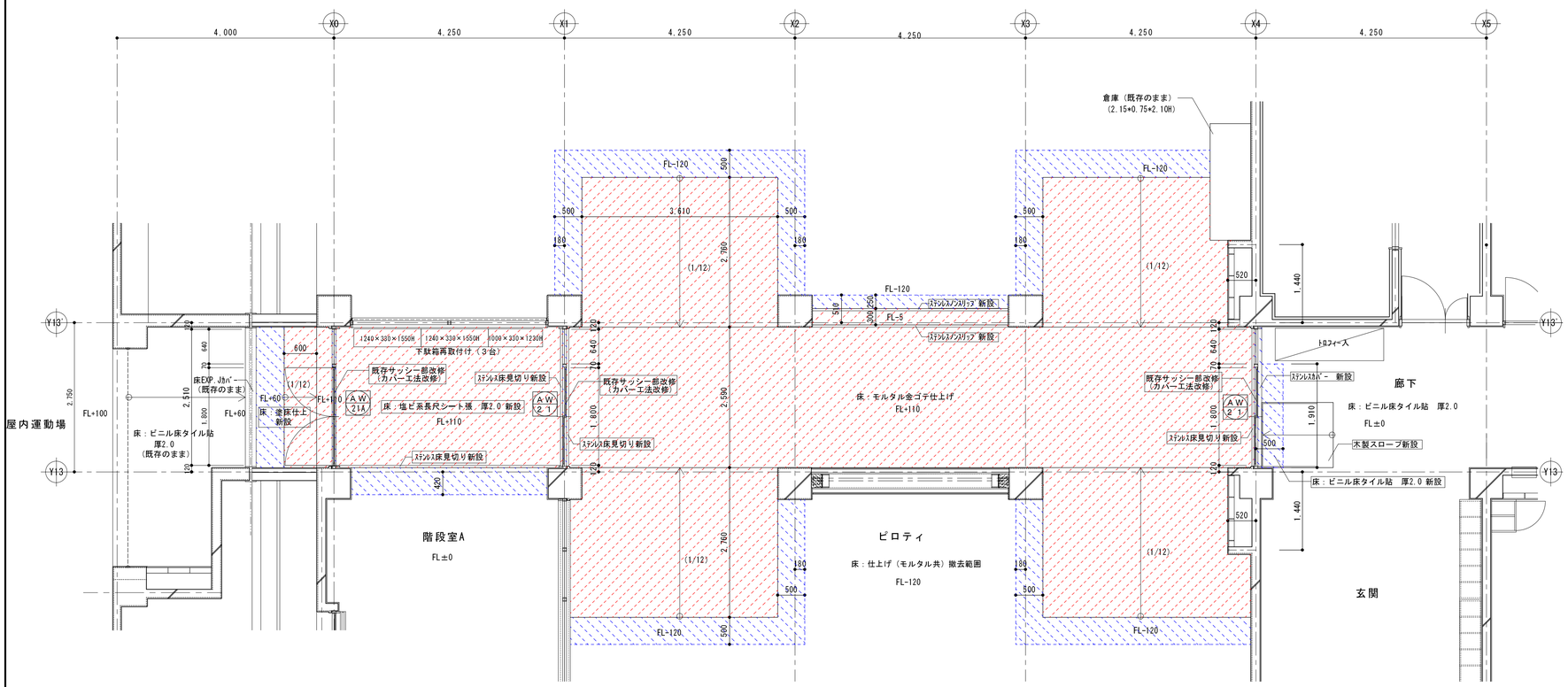


既存階段室Ａ部　断面詳細図　S=1:30



ピロティ部　断面詳細図　S=1:30

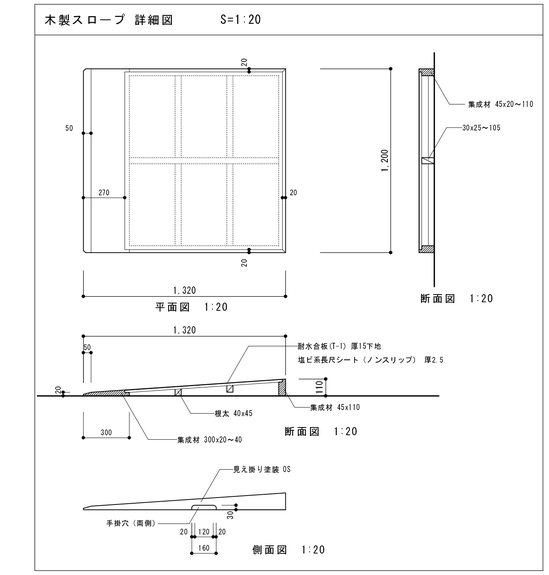
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	既存　ピロティ部詳細図	縮尺 A1 1:30　1:50 / A3 1:60　1:100	図番号	A-16
			特記事項		特記事項		特記事項						

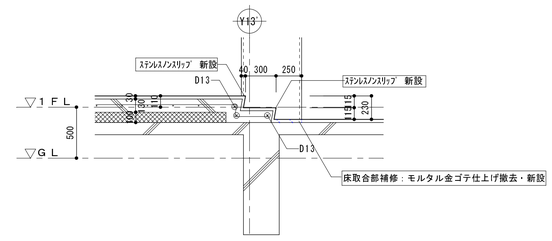


床：軽量コンクリート嵩上げ及び仕上げ（下地モルタル共）新設範囲（スロープ部含む）

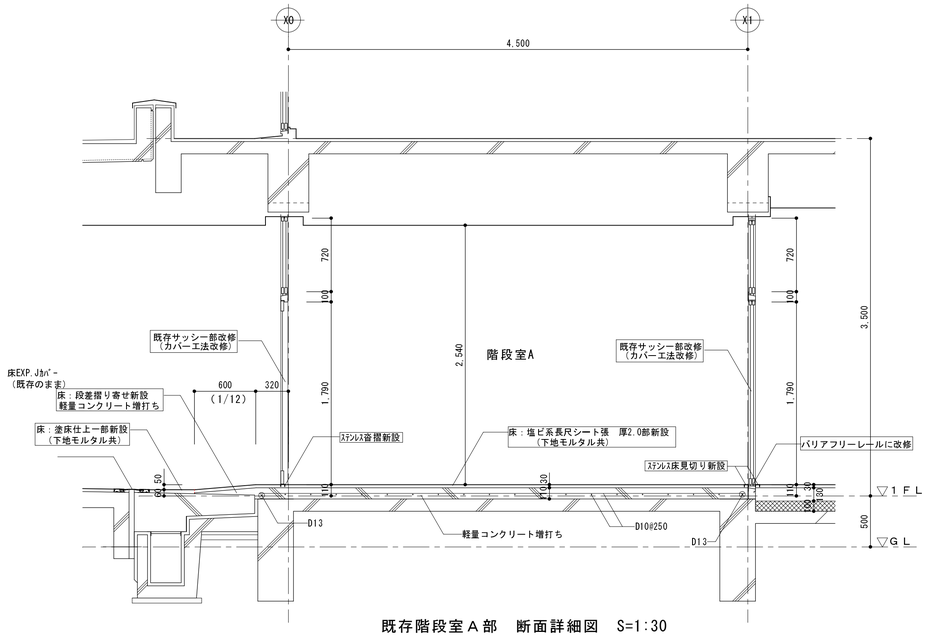
既存改修範囲を示す

改修　ピロティ部　平面詳細図　S=1:50

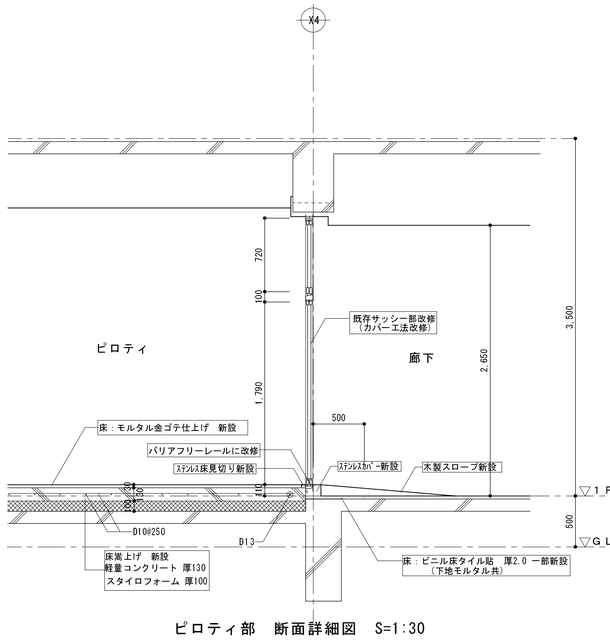




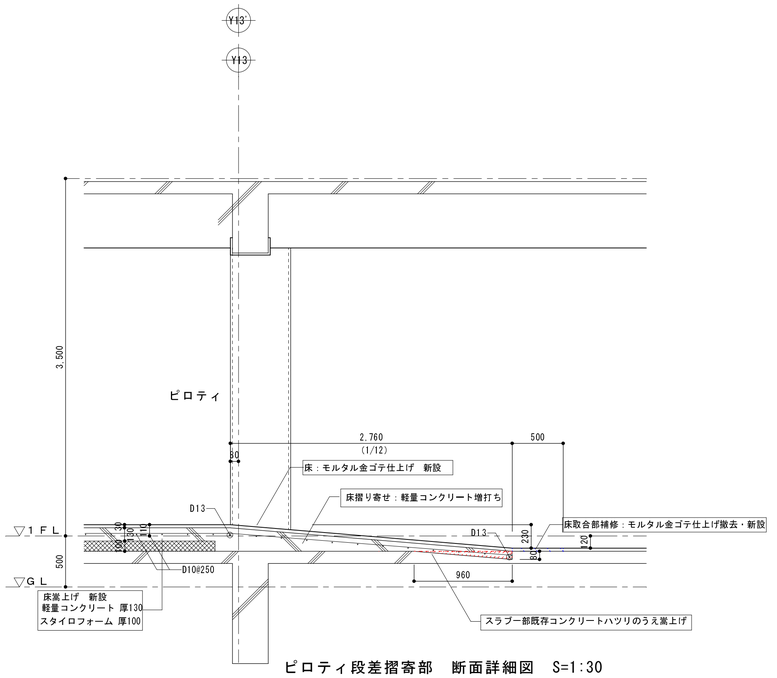
ピロティ段差ステップ部　断面詳細図　S=1:30



既存階段室Ａ部　断面詳細図　S=1:30

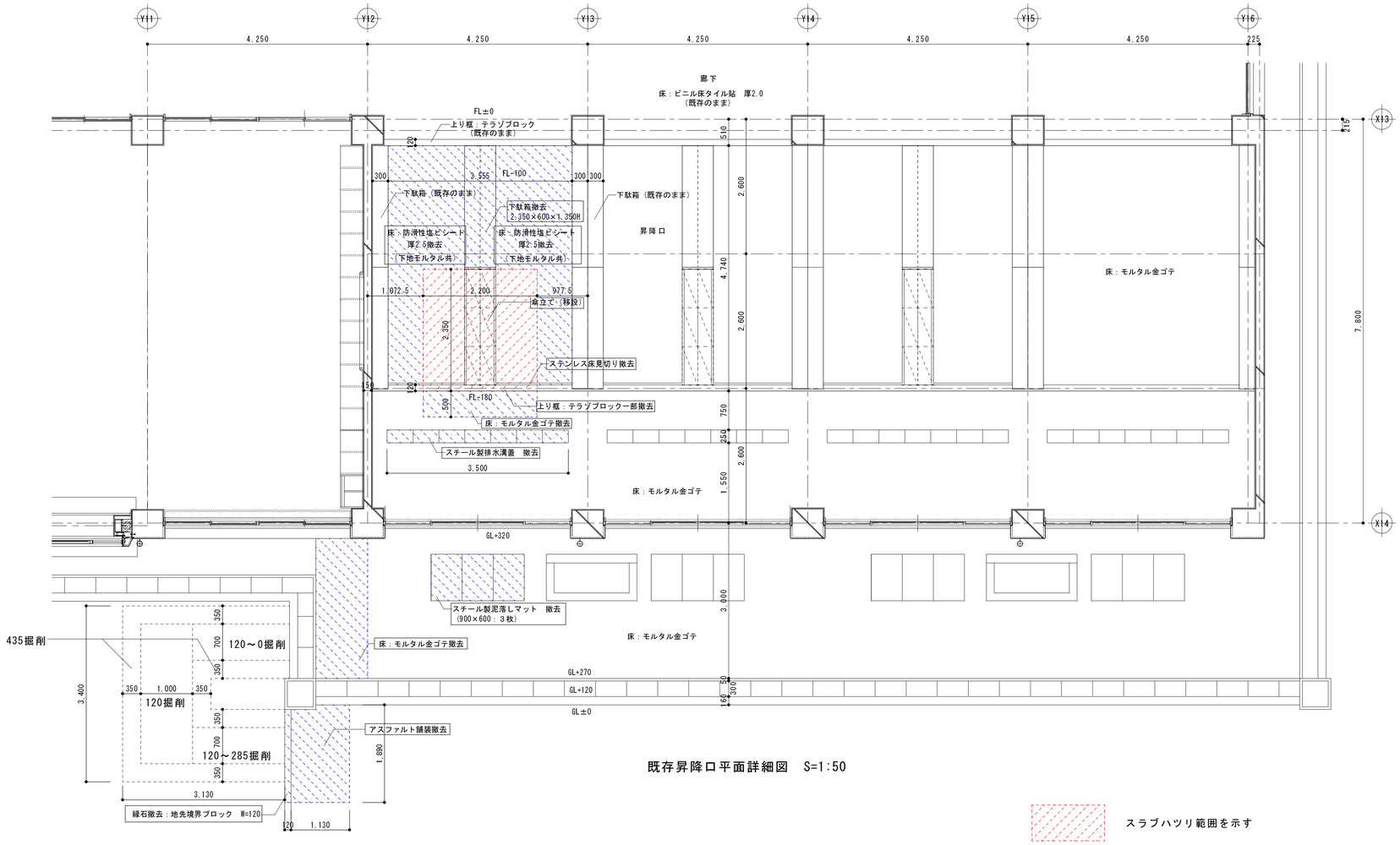


ピロティ部　断面詳細図　S=1:30



ピロティ段差摺寄部　断面詳細図　S=1:30

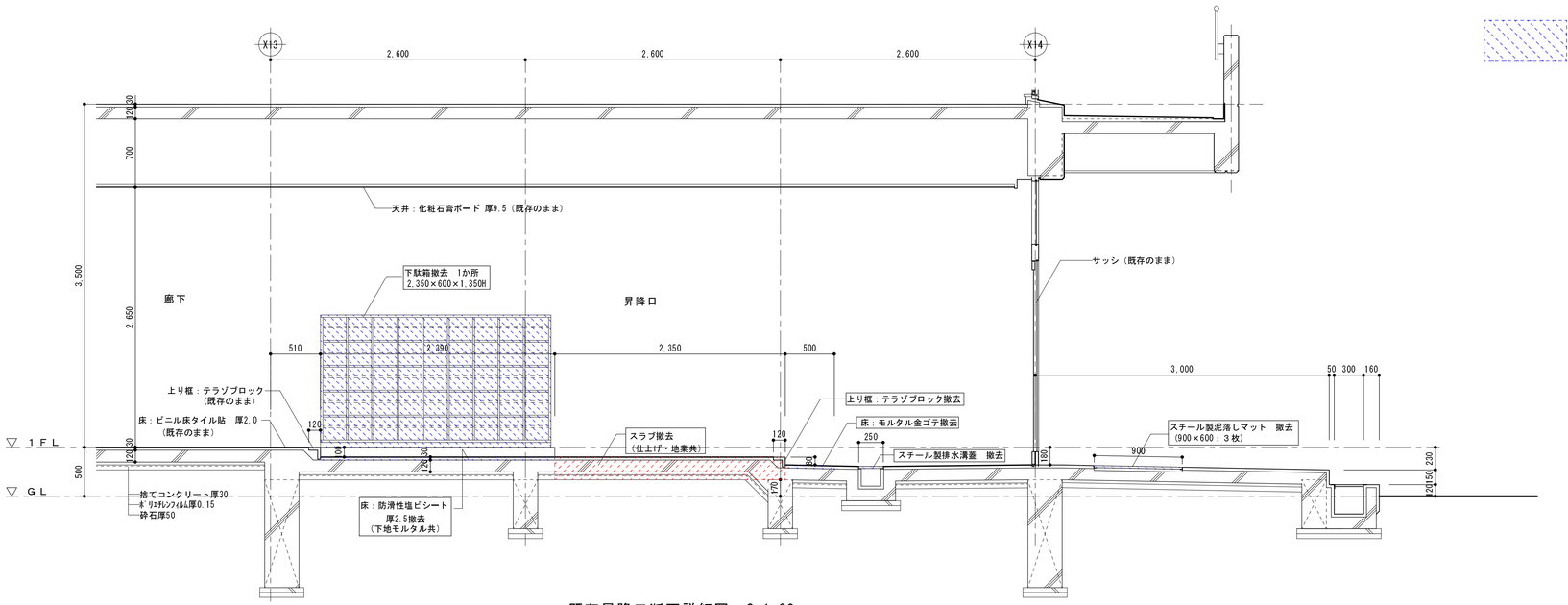
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	段差解消改修 ピロティ部詳細図	縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	図番号	A-17
			特記事項		特記事項		特記事項							



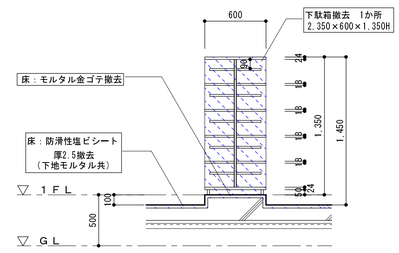
既存昇降口平面詳細図　S=1:50

スラブハツリ範囲を示す

撤去範囲を示す

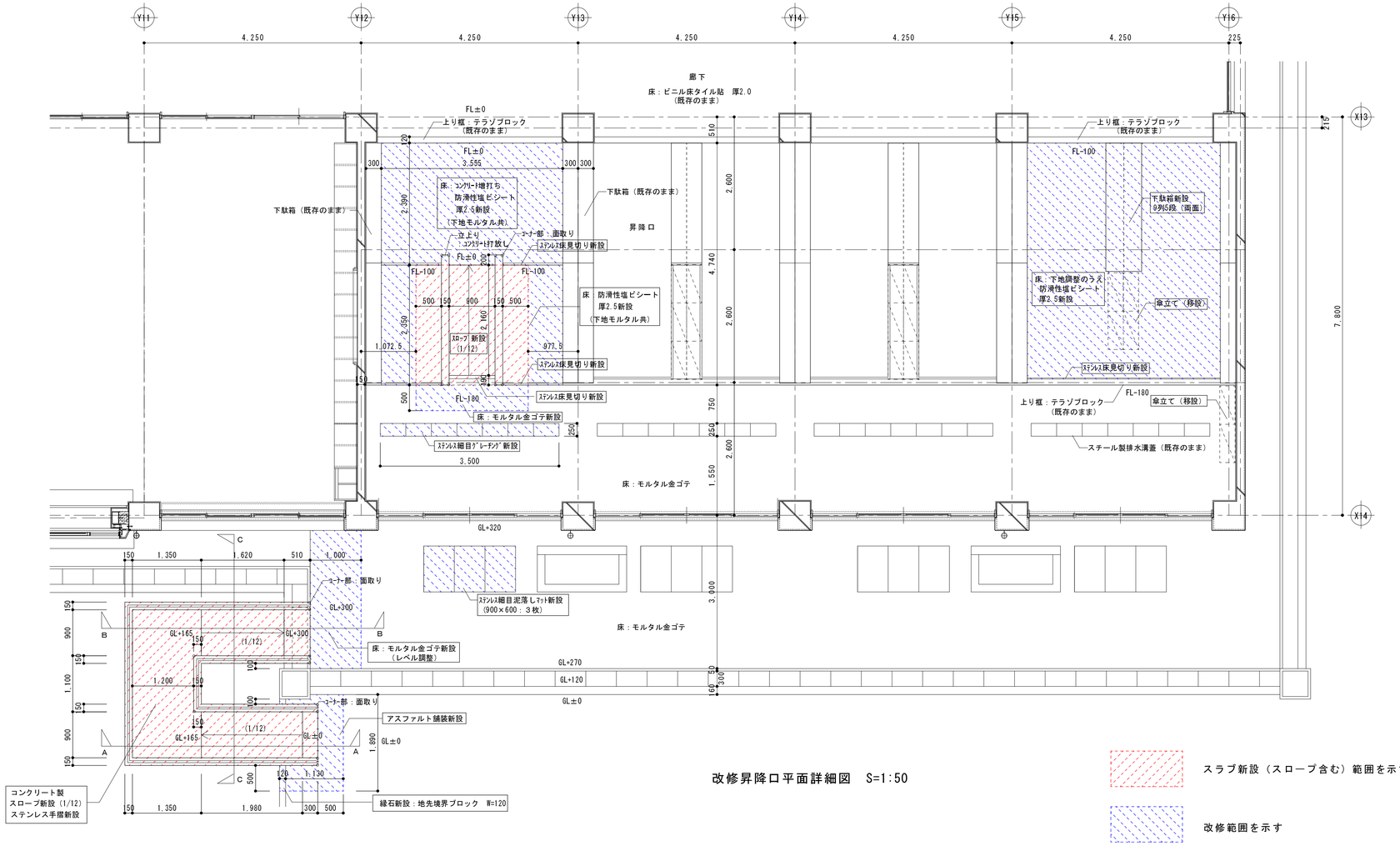


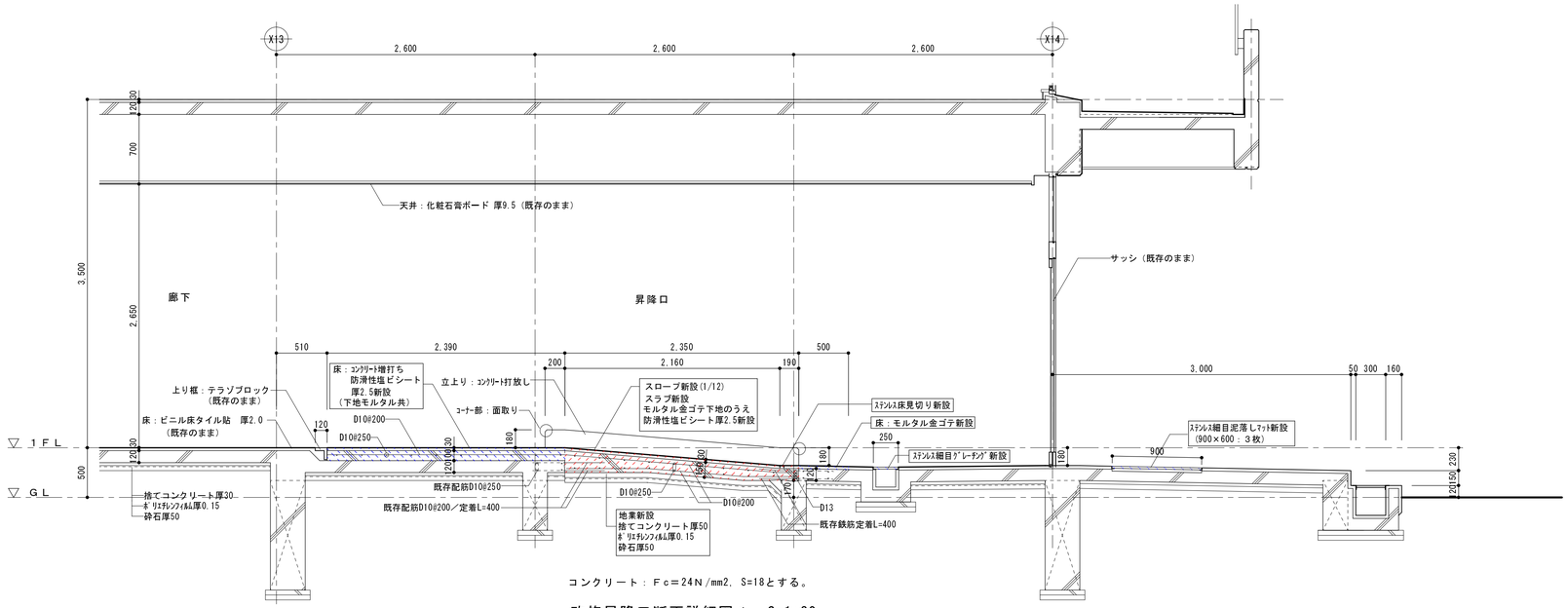
既存昇降口断面詳細図　S=1:30



既存下駄箱詳細図　S=1:30

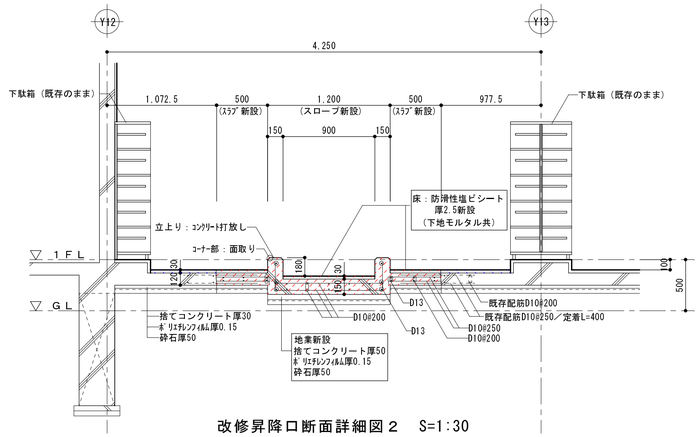
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	既存　昇降口詳細図	縮尺	A1 1:30 1:50 A3 1:60 1:100	図番号	A-18
			特記事項		特記事項		特記事項							


廊下
床：ビニル床タイル貼　厚2.0
（既存のまま）
FL±0
上り框：テラゾブロック
（既存のまま）
FL±0
3,555
床：コンクリート増打ち
防滑性塩ビシート
厚2.5新設
（下地モルタル共）
下駄箱（既存のまま）
下駄箱（既存のまま）
昇降口
立上り
コンクリート打放し
コーナー部：面取り
ステンレス床見切り新設
FL±0
FL-100
FL-100
床：防滑性塩ビシート
厚2.5新設
（下地モルタル共）
スロープ新設
(1/12)
1,072.5
977.5
ステンレス床見切り新設
FL-180
ステンレス床見切り新設
床：モルタル金ゴテ新設
ステンレス細目ｶﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ新設
3,500
床：モルタル金ゴテ
GL+320
上り框：テラゾブロック
（既存のまま）
FL-100
下駄箱新設
9列5段（両面）
床：下地調整のうえ
防滑性塩ビシート
厚2.5新設
傘立て（移設）
ステンレス床見切り新設
上り框：テラゾブロック
（既存のまま）
FL-180
傘立て（移設）
スチール製排水溝蓋（既存のまま）
ステンレス細目泥落しﾏｯﾄ新設
（900×600：3枚）
床：モルタル金ゴテ
GL+270
GL+120
GL±0
X11
X12
X13
X14
X15
X16
4,250
4,250
4,250
4,250
4,250
225
7,800
4,740
2,600
2,600
1,550
3,000
2,390
2,160
2,350
510
750
2,600
215
C
B
B
A
A
C
GL+165
GL+300
(1/12)
床：モルタル金ゴテ新設
（レベル調整）
コーナー部：面取り
アスファルト舗装新設
GL±0
GL±0
1,800
コンクリート製
スロープ新設（1/12）
ステンレス手摺新設
縁石新設：地先境界ブロック　H=120
1,200
1,100
900
900
1,350
1,620
510
1,000
1,350
1,980
300
500
1,130
150
150
150
150
150
150
150
100
100
50
150
150
120
500
300
300
300
500
150
150
150
150
150
150
150

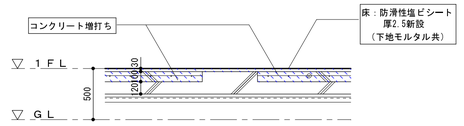


コンクリート：Ｆｃ＝24Ｎ/mm2，S=18とする。

改修昇降口断面詳細図１　S=1:30



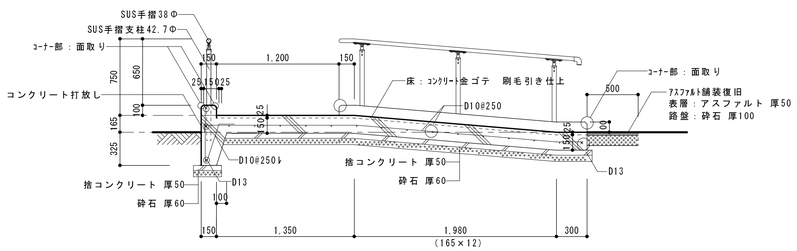
改修昇降口断面詳細図２　S=1:30



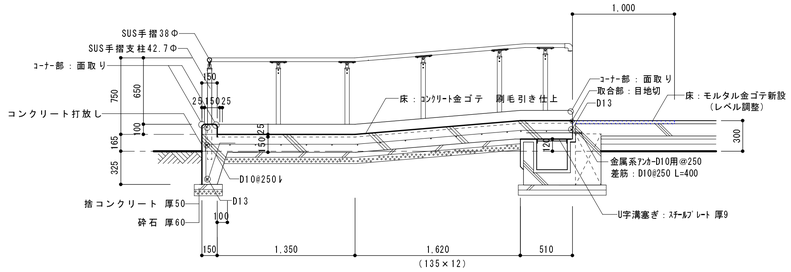
下駄箱撤去部詳細図　S=1:30

スラブ（スロープ含む）新設を示す

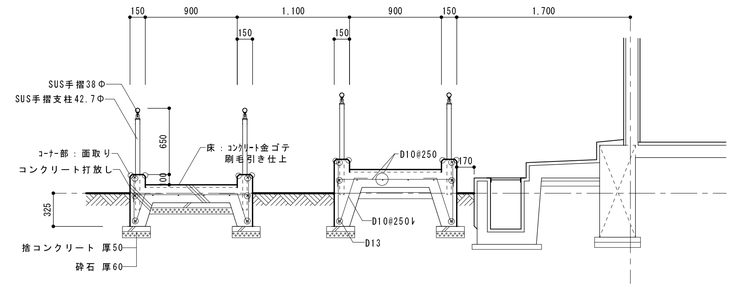
改修範囲を示す



ＲＣスロープ　Ａ－Ａ断面詳細図　　S=1:30

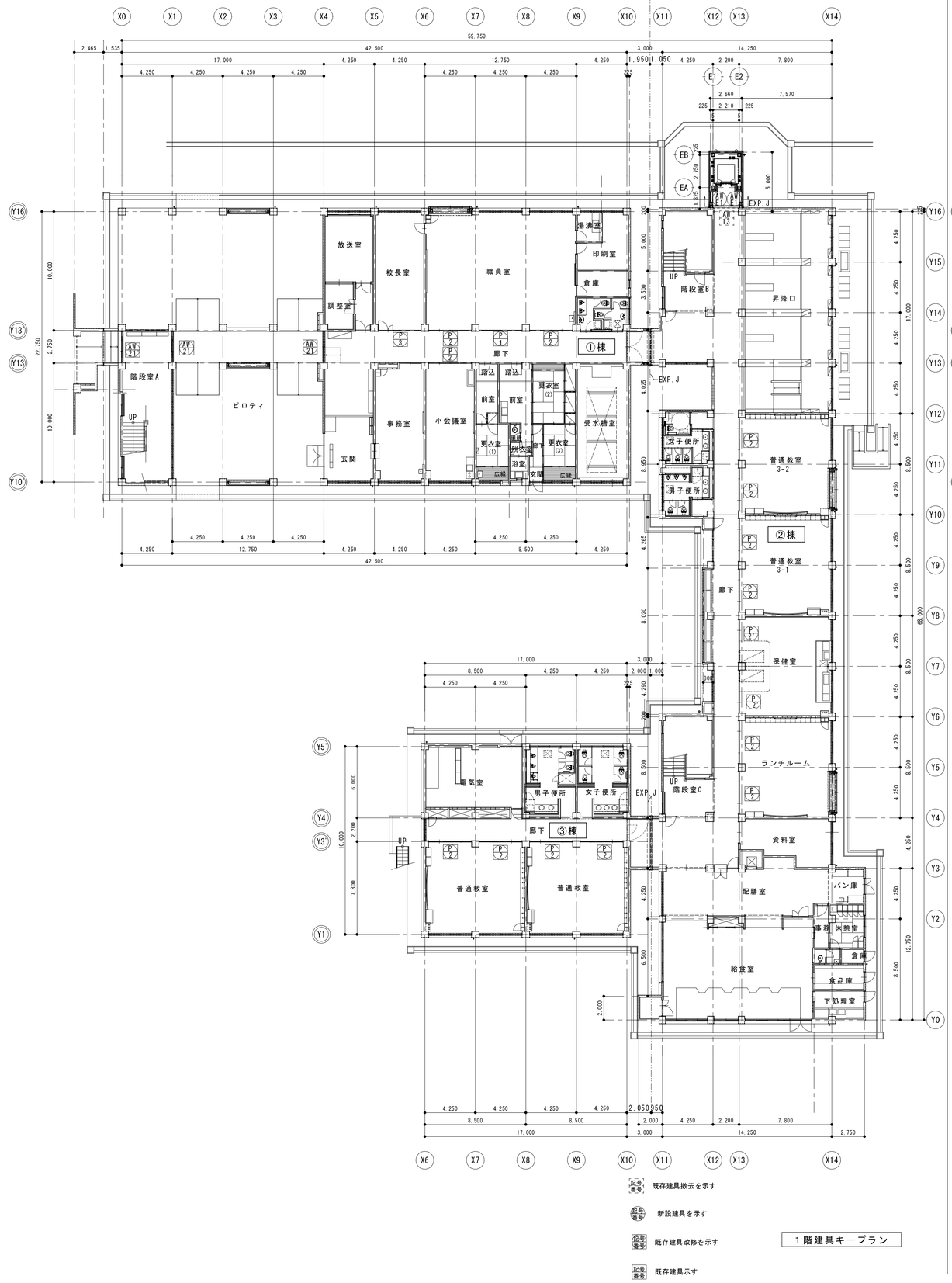


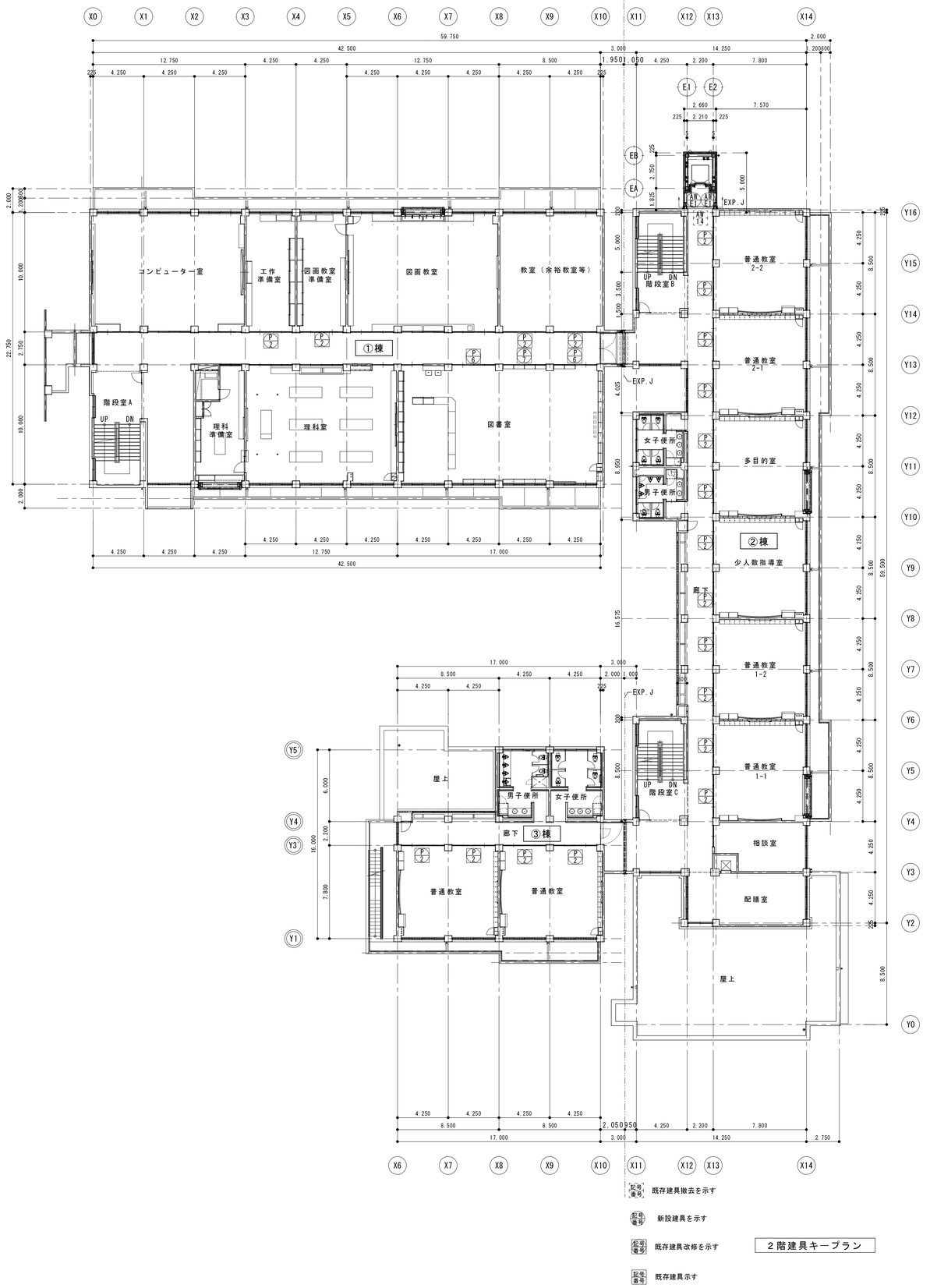
ＲＣスロープ　Ｂ－Ｂ断面詳細図　　S=1:30



ＲＣスロープ　Ｃ－Ｃ断面詳細図　　S=1:30

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	段差解消改修 昇降口断面詳細図	縮尺	A1 1:30 A3 1:60	図番号	A-20
			特記事項		特記事項		特記事項							





記号番号 既存建具撤去を示す
記号番号 新設建具を示す
記号番号 既存建具改修を示す
記号番号 既存建具示す

1階建具キープラン

記号番号 既存建具撤去を示す
記号番号 新設建具を示す
記号番号 既存建具改修を示す
記号番号 既存建具示す

2階建具キープラン

千葉市都市局建築部営繕課

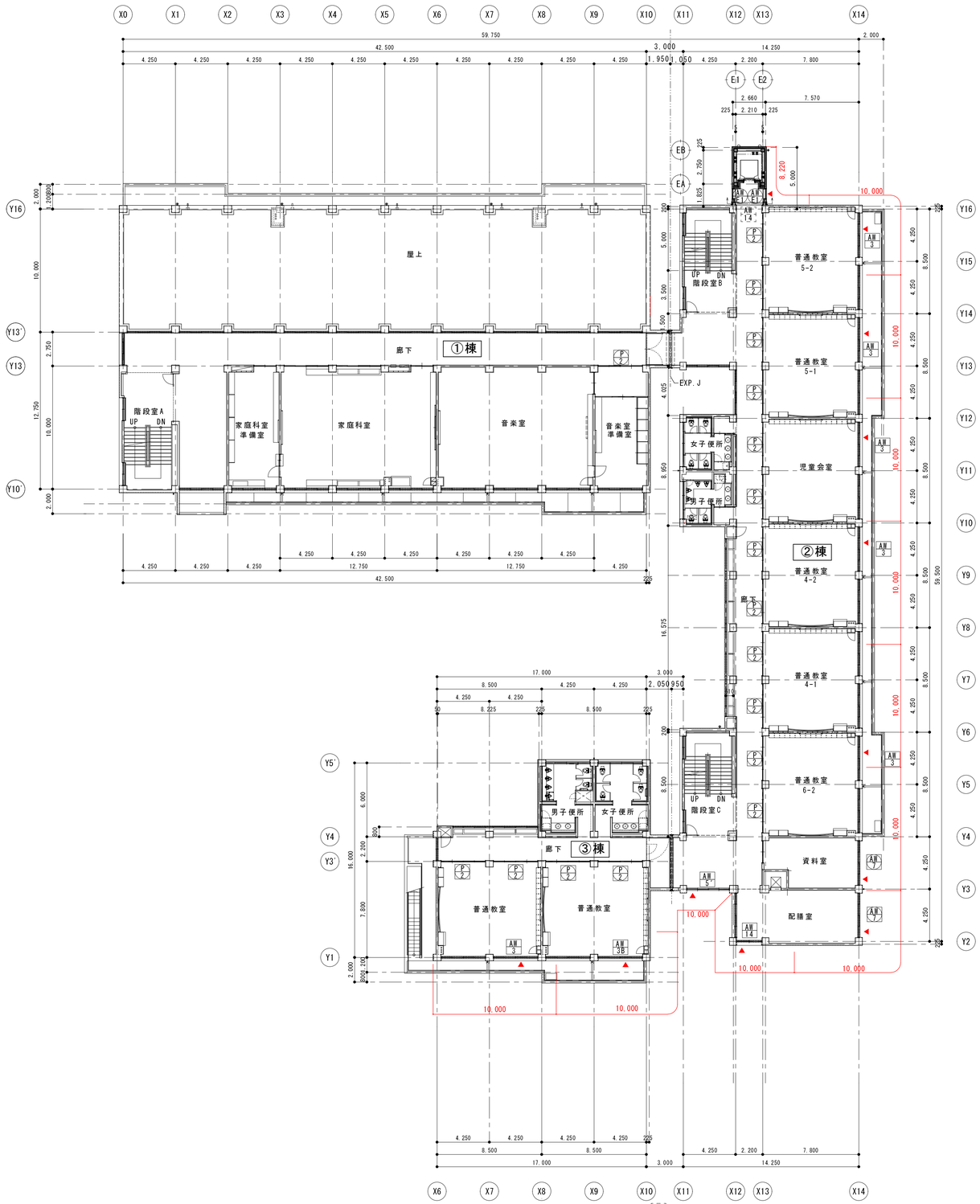
工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日
	特記事項		特記事項		特記事項	

図面名 建具キープラン１

縮尺 A1 1:200 / A3 1:400

図番号 A-21



▼ 代替進入口を示す

※「進入口設置対象部分」は道路に面する外壁部分

記号番号 既存建具撤去を示す

記号番号 新設建具を示す

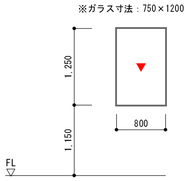
記号番号 既存建具改修を示す

記号番号 既存建具示す

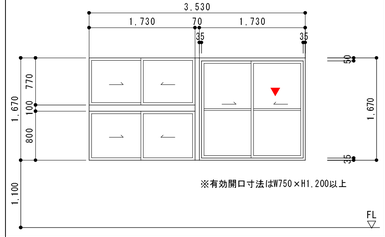
3階建具キープラン

■３階代替進入口

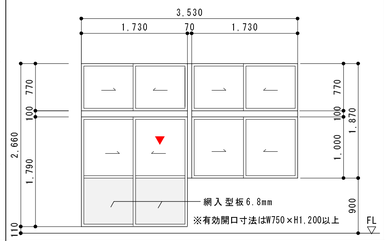
AW E1 学校用強化ガラス　厚4



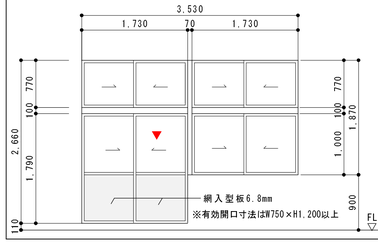
AW 7 学校用強化ガラス　厚4



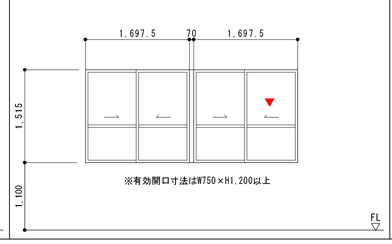
AW 3 学校用強化ガラス　厚4
腰部：網入型板ガラス　厚6.8



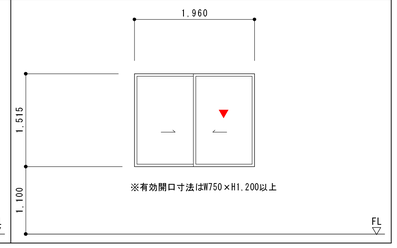
AW 3B 網入型透明ガラス　厚6.8
腰部：網入型板ガラス　厚6.8



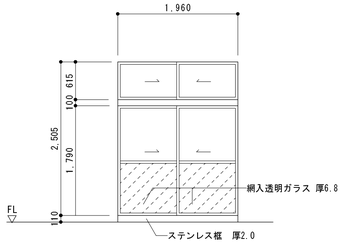
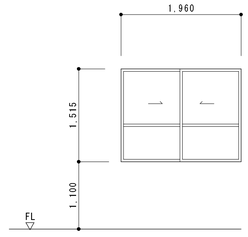
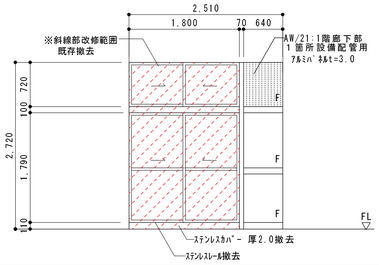
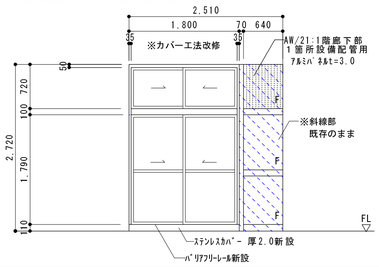
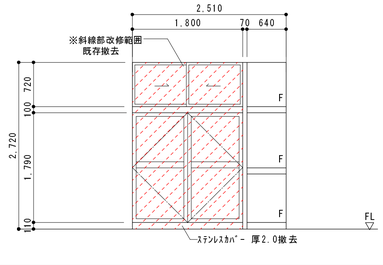
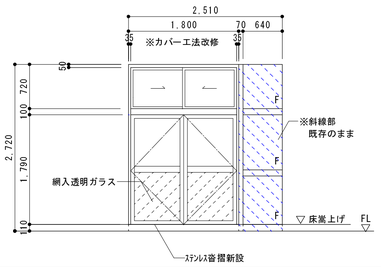
AW 5' 網入型透明ガラス　厚6.8

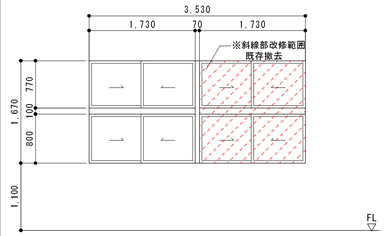
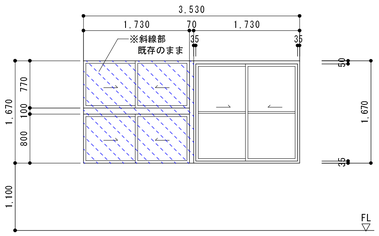


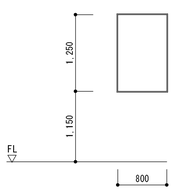
AW 14 学校用強化ガラス　厚4



千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7年 10月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項 / 設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項
図面名	建具キープラン２	縮尺 A1 1:200 / A3 1:400	図番号 A-22

記号　個数	AW 13　1　撤去　（エレベータ設置）	AW 14　2　撤去　（エレベータ設置）	AW 21　2　既存改修　（バリアフリー改修）		AW 21A　1　既存改修　（バリアフリー改修）	
姿　図	（撤去は枠共） 	（撤去は枠共） 	既存 	改修（カバー工法） ※カバー工法枠寸法はメーカー仕様による ※出入口開口有効寸法W=800以上確保すること ※出入口高さはH=1,790（既存寸法）確保すること 	既存 	改修（カバー工法） ※カバー工法枠寸法はメーカー仕様による ※出入口高さはH=1,790（既存寸法）確保すること 
使用箇所	1階　廊下（EV設置部）	2・3階　廊下（EV設置部）	1階　廊下・階段室A		1階　階段室A	
種別方式	ランマ引き違い付引き違い窓	引き違い窓	袖FIXランマ引き違い付引き違い窓	カバー工法改修：引き違い窓（バリアフリー）	袖FIXランマ引き違い付両開き扉	カバー工法改修：両開き扉（プッシュプルタイプ）
見　込	70	70	70		70	
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー
ガラス	学校用強化ガラス　厚4 下部：網入透明ガラス　厚6.8	学校用強化ガラス　厚4	網入透明ガラス　厚6.8	網入透明ガラス　厚6.8	網入透明ガラス　厚6.8	学校用強化ガラス　厚4 下部：網入透明ガラス　厚6.8
金　物	ステンレス框　厚2.0		クレセント(鍵付)、下枠：ステンレスカバー、ステンレスレール	シリンダー錠、サムターン、下枠：ステンレスカバー、バリアフリーレール 附属金物一式	ドアチェック（ストッパー付）、丁番、シリンダー錠 フランス落し、クレセント（鍵付）、下枠：ステンレスカバー、ステンレス容摺	ドアチェック（ストッパー付）、丁番、シリンダー錠、サムターン、フランス落し プッシュプルハンドル、戸当り、ステンレス容摺 附属金物一式
備　考				※シリンダー錠は既存マスターキーに合わせる		※シリンダー錠は既存マスターキーに合わせる

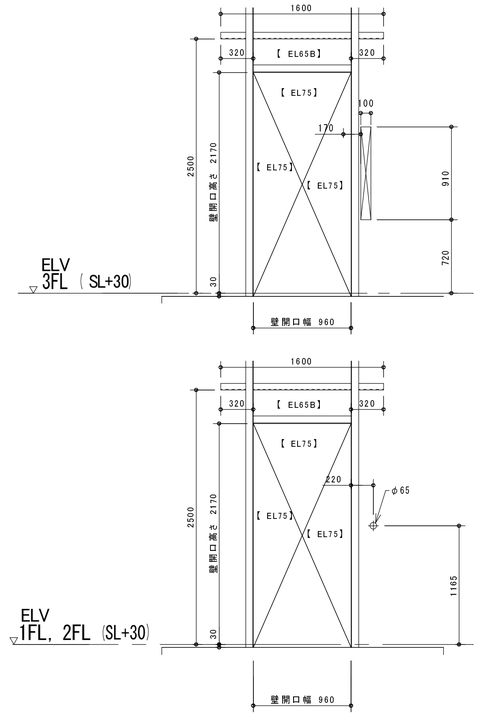
記号　個数	AW 7　2　既存改修　（代替進入口改修）
姿　図	既存  改修（カバー工法） ※カバー工法枠寸法はメーカー仕様による ※有効開口寸法はW750×H1,200以上とする（代替進入口） 
使用箇所	3階　①棟：廊下、②棟：資料室、配膳室
種別方式	2連2段引き違い窓	引き違い窓（カバー工法）
見　込	70	70
仕　上	アルミ　シルバー	アルミ　シルバー
ガラス	学校用強化ガラス　厚4	学校用強化ガラス　厚4
金　物		化粧桟 附属金物一式
備　考		

記号　個数	AW ET　6　新設　（エレベータ設置）
姿　図	 ※ガラスサ法：750×1200以上
使用箇所	1～3階　ＥＶホール（増築部）
種別方式	ハメ殺し窓（ＡＬＣ用）
見　込	70
仕　上	アルミ　シルバー
ガラス	学校用強化ガラス　厚4
金　物	アルミ水切り、4方アルミ額縁　25×150、附属金物一式
備　考	※3階は代替進入口

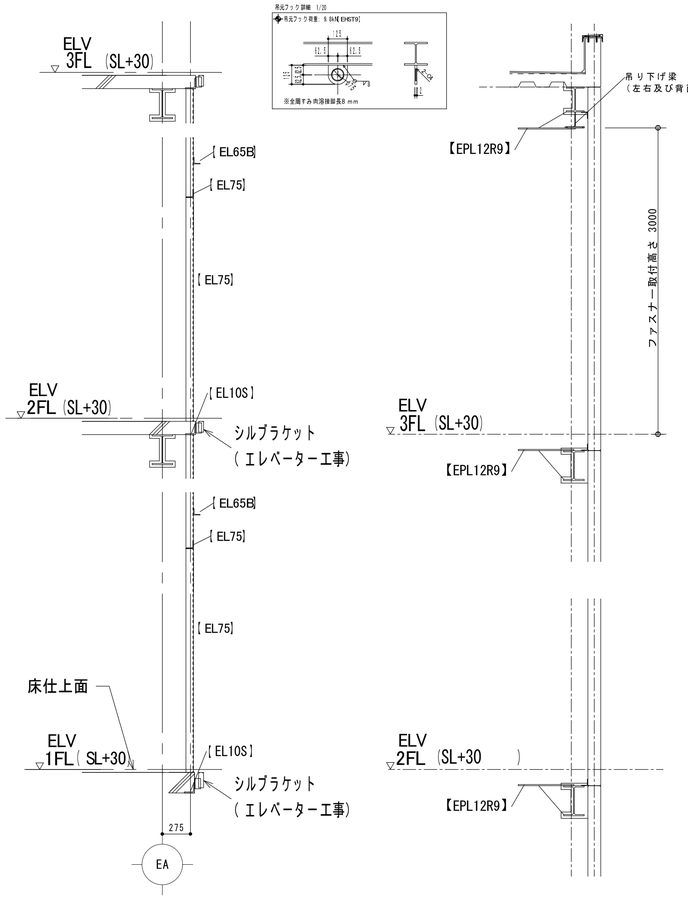
千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和　7年　10月　日 特記事項	設計年月日 令和　年　月　日 特記事項	設計年月日 令和　年　月　日 特記事項	図面名 建具表	縮尺 A1 1:50 A3 1:100	図番号 A-23

エレベータ廻り開口及び補強詳細図　　※穴あけの位置・大きさは現場再確認とする

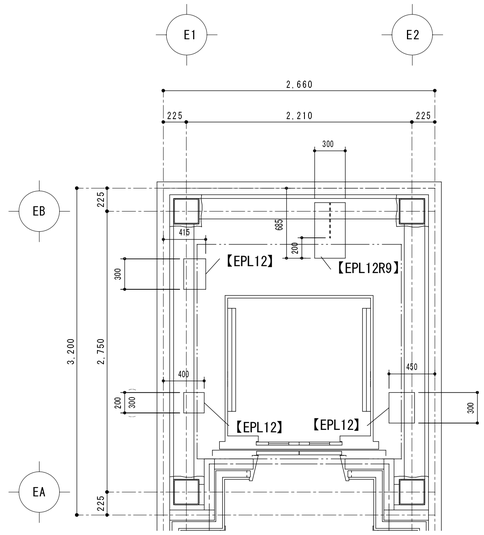
鉄骨部材記号表 （建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EPL12R9	ファスナープレート(リブ付)	PL-12(リブt9)
EPL12	ファスナープレート	PL-12
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)



出入口壁穴明図　　1 : 30

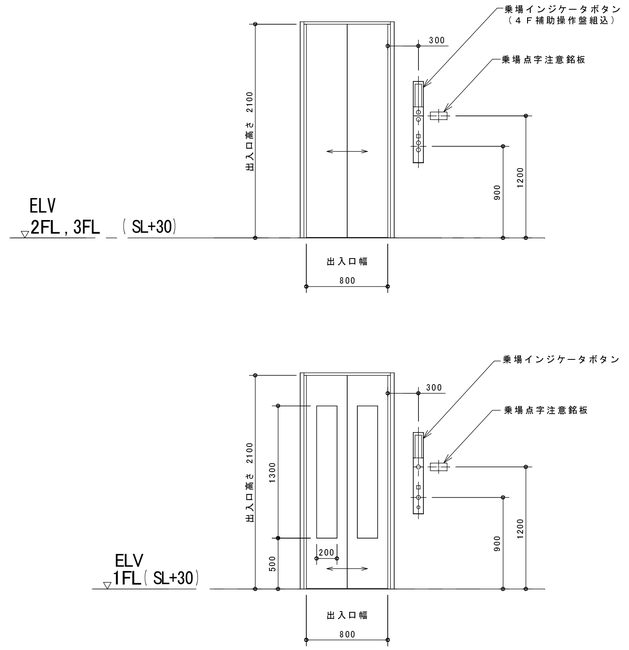


断面図　1 : 30



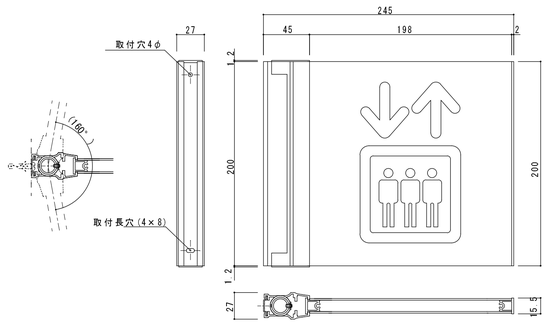
※（　）寸法は、２Ｆのファスナー寸法を示す

平面図　1 : 30



出入口正面図　1 : 30

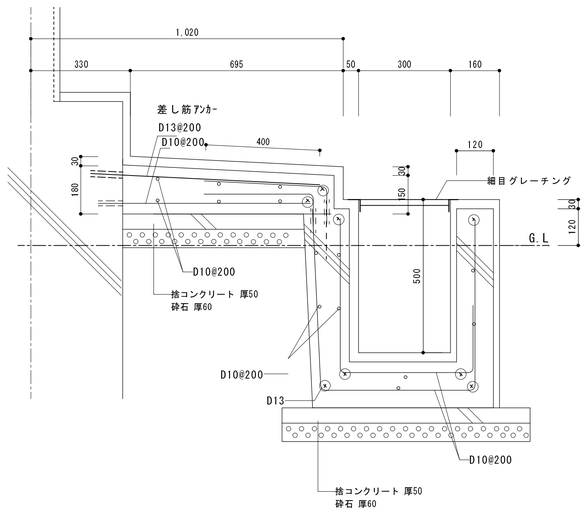
ピクトサイン詳細図　（突出スイング型）　　1 : 3



突出スイング型
材質：アルミ型材（シルバー）
ＵＶ印刷

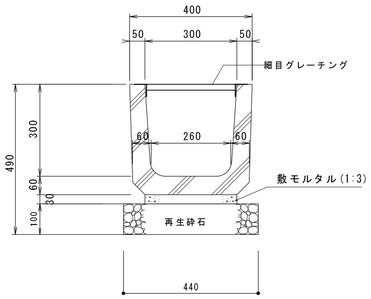
※表示案内用図記号は（JIS Z8210）に準じる

犬走り＋排水溝詳細図　S=1:10



Ｕ字溝詳細図　S=1:10

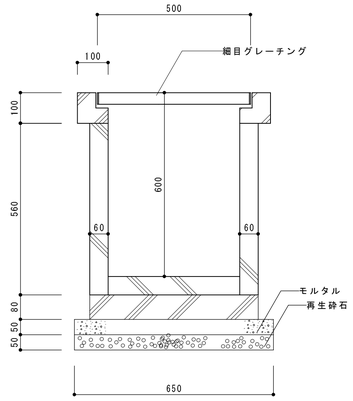
コンクリート既製品：300型



※寸法は参考（メーカー仕様による）

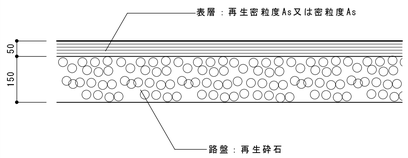
排水桝詳細図　S=1:10

コンクリート既製品



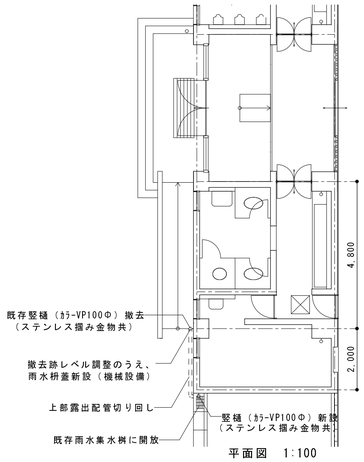
※寸法は参考（メーカー仕様による）

ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装詳細図　S=1:10

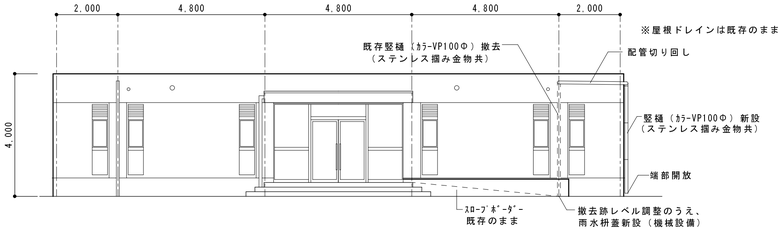


千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	雑詳細図　1	縮尺	A1 図示 / A3 図示/2	図番号	A-24
			特記事項		特記事項		特記事項							

屋内運動場附属屋竪樋改修図　S=1:100　※竪樋改修1か所のみ

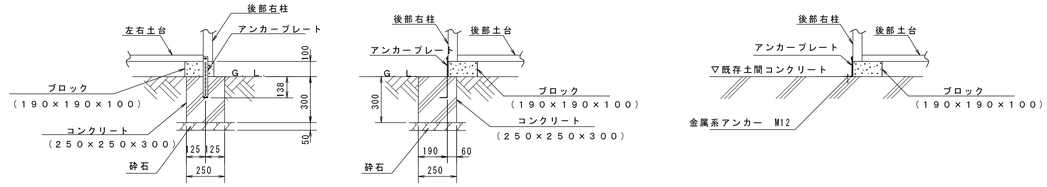


平面図　1:100



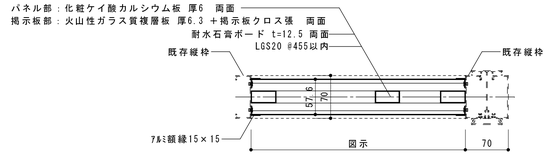
立面図　1:100

屋外倉庫基礎緊結詳細図　S=1:20

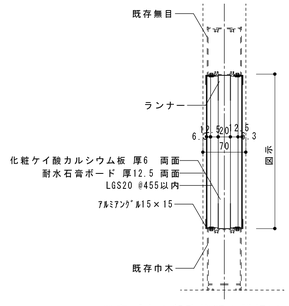


コンクリート：Ｆｃ＝24Ｎ/mm2，S=18とする。

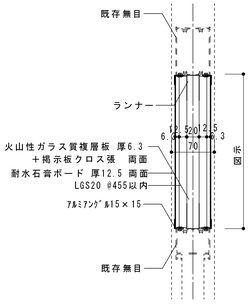
既存アルミパーティション改修図



既存アルミパーティション改修平面詳細図　1:5

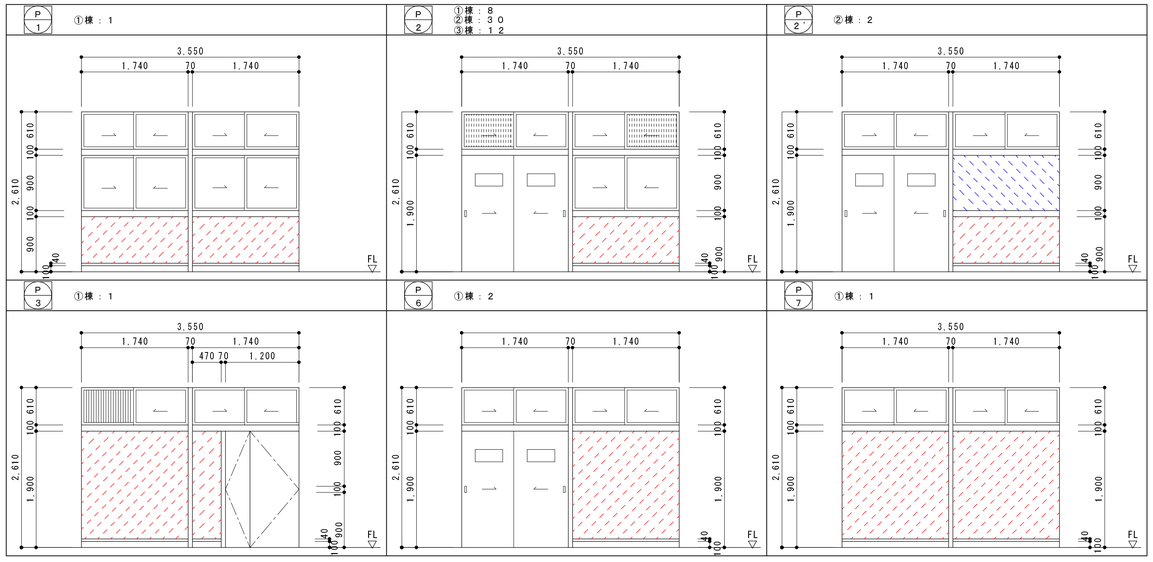


既存パネル部改修断面詳細図　1:5



既存掲示板部改修断面詳細図　1:5

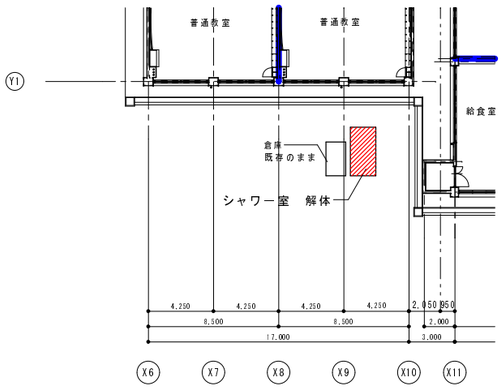
■改修パーティションリスト　1:50

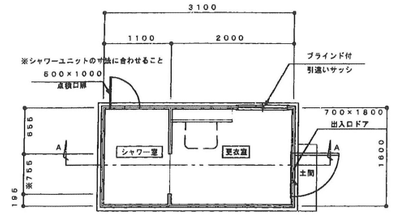


パネル改修部を示す

掲示板改修部を示す

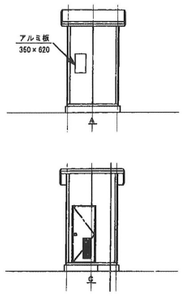
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	雑詳細図　2	縮尺	A1 図示 / A3 図示/2	図番号	A-25
			特記事項		特記事項		特記事項							

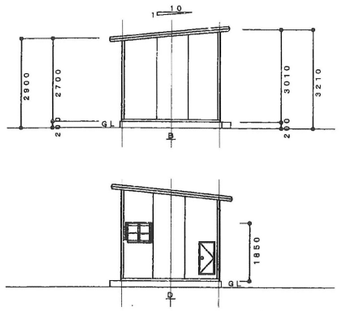




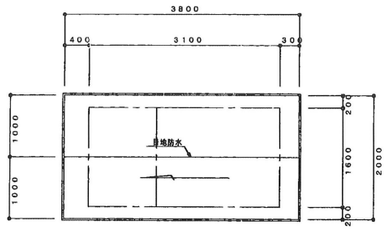


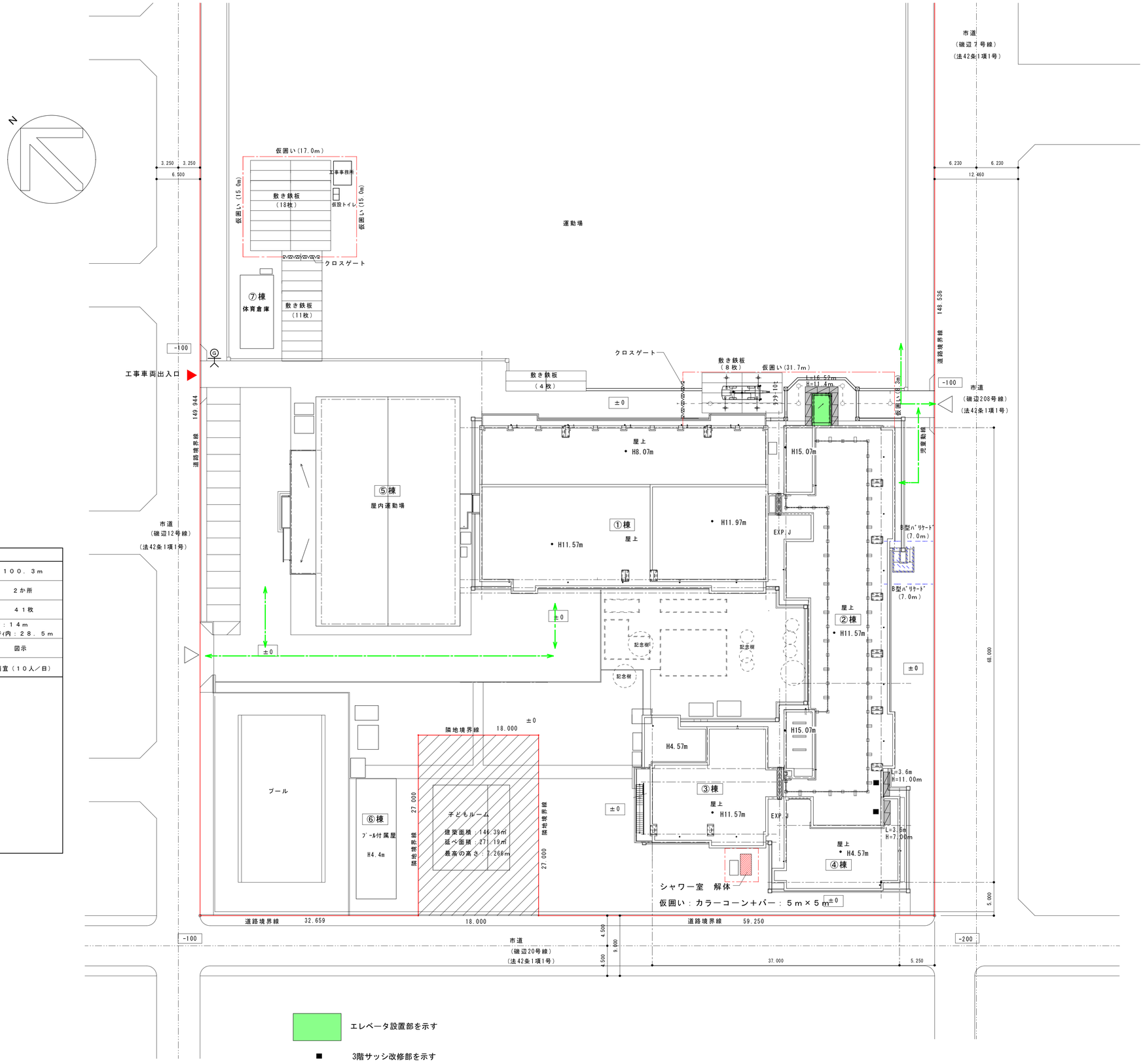
平面図　1：50





立面図　1：100


3800
400
3100
300
200
1600
2000
1000
1000
1600
防水立上り
200
防水立上り
1600
1000
1000
防水立上り
防水立上り
1600
2000
1000
1000
防水立上り
防水立上り
1600
2000
1000
1000
防水立上り
防水立上り
1600
2000

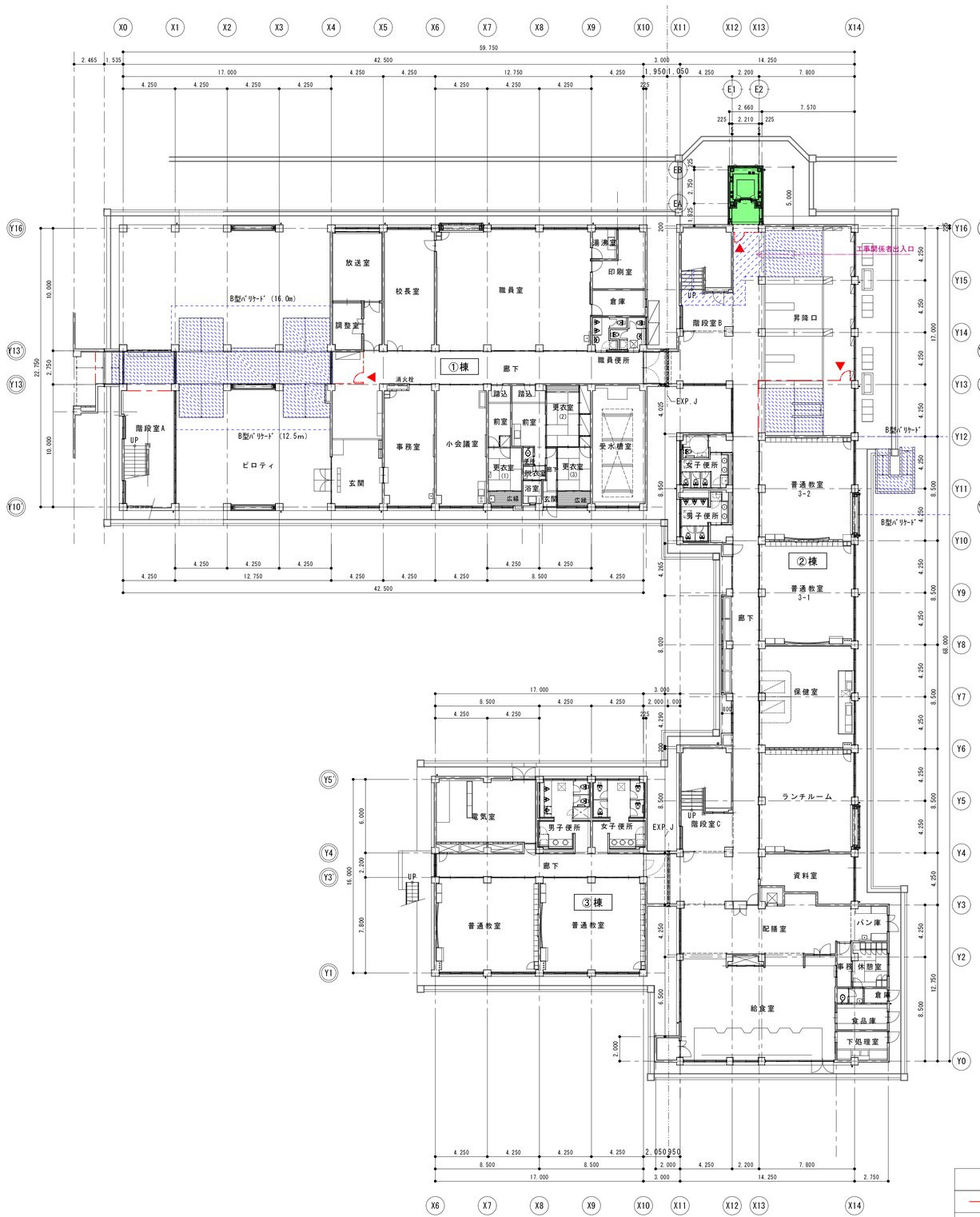


凡　例		
学校関係動線を示す	成型鋼板 H=2.0	１００．３ｍ
工事関係出入口を示す	クロスゲート W=6.0m H=1.8m	２か所
	敷鉄板 6.0x1.5xt22	４１枚
	Ｂ型バリケード	外部：１４ｍ ﾋﾟﾛﾃｨ内：２８．５ｍ
	手摺先行枠組本足場 W900	図示
	交通誘導員Ｂ	適宜（１０人／日）

■特記事項

・本図は参考図であり、施工業者は施設使用者に対する安全及び騒音対策に配慮した
　施工計画書を作成し、監督職員及び施設管理者と協議し調整の上提出すること。
・通路及び建物内の工事に支障のある、既存部分･設置物等は養生をすること。
・工事車両の搬出入は安全に留意し計画すること。
・作業日時については、市担当者と協議により決定すること。
・仮設養生は特記なき部位についても適切に養生すること。
・改修範囲に干渉する機器・器具等にはシート養生等を適切に処理すること。
・ｱｽﾌｧﾙﾄ、土間ｺﾝｸﾘｰﾄ、U字溝等破損した部分は現況回復すること。
・荒天時に雨水等の侵入を防ぐ為、養生すること。
・居ながら施工の為、安全性・騒音・粉じん・臭気について十分配慮すること。
・その他、各種関係法令を順守し、所轄行政庁等に対する必要手続きは遅延なくおこなうこと。
・給食搬送車の動線確保を行うこと（終日）
･運動場仮設範囲内は竣工時透水性の砂で復旧すること

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	外部仮設計画図（参考図）	縮尺	A1 1:300 A3 1:600	図番号	A-27
			特記事項		特記事項		特記事項							





記号	仮設概要
— — —	仮設間仕切り（A種）：LGS65型下地（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填）＋石膏ボードt=12.5(両面張)
◀	仮設扉：鋼製扉Ｗ８００×Ｈ１９００
	床ビニールシート養生（通路：W=1,000）
----------	Ｂ型バリケード

バリアフリー対策改修部

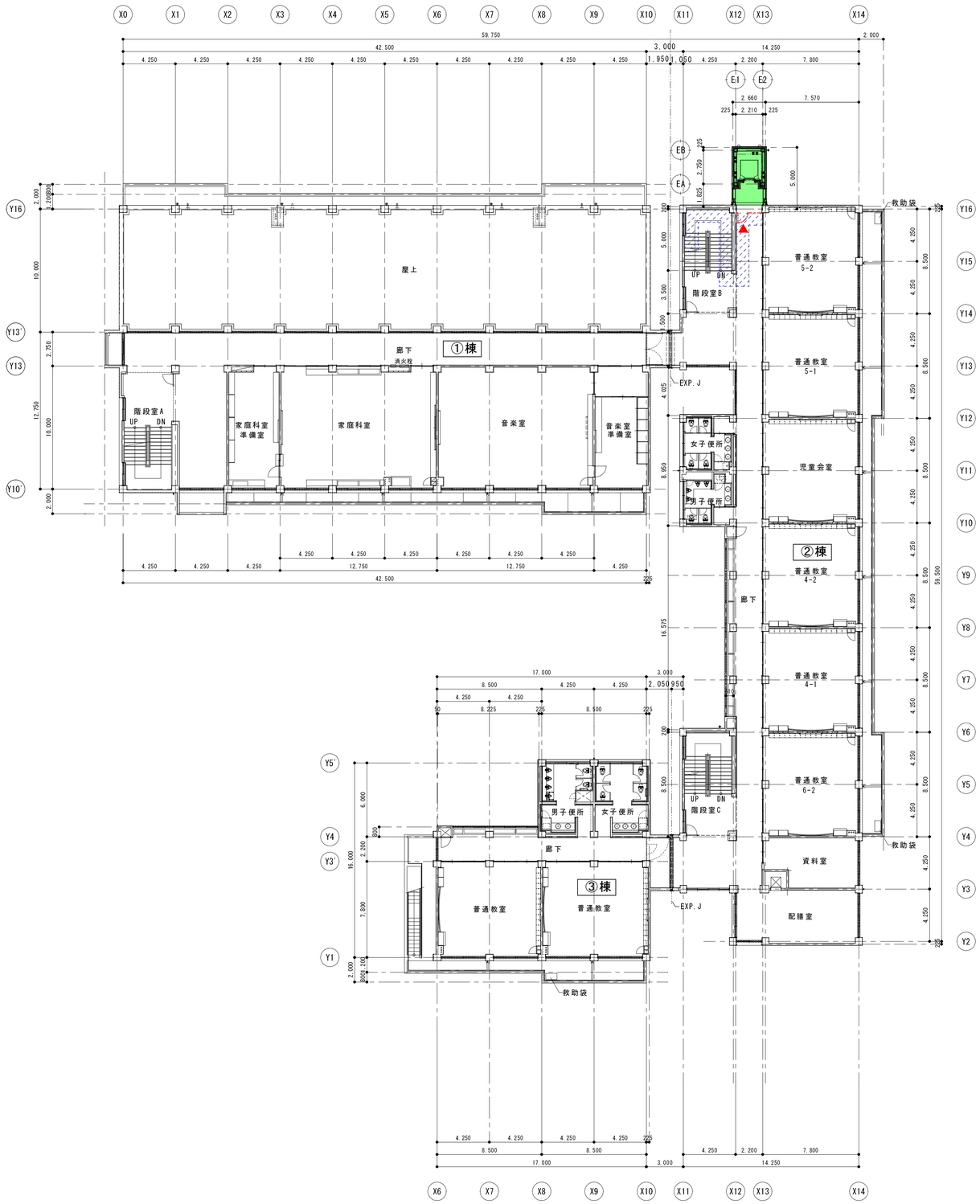
今回増築部

１階

今回増築部

２階

| | | |

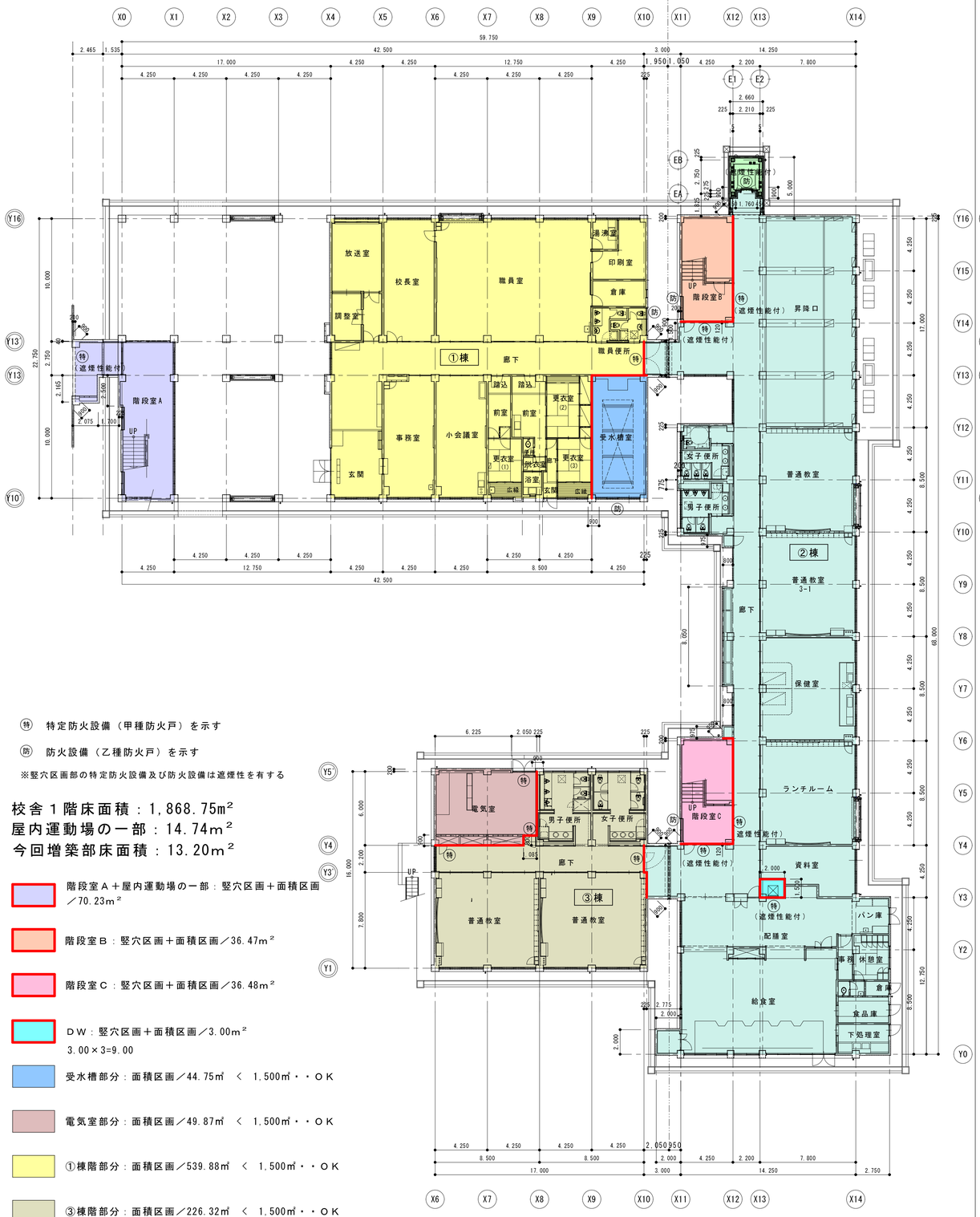


3階

記号	仮設概要
— — —	仮設間仕切り（A種）：LGS65型下地（ｸﾞﾗｽｳｰﾙ充填）＋石膏ボードt=12.5（両面張）
◀	仮設扉：鋼製扉Ｗ８００×Ｈ１９００
	床ビニールシート養生（通路：W=1,000）

千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7年 10月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項

図面名	縮尺		図番号
内部仮設計画２（参考図）	A1	1:200	A-29
	A3	1:400	



特 特定防火設備（甲種防火戸）を示す

防 防火設備（乙種防火戸）を示す

※竪穴区画部の特定防火設備及び防火設備は遮煙性を有する

校舎１階床面積：1,868.75㎡
屋内運動場の一部：14.74㎡
今回増築部床面積：13.20㎡

階段室Ａ＋屋内運動場の一部：竪穴区画＋面積区画／70.23㎡

階段室Ｂ：竪穴区画＋面積区画／36.47㎡

階段室Ｃ：竪穴区画＋面積区画／36.48㎡

ＤＷ：竪穴区画＋面積区画／3.00㎡
3.00×3=9.00

受水槽部分：面積区画／44.75㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

電気室部分：面積区画／49.87㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

①棟階部分：面積区画／539.88㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

③棟階部分：面積区画／226.32㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

ＥＶシャフト部（今回計画）：竪穴区画／7.63㎡ →7.63×３＝22.89㎡

②棟階部分＋ＥＶホール（今回計画）：面積区画／882.06㎡

→882.06＋22.89+＝904.95㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

１階平面図

特 特定防火設備（甲種防火戸）を示す

防 防火設備（乙種防火戸）を示す

※竪穴区画部の特定防火設備は遮煙性を有する

校舎２階床面積：1,988.12㎡
今回増築部床面積：13.20㎡

階段室Ａ：竪穴区画＋面積区画／41.94㎡

階段室Ｂ：竪穴区画＋面積区画／36.47㎡

階段室Ｃ：竪穴区画＋面積区画／36.48㎡

ＤＷ：竪穴区画＋面積区画／3.00㎡

①棟階部分：面積区画／932.21㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

③棟階部分：面積区画／232.07㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

ＥＶシャフト部（今回計画）：竪穴区画＋面積区画／7.63㎡（②棟１階に合算）

②棟階部分＋ＥＶホール（今回計画）：面積区画／711.52㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

２階平面図

千葉市都市局建築部営繕課

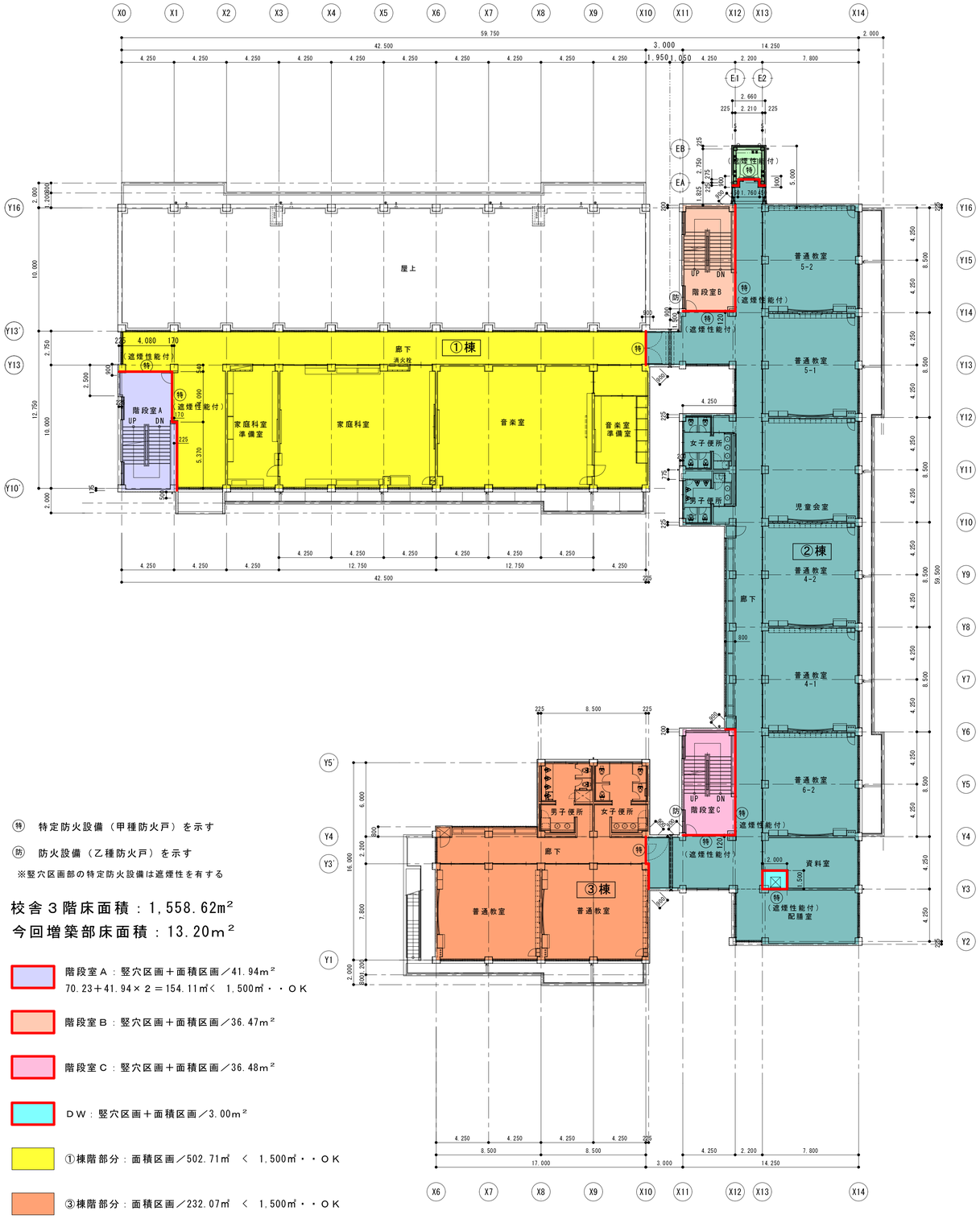
工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名 エレベータ設置 防火区画図 1

縮尺 A1 1/200 A3 1/400

図番号 A-30



特 特定防火設備（甲種防火戸）を示す

防 防火設備（乙種防火戸）を示す

※竪穴区画部の特定防火設備は遮煙性を有する

校舎３階床面積：1,558.62m²

今回増築部床面積：13.20m²

階段室Ａ：竪穴区画＋面積区画／41.94m²
70.23＋41.94×２＝154.11㎡＜ 1,500㎡・・ＯＫ

階段室Ｂ：竪穴区画＋面積区画／36.47m²

階段室Ｃ：竪穴区画＋面積区画／36.48m²

ＤＷ：竪穴区画＋面積区画／3.00m²

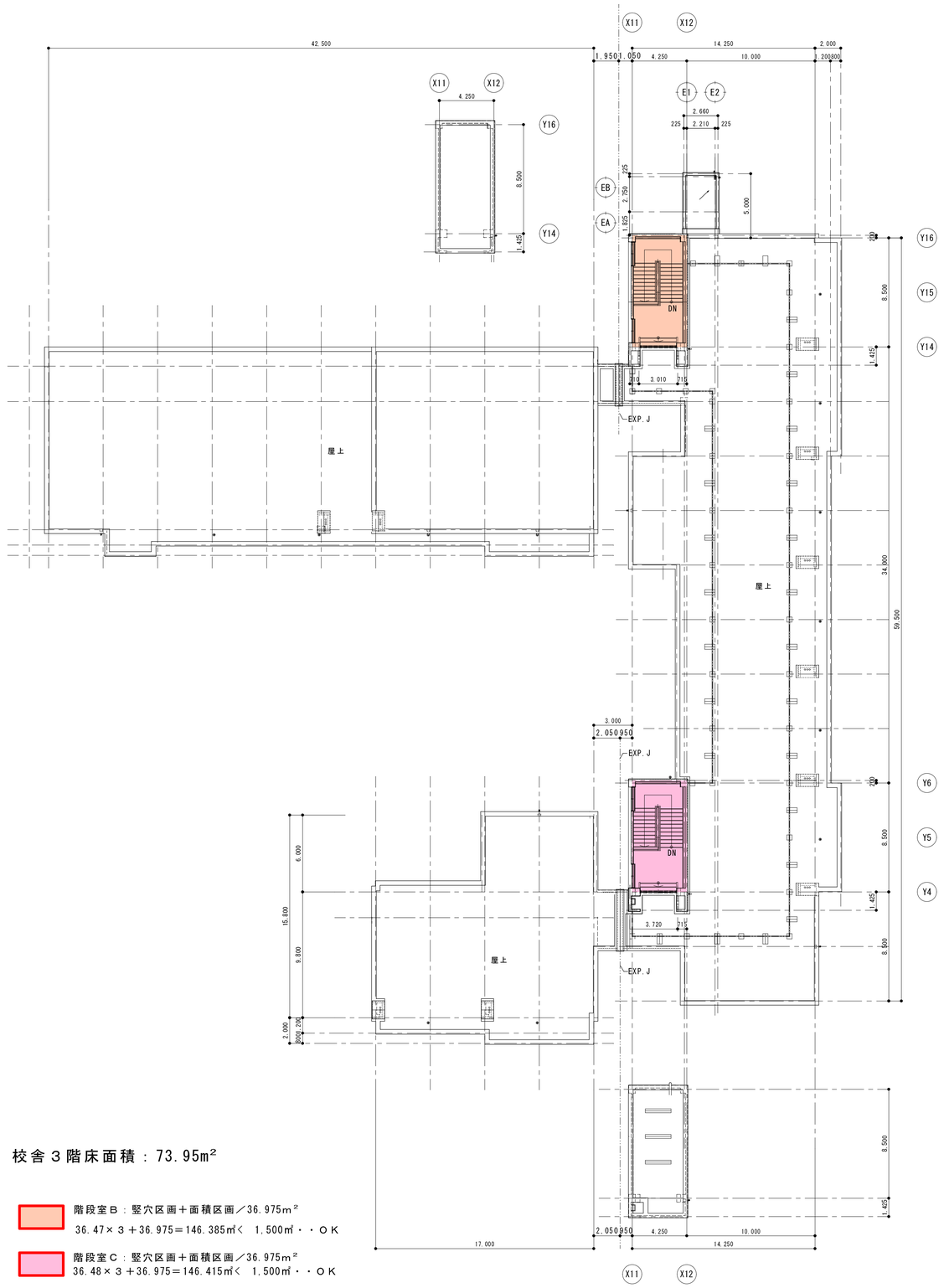
①棟階部分：面積区画／502.71㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

③棟階部分：面積区画／232.07㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

ＥＶシャフト部（今回計画）：竪穴区画＋面積区画／7.63m²（②棟１階に合算）

②棟階部分＋ＥＶホール（今回計画）：面積区画／714.92㎡ ＜ 1,500㎡・・ＯＫ

３ 階 平 面 図



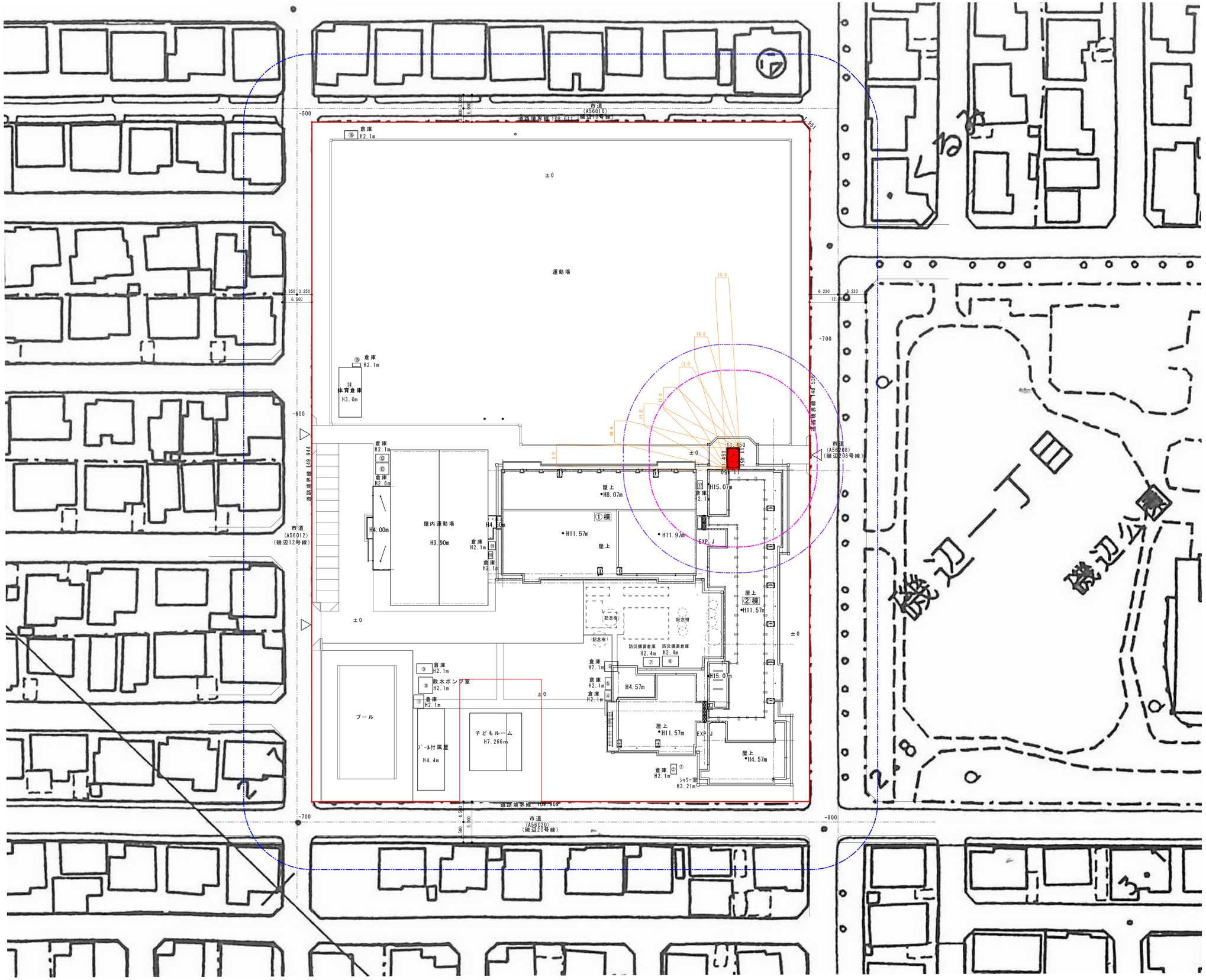
校舎３階床面積：73.95m²

階段室Ｂ：竪穴区画＋面積区画／36.975m²
36.47×３＋36.975＝146.385㎡＜ 1,500㎡・・ＯＫ

階段室Ｃ：竪穴区画＋面積区画／36.975m²
36.48×３＋36.975＝146.415㎡＜ 1,500㎡・・ＯＫ

Ｒ階・ＰＨＲ階平面図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	エレベータ設置 防火区画図 2	縮尺	A1 1/200 A3 1/400	図番号	A-31
			特記事項		特記事項		特記事項							





申請部分：最高高さ：11.450m

敷地境界

敷地境界より15mの範囲

建物外壁からその高さの1.5倍の範囲

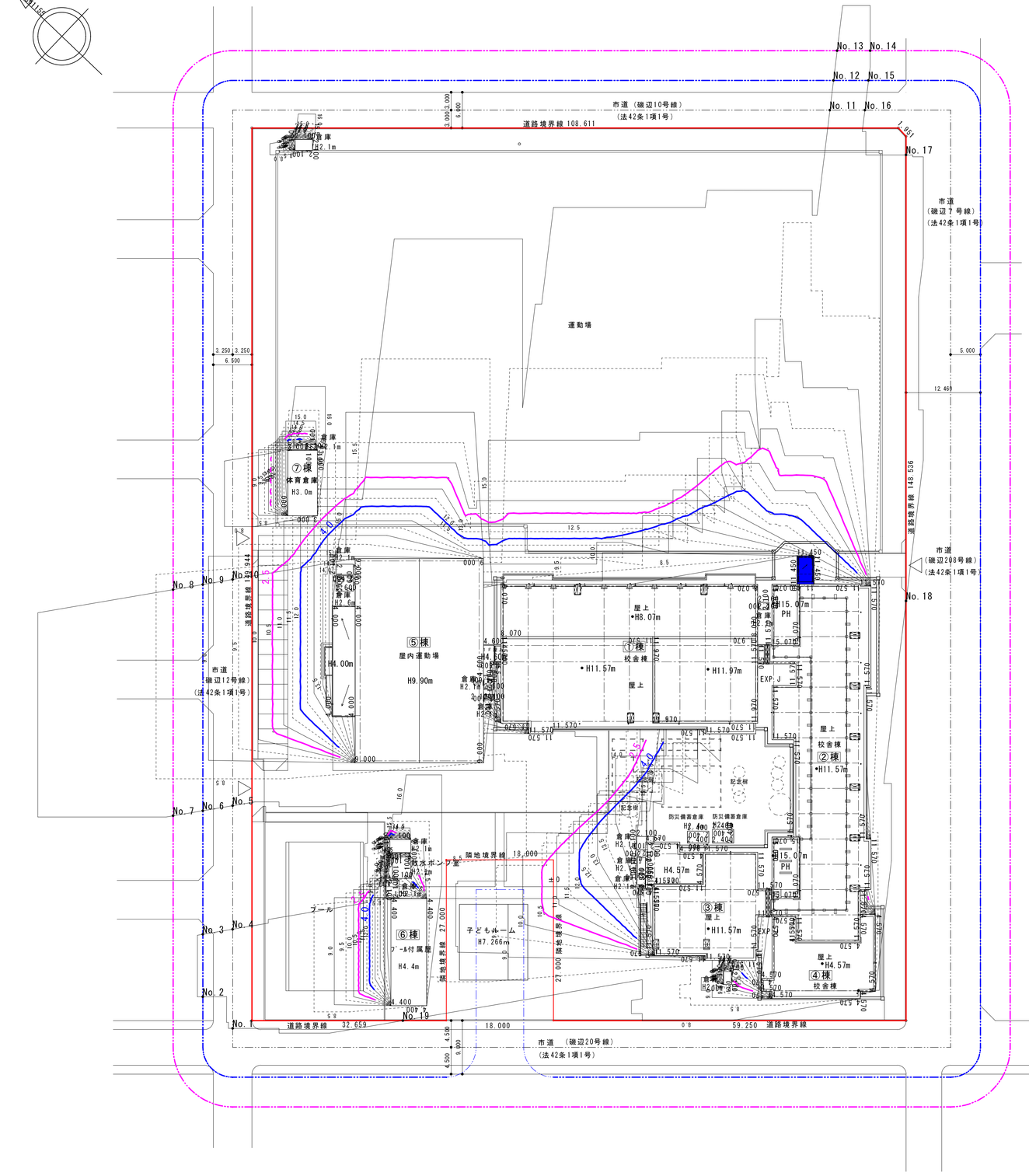
建物外壁からその高さの2倍の範囲

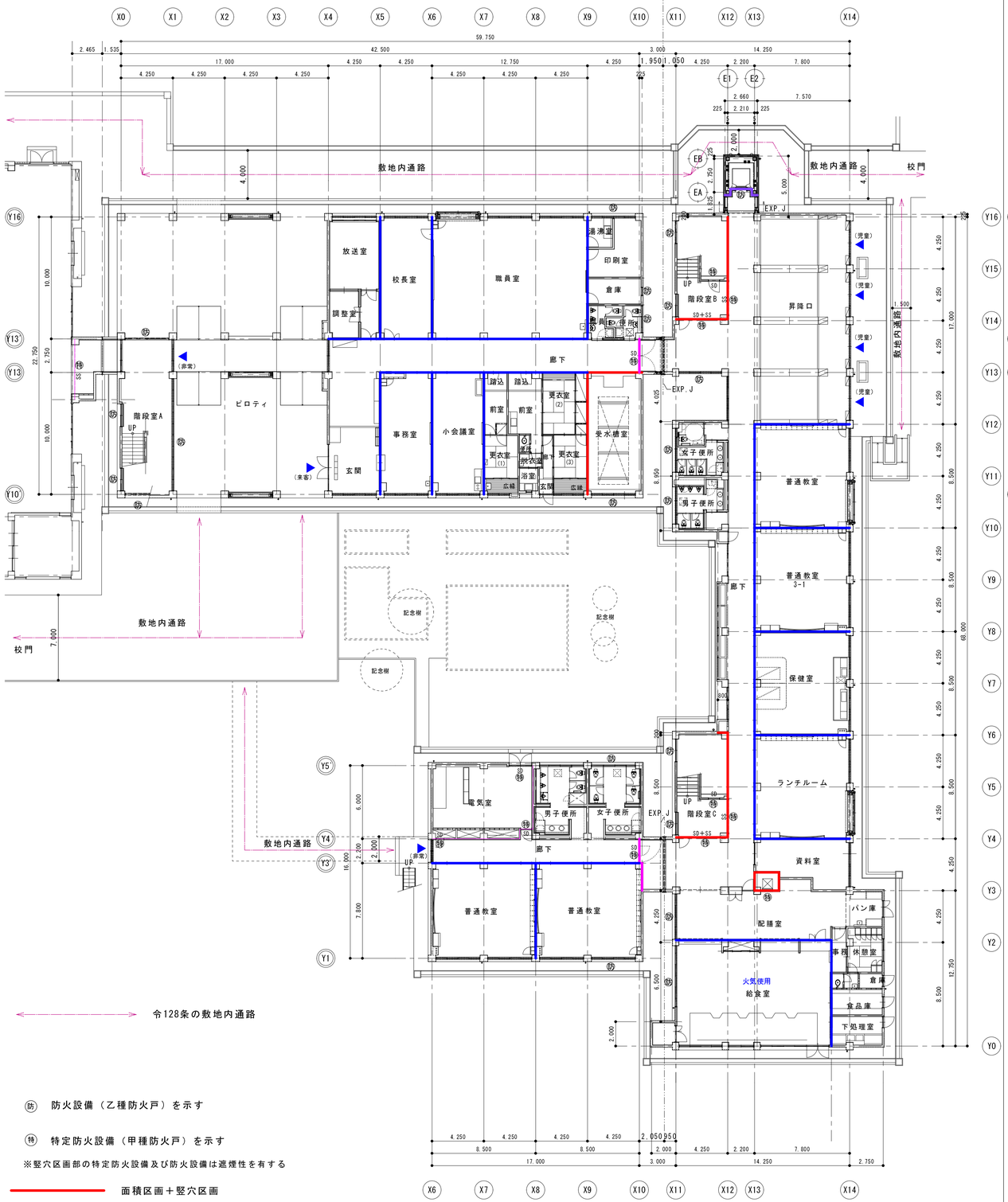
測定面の高さ = 0(m)　緯度 = 36°，東経 = 140° 07

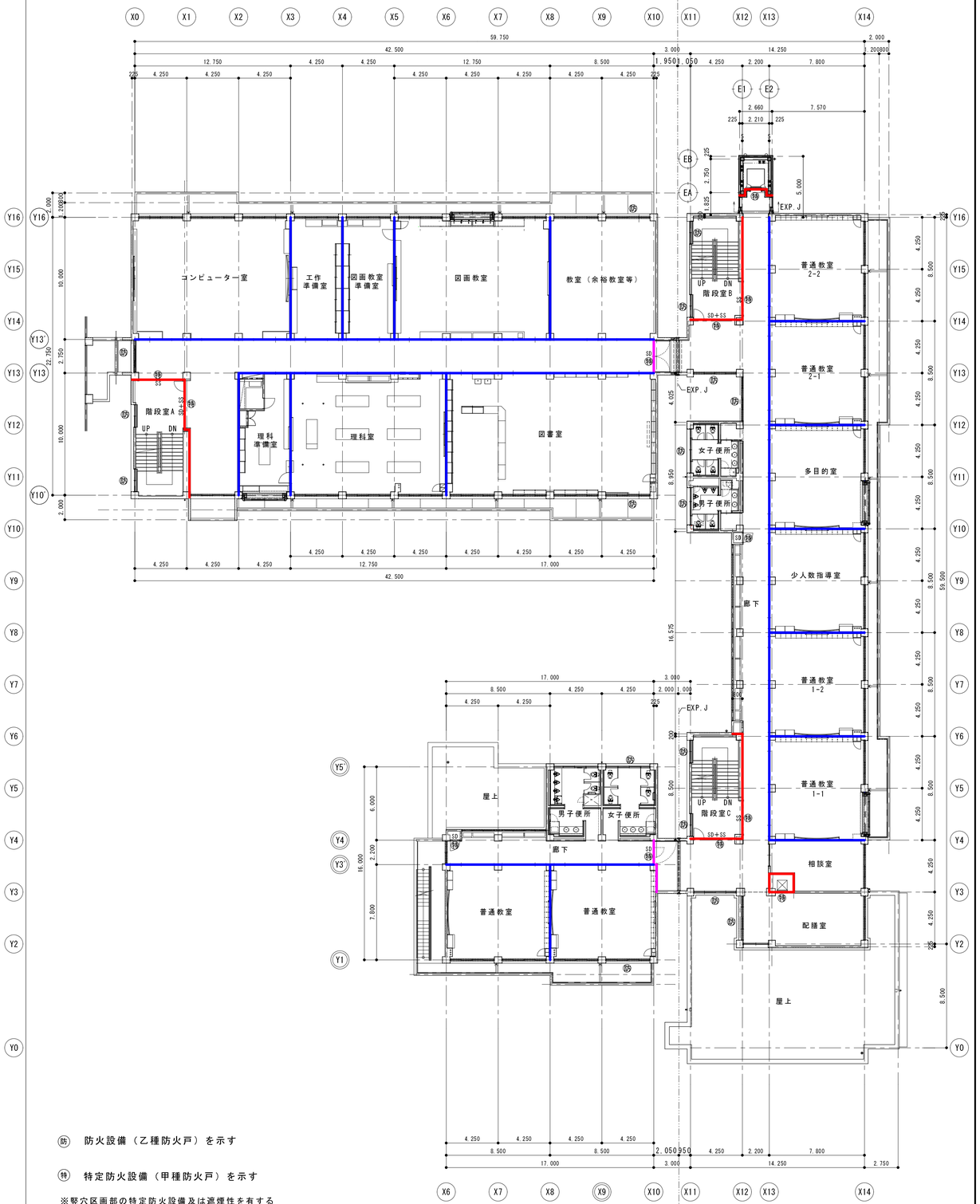
［ 冬至 ］　測定時間：9時～15時

※真北方向は国土地理院地図による

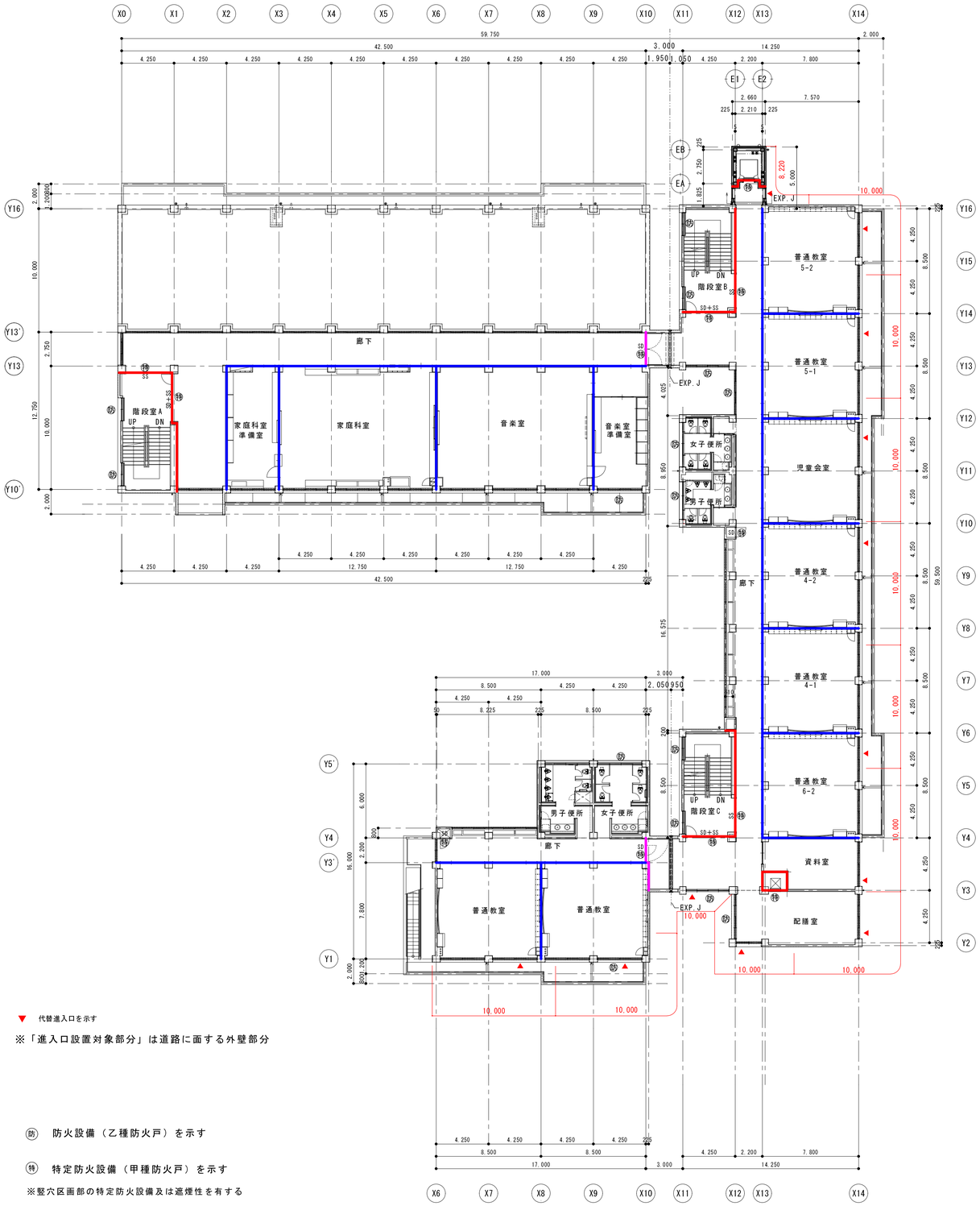
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7年 10月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名	千葉市中高層条例 日影図	縮尺 A1 1/400 / A3 1/800	図番号 A-32


真北
No.13 No.14
No.12 No.15
No.11 No.16
No.17
No.18
No.19
No.1 No.2 No.3 No.4 No.5 No.6 No.7 No.8 No.9 No.10
市道（磯辺10号線）
（法42条1項1号）
道路境界線 108.611
市道
（磯辺7号線）
（法42条1項1号）
道路境界線 148.536
市道
（磯辺208号線）
（法42条1項1号）
市道
（磯辺12号線）
（法42条1項1号）
市道 （磯辺20号線）
（法42条1項1号）
道路境界線 32.659
道路境界線 59.250
隣地境界線 18.000
運動場
⑦棟 体育倉庫 H3.0m
⑤棟 屋内運動場 H9.90m
①棟 校舎棟 H11.97m
②棟 校舎棟 H11.57m
③棟 H11.57m
④棟 校舎棟 H4.57m
⑥棟 プール付属棟 H4.4m
屋上 H8.07m
屋上 H11.57m
屋上 H11.97m
屋上 H11.57m
屋上 H4.57m
倉庫 H2.1m
倉庫 H2.6m
倉庫 H2.7m
倉庫 H2.4m
倉庫 H2.0m
倉庫 H2.9m
倉庫 H2.1m
倉庫 H2.1m
倉庫 H2.1





千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	エレベータ設置 法チェック図 1	縮尺	A1 1/200 A3 1/400	図番号	A-34
		特記事項		特記事項		特記事項							



▼ 代替進入口を示す

※「進入口設置対象部分」は道路に面する外壁部分

(防) 防火設備（乙種防火戸）を示す

(特) 特定防火設備（甲種防火戸）を示す

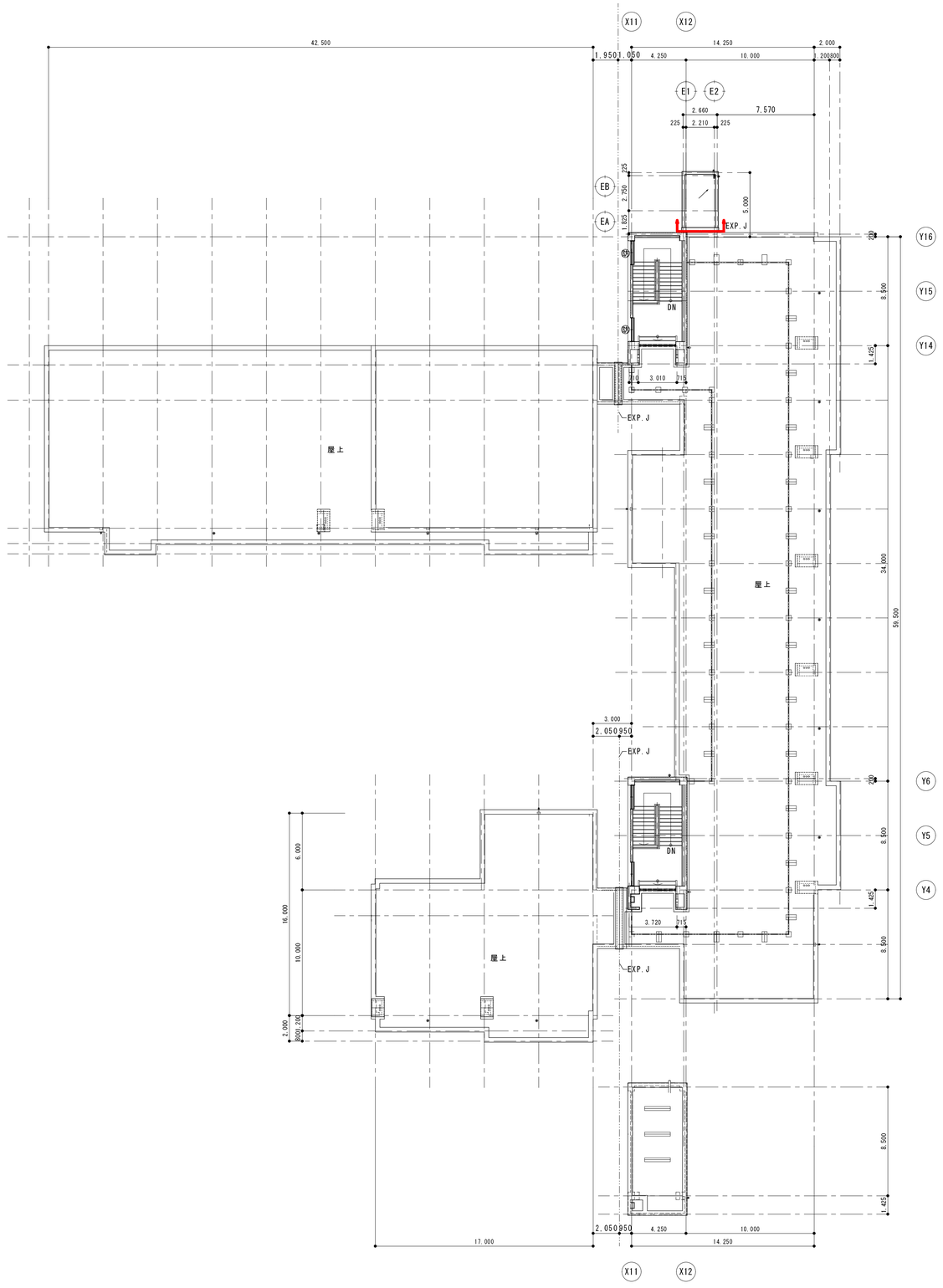
※竪穴区画部の特定防火設備及は遮煙性を有する

面積区画＋竪穴区画

面積区画

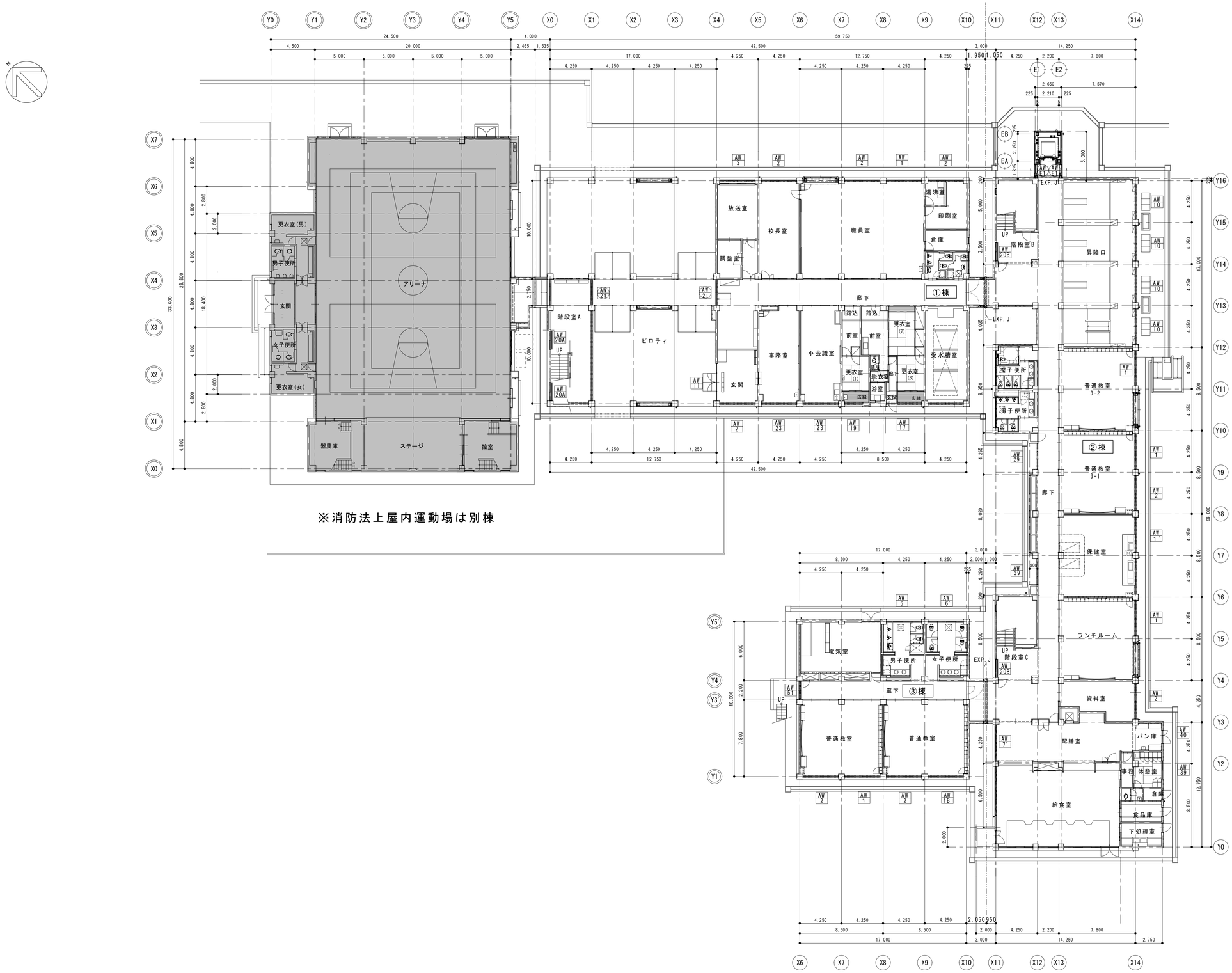
令114条第2項による防火上有効な間仕切壁

3 階 平 面 図



R階・PHR階平面図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	エレベータ設置 法チェック図 2	縮尺	A1 1/200 A3 1/400	図番号 A-35
			特記事項		特記事項		特記事項						



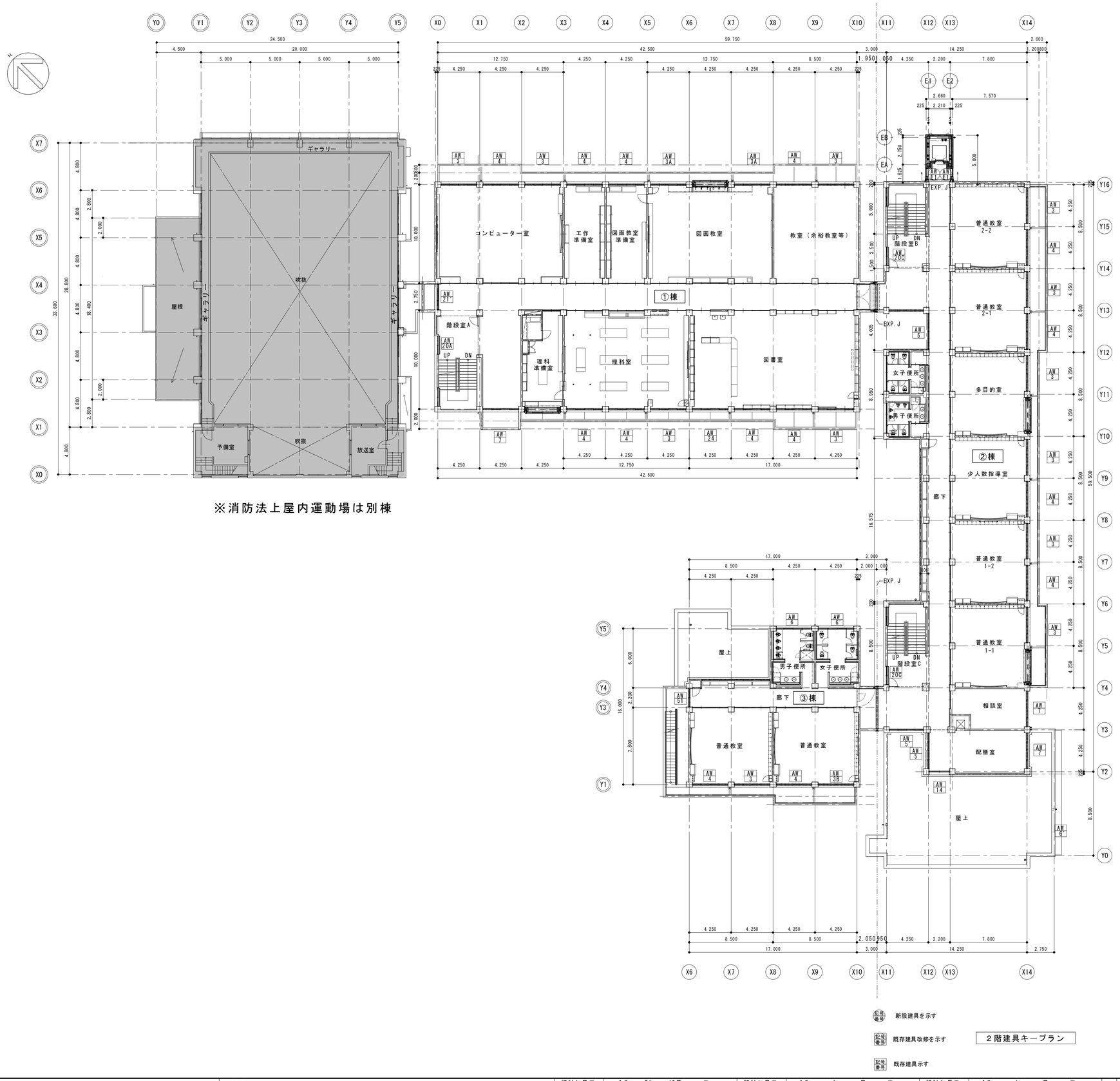
※消防法上屋内運動場は別棟

記号番号 新設建具を示す

記号番号 既存建具改修を示す

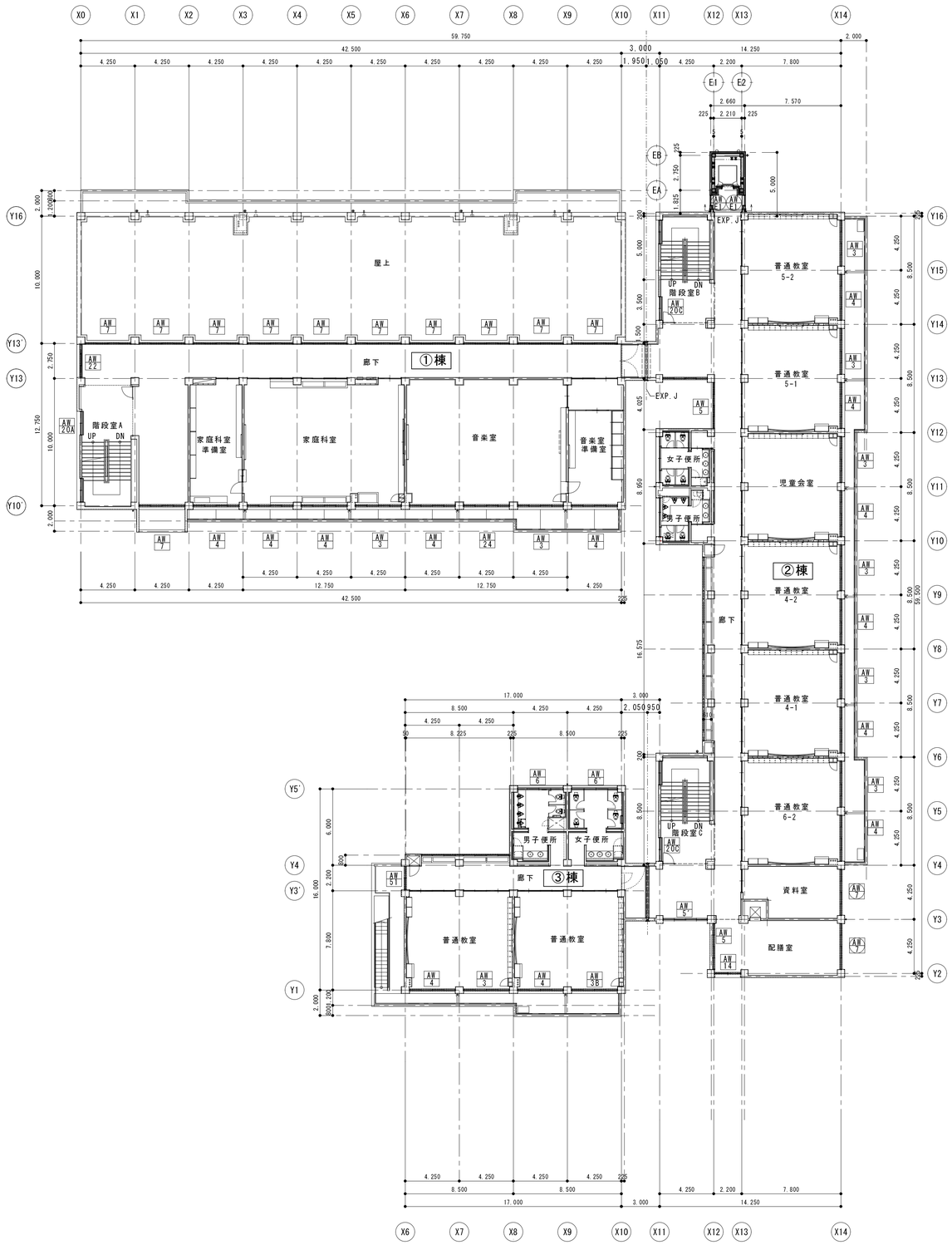
記号番号 既存建具示す

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	消防無窓階チェック 1階 建具キープラン	縮尺	A1 1:200 A3 1:400	図番号	A-36
			特記事項		特記事項		特記事項							



※消防法上屋内運動場は別棟

| | | |



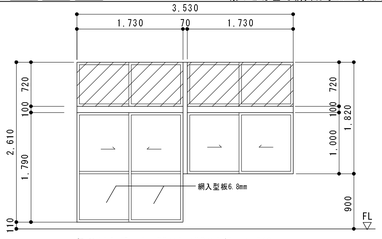
記号番号 新設建具を示す

記号番号 既存建具改修を示す

記号番号 既存建具示す

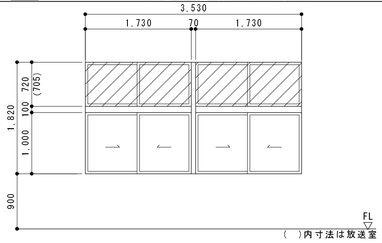
千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7年 10月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 / 特記事項	図面名 消防無窓階チェック 3階 建具キープラン / 縮尺 A1 1:200 A3 1:400 / 図番号 A-38

AW 1 / AW 1' / AW 1B　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4　腰部：網入ガラス　厚6.8　※１Ｂは全て網入ガラス　厚6.8



掃き出し部：1.790×1.730×1/2= 1.548
1.000×1.730×1/2= 0.865
計： 2.413
※AW-1'は掃き出し部のみ有効： 1.548

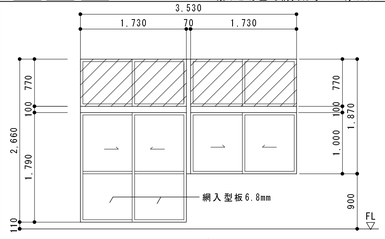
AW 2　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4　給湯・印刷室：網入ガラス　厚6.8



( )内寸法は放送室

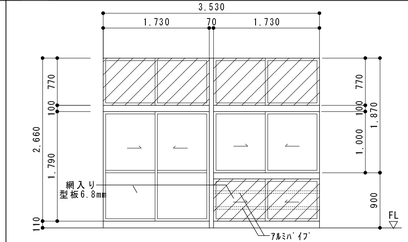
1.000×1.730×1/2×２= 1.730

AW 3 / AW 3A / AW 3B　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4　腰部：網入ガラス　厚6.8　※３Ｂは全て網入ガラス　厚6.8



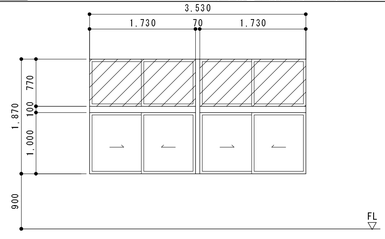
1.790×1.730×1/2= 1.548
1.000×1.730×1/2= 0.865
計： 2.413
※AW-3Aは掃き出し部のみ有効： 1.548

AW 3'　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4　腰部：網入ガラス　厚6.8



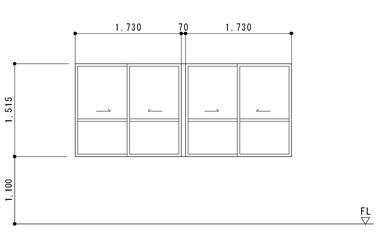
1.790×1.730×1/2= 1.548
1.000×1.730×1/2= 0.865
計： 2.413

AW 4　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4　音楽準備室：網入ガラス　厚6.8



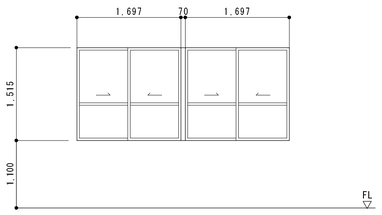
1.000×1.730×1/2×２= 1.730

AW 5　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



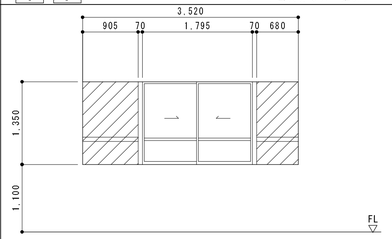
1.515×1.730×1/2×２= 2.620

AW 5'　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



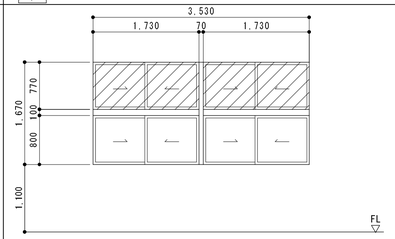
1.515×1.697×1/2= 2.570

AW 6 / AW 6'　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　6　：強化ガラス　厚4　6'：網入ガラス　厚6.8



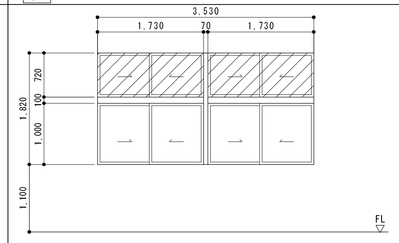
1.350×1.795×1/2= 1.211

AW 7　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



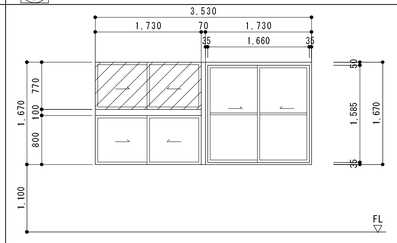
0.800×1.730×1/2×２= 1.384

AW 7'　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入り強化ガラス　厚6.8



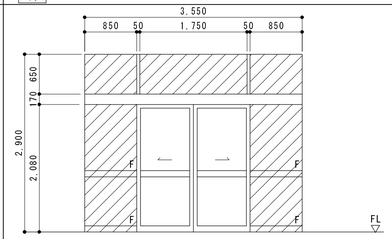
1.000×1.730×1/2×２= 1.730

AW 7　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



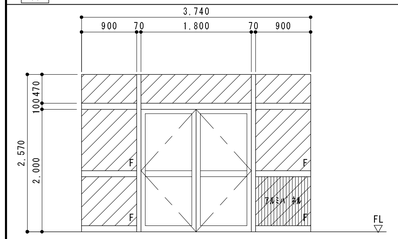
0.800×1.730×1/2= 0.692
1.585×1.660×1/2= 1.315
計： 2.007

AW 10　※内部：ｻﾑﾀｰﾝ　網入ガラス　厚6.8



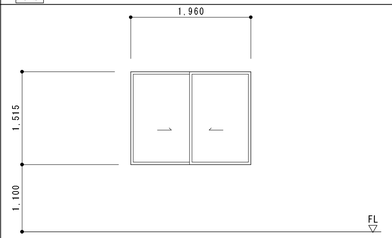
2.080×1.750= 3.640

AW 11　※内部：ｻﾑﾀｰﾝ　網入ガラス　厚6.8



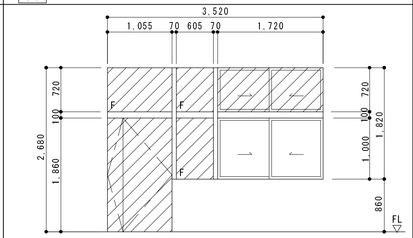
2.000×1.800= 3.600

AW 14　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



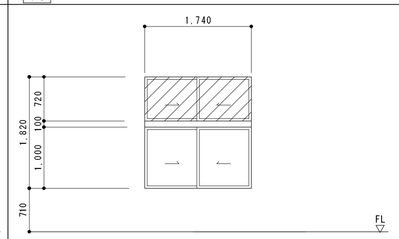
1.515×1.960×1/2= 1.484

AW 17　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



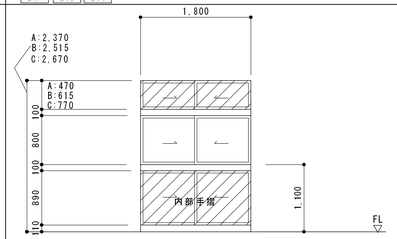
1.000×1.720×1/2= 0.860

AW 19　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



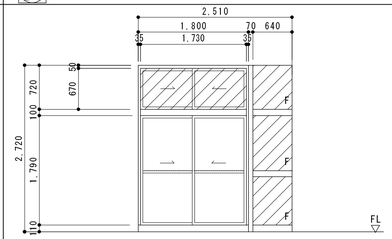
1.000×1.740×1/2= 0.870

AW 20A / AW 20B / AW 20C　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



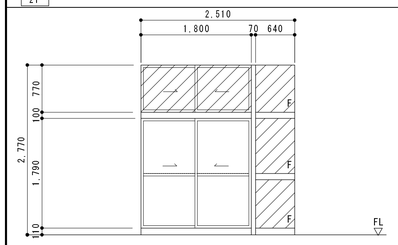
0.800×1.800×1/2= 0.720

AW 21　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



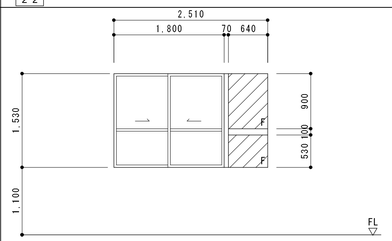
1.790×1.730×1/2= 1.548

AW 21'　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



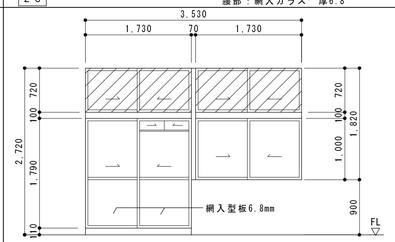
1.790×1.800×1/2= 1.611

AW 22　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



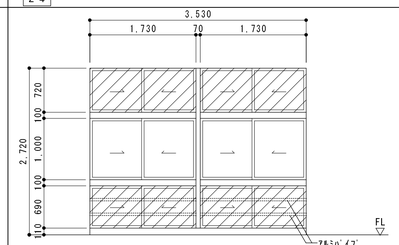
1.530×1.800×1/2= 1.377

AW 23　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4　腰部：網入ガラス　厚6.8



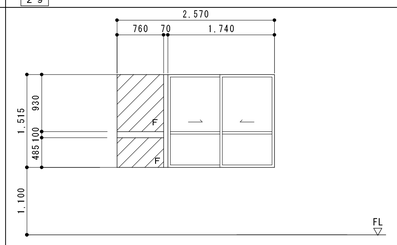
1.790×1.730×1/2= 1.548
1.000×1.730×1/2= 0.865
計： 2.413

AW 24　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



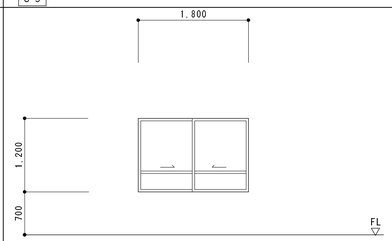
1.000×1.730×1/2×２= 1.730

AW 29　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　強化ガラス　厚4



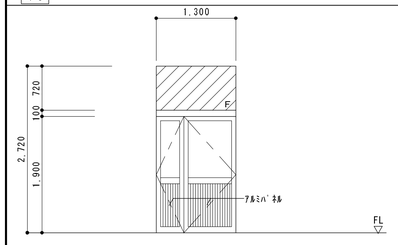
1.515×1.740×1/2= 1.318

AW 39　※内部：ｸﾚｾﾝﾄ　網入ガラス　厚6.8



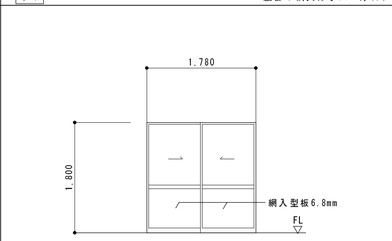
1.200×1.800×1/2= 1.080

AW 40　※内部：ｻﾑﾀｰﾝ　網入ガラス　厚6.8



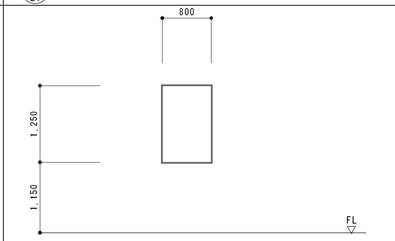
1.900×1.300= 2.470

AW 51　強化ガラス　厚4　腰部：網入ガラス　厚6.8



1.800×1.780×1/2= 1.602

AW E1　強化ガラス　厚4



1.250×0.800= 1.000

千葉市都市局建築部営繕課

工事名：千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名：消防無窓階チェック　建具表

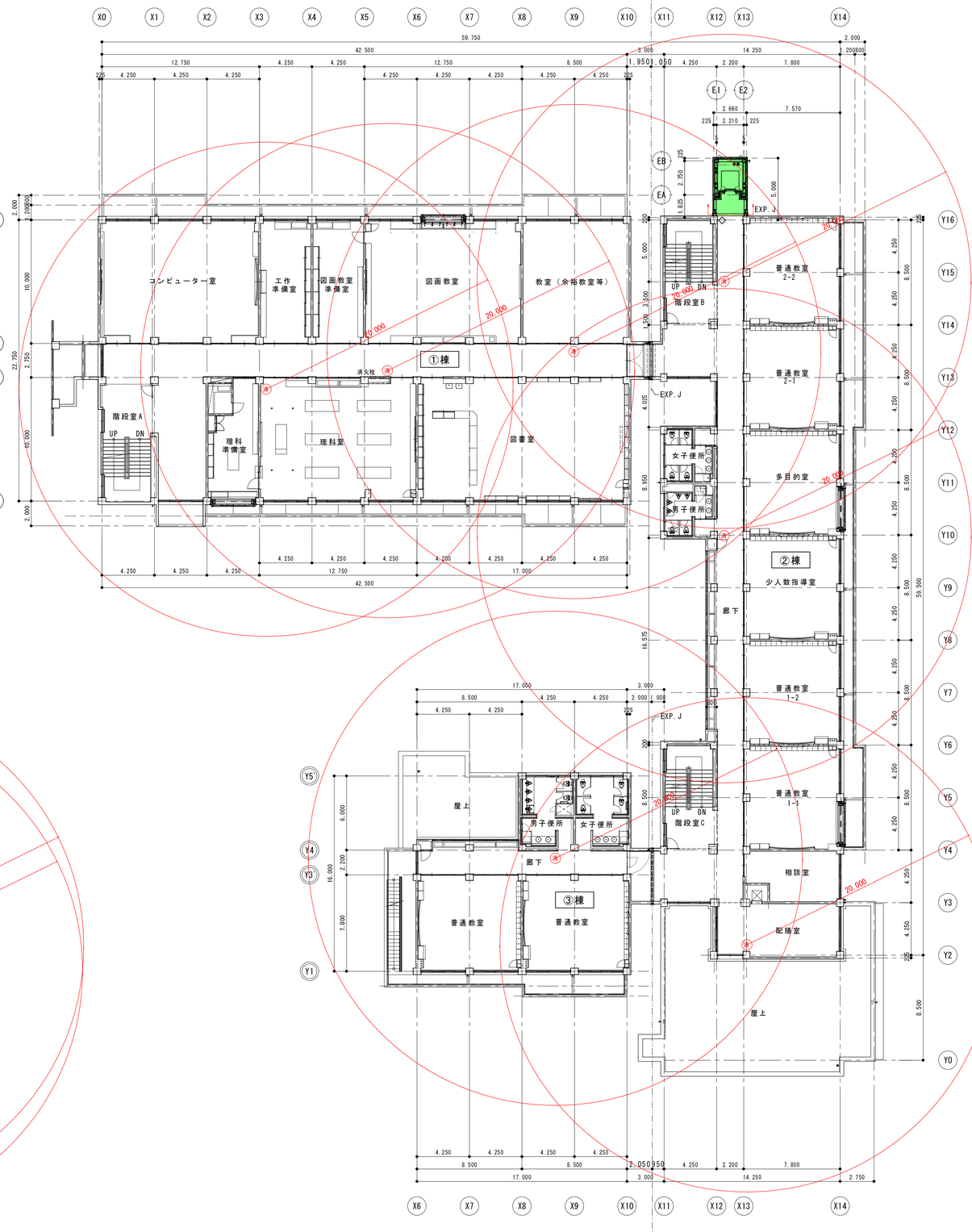
縮尺 A1 1:50　A3 1:100

図番号：A-39

消防無窓階チェック表

| 1階床面積（A） 1,868.75＋13.20（校舎棟＋ＥＶ）＝ 1,881.95 ㎡ | | |





今回増築部

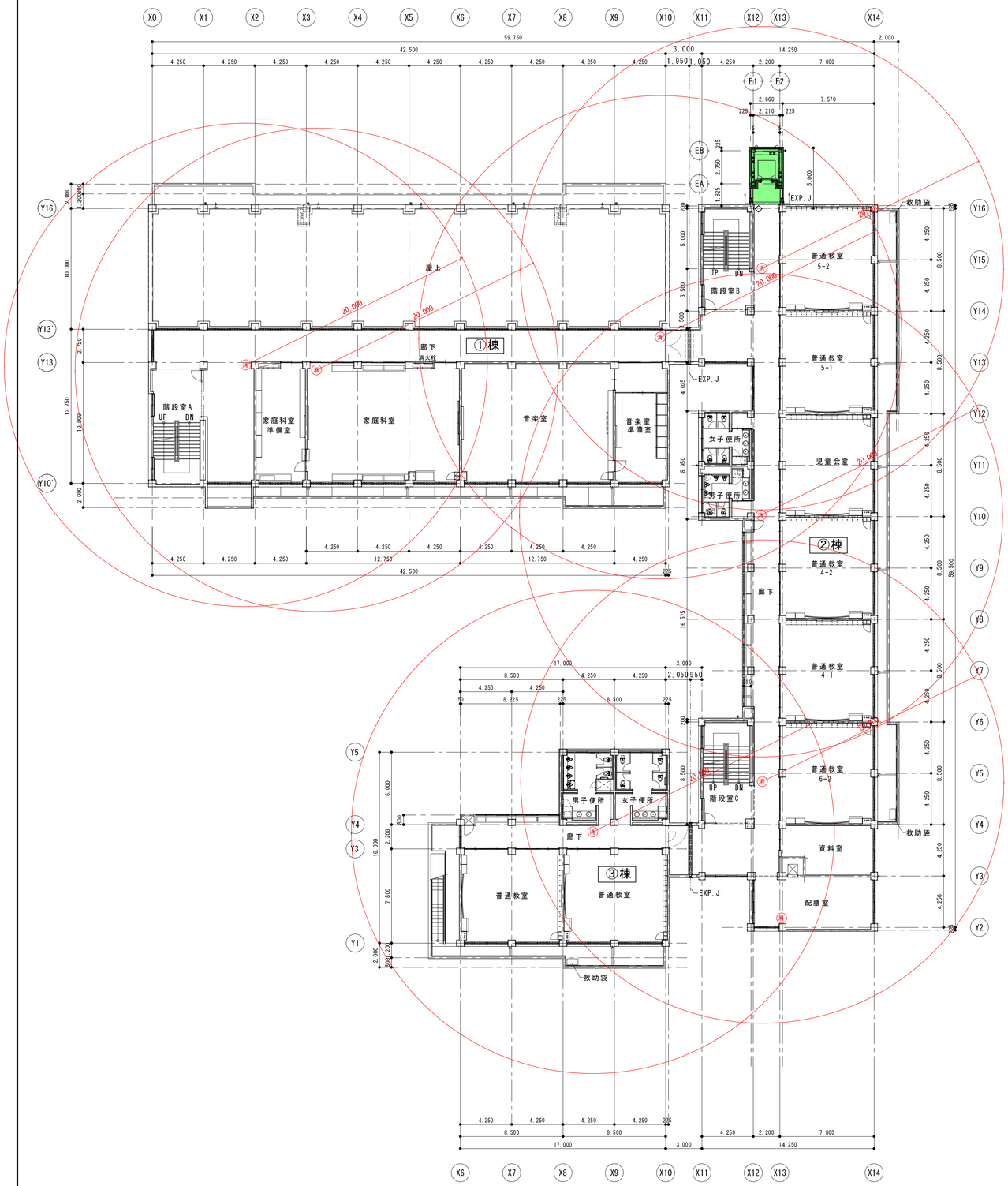
消火器設置位置

※消火器までの歩行距離は20m以内
（消防指摘無し）

1 階 平 面 図

2 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	消火器位置図 1	縮尺	A1 1:200 A3 1:400	図番号	A-41
			特記事項		特記事項		特記事項							



今回増築部

消火器設置位置

※消火器までの歩行距離は20m以内
（消防指摘無し）

3 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	消火器位置図 2	縮尺	A1 1:200 A3 1:400	図番号	A-42
		特記事項		特記事項		特記事項							

構 造 設 計 標 準 仕 様

適用は◉印を記入する。

１．建築物の構造内容

（１）工事名称　　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事
　　建築場所　　千葉市美浜区磯辺１丁目１３
（２）工事種別　□ 新築　◉ 増築　□ 増改築　□ 改築
（３）構造種別
　□ 木造（Ｗ）　□ 補強コンクリートブロック（ＣＢ）　◉ 鉄骨造（Ｓ）
　□ 鉄筋コンクリート造（ＲＣ）　□ 壁式鉄筋コンクリート造（ＷＲＣ）
　□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（ＳＲＣ）　□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（ＷＰＲＣ）
　□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（ＰＲＣ）
（４）階　数
　地下 ０ 階　　地上 ３ 階　　塔屋 ０ 階
（５）主要用途　昇降機上屋
（６）屋上付属物
　□ 高 架 水 槽　　kN　□ キュービクル　　kN　□ 広告塔　□ 煙　突
（７）特別な荷重
　◉ エレベータ 11 人乗（ロープ式 油圧式）　□ リフト　　kN　□ ホイスト　　kN
　□ 倉庫積載床用　　N/m²　□ 受水槽　　kN
（８）付帯工事
　□ 門塀　□ 擁壁　□　□
（９）増築計画　□ 有（　　）　◉ 無
（10）構造計算ルート　Ｘ方向ルート　３ －（　）　Ｙ方向ルート ３ －（　）

２．使用構造材料

（１）コンクリート

適用箇所	種　類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質管理強度 Fq=N/mm²	スランプ cm	備　考
捨コンクリート	◉ 普通	Fc= 18	Fq=		
土間コンクリート	◉ 普通	Fc= 18	Fq=		
基礎・基礎梁	◉ 普通	Fc= 24	Fq=	18.0	比重 2.3
2～3F床	◉ 普通 □ 軽量	Fc= 21	Fq=	18.0	比重 2.3
その他	□ 普通 □ 軽量	Fc=	Fq=		比重
押えコンクリート	□ 普通 □ 軽量	Fc=	Fq=		比重
混和剤					

（２）コンクリートブロック（ＣＢ）
　□ Ａ種　□ Ｂ種　□ Ｃ種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 197

（３）鉄　筋

種　類	径	使用箇所	継手工法
◉ SD295A	D10～D16		◉ 重ね継手
□ SD295B			D19未満
◉ SD345	D19～D25		◉ ガス圧接継手
□			D19以上
□			□ 特殊継手
□ SR235			（　　）
□		デッキプレート	

異形鉄筋／高強度せん断補強筋／丸　鋼／溶接金網(JIS G 3551)

（４）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
□ SS400 □ SM400 ◉ SN400B	梁	□ 有 ◉ 無	
□ STKR400 □ STKR490 □		□ 有 □ 無	
◉ BCR295 □ BCP235 □	柱	□ 有 ◉ 無	
□ SM490A ◉ SN490C □	ﾀﾞｲｱﾌﾗﾑ ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	□ 有 ◉ 無	
◉ SSC400 □	補助材他	□ 有 ◉ 無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

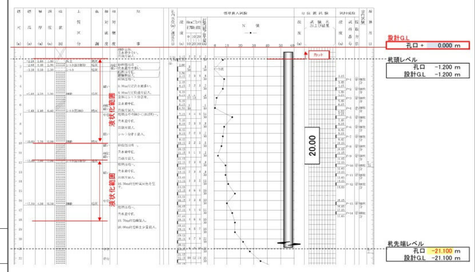
（５）ボルト
　◉ 高力ボルト
　　□ 普通：F10T　◉ 特殊：S10T　MBLT-9006　認定品（ □ M12　◉ M16　◉ M20　□ M22 ）
　□ 中ボルト　M　M　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　□ 否
　　高力ボルト導入張力確認試験　◉ 要　□ 否
　□ アンカーボルト
　　□ ABR　M　Ｌ＝　mm　ナット（ □ シングル　□ ダブル ）
　　□　M　Ｌ＝　mm　ナット（ □ シングル　□ ダブル ）
　□ 頭付スタッド
　　φ＝19　Ｌ＝　mm　使用箇所（ □ 柱　□ 大梁　□ 小梁 ）
　　φ＝　Ｌ＝　mm　使用箇所（ □ 柱　□ 大梁　□ 小梁 ）

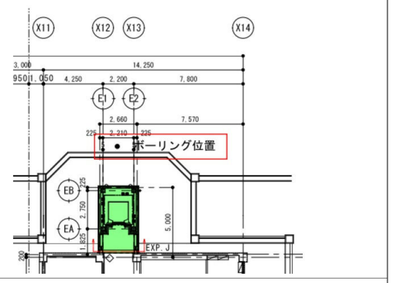
（６）屋根・床・壁

		使用箇所 外壁	屋根
□			
□ 折板	Ｈ＝　厚		
◉ デッキプレート	型式 QL99-50-12　厚		
□ キーストンプレート	型式 EV-50-1.2　厚		
□ 特殊デッキプレート		床	
□			

３．地　盤

（１）地盤調査資料
　◉有（◉敷地内 □近隣）　◉ ボーリング調査 □ 平板載荷試験 ◉ 水平地盤反力係数の測定
　□ 液状化判定 □ 現場透水試験 ◉ 土質試験
　□無（調査予定 □ 有 □ 無）
（２）地盤調査計画
　□ ボーリング調査 □ 静的貫入試験 □ 標準貫入試験 □ 水平地盤反力係数の測定
　□ 土質試験 □ 物理探査 □ 平板載荷試験 □ 試験堀（支持層の確認）
（３）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
（４）ボーリング標準貫入値、土質構成





４．地業工事

（１）直接基礎
　□ ベタ基礎　□ 布基礎　□ 独立基礎　試験堀 □ 有 □ 無
　深さ ＧＬ－　m　支持層－
　長期許容支持力度　KN/m²　載荷試験 □ 有 □ 無
（２）杭基礎　支持層－ 細砂層

杭　種	材　料	施　工　法	備　考
□ＲＣ □ＰＲＣ	PRC（□Ⅰ種□Ⅱ種□Ⅲ種）	□ 打ち込み	
□ＰＨＣ □Ｈ鋼	PHC（□A種 □B種 □C種）	□ 埋込み(セメントミルク工法)	
◉鋼管 □摩擦杭	鋼材 □ SS400 □ STK400	◉羽根付き鋼管杭回転埋設工法	
□	□ SS490 ◉ STK490	□	
□場所打ち	コンクリート Fc= N/mm²	□オールケーシング □拡底杭	拡底杭
コンクリート杭	スランプ cm	□リバースサーキュレーション	日本建築セﾝﾀｰ認定
	セメント量 kg/m³	□アースドリル □ミニアース	第　号
	鉄筋 主筋 SD	□ＢＨ □深礎 □手堀	年 月 日
	HOOP SD	□機械堀	

杭仕様　◉ 施工計画承認　◉ 杭施工結果報告書 ◉ 性能証明書等
試験杭　（◉ 有 □ 無）　（◉ 打ち込み □ 載荷）　１ 本

杭径（mm）	設計支持力（KN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
φ267.4 φ800	552KN	20	4	

５．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート
　◉ コンクリートはＪＩＳ認定品とし施工に関してはＪＡＳＳ５(1997)による。
　◉ 耐久設計基準強度 Fb □ 一般 ◉ 標準 □ 長期
　◉ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
　◉ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
　◉ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
　◉ フレシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。
　測定検査の回数は、通常の場合、１日１回以上とし、１回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。
　◉ 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体（JASS5T-603）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
　また、打込み量が150m³を超える場合は、150m³ごとまたは、その端数ごとに１回を標準とする。１回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた３台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１回当たり６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
　◉ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５０分、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。
（２）鉄　筋
　◉ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(1997)による。
　□ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるＤ種１号適合品とする。
　◉ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
　◉ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手（D19以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
　◉ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（２００箇所を越えるときは、２００箇所ごと）に１回行い、１回の試験は５本以上とする。
　外観検査　◉ 有 □ 無　引張試験　◉ 有 □ 無　超音波試験 □ 有 ◉ 無
　◉ 柱の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、◉ Ｈ型(タガ型) □ Ｗ型(溶接型) □ Ｓ型(スパイラル型）とする。
（３）型　枠
　◉ 材料　合板厚　12m/mを標準とする。　◉ 施工はJASS5による。
　◉ 型枠存置期間

種類	せき板				支柱		
部位	基礎・はり側・柱・壁		スラブ下・はり下		スラブ下	はり下	
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
存置期間の平均気温							
コンクリート(日) 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
コンクリート(日) 5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
コンクリート(日) 5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%

注）１　片持ばり、庇、スパン９．０ｍ以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）２　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
　一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

６．鉄骨工事

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による。
　◉ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
　◉ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
　◉ 日本建築センター「冷間成形角形鋼管設計・施工マニュアル」
（２）工事監理者の承認を必要とするもの
　◉ 製作工場　◉ 製作要領書　◉ 工作図　◉ 施工計画書
　◉ 認定または登録工場（　Ｒ　グレード）
　◉ 材料規格証明書または試験成績表
　　◉ 鋼材　□ 高力ボルト　◉ 特殊ボルト　□ 頭付スタッド
　　◉ 社内検査表　□
（３）工事監理者が行う検査項目
　（ ◉ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること ）
　◉ 現寸検査　□ 組立・開先検査　◉ 製品検査
　◉ 建方検査　□　□
（４）接合部の溶接は下記によること
　◉ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
　◉ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（５）接合部の検査
　◉ 溶接部の検査溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備　考
◉ 完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100 %/個	30(100)%/個	0 %/個	（ ）内は、大臣認定もしくは、都知事登録工場以外の工場の場合とする。
□	外観(目視)検査	100 %	100 %	100 %	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者機関名	未定				
第三者検査機関名とは、建築主・工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社を言う。					

注1）現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行うこと。
注2）現場溶接は、超音波探傷試験を100%行う事。
□　高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただしショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
◉　高力ボルトの締付けに使用する機械はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
　締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
（６）防錆塗装
◉　防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、JIS K5621、２回塗りを標準とする。
◉　現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し２回塗りとする。
（７）耐火被覆の材料
◉　耐火被覆１時間（ロックウール吹付）

７．設備関係

◉　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
◉　設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
◉　床スラブ内に設備配管を等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５cm以上を原則とする。

８．その他

◉　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
◉　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
◉　必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	構造設計標準仕様	縮尺	A1 ― A3 ―	図面番号	S-01
		特記事項		特記事項		特記事項							

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

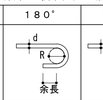
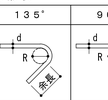
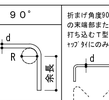
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　D･･･部材の成　R･･･直径

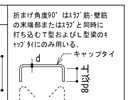
@…間隔　r …半径　℄…中心線　lo…部材間の内法距離　ho…部材間の内法高さ

ST･･･あばら筋　HOOP･･･帯筋　S.HOOP･･･補強帯筋　φ･･･直径又は丸鋼

２．鉄筋加工・かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	１８０°	１３５°	９０°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（※4d以上）	8d以上（※4d以上）



折曲げ角度90°はｽﾗﾌﾞ筋・壁筋の末端部またはｽﾗﾌﾞと同時に打ち込む T 型およびし型梁のｷｬｯﾌﾟﾀｲにのみ用いる。

※片持ｽﾗﾌﾞ上端筋の先端

折曲げ内法寸法Rは、ＳＲ235は3d以上、ＳＤ295A、ＳＤ295B、ＳＤ345のＤ16以下は、3d以上、Ｄ19以上は4d以上

（２）鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用量所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	3d以上
			19φ D19 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	
			19φ～25φ D19～D25	6d以上
			28φ～32φ D29～D38	8d以上

（３）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲（N／mm²）	定着の長さ 一般（L_2）	定着の長さ 下ば筋（L_3） 小梁	定着の長さ 下ば筋（L_3） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（L_1）
SR235	21～36	35dフックつき	25dフック つき	15cmフック つき	35dフックつき
	18以下	45dフックつき			45dフックつき
SD295A SD295B	21～36	35dまたは 25dフックつき	25dまたは 15dフック つき	10dかつ 15cm以上	40dまたは 30dフックつき
SD345	18以下	40dまたは 30dフックつき			45dまたは 35dフックつき

継　手

1．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

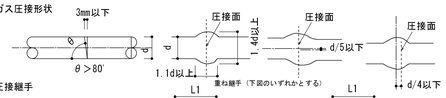
2．継手位置は、応力の小さい位置の設けることを原則とする

3．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

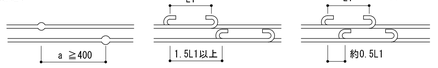
4．Ｄ２９以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない

5．鉄筋径の差が７mmを越える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



圧接継手



（４）かぶり厚さ（単位：mm）

ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最少かぶり厚さを確保する。



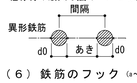
部位			設計かぶり厚さ(mm)	最小かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40(1)	30(20)
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50(2)	40(1)(30)
	擁壁		50(3)	40
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁		50	40(4)
	基礎・擁壁		70	60(4)

［注］（１）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
（２）耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
（３）コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
（４）軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
（５）（ ）内は仕上げがある場合。

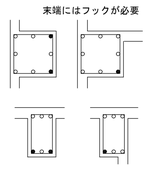
（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値１．５ｄ以上

粗骨材の最大寸法の１．２５倍以上かつ２５以上



図の・印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（６）鉄筋のフック（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける）

a.丸鋼　b.あばら筋・帯筋　c.煙突の鉄筋

d.柱・梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

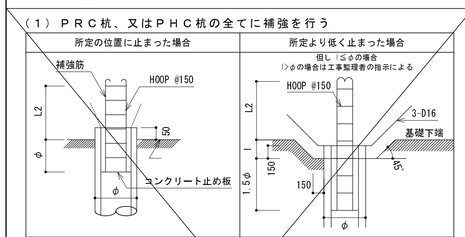
e.単純梁の下端筋

f.その他・本配筋標準に記載する箇所

３．杭

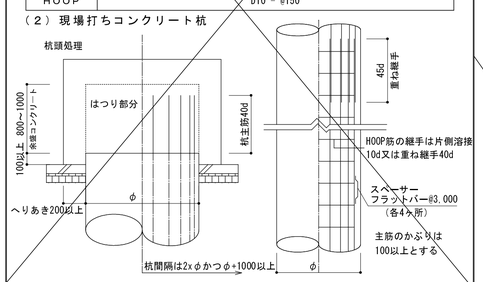
（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

（１）ＰＲＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う



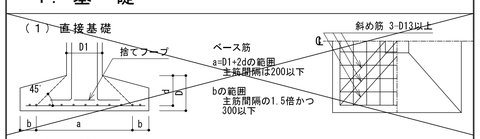
杭径	300φ・350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6 － D13	8 － D13	10 － D13	8 － D16	10 － D16
HOOP	D10 － @150				

（２）現場打ちコンクリート杭

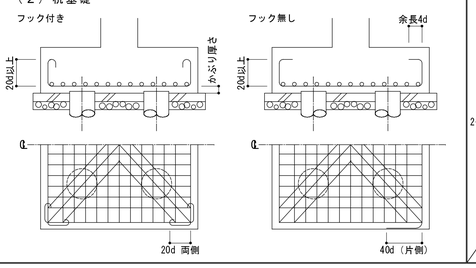


４．基　礎

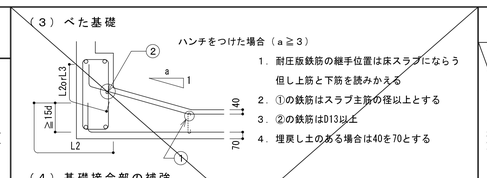
（１）直接基礎



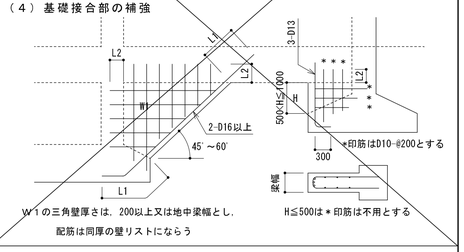
（２）杭基礎



（３）べた基礎

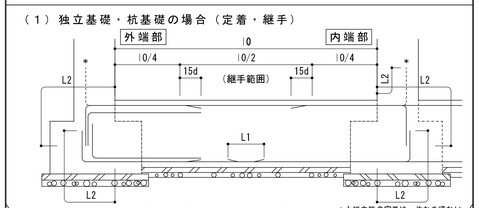


（４）基礎接合部の補強



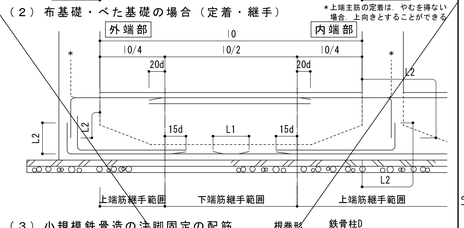
５．地中梁

（１）独立基礎・杭基礎の場合（定着・継手）

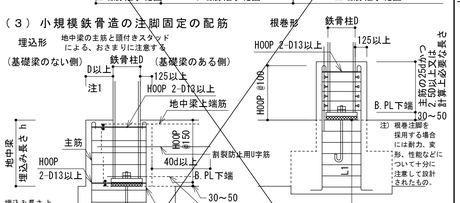


（２）布基礎・べた基礎の場合（定定着・継手）

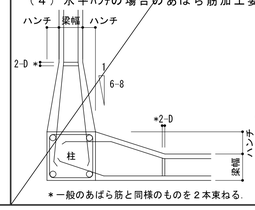
＊上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる



（３）小規模鉄骨造の注脚固定の配筋

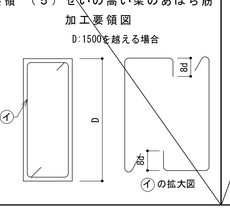


（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



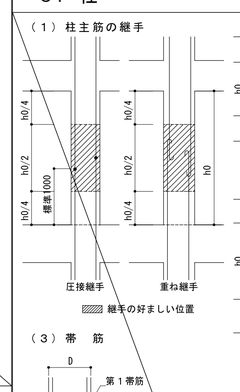
＊一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる．

（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

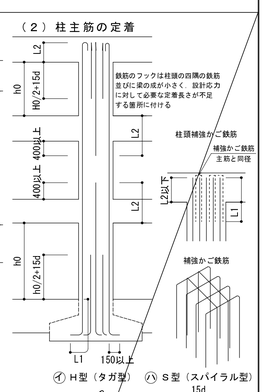


６．柱

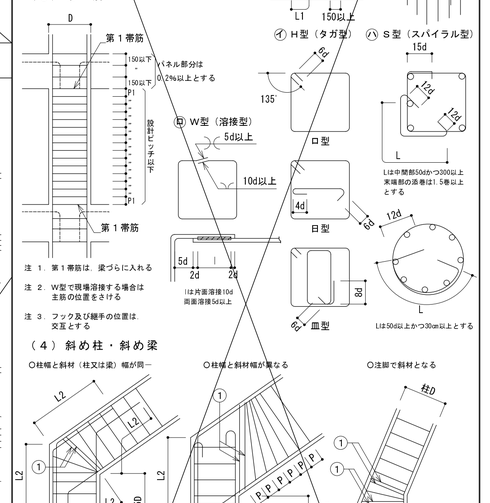
（１）柱主筋の継手



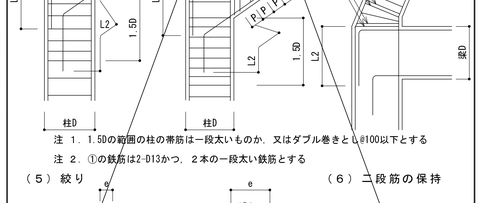
（２）柱主筋の定着



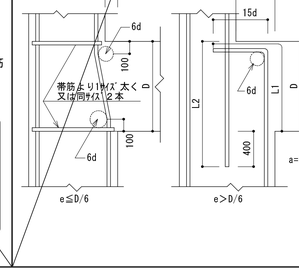
（３）帯　筋



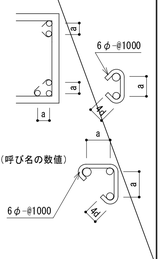
（４）斜め柱・斜め梁



（５）絞り



（６）二段筋の保持



※変更事項　H.10年 9月　６(3)帯筋パネル部
※変更事項　H.11年11月　２(4)かぶり厚さ次を削除(改定により標準かぶり厚さ10mm)
※改　　定　H.12年 9月
※変更事項　H.13年 6月　５(3)小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

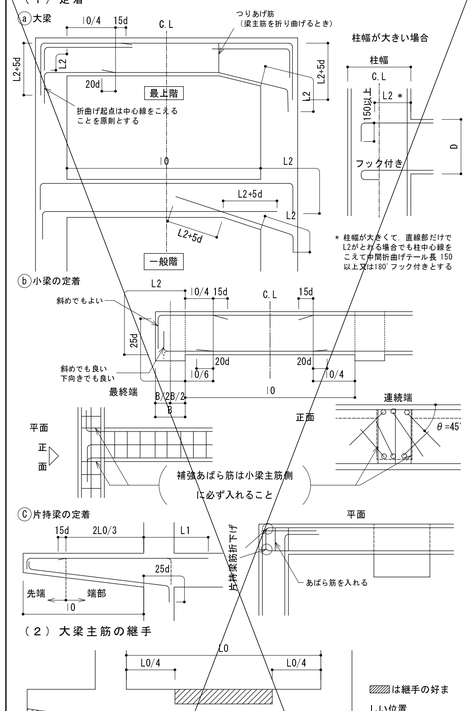
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	鉄筋コンクリート構造 配筋標準図（１）	縮尺	A1 — A3 —	図面番号	S-02
			特記事項		特記事項		特記事項							

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

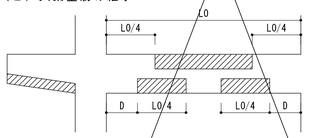
Ｌ＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

７．大梁・小梁・片持梁

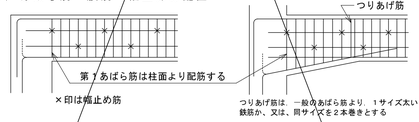
（１）定着



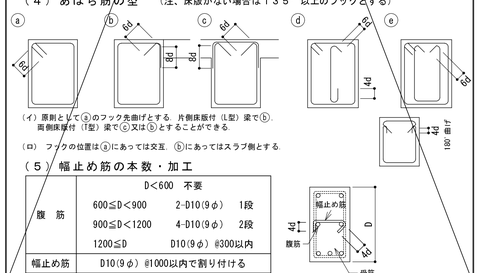
（２）大梁主筋の継手



（３）あばら筋・腹筋・幅止めの配置



（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は１３５°以上のフックとする）

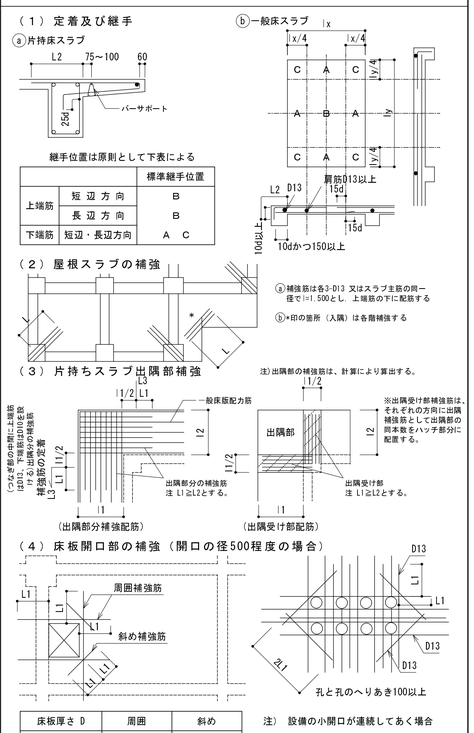


（５）幅止め筋の本数・加工

	D<600	不要	
腹筋	600≦D<900	2-D10(9φ)	1段
	900≦D<1200	4-D10(9φ)	2段
	1200≦D	D10(9φ)	@300以内
幅止め筋	D10(9φ) @1000以内で割り付ける		

８．床　版

（１）定着及び継手

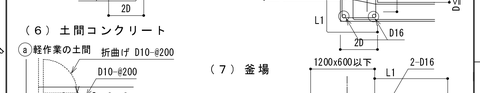


		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A　C

（２）屋根スラブの補強

ⓐ補強筋は各3-D13 又はスラブ主筋の同一径で l=1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ*印の箇所（入隅）は各階補強する

（３）片持ちスラブ出隅部補強



注）出隅部の補強筋は、計算により算出する。

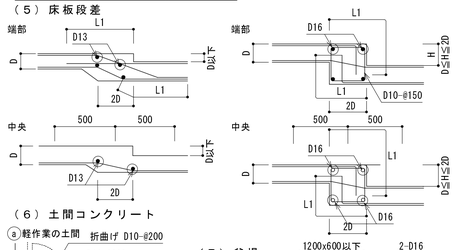
（４）床板開口部の補強（開口の径500程度の場合）



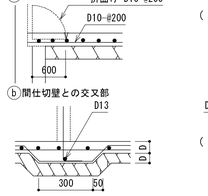
床板厚さ D	周囲	斜め
D ≦150	各2-D13	各1-D13
150< D ≦200	各2-D13	各2-D13
200< D ≦300	各2-D19	各2-D16

注）設備の小開口が連続してあく場合は縦，横，斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する．

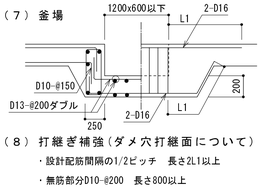
（５）床板段差



（６）土間コンクリート



（７）釜場



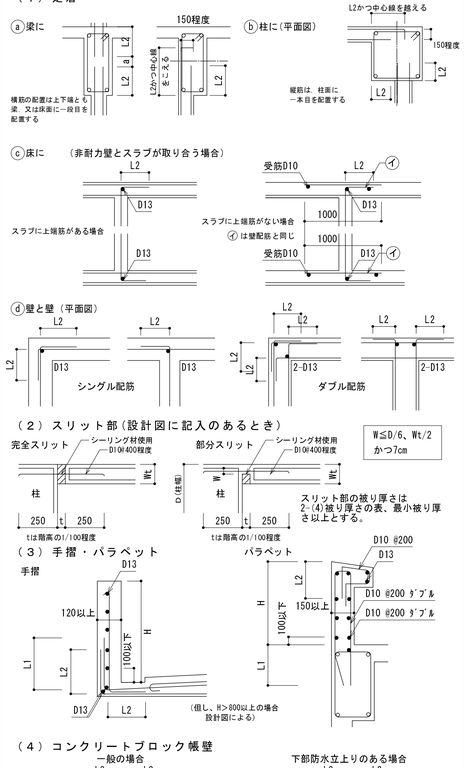
（８）打継ぎ補強（ダメ穴打継面について）

・設計配筋間隔の1/2ピッチ　長さ2L1以上

・無筋部分D10-@200　長さ800以上

９．壁

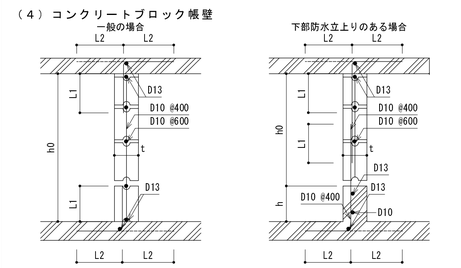
（１）定着



（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

（３）手摺・パラペット

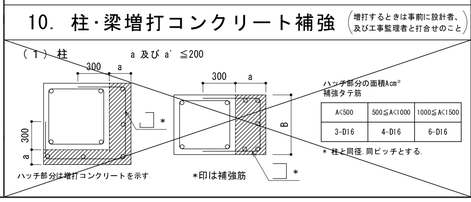
（４）コンクリートブロック帳壁



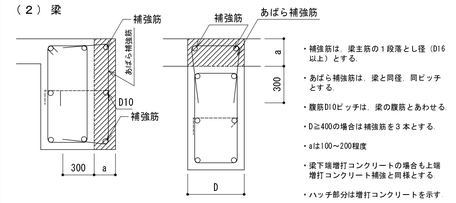
10．柱・梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



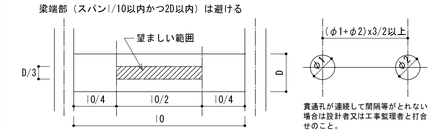
（２）梁



11．梁貫通孔補強

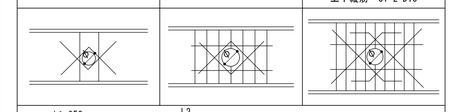
（１）設置可能範囲

梁端部（スパン/10以内かつ2D以内）は避ける



（２）鉄筋標準配筋　但し φ≦D/3とする

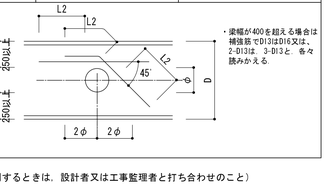
80<φ≦100	100<φ≦150	150<φ≦250
折筋　2-(2-D13)	折筋　2-(2-D13)	斜筋　4-(2-D13)
縦筋　ST 2-D13	縦筋　ST 2-D13-100@	縦筋　ST 2-D13-100@
	横筋　2-(2-D13)	横筋　2-(2-D13)
		上下縦筋　ST 2-D13



φ＞250

孔補強の有効範囲と定着長さの取り方

＊部分について計算で確認された場合は下記の位置，寸法によらなくて良い．



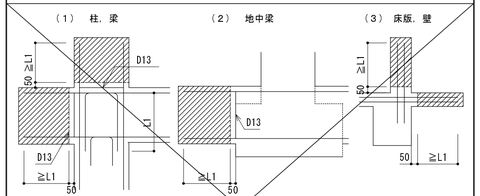
・梁幅が400を超える場合は補強筋をD13はD16又は、2-D13は、3-D13と、各々読みかえる．

（３）既成品　（使用するときは，設計者又は工事監理者と打ち合わせのこと）

□ リング型　□ パイプ型　□ 金網型　□ プレート型

12．増築予定

（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は，増築時の鉄筋継手位置工法を考慮して措置する．）



※変更事項　Ｈ．１０年９月　７(1)大梁下端筋曲上定着　７(2)大梁主筋の継手
※改　　定　H.12年11月

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	縮尺	A1 — / A3 —	図面番号	S-03
			特記事項		特記事項		特記事項							

鉄 骨 構 造 標 準 図 （1）

1．一般事項

（1） 材料及び検査

（a）構造設計仕様による

（b）適用範囲は，鋼材を用いる工事に適用し，かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする

（c）社内検査結果の検査報告書には，鉄骨の寸法，精度及びその他の結果を添付する

（2） 工作一般

（a）鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る

（b）鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は，鋼管自動切断機による

（c）高張力鋼の歪み矯正は，冷間矯正とする

（3） 高力ボルト接合

（a）本締めに使用するボルトと，仮締めボルトの併用はしてはならない

（4） 溶接接合

（a）溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801（手溶接）又はJISZ3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き，半年以上溶接に従事している者とする

（b）溶接機器

（イ） 交流アーク溶接機 300A-500A　　（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機

（ロ） アークエアーガウジング機（直流）　　（ホ）溶接電流を測定する電流計

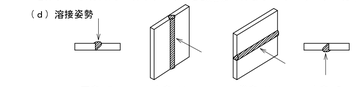
（ハ） サブマージアーク溶接機1式　　（ヘ）溶接棒乾燥器

（c） 溶接方法

アーク手溶接（ＭＣ）　　ガスシールドアーク半自動溶接（ＧＣ）

セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接（ＮＧＣ）　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）

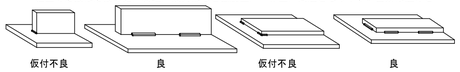
（d）溶接姿勢



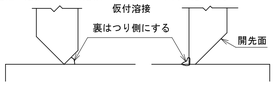
（e）組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

（イ） 仮付位置

組立て溶接は溶接の始，終端，隅角部など強度上，工作上，問題となりやすい箇所は避ける



（ロ） 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



（f）溶接施工

（イ） エンドタブ

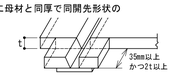
Ⅰ）完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける

Ⅱ）エンドタブの材質は，母材と同質とする

Ⅲ）エンドタブの長さは，ＭＣ：35mm以上

ＮＧＣ，ＧＣ：40mm以上とし特記のない場合は，溶接終了後，

母材より10mm程度残し切断して，グラインダー仕上げとする

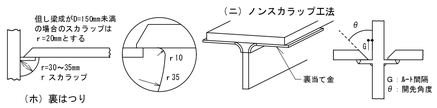


Ⅳ）プレス鋼板タブ，固形タブ使用については，資料を提出し設計者又は工事監理者の承認を得る

（ロ）裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする

（ハ）スカラップ　半径は30～35mmと、10mmのダブルアールとする



（ホ）裏はつり

規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て，溶接監理者の確認を励行し，部材に確認マークをつける

（ヘ）現場溶接の開先面には，溶接に支障のない防錆材を塗布する．また，開先部をいためないように，養生を行う．

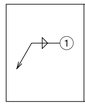
（5） 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で，コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は，塗装をしない

2．溶接規準図

（注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長　（単位mm）

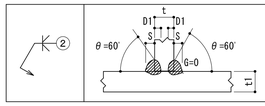
（1） 隅肉溶接



	t≦16mm	
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1，t2のかな方とする
余盛は[1+0.1S]mm以下とする
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

（2） 部分溶け込み溶接　（使用箇所に注意）

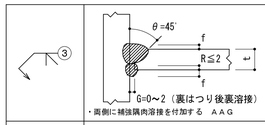


R≦2　　t/4≦S≦10mm　t≦t1

t	t>16mm
溶接姿勢	F.V

・両側に補強隅肉溶接を付加する

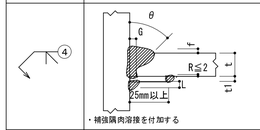
（3） 完全溶込み溶接　（平継手・Ｔ形継手）



f=t/4

t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

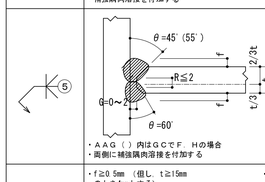
・両側に補強隅肉溶接を付加する　ＡＡＧ



f=t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
5≦t<12	45	6	6	5	45	6	6	5
12≦t<16	35	9	9	5	45	6	9	5
16≦t	35	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

・補強隅肉溶接を付加する



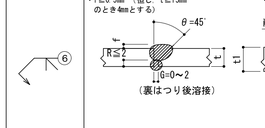
f=t/4

T形突合せ継手余盛

のど厚tmm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
t>19	4

t	t≧19mm
溶接姿勢	F.V

・ＡＡＧ（）内はＧＣでF，Hの場合
・両側に補強隅肉溶接を付加する



t	6<t<19mm
溶接姿勢	F.V

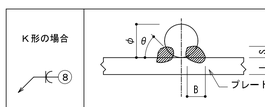
・両側に補強隅肉溶接を付加する



f=t/4

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45	6	6	5	45	6	6	5
12≦t≦19	35	9	9	5	45	6	9	5
t>19	35	9	9	8	35	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

（4） フレアー溶接

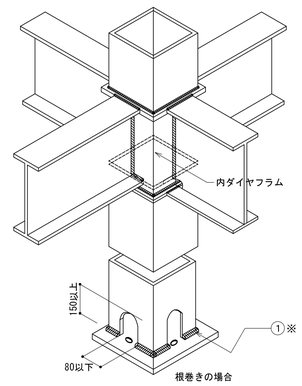


	寸法(mm)		
	φ	R	S
	9	7	4
	13	8	4.5
	16	9	5
	19	10	6
	22	11	7
	25	12	8

・フレアー溶接長は，鋼板に接する全長とする
・9mm～16mmは１パス以上，19mm以上は２パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする

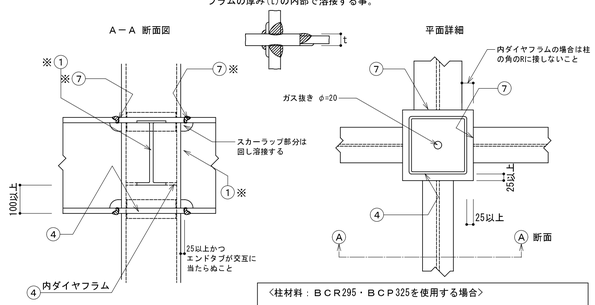
○溶接記号番号を○中に記入のこと

●ＢＯＸ型　（通しダイヤフラムの場合）



①※ t=16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

⑦※ 梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み(t)の内部で溶接する事。



①※ t=16mmの場合の溶接は、③～⑤とする。

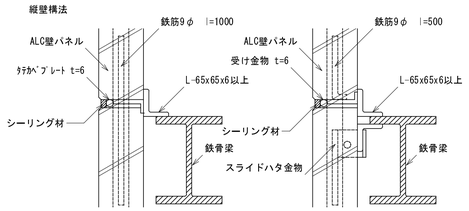
<柱材料：ＢＣＲ295・ＢＣＰ325を使用する場合>
ダイアフラムは、ＳＮ490Ｂ･Ｃ、ＳＭ490同等以上の鋼材を使用する事。
ダイアフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の1サイズアップとする。

●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱(KJ/cm)	パス温度差(℃)
400N級鋼	JIS Z 3211,3212,3214	40以下	350以下
	YGW -11,15		
	YGW -18,19		
	YGA -50W,50P		
490N級鋼	JIS Z 3212,3214	40以下	350以下
	YGW -11,15	30以下	250以下
	YGW -18,19	40以下	350以下
	YGA -50W,50P		

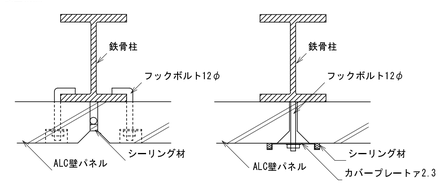
（8） ＡＬＣ板取付要領

縦壁構法



□ 挿入筋構法　　□ スライド構法

横壁構法



□ ボルト止め構法　　□ カバープレート構法

※変更事項　H.11年 3月　2溶接規準図　スミ肉は漢字の隅
※改　　定　H.12年11月
※変更事項　H.13年 7月　(4)溶接接合(f)溶接施工(ハ)(ニ)図修正
　　H.13年 7月　ＢＯＸ型(5)～(A)断面図 (7)詳細図追加
　　H.13年 7月　鋼材種別による溶接条件追加

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	鉄 骨 構 造 標 準 図（1）	縮尺	A1 — A3 —	図面番号	S-04
			特記事項		特記事項		特記事項							

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準　耐火仕様①
合成スラブ工業会仕様

［耐火認定FP60FL-9095,9101,FP120FL-9107,9113用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準　2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類	板厚(mm)	表　面　処　理
■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５		端部加工 □ｴﾝﾀﾞﾙ有り ■無し
		□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(Ｐ)
		■1.2 □亜鉛めっき　［ □Z12　□Z27 ］
		□1.6□JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)［ □Y18　□Y27 ］
		□その他(　　)　□無し
材　質	ＪＩＳＧ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ	

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳＫ５６２１ ２種または３種相当）

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート□１種　□２種
設計基準強度	□１８　■２１　□２４　□（　　）Ｎ/㎟
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□６０　□７０　■８０　□８５　□９０　□９５　□１００　□（　　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■溶接金網	ＪＩＳＧ３５５１	□φ６－７５×７５　■φ６－１５０×１５０ □φ６－１００×１００　□（　　）※2
□異形鉄筋	ＪＩＳＧ３１１２、３１１７	□Ｄ１０－１５０×１５０ □Ｄ１０－２００×２００□（　　）
耐火補強筋	ＪＩＳＧ３１１２、３１１７	Ｄ１３－@３００

*2 線形6mm以上を用いたもの

接　　合

梁との接合	□頭付きスタッド	ＪＩＳＢ１１９８□φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２（各長さ・ピッチは特記による※3）
	■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鋲	接合箇所は特記による
	□その他	

*3 最小長さはデッキ高さ＋30mm以上とする

耐　　火

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	耐火区分	支持条件	ｺﾝｸﾘｰﾄ種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50 QL99-75	床１時間	単純	普通/軽量	要	■ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１
		連続		不要	□ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５
	床２時間	単純		要	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
		連続		不要	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７

注）床２時間は床１時間耐火を含む

その他	□指定なし　□（　　）　□（　　）

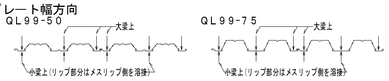
特　　記

支保工有無	その他：
□無　□有	

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$Aw = \frac{1.5Qa}{Qu} \times 1000mm$ かつ600mm 以下

Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（Ｎ）

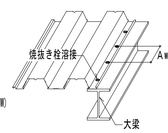
Ｑｕ：設計最大せん断力(N/m)

Ａｗ：焼抜き栓溶接ピッチ

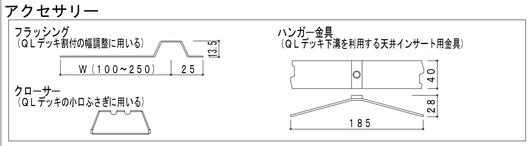
板厚	Qa（N）
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

Ａｗ＝（　600　）mm

（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー

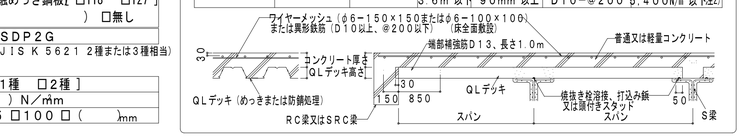


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支持梁：鉄骨(S)梁及び大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎜ 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	φ６－１００x１００	4,400N/㎡ 以下注2)
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)Ｂ 参照
			3.6m 以下	95mm 以上	Ｄ１０－@２００	5,400N/㎡ 以下注2)
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	Ｄ１０－@２００	5,400N/㎡ 以下注2)



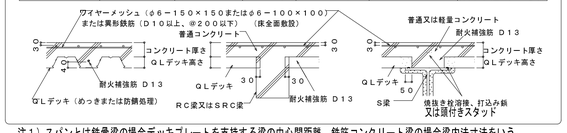
【単純支持合成スラブ】

支持　梁：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎜ 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）
耐火補強筋：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下			算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)Ｂ 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照

支持梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度≧１８Ｎ/㎜ 以上の普通コンクリート
耐火補強筋：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)Ｂ 参照



注１）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注２）スパンが３ｍを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）で結合する。
注３）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注４）梁の耐火被覆　梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注５）許容積載荷重Ｗ　算出式

Ｌ：支持スパン（m）

［Ａ］ＱＬ９９－５０　　［Ｂ］ＱＬ９９－７５

$W = 5.400 \times (\frac{2.7}{L})^2$ かつ9.800 N/㎡ 以下　$W = 5.400 \times (\frac{3.4}{L})^2$ かつ9.800 N/㎡ 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔（スパン比≧３．２を超えない程度）に支持されるものとする。　※合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

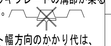
施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数（５～１０枚）ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。



デッキプレート幅方向の かかり代は、５０mm以上あることを確認する。（頭付きスタッドの場合は３０mm以上）
3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

RC梁またはSRC梁の場合
1）デッキプレートは梁型枠に釘止めする。
2）デッキプレートの梁型枠へののみ込み代が幅方向１０mm以上、長手方向が３０mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は JASS5「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の合成スラブ工業会仕様「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（２）溶接棒
ＪＩＳ Ｚ３２１１のＥ４３１６、Ｅ４９１６ に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mm@のもの
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６mm以上
溶接電流　：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
ＪＩＳ Ｚ ３８０１、ＪＩＳ Ｚ ３８４１ における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

工程	手順・要領
1 アーク発生	ＱＬデッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2 ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm程度で の字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3 押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側を考えるように円中央へ２～３回転しながら溶着。
4 整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］―ＣＯ２アークスポット溶接―

（１）一次側電源の必要容量、仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１．２mm
（３）標準溶接条件：下表

ＱＬデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
1.2mm	6～9mm未満	３００～３２０	３３～３５	０．４～０．６
	9mm以上	３００～３２０	３３～３５	０．４～０．８
1.6mm	6～9mm未満	３００～３２０	３４～３６	３．５～４．５
	9mm以上	３００～３２０	３４～３６	４．０～５．２

注１ デッキプレート　板厚１．２、１．６mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２ ＣＯ２ガス流量：２０ﾘｯﾄﾙ／分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検流計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：18mm以上 A.P.W：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

施工時許容スパン表（デッキプレートの検討）

注１：普通コンクリート（単位体積重量24.0kN/㎥）、表面処理が亜鉛めっきの場合
注２：（）数値は表面処理がめっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。
注３：表を超える場合は、別途支保工が必要です。

QL99-50　（単位：m）

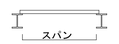
コンクリート厚(mm)	60		70		80		90		100	
板厚(mm)	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件 単純(内法)	2.52	2.75	2.47	2.69	2.42	2.64	2.37	2.59	2.33	2.54
	(2.52)	(2.75)	(2.47)	(2.69)	(2.42)	(2.64)	(2.37)	(2.59)	(2.33)	(2.54)
2連続	3.38	3.67	3.31	3.61	3.24	3.54	3.18	3.47	3.12	3.41
	(3.38)	(3.67)	(3.31)	(3.61)	(3.24)	(3.54)	(3.15)	(3.47)	(3.07)	(3.41)
3連続	3.12	3.40	3.05	3.33	2.99	3.26	2.93	3.20	2.88	3.15
	(3.12)	(3.40)	(3.05)	(3.33)	(2.99)	(3.26)	(2.93)	(3.20)	(2.88)	(3.15)

QL99-75　（単位：m）

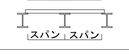
コンクリート厚(mm)	60		70		80		90		100	
板厚(mm)	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件 単純(内法)	3.31	3.61	3.24	3.55	3.18	3.48	3.13	3.42	3.07	3.37
	(3.31)	(3.61)	(3.24)	(3.55)	(3.18)	(3.48)	(3.13)	(3.42)	(3.07)	(3.37)
2連続	4.02	4.30	3.96	4.24	3.91	4.18	3.86	4.13	3.82	4.07
	(3.89)	(4.30)	(3.78)	(4.24)	(3.67)	(4.18)	(3.58)	(4.13)	(3.49)	(4.07)
3連続	3.78	4.05	3.73	3.99	3.68	3.93	3.63	3.88	3.58	3.83
	(3.78)	(4.05)	(3.73)	(3.99)	(3.68)	(3.93)	(3.63)	(3.88)	(3.58)	(3.83)

S造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】



【連続支持】

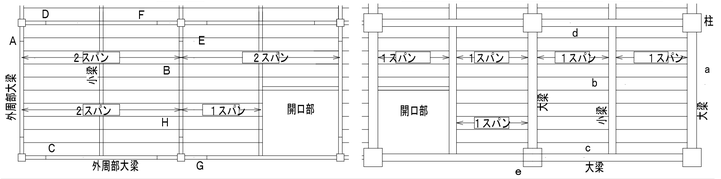


その他の納まり・参考例等については、ＱＬデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

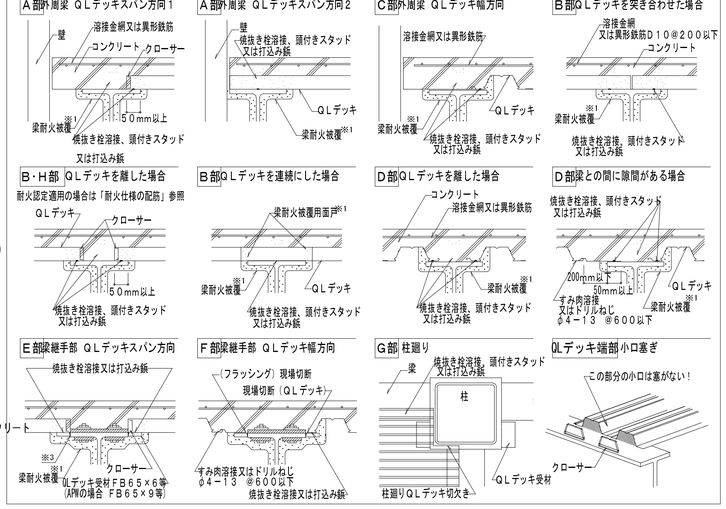
標　準　納　まり

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※２はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※３ 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）

鉄骨(S)梁　　鉄筋コンクリート(RC)梁・鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁

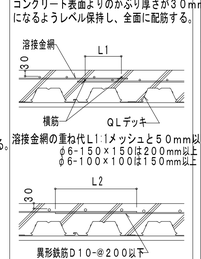


デッキプレートと梁の納まり［Ｓ梁］



スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。



※ 異形鉄筋の重ね代Ｌ２：JASS 5による
例）Fc18 SD295の場合、４５Ｄ以上

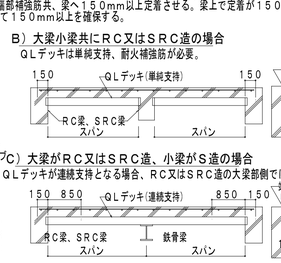
耐火仕様の配筋

デッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、梁へ１５０mm以上定着させる。梁上で定着が１５０mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０mm以上を確保する。

Ａ）大梁小梁共にＳ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。

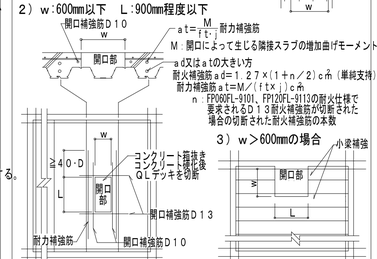


Ｂ）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。



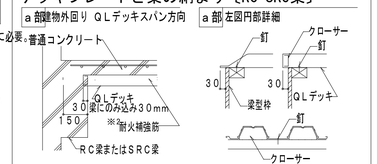
Ｃ）大梁がＲＣ又はＳＲＣ造、小梁がＳ造の場合
ＱＬデッキが連続支持となる場合、ＲＣ又はＳＲＣ造の大梁部側では端部補強筋を配筋する。

耐火仕様の配筋



※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」（１）合成スラブの設計　４．合成スラブの開口補強方法　を参照下さい。

デッキプレートと梁の納まり［RC・SRC梁］



開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合
A）開口間隔≧３×開口径　B）開口間隔＜３×開口径　C）開口が連続している場合
連続する開口の開口幅(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、1）又は2）又は3）に準じて補強を行う

設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日
特記事項		特記事項		特記事項	

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	図面名	ＱＬデッキスラブ施工標準図 参考図	縮尺	A1	—	図面番号	S-05
						A3	—		

ベースパック T 型

角形鋼管

F値295N/mm² 以下

□-150×150 ～ □-300×300 用

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

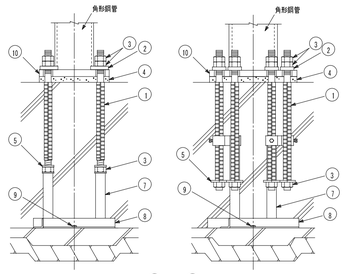
ベースパック柱脚工法　標準図

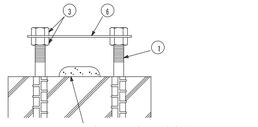
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

2024年10月作成

1．工法概要

1．1　構成部材



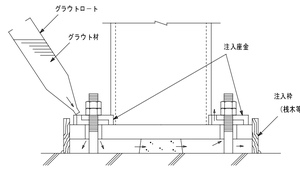


① アンカーボルト
② 注入座金
③ Mナット
④ ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤ 定着座金
⑥ テンプレート
⑦ フレームポスト
⑧ フレームベース
⑨ ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ ベースプレート

注）上記 ① ～ ⑩ の構成部材はベースパック構成部品として供給される。

注）上記 ⑥ ～ ⑨ は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2　柱脚の定着方法概要



2．柱

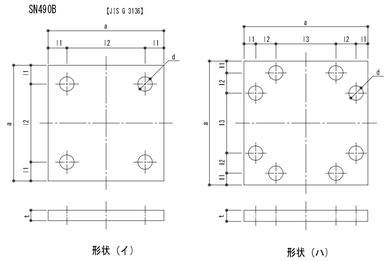
F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	◎
	TSC295	

3．構成部材・寸法

3．1　ベースプレート

●材質

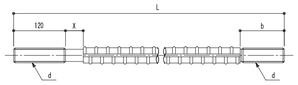
SN490B　[JIS G 3136]



3．2　アンカーボルト（Mアンカーボルト）

[建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料]

i）アンカーフレーム Aタイプの場合

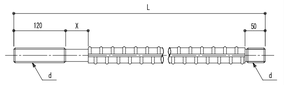


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

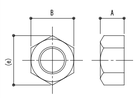


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

3．3　Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

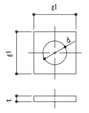


単位 mm

呼び	A	B	(a)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4　定着座金

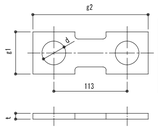
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用 アンカーボルト	e1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

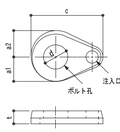


単位 mm

適用 アンカーボルト	e1	e2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5　注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

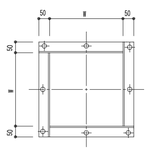


単位 mm

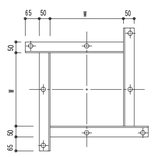
記号	適用 アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PW27	M27	32	42	101	18	28
PW30	M30	32	42	101	18	31
PW33	M33	35	45	110	18	34
PW36	M36	35	45	110	18	37
PW39	M39	38	48	118	18	40

3．6　フレームベース

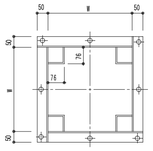
i）Aタイプ



ii）Cタイプ



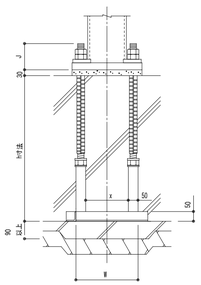
iii）特Cタイプ



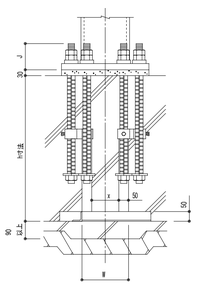
3．7　アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉

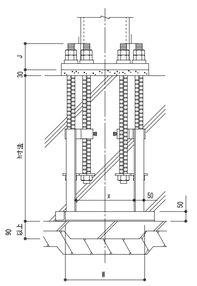


〈 Cタイプ 〉※



※杭頭納まりおよび配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

〈 特Cタイプ 〉



単位 mm

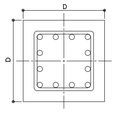
採用	ベースパック記号	柱 外径 (mm)	柱 板厚 (mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	フレームベース 寸法H(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法 (mm)	↓寸法 (mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D16	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
◎	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

4．コンクリート柱型

4．1　形状・材質

●形状

柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



●コンクリート

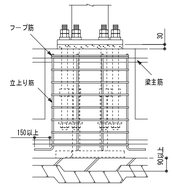
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋

SD295(D13,D16)

SD345(D19,D22)

4．2　配筋



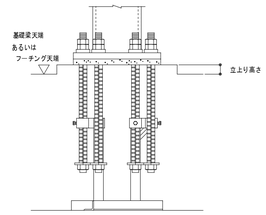
※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。

※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3　基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



5．工場製作（溶接）

■組立

●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）

●完全溶込み溶接とする。　（JASS 6　鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6　鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔 G(mm) 標準値	ルート間隔 G(mm) 許容差	ルート面 R(mm) 標準値	ルート面 R(mm) 許容差	開先角度 α1(°) 標準値	開先角度 α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接 ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			9	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		
		6～	6	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：45	-2.5, +∞ (-5, +∞)	下向き
			7	-2, +∞ (-3, +∞)	2	-2, +1 (-2, +2)	α1：35		

許容差　・記号+∞は制限無しを示す。

・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚 (mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SM 90 B	予熱なし	50 °C	50 °C
(2) ガスシールドアーク溶接	SM 90 B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理：7．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1　基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2　アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

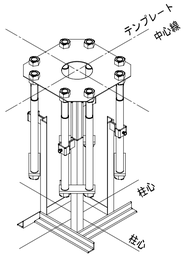
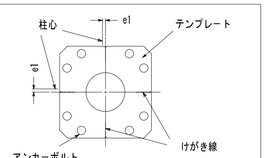


図	
標準許容差	e1　：柱心とテンプレートのけがき線との許容差 -2≦e1≦2 基準高さより誤差は -3≦e≦10

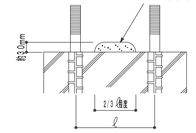
6．3　配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4　建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5　アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6　ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

1.0～1.1 ℓ

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップでの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

千葉市都市局建築部営繕課

工事名　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	ベースパック柱脚工法　標準図 参考図	縮尺	A1	―	図面番号	S-06
特記事項		特記事項		特記事項					A3	―		

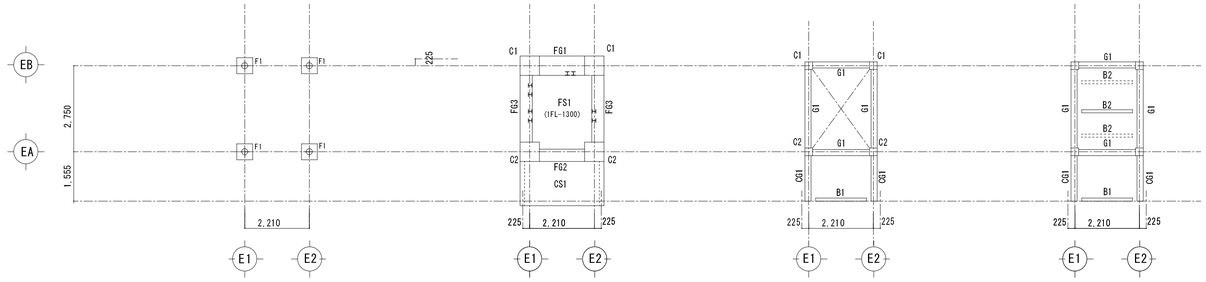
鉄骨部材リスト

■ 梁鋼種 ： SN400B
■ ボルト ： HTB-F10T、HTB-S10T ■ 設計 ： 保有耐力継手

	鉄骨部材	JOINT								備 考
RG1	H-244x175x7x11	F	4-M20	外	PL-290×175×9	内	2PL-290×70×9	g	105	
		W	2-M20		2PL-170×140×9			@	60	SN400B
3G1 2G1	H-294x200x8x12	F	6-M20	外	PL-410×200×9	内	2PL-410×80×9	g	120	
		W	3-M20		PL-200×170×9			@	60	SN400B
C1	□-250x250x12	柱脚 25-16∨								BCR295
C2	□-250x250x16	柱脚 25-16∨								BCR295
B1	H-200x100x5.5x8	GPL- 6 H.T.B 2-M16								SN400B
B2	H-150x150x7x10	GPL- 9 H.T.B 2-M16								SN400B
RG1	H-244x175x7x11									SN400B
3.2G1	H-294x200x8x12									SN400B

※柱脚はベースパックとする。他の同等の工法（例 ハイベース等）の仕様の場合
係員の承諾の上、計算書及び図面を作成し、計画変更手続きを行う。

※外壁はＡＬＣ壁厚125とする。
層間変形角が1/150以下の工法とする



基礎伏図 1：100 （見下図）
柱芯＝通り芯

1階伏図 1：100 （見下図）

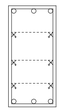
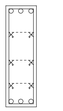
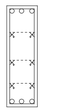
2～3階伏図 1：100 （見下図）
特記なき床 ―― DK1 方向

R階伏図 1：100 （見下図）
特記なき床 ―― DK1 方向
小梁配置はメーカーによる
建築では1本のみ見込む
B2のレベルは鉄骨天端-100

地中梁リスト 1:40

コンクリート設計基準強度 Fc=24N/mm2
鉄筋 SD295A D16以下
SD345 D19以上

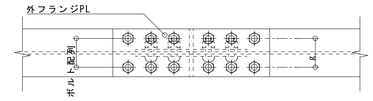
※巾止筋は D10-@1000 とする

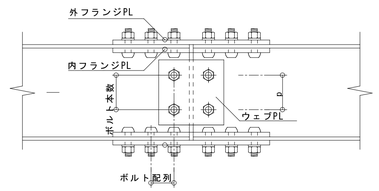
符 号	ＦＧ１	ＦＧ２	ＦＧ３
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
B x D	620 x 1350	400 x 1350	400 x 1350
上端筋	3 - D19	3 - D19	3 - D19
下端筋	3 - D19	3 - D19	3 - D19
腹 筋	6 - D10	6 - D10	6 - D10
ｽﾀｰﾗｯﾌﾟ	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200

柱型 リスト 1:40

※露出型弾性固定柱脚工法仕様書による。

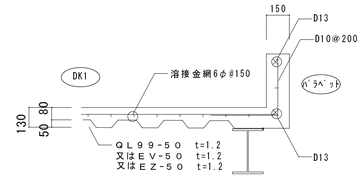
符 号	C1 C2
断 面	
B x D	620 x 620
主 筋	12 - D19
HOOP	□-D13 @100



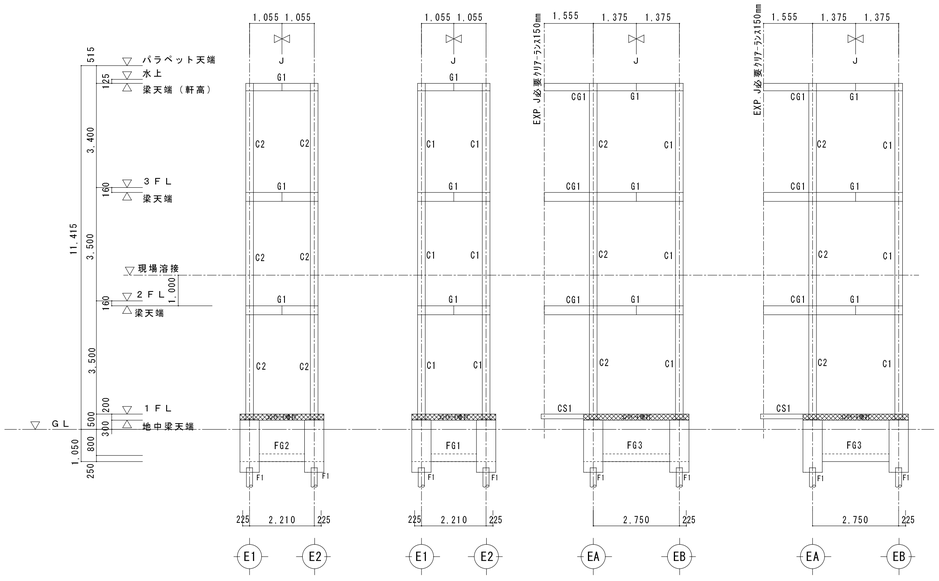


スラブリスト

符 号	断 面	配筋方法	位 置	短辺方向	長辺方向
ＣＳ１	200 砕石厚100	ﾓﾃﾌｧﾐ配筋	上端筋	D13 @200	D10 @250
			下端筋	D10 @200	D10 @250
ＦＳ１	250 捨コン厚50 砕石厚100	ﾓﾃﾌｧﾐ配筋	上端筋	D13 @200	D13 @200
			下端筋	D13 @200	D13 @200



コンクリート強度 21.0N/m2
焼抜き栓溶接



EA通軸組図 1：100
EB通軸組図 1：100
E1通軸組図 1：100
E2通軸組図 1：100

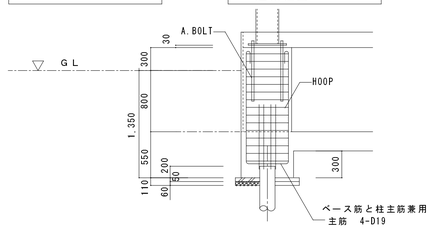
杭リスト

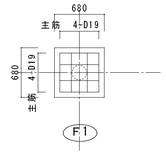
工 法 羽根付き鋼管杭回転埋設工法
杭 種 ：Ｆ１ STK490 （上）φ267.4(t=12.7)+中、下 （t＝8.0）
先端羽根部 SM490A φ800 (t=28)
杭耐力：552KN 引抜力 175KN

杭本数 ：４本
杭長 ：20m ＝4m（上）+5m+5m+6m 杭の継手はＡＫジョイント

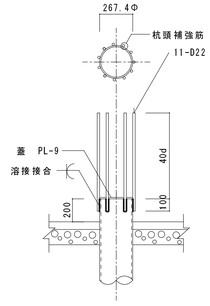
施工誤差 ：100mm以下とする。100mmを超える場合は監理者と協議。

※ 杭は羽根付き鋼管杭回転埋設工法 とする。
下記３工法とする
ＧーＥＣＳ工法 認定番号 ＴＡＣＰ-0585
ｅーpile ｎｅｘｔ工法 認定番号 ＴＡＣＰ-0483
ＥＡＺＥＴ工法 認定番号 ＴＡＣＰ-0635
計算は、ＥＡＺＥＴ工法で算出している。
他工法の場合、監督員の承諾の上、計算書を作成し軽微変更とする。

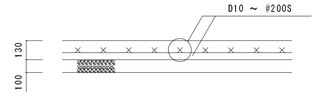




基礎配筋図



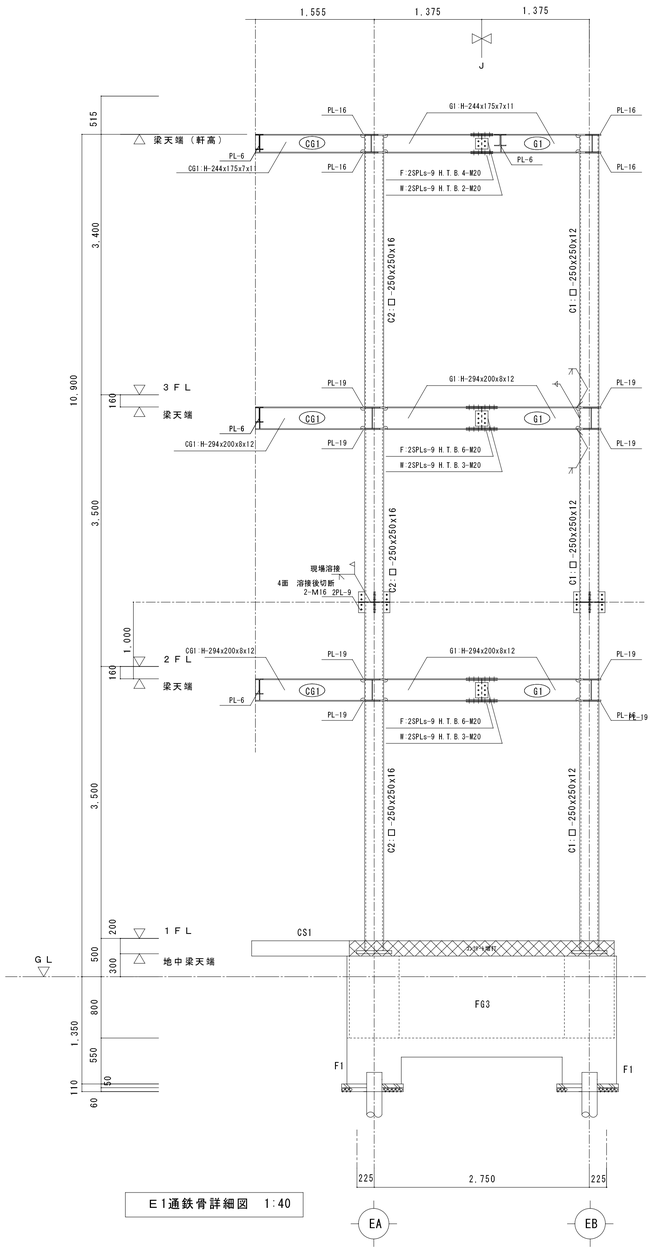
杭頭補強筋図



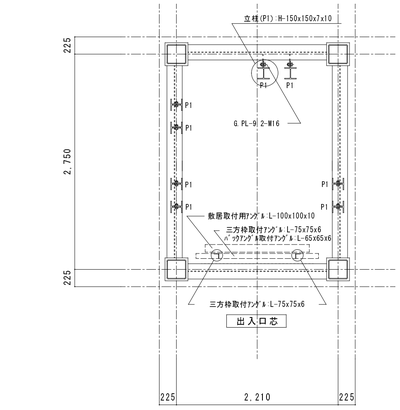
土間ｺﾝｸﾘｰﾄ 配 筋 図 S:1/40

土間ｺﾝｸﾘｰﾄ範囲は意匠による

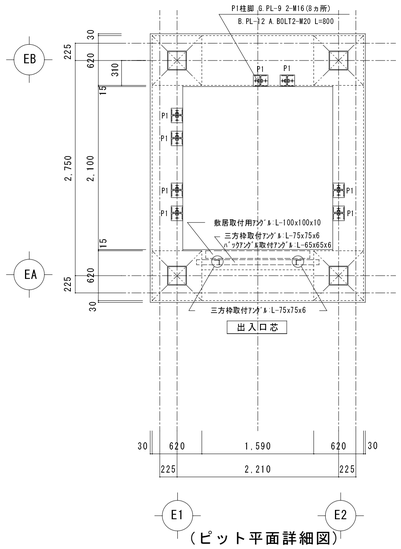
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	伏図、軸組図、リスト	縮尺	A1 1/100 A3 1/200	図面番号	S-07
			特記事項		特記事項		特記事項							



E1通鉄骨詳細図　1:40

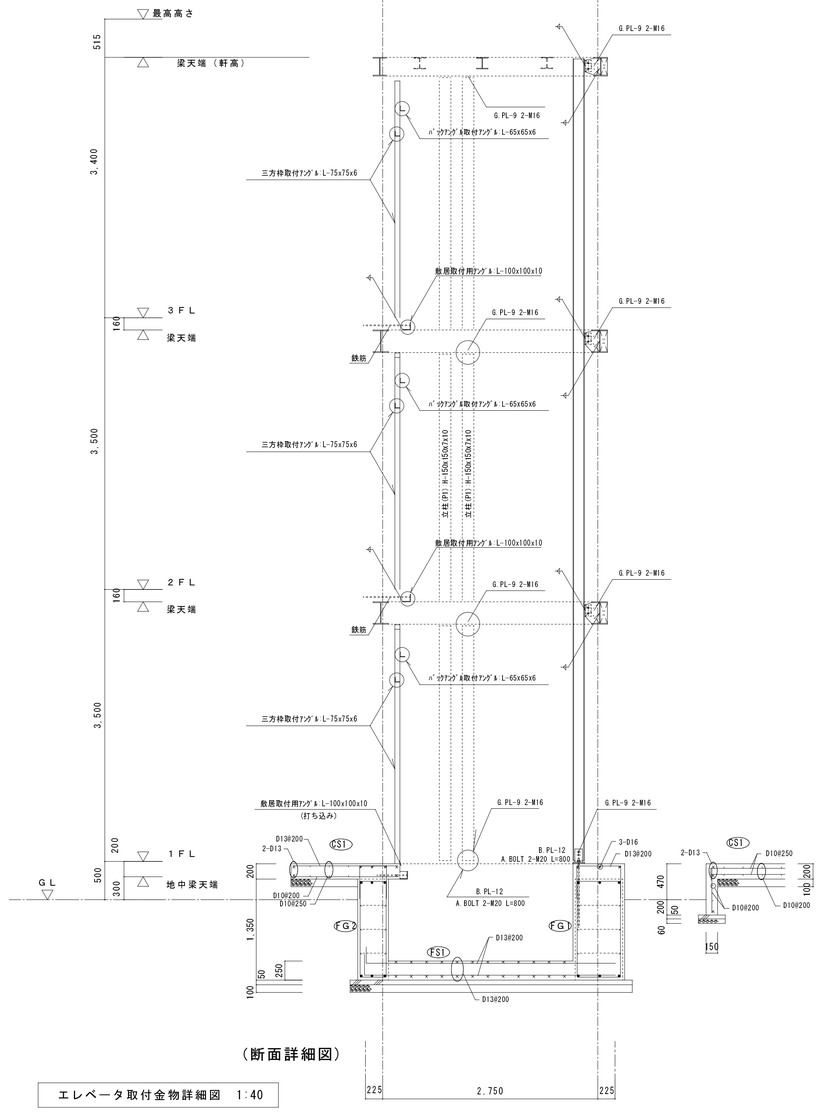


（一般階平面詳細図）



（ピット平面詳細図）

ＥＶ取付ファスナー及び間柱の位置、大きさ、箇所はＥＶメーカーによる。



（断面詳細図）

エレベータ取付金物詳細図　1:40

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	鉄骨詳細図	縮尺	A1 1/40 A3 1/80	図面番号	S-08
			特記事項		特記事項		特記事項							

エレベーター仕様

概略仕様	号機名（台数）		No.1　（1台）	
	用途		乗用　車いす仕様	
	積載量（定員）		750 kg　（ 11 人）	
	速度		45 m/min	
	制御方式		交流インバータ制御方式	
	操作方式		乗合全自動方式	
	停止ヶ所・出入口方向		（ 1～3FL ）　3 ヶ所　1 方向	
	かご内法（W x D x H）		1400 mm X 1350 mm X 2300 mm	
	出入口寸法（W x H）		800 mm X 2100 mm	
	ドア方式		2 枚戸中央開き（電動式）	
	電動機出力		AC－3.5 kW （ギヤレス）（参考）	
	電源	動力	三相3線　200 V 50 Hz	
		照明	単相　100 V 50 Hz	
	管制運転	地震時	有（P波+S波感知器（3段検知）リスタート機能付）	
		火災時	有	
		自家発時	無	
		浸水時／冠水時	有　全自動形（ピット冠水時（最寄階））	
	停電時自動着床装置		有	
	耐震クラス		A14	
	かご内連絡装置		24V同時通話インターホン	
	基本仕様		メーカー標準仕様	
乗場仕様	三方枠		全階	大枠・全傾斜　ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		全階	鋼板製単色塗装仕上
		防犯窓	1FL	網入ガラス（t6.8）（JIS R3204）とフロートガラス（t3.0）（JIS R3202）を合わせたもの・大窓［ドア面と面一］
		遮煙	全階	有
	敷居		全階	硬質アルミ製またはステンレス製
	乗場ボタン	ボタン	全階	メーカー標準仕様
	インジケータ	インジケータ	全階	デジタル階床表示式
	ボタン	フェースプレート	全階	メーカー標準仕様
かご仕様	天井照明		LED照明	
	換気装置		ファン	
	リターンパネル		メーカー標準仕様	
	出入口柱		メーカー標準仕様	
	ドア		化粧鋼板	
		防犯窓	網入ガラス（t6.8）（JIS R3204）とフロートガラス（t3.0）（JIS R3202）を合わせたもの・大窓［ドア面と面一］	
	幕板		化粧鋼板	
	側板		化粧鋼板	
	幅木		ステンレス製ヘアライン仕上	
	床		メーカー標準仕様	
	敷居		硬質アルミ製	
	操作盤	ボタン	メーカー標準仕様	
		インジケータ	メーカー標準仕様	
		フェースプレート	メーカー標準仕様	

・千葉県福祉のまちづくり条例に準拠
・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準に準拠

特記事項

・車いす仕様一式
・かご内鏡付（ステンレス製鏡面）
・かご内手摺付（ステンレス製，2方向）
・非常放送スピーカー付（消防適合品）
・非常呼ボタンガード付
・非常呼ボタン応答灯付
・機械式ドアセフティ（両側）付
・遠隔監視機能用インターフェイス
・音声案内装置付
・点字銘板付
・乗場点字注意銘板付
・高調波対策付
・雷サージ対策
・公共工事標準仕様書
・キックプレート
・外部インターホン（1F職員室）

（1台1回線）

電源設備　（高圧）

号機名		No.1		
電源設備容量	動力	200 V　4 kVA		
	照明	100 V　1.5 kVA		
最大電流		21.3 A		
動力線サイズ（mm²）		5.5	8	14
最大引込み距離（m）		76	118	205
建屋側MCCB		30 A		
接地線最小サイズ		2　mm²		
インターホン用配線		φ0.9 × 10 本		
電話用配管・配線		φ19 配管 ・電話線 1P		
ピットコンセント容量		1 kVA／台		

千葉市都市局建築部営繕課

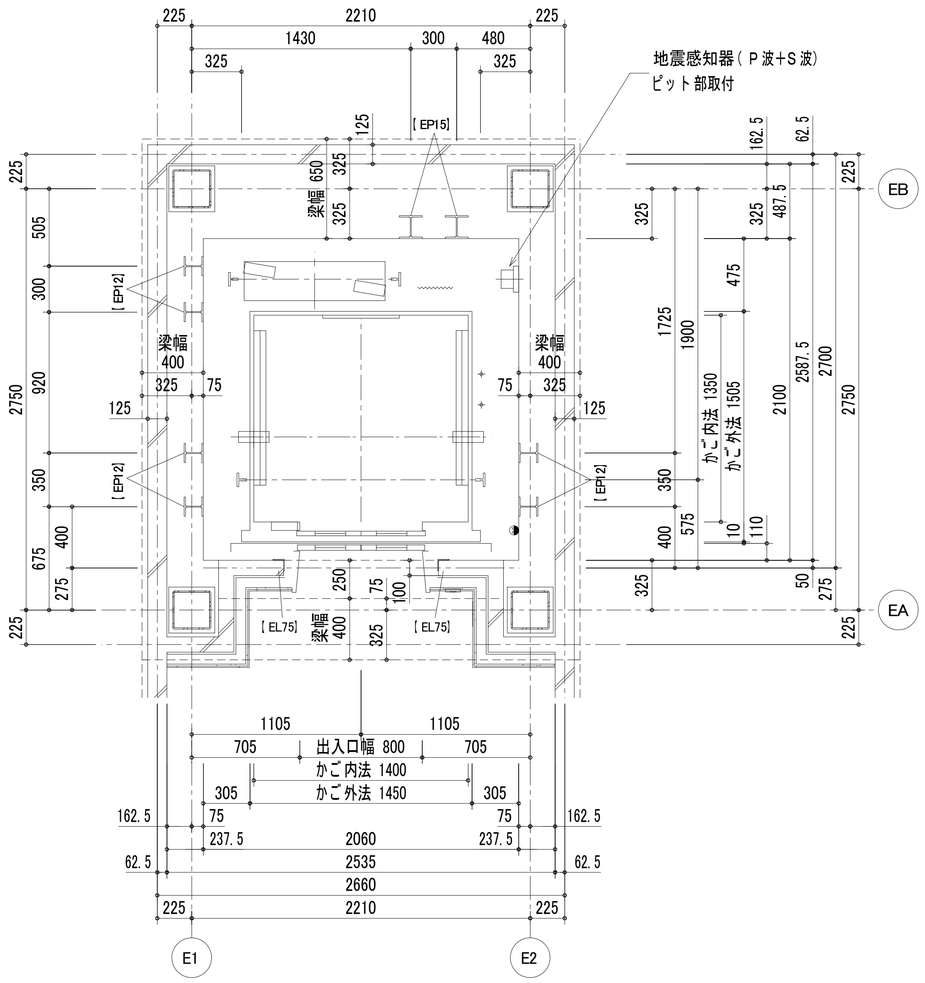
工事名　千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面名　昇降機設備図（1）

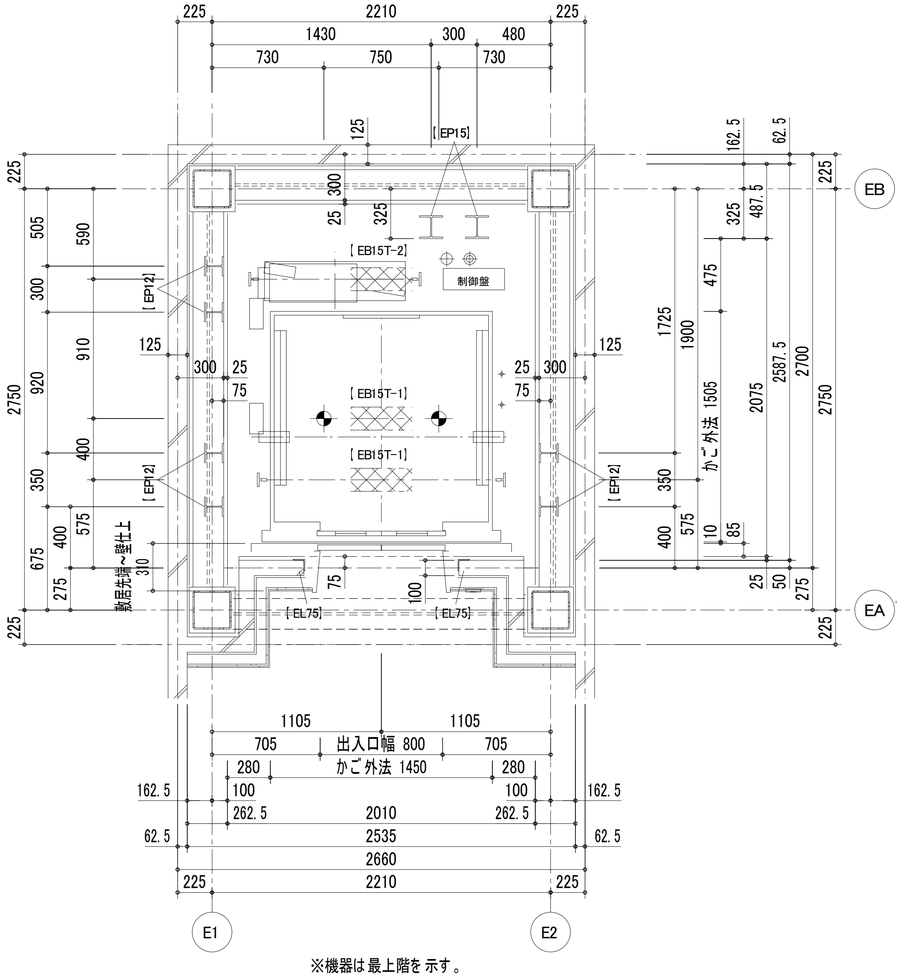
縮尺　A1　－　A3　－

図面番号　EV-01



昇降路平面図（１ＦＬ）

1：20



※機器は最上階を示す。

昇降路平面図（２－３ＦＬ）

1：20

耐火被覆厚：２５mm（全階）

◒	ピット点検用コンセント	（電気工事）
≋	Ｔ．Ｃ保護金網	（エレベーター工事）

⊕	吊元フック ・荷重:　　９．８ kN	（建築工事）
⊕	電源引込み（受電盤への接続） ・動力・照明、接地線 最上停止階ＦＬ－１３５０ mm 引出長さ ３ m	（電気工事）
⊕	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階ＦＬ－６５０ mm 引出長さ ３ m	（電気工事）

鉄骨部材記号表 （建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（荷重9.8kN用）	t12（φ75穴付）
EB15T-2	トロリービーム（荷重9.8kN）	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム（荷重19.6kN）	H-150x150x7x10

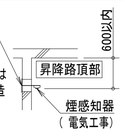
レール反力リスト（地震時作用荷重）			No.1
Px / Py	かご側	Px	4.10 kN
	一般階	Py	2.10 kN
	かご側	Px	4.60 kN
	最上階	Py	3.20 kN
	おもり側	Px	6.40 kN
	一般階	Py	3.20 kN
	おもり側	Px	9.60 kN
	最上階	Py	6.50 kN

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	昇降機設備図（２）（参考図）	縮尺	A1 1:20 A3 1:40	図面番号	EV-02
			特記事項		特記事項		特記事項							

煙感知器詳細

施錠装置付点検扉
1．5mm以上の鋼板製（ 電気工事）
リミットスイッチ付（ エレベーター工事）

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。



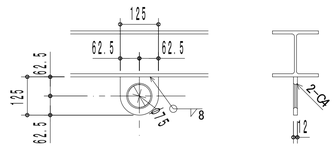
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品とすること。

- ホーチキ （ KUS-1C W）
- 能美防災 （ FXS J001A-HU）
- ニッタン （ NI D-T-G）
- パナソニック （ BV95351+BV95381H）

製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合がある

吊元フック詳細 【 EHST9】

吊元フック荷重: 9．8kN



※全周すみ肉溶接脚長8 mm

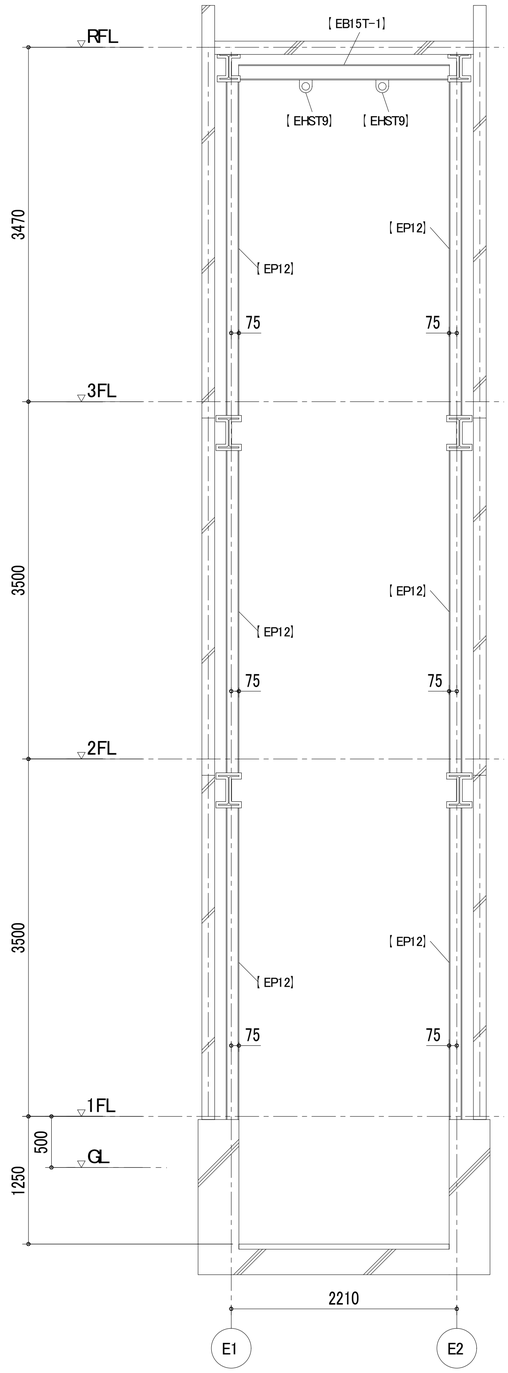
地震動感知後、概ね１０秒以内（ 加速時間含む）に停止できる最大距離

定格速度（ m／mi n）	出入口間隔（ m）
45	6．0

鉄骨部材記号表 （ 建築工事）

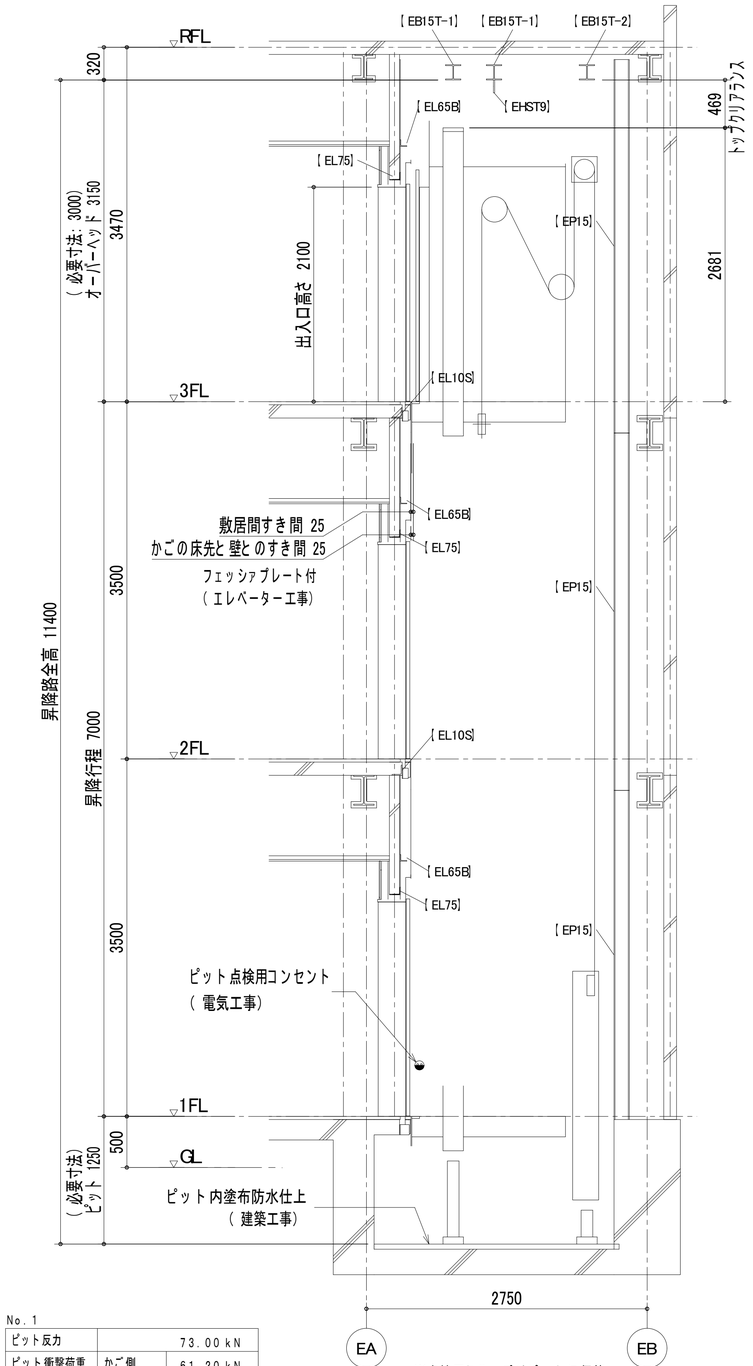
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6．5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（ 荷重9．8kN用）	t12（ φ75穴付）
EB15T-2	トロリービーム（ 荷重9．8kN）	H-150x150x7x10
EB15T-1	トロリービーム（ 荷重19．6kN）	H-150x150x7x10

※上記以外はエレベータ工事



昇降路縦断面図

1：30



※点検用タラップはピットに保管

昇降路縦断面図

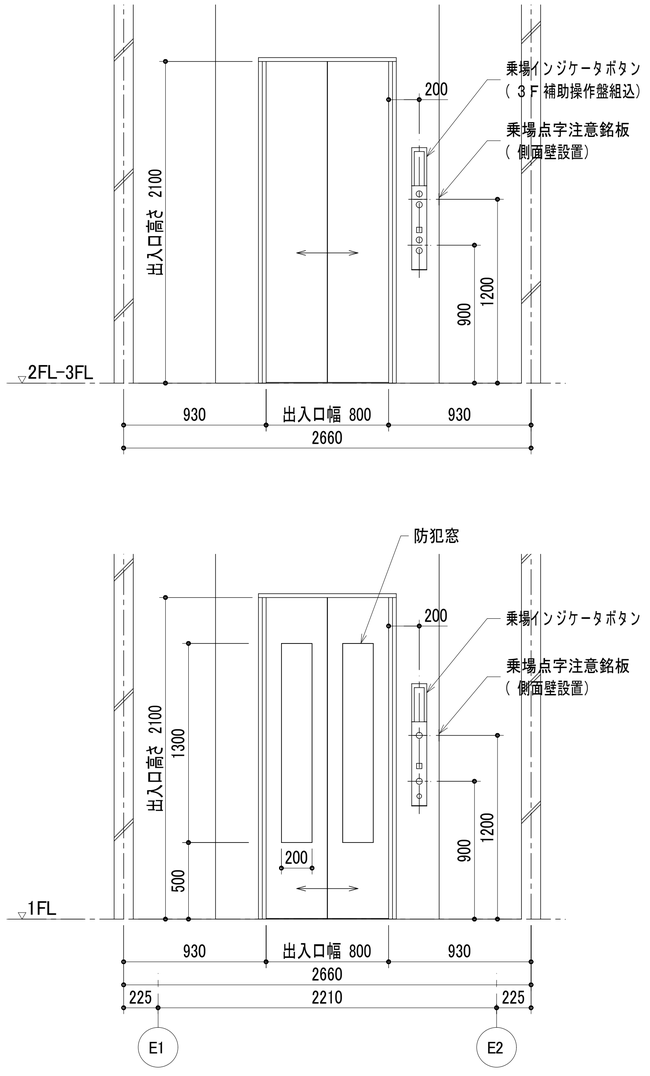
1：30

No．1

ピット反力		73．00 kN
ピット衝撃荷重	かご側	61．20 kN
	C／W側	48．10 kN

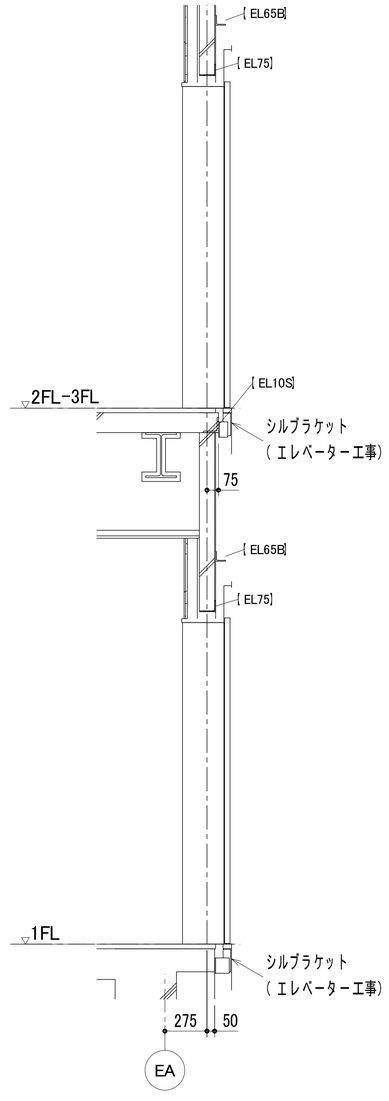
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	昇降機設備図（３）（参考図）	縮尺	A1 1:30 A3 1:60	図面番号	EV-03
			特記事項		特記事項		特記事項							

鉄骨部材記号表 （ 建築工事）		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元（ 荷重9.8kN用）	t12（ φ75穴付）
EBI5T-2	トロリービーム（ 荷重9.8kN）	H-150x150x7x10
EBI5T-1	トロリービーム（ 荷重19.6kN）	H-150x150x7x10



出入口正面図

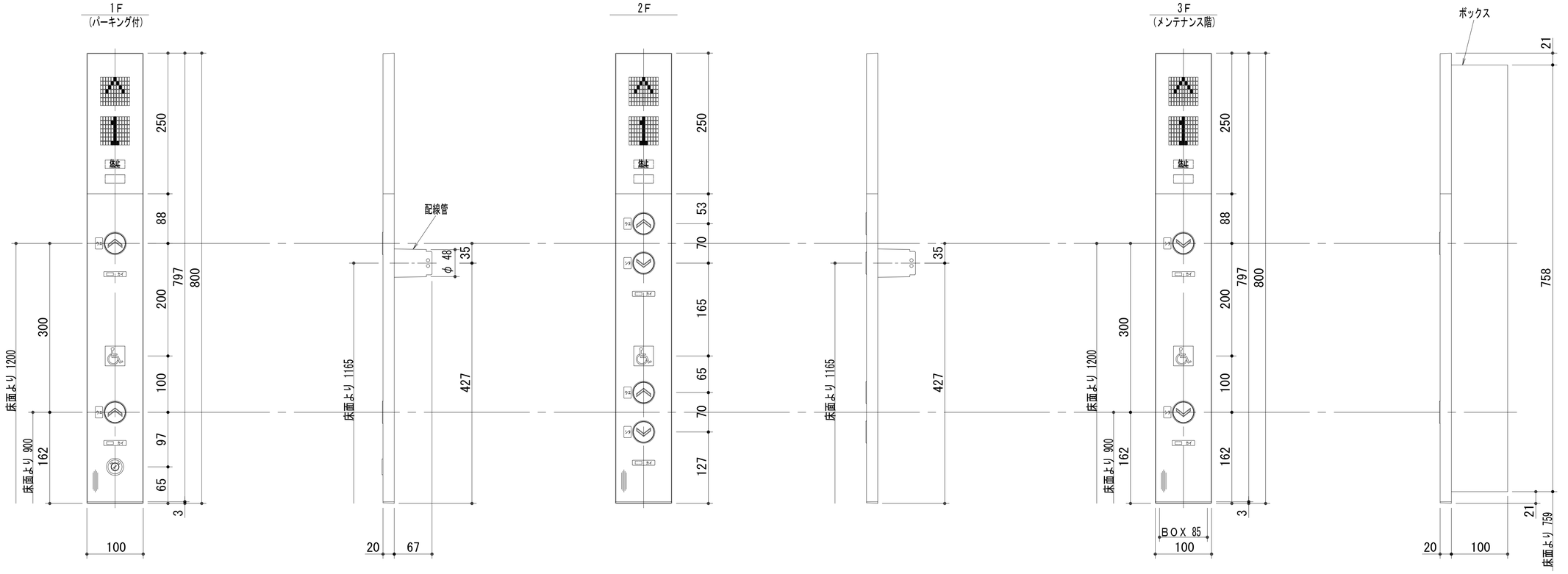
1 : 20



断面図

1 : 20

千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7年 10 月 日 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 特記事項	設計年月日 令和 年 月 日 特記事項	図面名 昇降機設備図（４）（参考図）	縮尺 A1 1:20 A3 1:40	図面番号 EV-04



乗場インジケータボタン

階床名	1F
プレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
下プレート	樹脂製（黒色）
表示部	樹脂製（スモーク）
方向灯	点灯時［アンバー色］，［LED、ドット式］
位置灯	点灯時［アンバー色］，［LEDデジタル、ドット式］
表示灯	点灯時（赤色），［LED］
呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），矢印（乳白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、矢印点灯］，［LED］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
パーキング スイッチ	キースイッチ
点字銘板	ステンレス製

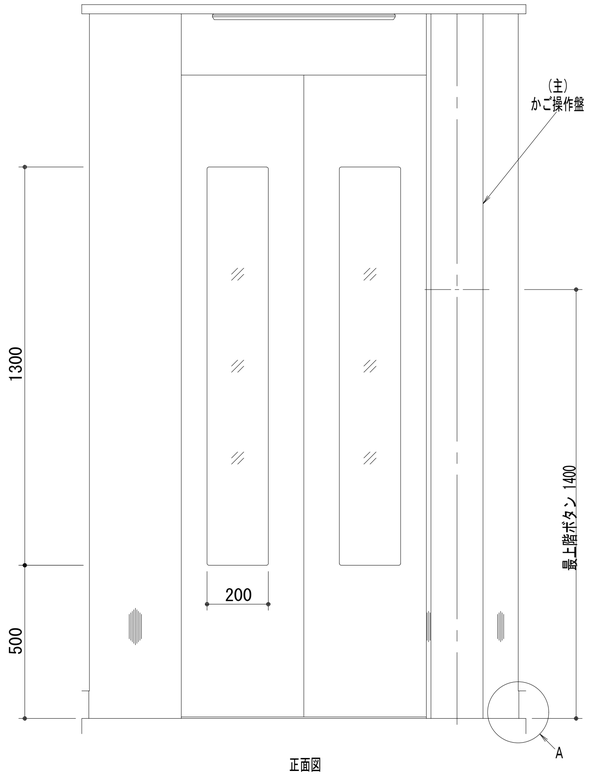
階床名	2F
プレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
下プレート	樹脂製（黒色）
表示部	樹脂製（スモーク）
方向灯	点灯時［アンバー色］，［LED、ドット式］
位置灯	点灯時［アンバー色］，［LEDデジタル、ドット式］
表示灯	点灯時（赤色），［LED］
呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），矢印（乳白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、矢印点灯］，［LED］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
点字銘板	ステンレス製

階床名	3F
プレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
下プレート	樹脂製（黒色）
表示部	樹脂製（スモーク）
方向灯	点灯時［アンバー色］，［LED、ドット式］
位置灯	点灯時［アンバー色］，［LEDデジタル、ドット式］
表示灯	点灯時（赤色），［LED］
呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），矢印（乳白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、矢印点灯］，［LED］
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
点字銘板	ステンレス製

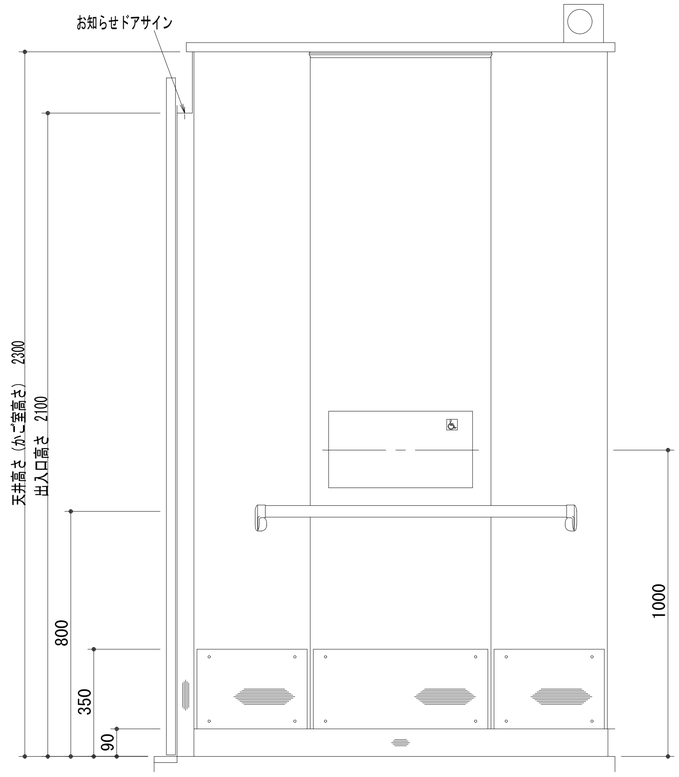
千葉市都市局建築部営繕課

工事名
千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

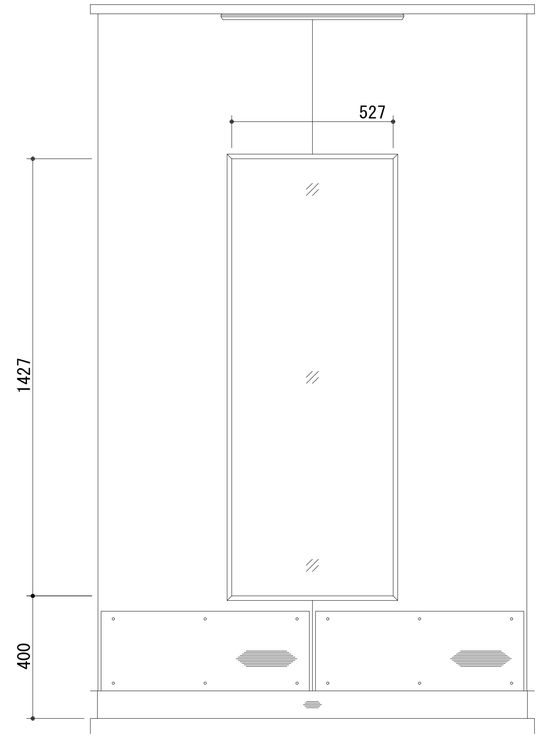
設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	昇降機設備図（５）（参考図）	縮尺	A1	1:4	図面番号	EV-05
特記事項		特記事項		特記事項					A3	1:8		



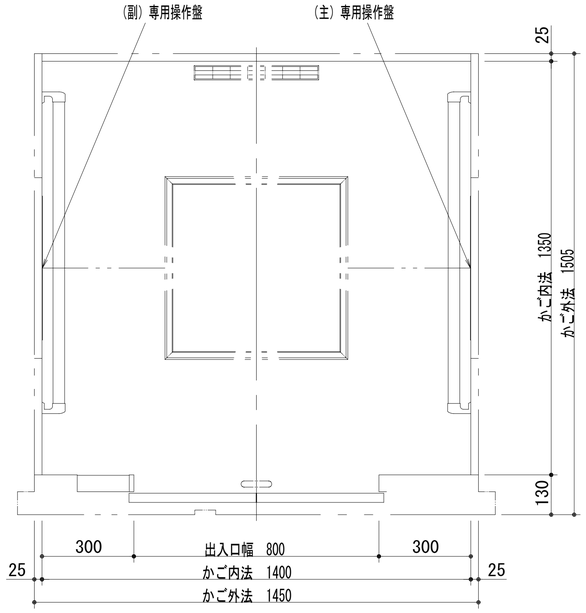
正面図



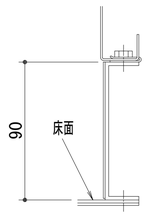
側面図



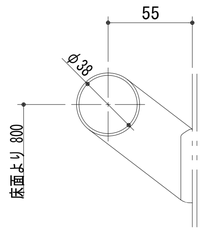
背面図



平面図



A部詳細
(1/2) [1/4]



手摺詳細
(1/2) [1/4]

天井	[照明部] 導光板ＬＥＤ昼光色照明 [天井面] 化粧鋼板
照明	ＬＥＤ
停電灯	ＬＥＤ（兼用）
出入口柱	ステンレス製ヘアライン仕上
リターンパネル	ステンレス製ヘアライン仕上
かご扉	化粧鋼板
防犯窓	網入ガラス（ｔ6．8）（ＪＩＳ　Ｒ3204）とフロートガラス（ｔ3．0）（ＪＩＳ　Ｒ3202）を合わせたもの・大窓［ドア面と面一］
側板	化粧鋼板
幕板	化粧鋼板
幅木	ステンレス製ヘアライン仕上
床	非塩ビ系タイル（ｔ2）
敷居	硬質アルミ製
換気方式	横流ファン
鏡	ステンレス
手摺	ステンレス製　端部：亜鉛ダイカストニッケルメッキサンドブラスト仕上
荷摺	ステンレス製ヘアライン仕上（ｔ1．5）
お知らせドアサイン	樹脂製（乳白色），点灯時（赤色点滅）
備考	・イオン発生器付 ・２Ｄ多光軸ドアセフティ付 ・機械式ドアセフティ（両側）付 ・お知らせドアセンサー付 ・お知らせドアビーム付 ・ＢＧＭスピーカー付 ・音声案内装置付

NO.1
かご室意匠図

千葉市都市局建築部営繕課

工事名
千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

設計年月日	令和　7年　10 月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日
特記事項		特記事項		特記事項	

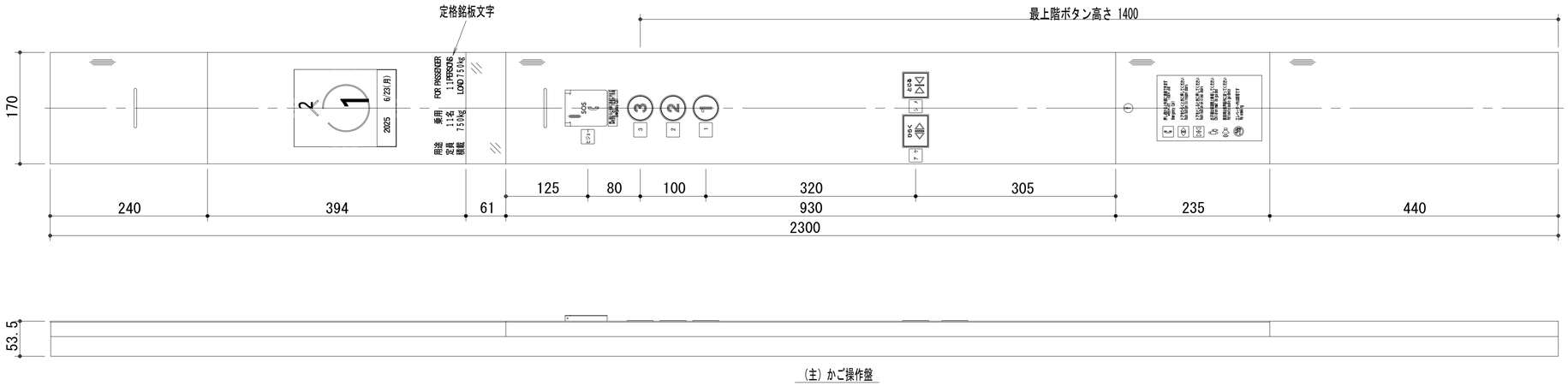
図面名：昇降機設備図（６）（参考図）

縮尺：A1 1:10 / A3 1:20

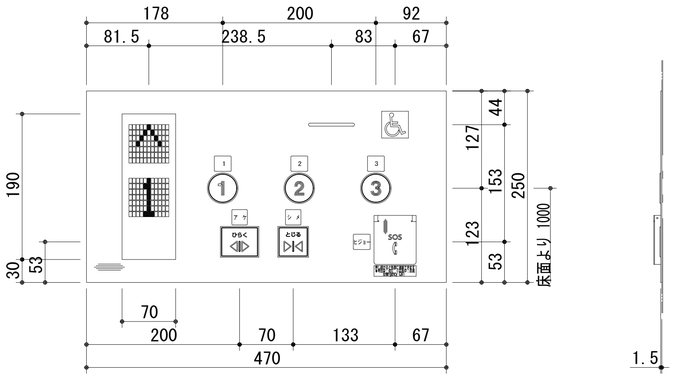
図番号：EV-06

（主）かご操作盤	
表示部	樹脂製（スモーク）、液晶式
定格文字	文字（白色）
連絡装置	インターホン（同時通話式）
非常呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製（赤色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点滅］ 呼出中［絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
非常呼ボタンガード	ステンレス製ヘアライン仕上（縦方向ヘアライン），絵文字（赤色）
非常呼ボタン銘板	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
行先階ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），文字（乳白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、文字点灯］，［ＬＥＤ］
戸開ボタン	抗菌仕様 樹脂製（緑色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
戸閉ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
点字銘板	ステンレス製
上部プレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
ハーフミラープレート	広角ミラー　樹脂鏡面仕上
操作プレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
スイッチボックスプレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
説明文	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
下部プレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）
（主・副）専用操作盤	
表示部	樹脂製（スモーク）
方向灯	点灯時（アンバー色），［ＬＥＤ、ドット式］
位置灯	点灯時（アンバー色），［ＬＥＤデジタル、ドット式］
連絡装置	インターホン（同時通話式）　※（主）側のみ
非常呼ボタン	抗菌仕様 樹脂製（赤色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点滅］ 呼出中［絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
非常呼ボタンガード	ステンレス製ヘアライン仕上（縦方向ヘアライン），絵文字（赤色）
非常呼ボタン銘板	銘板貼付，地色（銀色）、文字（黒色）
戸開ボタン	抗菌仕様 樹脂製（緑色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
戸閉ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），絵文字（乳白色），文字（白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、絵文字点灯］，［ＬＥＤ］
行先階ボタン	抗菌仕様 樹脂製（黒色），文字（乳白色），枠（白色） 応答時［アンバー色、文字点灯］，［ＬＥＤ］
点字銘板	ステンレス製
シンボルマーク	銘板貼付　地色（青色），絵文字（銀色）
フェースプレート	ステンレス製ヘアライン仕上（長手方向ヘアライン）

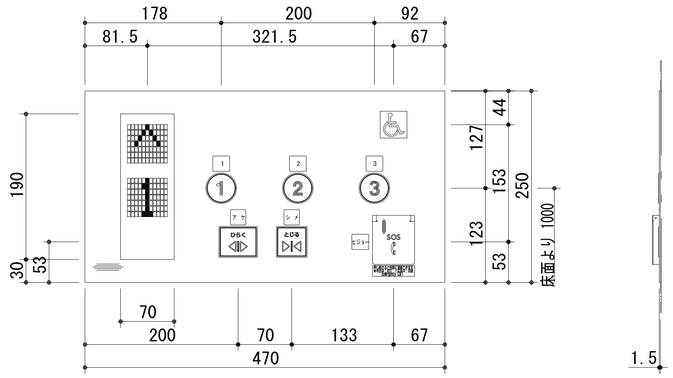
1. 実際の版下文字とは、図形文字の為若干異なる。
2. 文字詳細は、文字書体集での確認による。



（主）かご操作盤



（主）専用操作盤

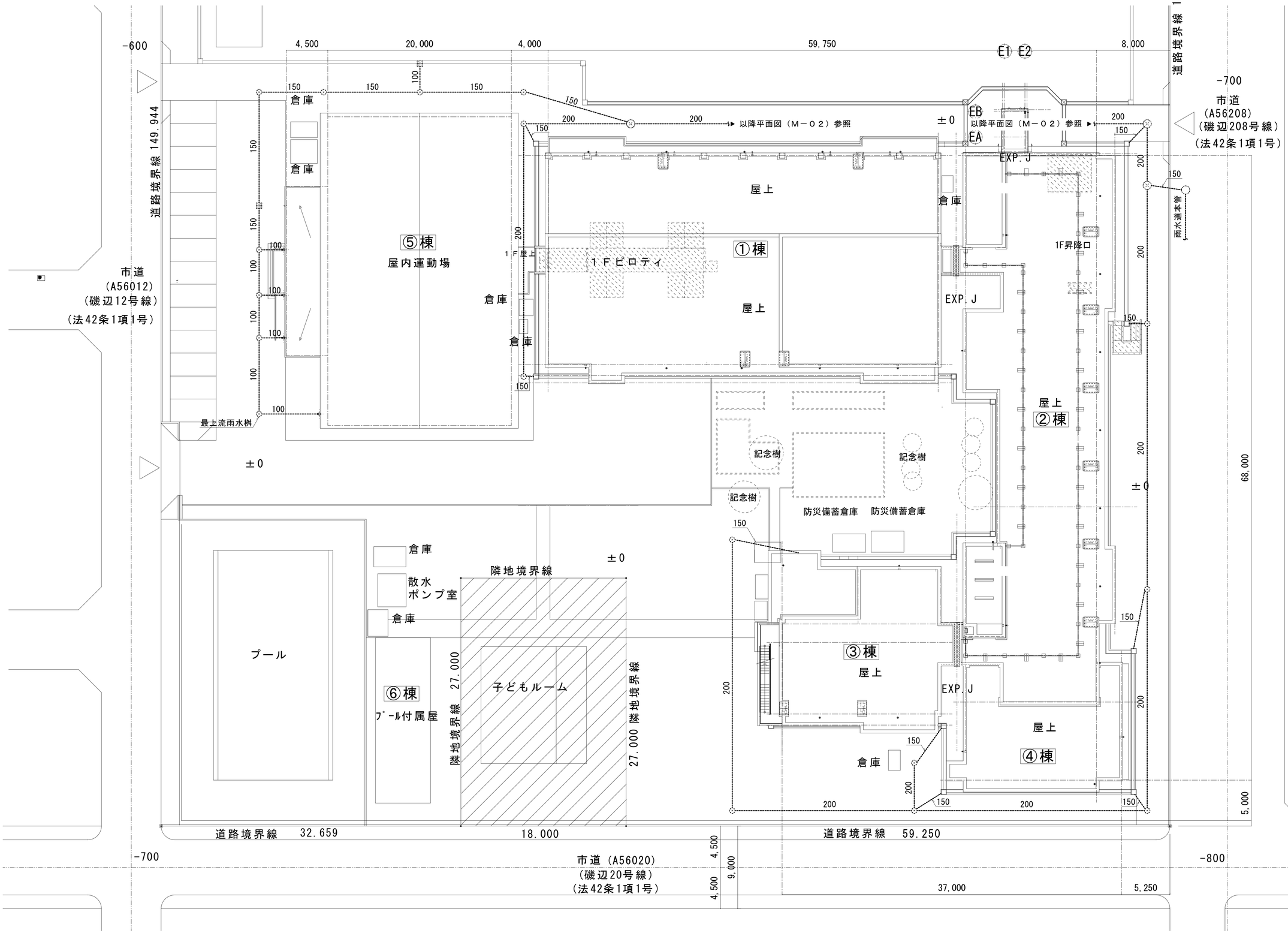


（副）専用操作盤

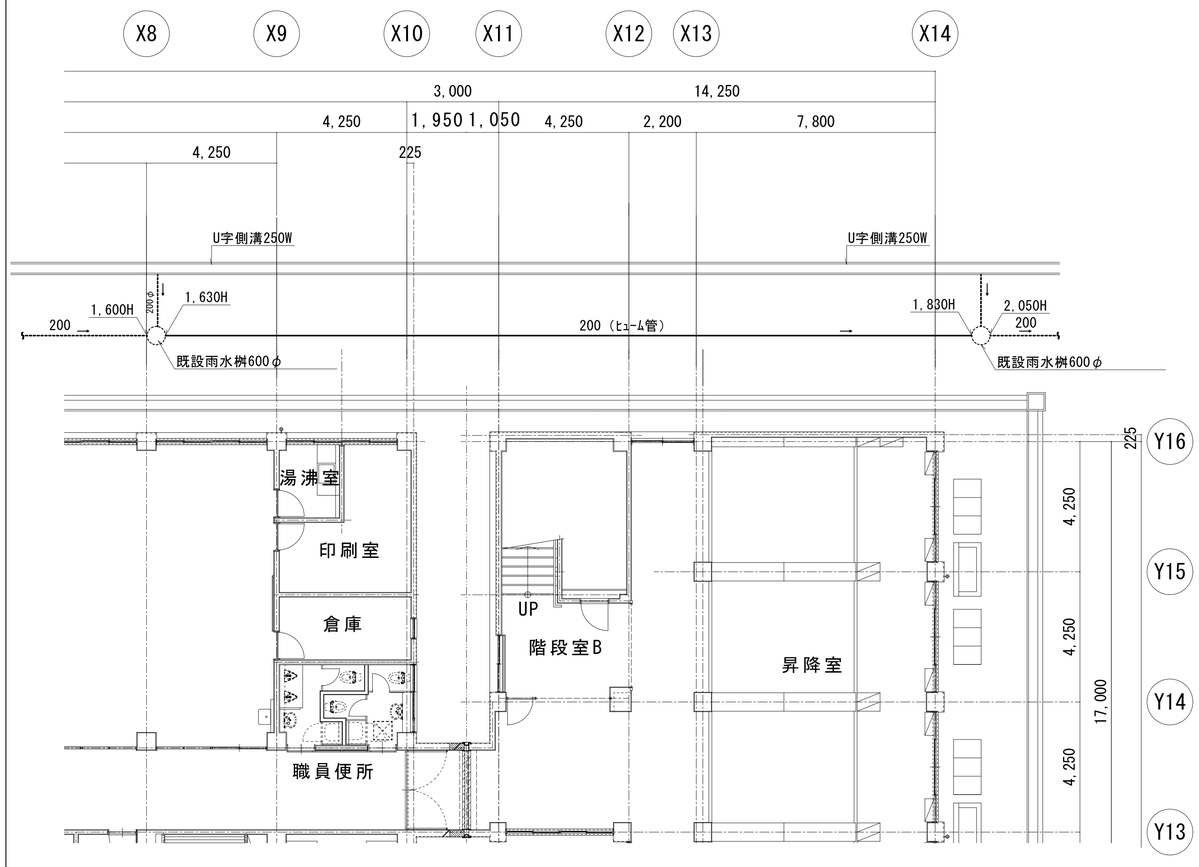
用途　乗用　FOR PASSENGER
定員　11名　11PERSONS
積載　750kg　LOAD750kg

定格銘板文字

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日	図面名	昇降機設備図（７）（参考図）	縮尺	A1 1:4 A3 1:8	図番号	EV-07
			特記事項		特記事項		特記事項							



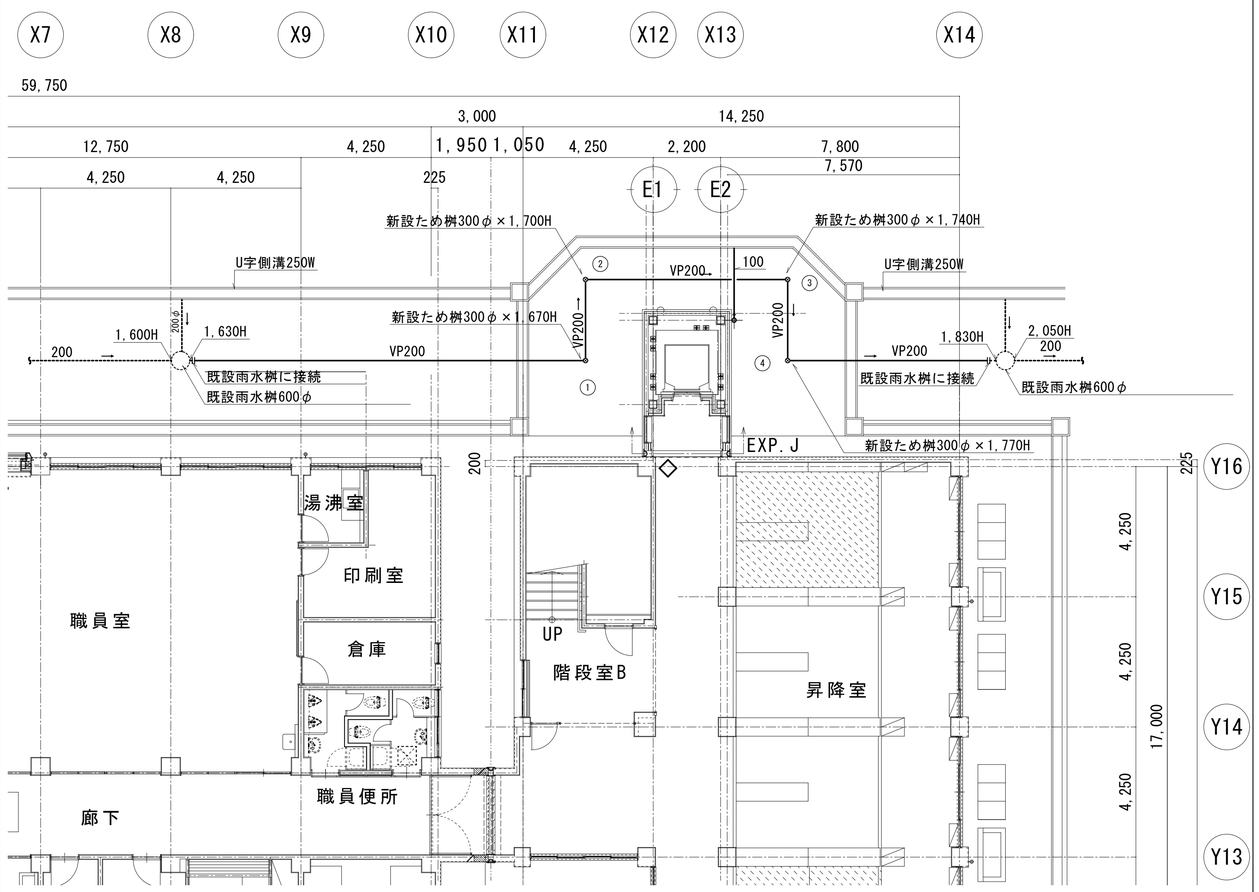
千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日	図面名	雨水排水設備 配置図	縮尺	A1 1/200 A3 1/400	図番号	M－01
		特記事項		特記事項		特記事項							



【 凡 例 】

----------	既存配管
————	撤去配管

特記事項
・土工事：本工事
・アスファルトカッター入れ、舗装壊し：建築工事

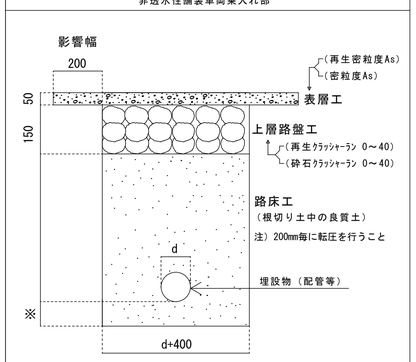


【 凡 例 】

----------	既存配管
————	新設配管

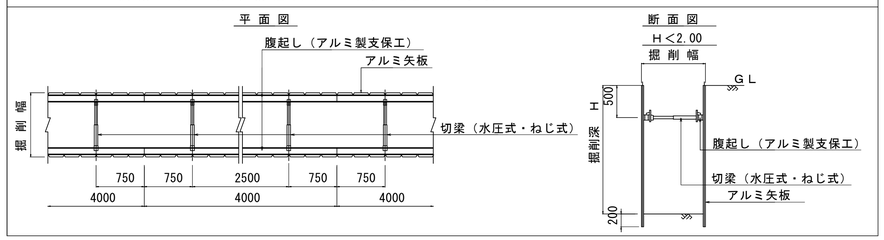
特記事項
・土工事：本工事（開削土留め工法）
・アスファルトカッター入れ、舗装壊し：建築工事

構内アスファルト舗装
非透水性舗装車両乗入れ部



※排水管を埋設時、口径300mmを超える場合は管下端より150mm
口径300mm以下の場合は管下端より100mm深く根切りをし、
根切り土中の良質土で埋戻し及び突き固めた後、管を布設する

開削土留工標準構造図（アルミ矢板 建込工法） 参考図 S=N.S



桝リスト

No.	種類	寸法	泥溜り (mm)	管底深さ (mm)	設計GL- (mm)	設計地盤 (mm)	蓋仕様	備考
1	ため桝	300φ	150	1,670	-1670	±0	防護蓋（T-8）	SUS製バスケット付
2	ため桝	300φ	150	1,700	-1,700	±0	防護蓋（T-8）	SUS製バスケット付
3	ため桝	300φ	150	1,740	-1,740	±0	防護蓋（T-8）	SUS製バスケット付
4	ため桝	300φ	150	1,770	-1,770	±0	防護蓋（T-8）	SUS製バスケット付

特記事項：バスケット取出し用フックを引き渡し時に納入する事。

千葉市都市局建築部営繕課

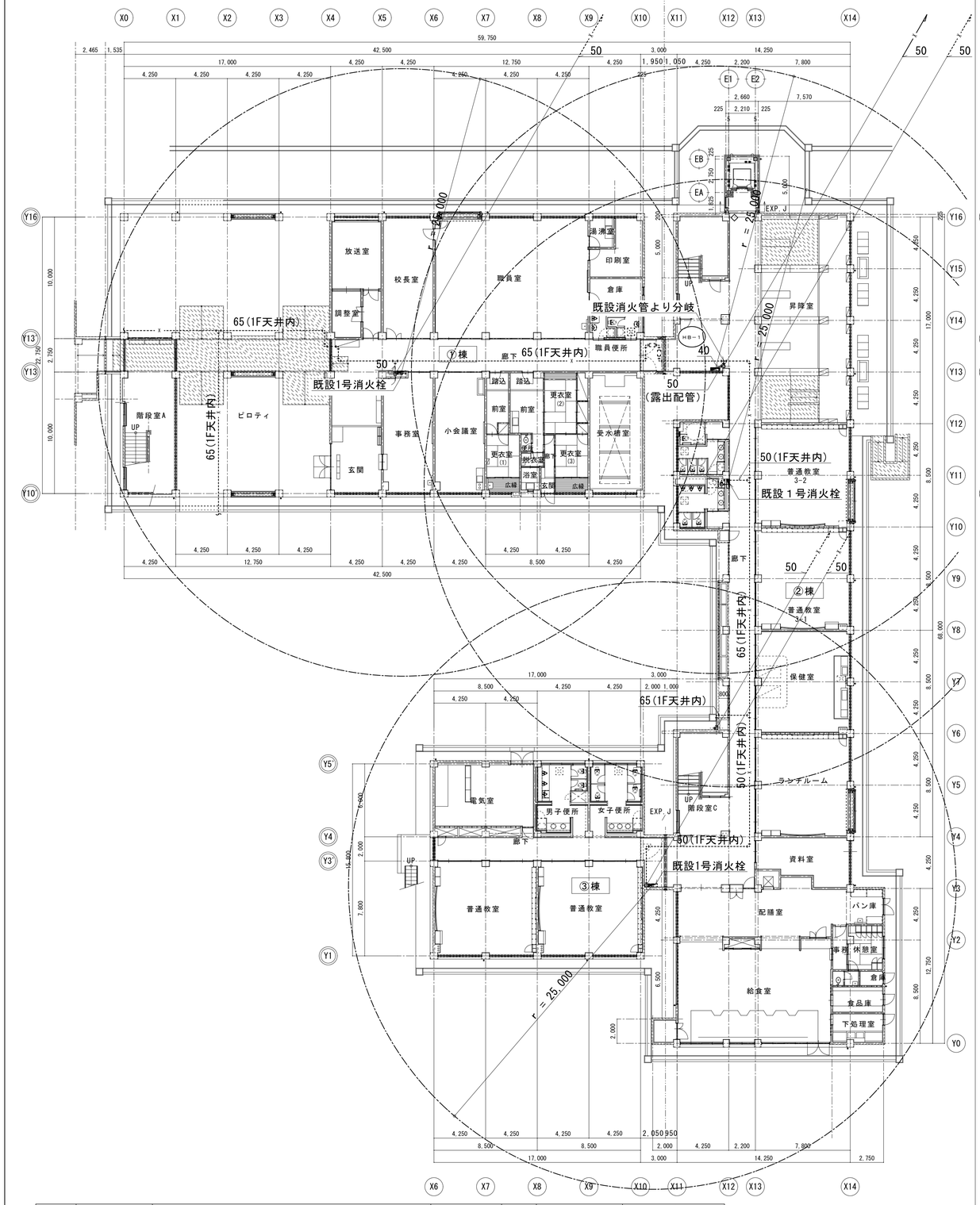
工事名
千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事

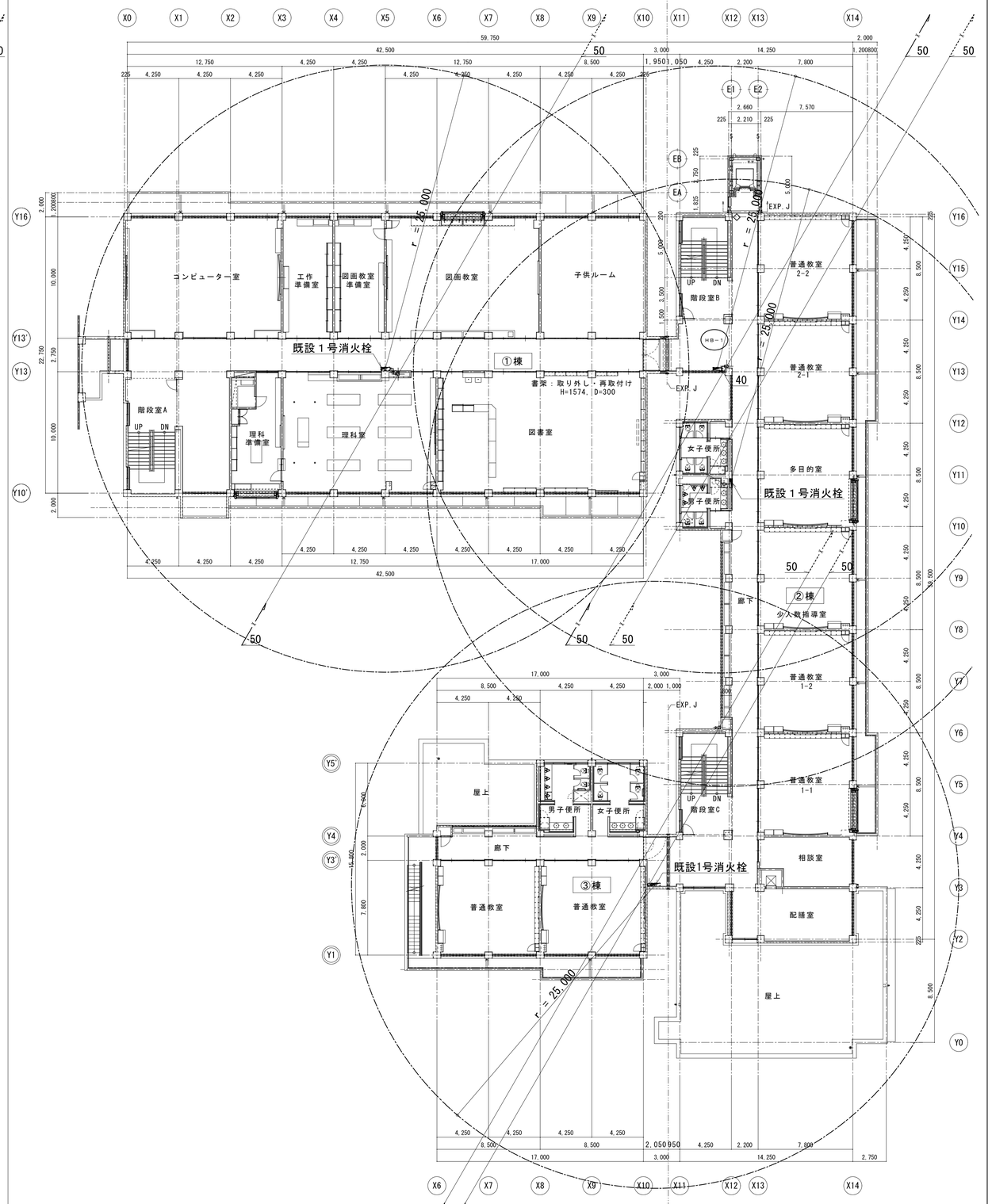
	設計年月日	令和 7年 10月 日	設計年月日	令和 年 月 日	設計年月日	令和 年 月 日
特記事項						

図面名：雨水排水設備
1階エレベーター廻り平面図（撤去・改修）
雑詳細図・桝リスト

縮尺 A1 1/100 A3 1/200

図番号 M－02





記号	機器名称	仕様	電源 φ×V	電源 W・KW	台数	設置場所	備考
HB-1	屋内消火栓箱	易操作性1号消火栓　総合盤（表示灯付、発信機、ベル）併設型　露出型			3	1～3階廊下	総合盤は電気工事
		形状：750W×180D×1300H　保形ホース：30m　バルブ：30A					
		噴霧ノズル：30A　コーナーガード、床置架台、他一式					
		腰壁より転倒防止支持をとる					

1 階 平 面 図

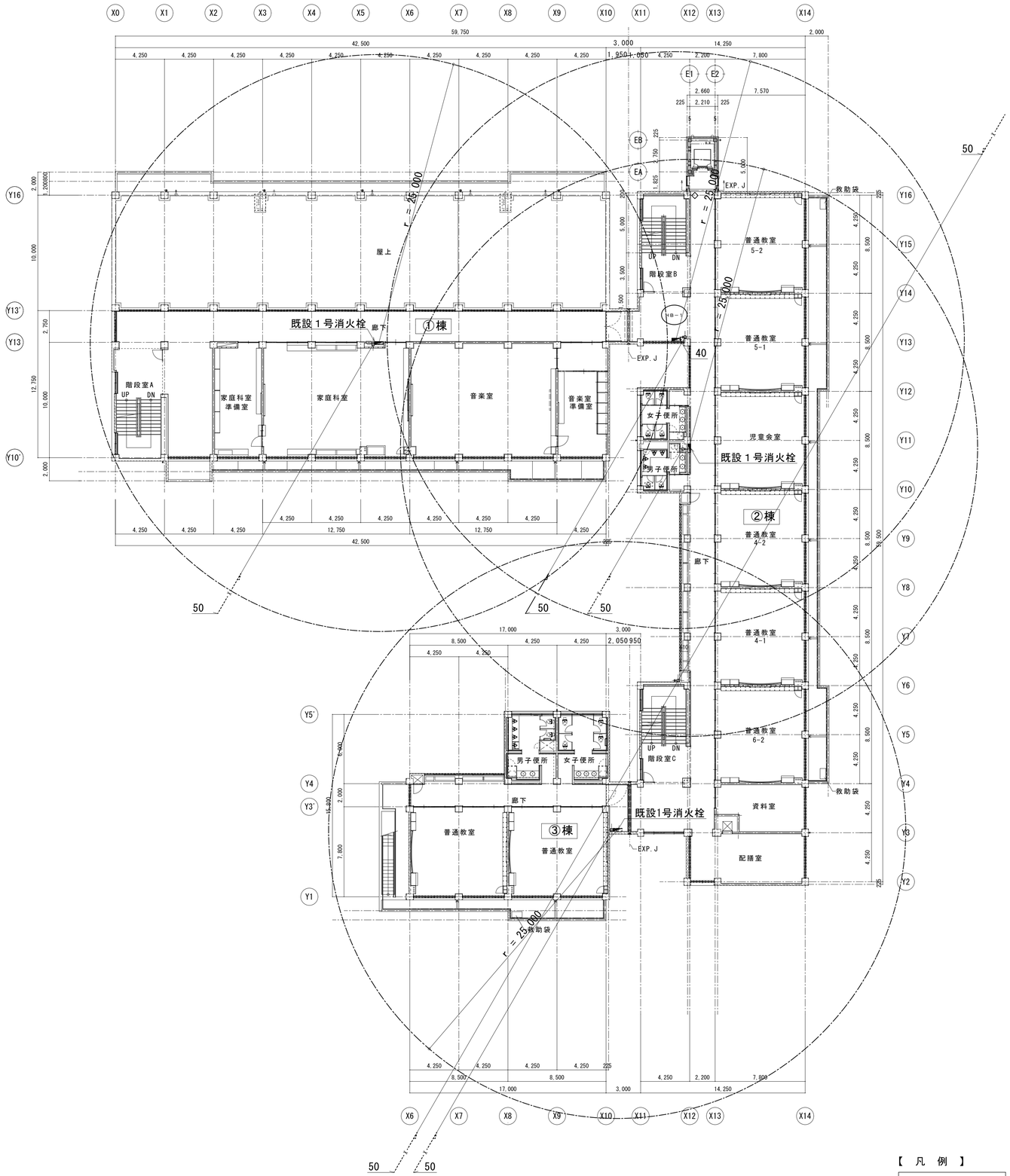
【 凡 例 】

---------- 既存配管

——— 新設配管

2 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	設計年月日	令和　年　月　日	設計年月日	令和　年　月　日
			特記事項		特記事項		特記事項	
			図面名	消火設備　1，2階平面図(改修)	縮尺	A1 1:200 / A3 1:400	図番号	M－03



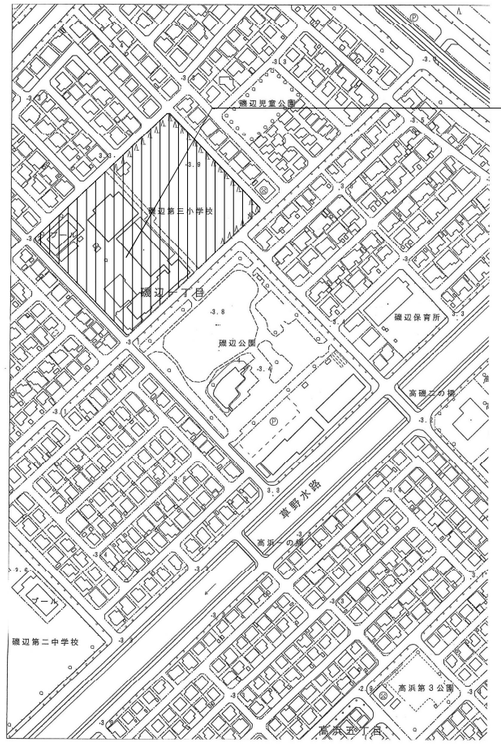
３ 階 平 面 図

【 凡 例 】

---------- 既存配管

——— 新設配管

| | | |



千葉市立磯辺第三小学校
千葉市美浜区磯辺１丁目２５番地１号

案内図　S=1:2500

工事概要

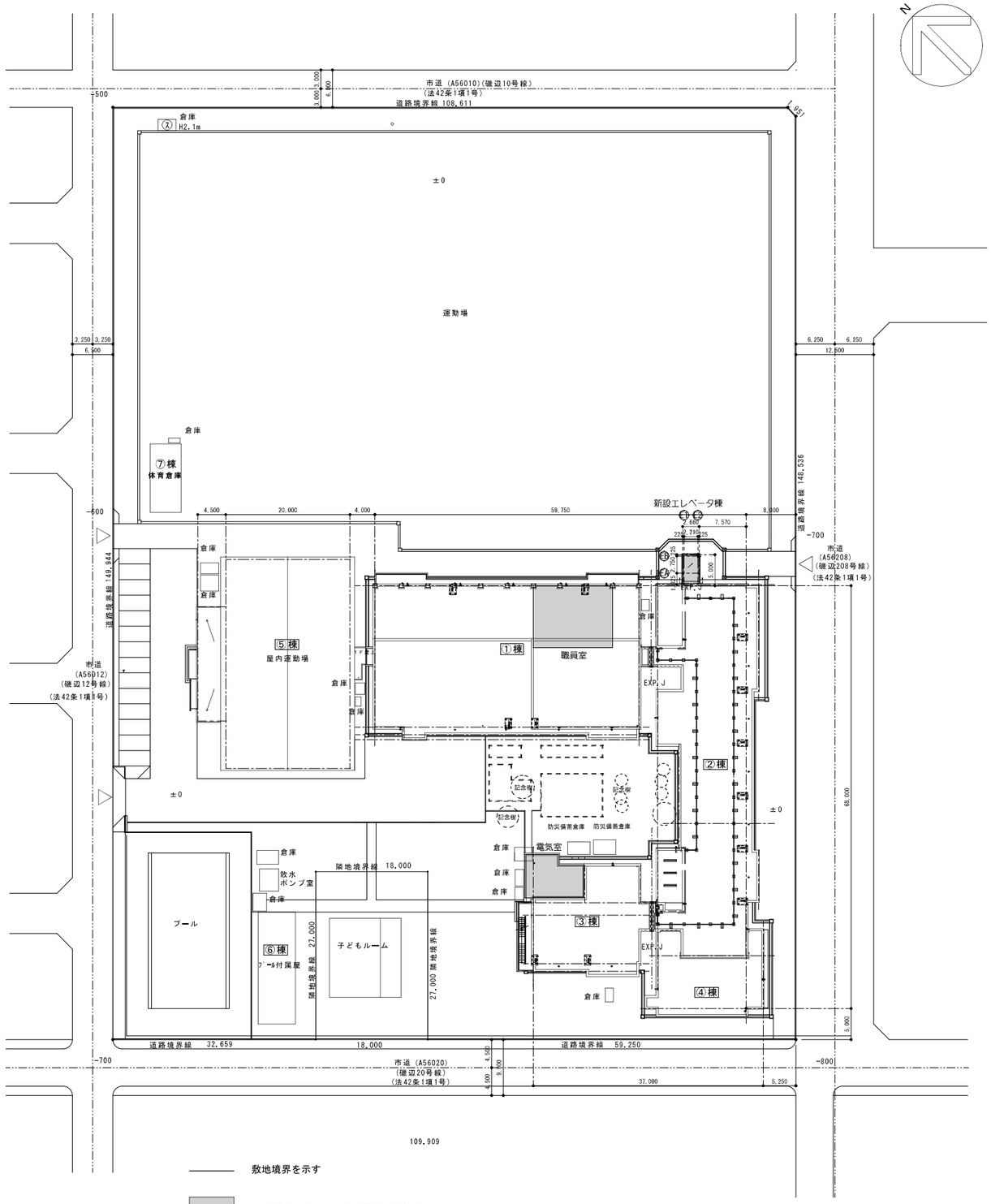
Ⅰ：エレベータ設置に伴う電気設備工事

Ⅱ：既存遡及対策

・誘導灯の既存不適格箇所是正（追加及び更新）

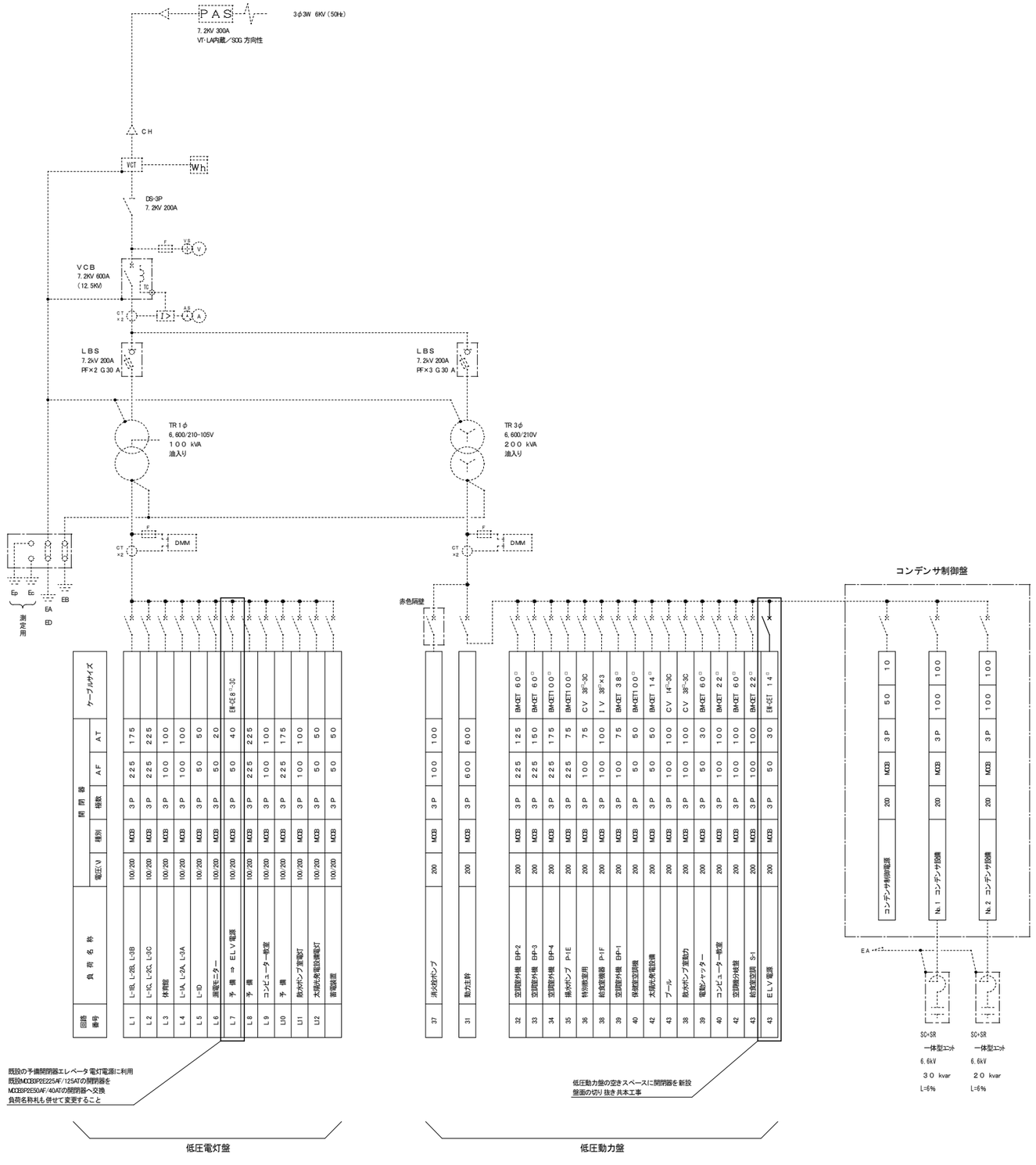
【エレベータ工事特記事項】

・エレベータシャフト内の制御盤取付位置
　点検コンセントの取付位置や数量等のレイアウト、
　及び各種配線の仕様については参考とし、
　選定されたエレベータメーカーの仕様に基づいた最適な施工を行うこと
・また、エレベータメーカーの仕様により、
　接地の打設工事が必要な場合は
　受注者の負担で行うこと



配置図　S=1:400

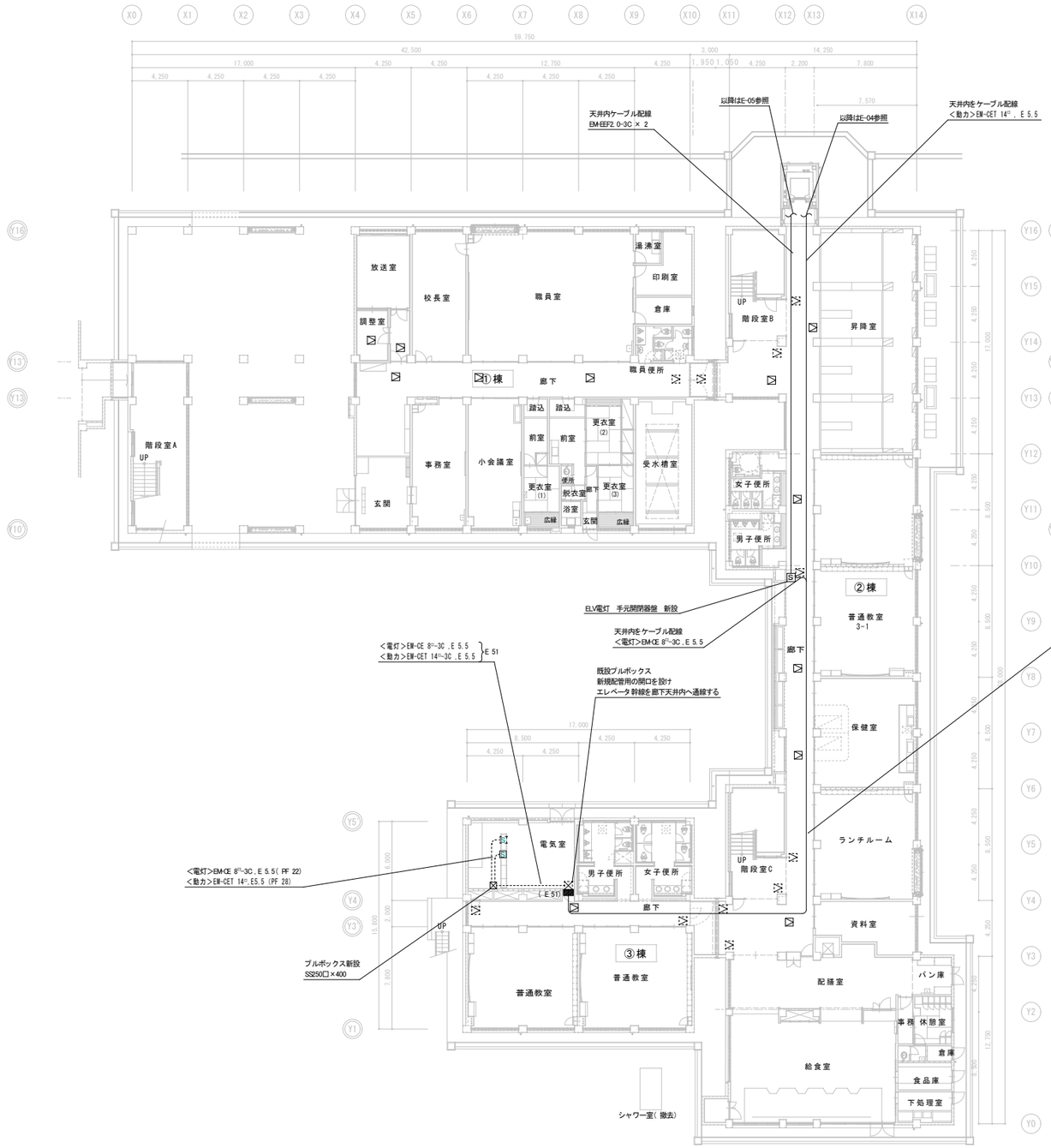
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	配置図・案内図	縮尺	A1 1/400、2,500 A3 1/800、5,000	図面番号	E-01
			特記事項		特記事項		特記事項							



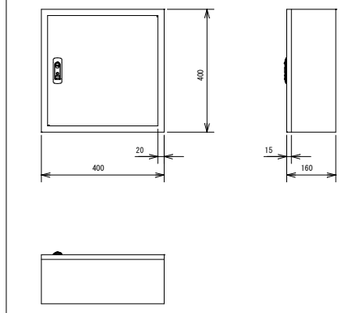
回路番号	負荷名称	開閉器 電圧V	種別	極数	AF	AT	ケーブルサイズ
L1	L-1B, L-2B, L-3B	100/200	MCCB	3P	225	175	
L2	L-1C, L-2C, L-3C	100/200	MCCB	3P	225	225	
L3	体育館	100/200	MCCB	3P	100	100	
L4	L-2A, L-3A	100/200	MCCB	3P	100	100	
L5	L-1D	100/200	MCCB	3P	50	50	
L6	漏電モニター	100/200	MCCB	3P	50	20	EM-CE8 2C-3C
L7	予 備 ⇒ ELV電源	100/200	MCCB	3P	50	40	EM-CE8 2C-3C
L8	予 備	100/200	MCCB	3P	225	225	
L9	コンピューター教室	100/200	MCCB	3P	100	100	
L10	予 備	100/200	MCCB	3P	225	175	
L11	散水ポンプ運転灯	100/200	MCCB	3P	100	100	
L12	太陽熱発電設備電灯	100/200	MCCB	3P	50	50	
	警報装置	100/200	MCCB	3P	50	50	
37	消火栓ポンプ	200	MCCB	3P	100	100	
31	動力圧幹	200	MCCB	3P	600	600	
32	空調室外機 EP-2	200	MCCB	3P	225	125	EM-CET 60 3
33	空調室外機 EP-3	200	MCCB	3P	225	150	EM-CET 60 3
34	空調室外機 EP-4	200	MCCB	3P	225	175	EM-CET 100 3
35	揚水ポンプ P-1E	200	MCCB	3P	225	75	EM-CET 100 3
36	特別教室用 P-1F	200	MCCB	3P	100	75	CV 38 2C-3C
38	給食室機器 P-1F	200	MCCB	3P	100	100	1 V 38 2C×3
39	空調室外機 EP-1	200	MCCB	3P	100	75	EM-CET 38 3
40	保健室空調機	200	MCCB	3P	50	50	EM-CET 100 3
42	太陽熱発電設備	200	MCCB	3P	50	50	EM-CET 14 2C
43	プール	200	MCCB	3P	100	100	CV 14 2C-3C
38	散水ポンプ運動力	200	MCCB	3P	100	100	CV 38 2C-3C
39	電動ヤッター	200	MCCB	3P	50	30	EM-CET 60 3
40	コンピューター教室	200	MCCB	3P	100	100	EM-CET 22 3
42	空調機の付属	200	MCCB	3P	100	100	EM-CET 60 3
43	給食室空調 S-1	200	MCCB	3P	100	100	EM-CET 22 3
43	ELV電源	200	MCCB	3P	50	30	EM-CET 14 2
	コンデンサ制御電源	200	MCCB	3P	50	10	
	No.1 コンデンサ設備	200	MCCB	3P	100	100	
	No.2 コンデンサ設備	200	MCCB	3P	100	100	

単線結線図

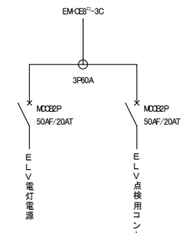
千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 7年 10月 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図面名	受変電設備改修図
		特記事項		特記事項		特記事項		縮尺	A1 no-scale / A3 no-scale
								図面番号	E-02



ＥＬＶ電灯　手元開閉器盤　　鋼板製　屋内壁掛け型



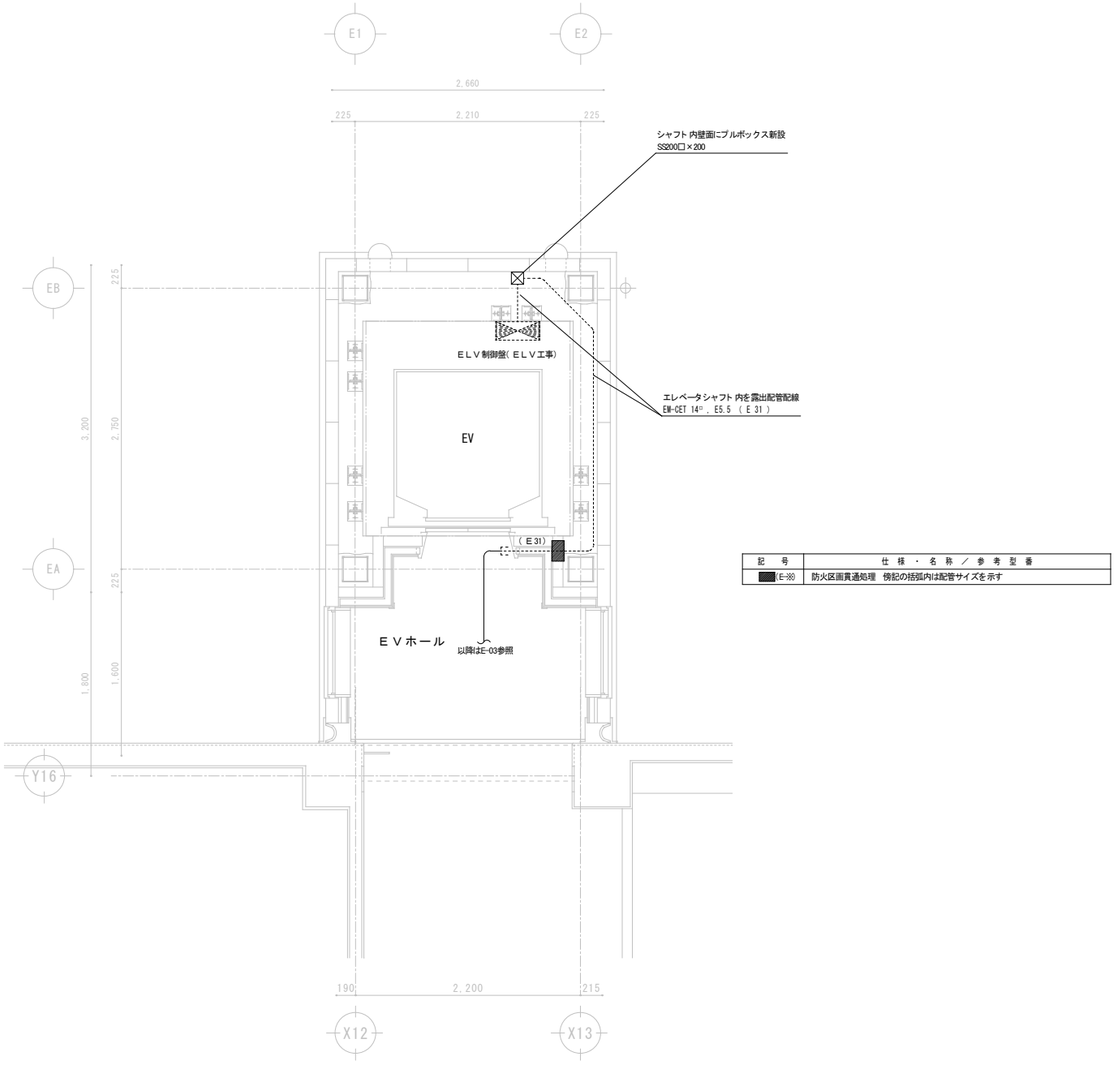
※寸法は参考値



記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
(E ※)	防火区画貫通処理　傍記の括弧内は配管サイズを示す
	新設点検口（建築工事）
	既設点検口

1 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	幹線設備　1 階平面図	縮尺 A1 1/200 / A3 1/400	図面番号	E-03
			特記事項		特記事項		特記事項						

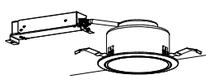


記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
■(E-xx)	防火区画貫通処理　傍記の括弧内は配管サイズを示す

1階平面詳細図　S=1:30

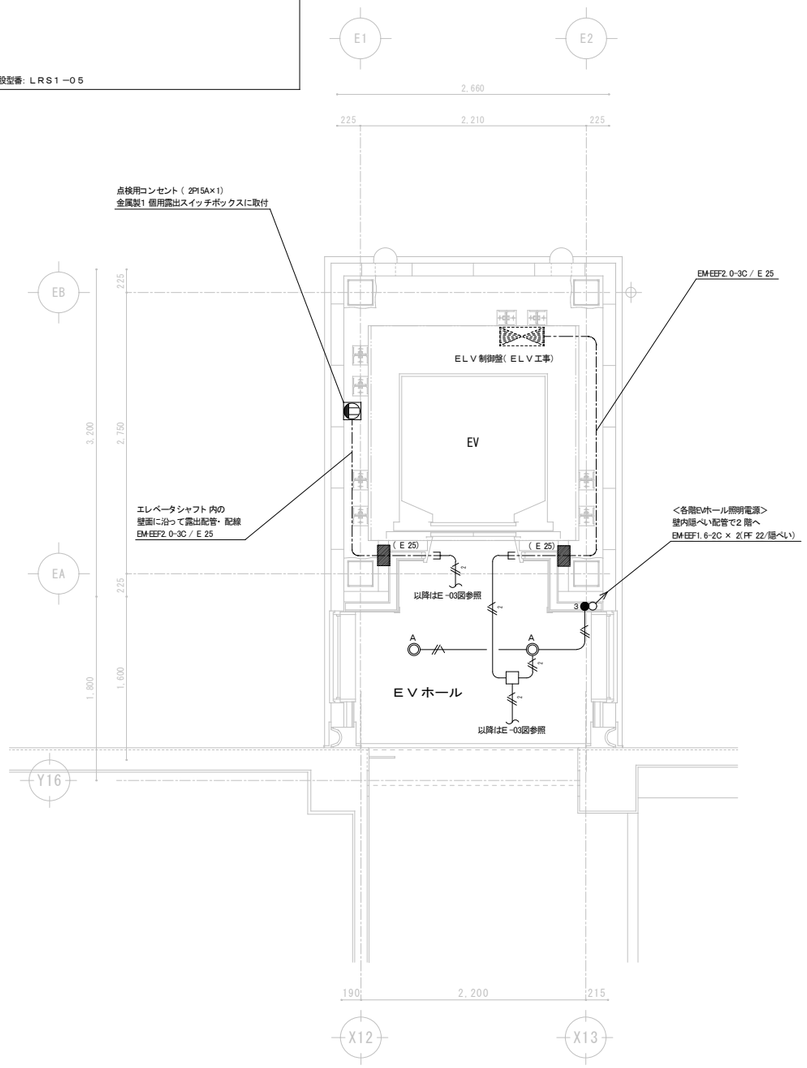
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	幹線設備　1階平面詳細図	縮尺	A1	1/30	図面番号	E-04
			特記事項		特記事項		特記事項					A3	1/60		

◎	ＬＥＤダウンライトＡ



公共施設型番：ＬＲＳ１－０５

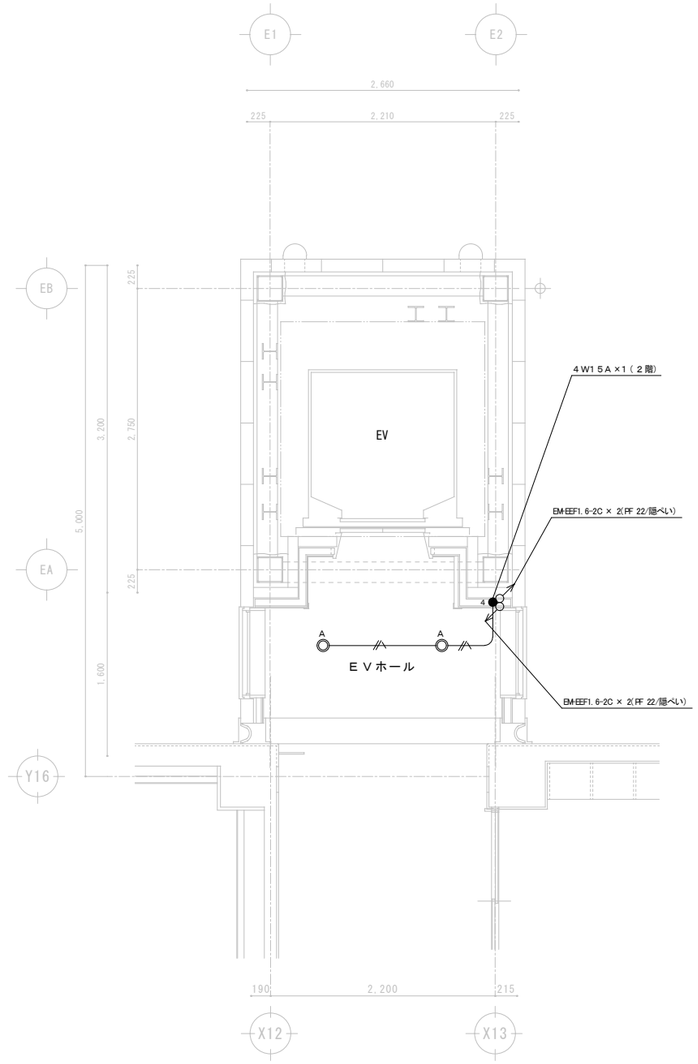
ＥＬＶホール	
LEDﾀﾞｳﾝﾗｲﾄA	２台



記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
特記等無き配管・配線は下記による。	
―//A―	ケーブル新設　ＥＭ－ＥＥＦ２．０－３Ｃ（天井内ケーブル配線）
―//A―	ケーブル新設　ＥＭ－ＥＥＦ１．６－３Ｃ（天井内ケーブル配線）
□	合成樹脂製アウトレットボックス　中四角　　天井内に取付
●3	３路スイッチ新設　３Ｗ１５ＡＸ１　埋埋込スイッチボックスに取付
●4	４路スイッチ新設　４Ｗ１５ＡＸ１　埋埋込スイッチボックスに取付
■(E-※)	防火区画貫通処理　傍記の括弧内は配管サイズを示す
・二重天井内はケーブル配線とし、間仕切り壁内等はＰＦ管にて保護すること	
・照明器具等で、３本以上のケーブルが集まり、接続、分岐等行う場合は	
ジャンクションボックス（アウトレットボックス）を設置すること。	
・配線器具取付箇所には位置ボックス等のボックスを取付けること。	

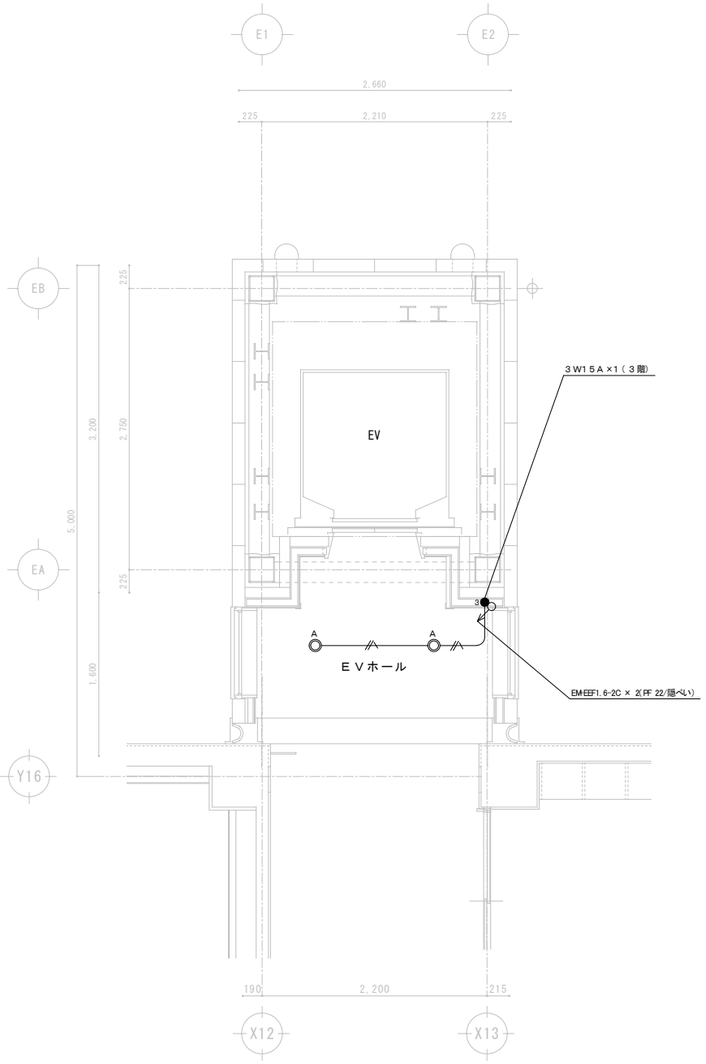
１階平面詳細図　S=1:30

ＥＬＶホール	
LEDﾀﾞｳﾝﾗｲﾄA	２台



２階平面詳細図　S=1:30

ＥＬＶホール	
LEDﾀﾞｳﾝﾗｲﾄA	２台



３階平面詳細図　S=1:30

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	電灯コンセント 設備 １～３ 階平面詳細図	縮尺	A1	1/30	図面番号	E-05
			特記事項		特記事項		特記事項					A3	1/60		

誘導灯更新(器具のみ)
既設　小型通路誘導灯片面矢印付
改修　B級通路誘導灯両面矢印付

誘導灯新設
B級通路誘導灯片面両矢印付

誘導灯更新(器具のみ)
既設　C級避難口誘導灯片面矢印なし
改修　B級避難口誘導灯片面矢印なし

誘導灯更新(器具のみ)
既設　C級避難口誘導灯両面矢印付
改修　B級通路誘導灯両面矢印付
また、新設誘導灯への電源分岐も行う

誘導灯新設
C級避難口誘導灯片面矢印なし

C級避難口誘導灯　取外し再取付
(既設誘導灯から電源分岐を行う)

誘導灯更新(器具のみ)
既設　C級避難口誘導灯片面矢印なし
改修　B級避難口誘導灯片面矢印なし

誘導灯更新(器具のみ)
既設　C級避難口誘導灯片面矢印なし
改修　B級避難口誘導灯片面矢印なし
また、新設誘導灯への電源分岐を行う

誘導灯新設
B級通路誘導灯両面矢印付

誘導灯新設
B級通路誘導灯片面両矢印

C級避難口誘導灯　取外し再取付
(既設誘導灯から電源分岐を行う)

誘導灯新設
B級通路誘導灯両面矢印付

更新	C級避難口誘導灯片面矢印なし



公共施設型番：SH1－FSF20－C

更新	B級避難口誘導灯片面矢印なし



公共施設型番：SH1－FSF20－BL

新設	通路誘導灯B級天井直付両面矢印付



公共施設型番：ST1－FSF23－BL

新設	通路誘導灯B級天井直付片面両矢印付



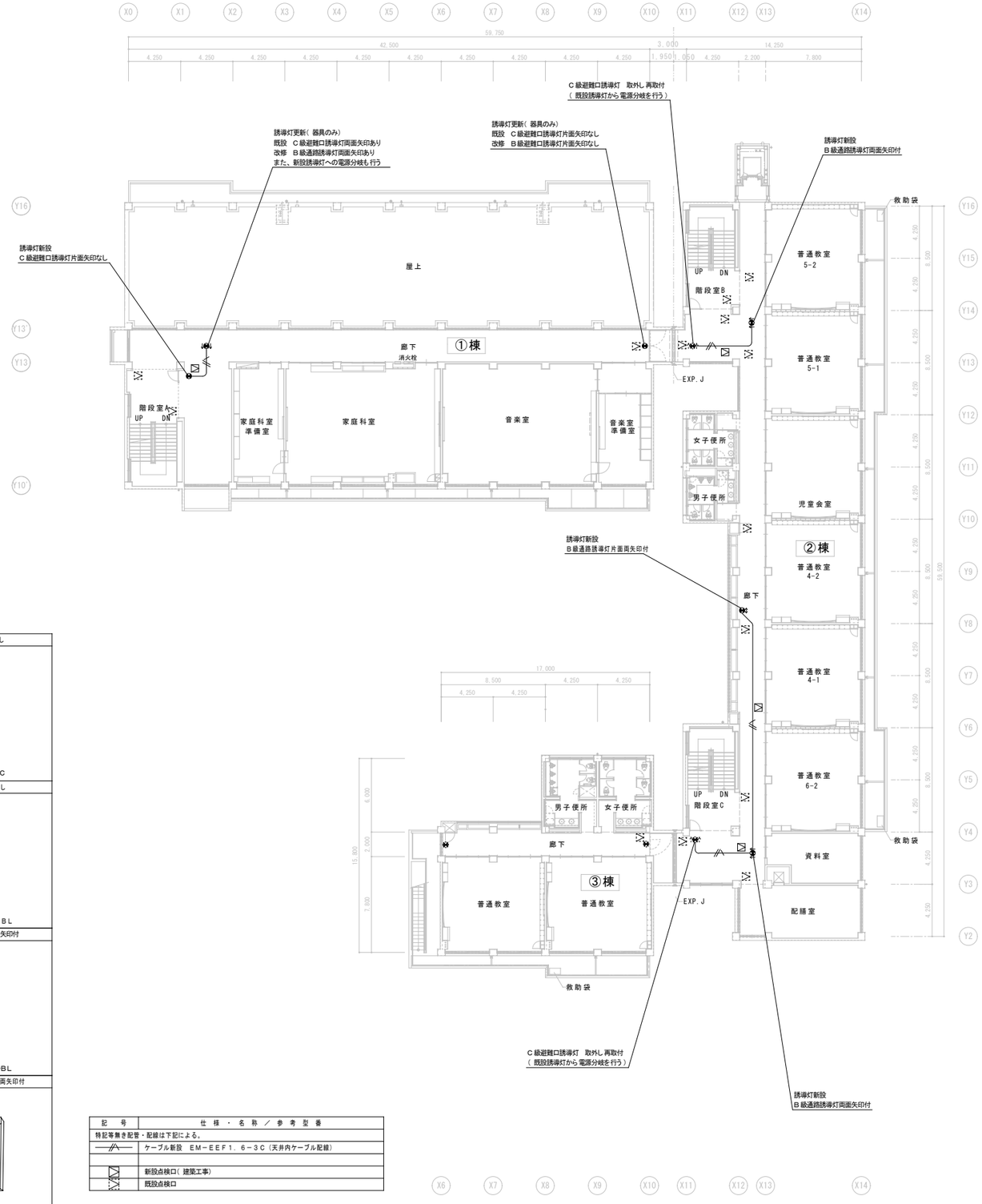
公共施設型番：ST1－FSF22－BL

記号	仕様・名称／参考型番
特記等無き配管・配線は下記による。	
―//―	ケーブル新設　EM－EEF1．6－3C（天井内ケーブル配線）
	新設点検口（建築工事）
	既設点検口

1 階 平 面 図

2 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	誘導灯　1 階2 階平面図	縮尺	A1	1/200	図面番号	E-06
			特記事項		特記事項		特記事項					A3	1/400		



更新	C級避難口誘導灯片面矢印なし



公共施設型番：ＳＨ１－ＦＳＦ２０－Ｃ

更新	B級避難口誘導灯片面矢印なし



公共施設型番：ＳＨ１－ＦＳＦ２０－ＢＬ

新設	通路誘導灯Ｂ級天井直付両面矢印付



公共施設型番：ＳＴ１－ＦＳＦ２３－ＢＬ

新設	通路誘導灯Ｂ級天井直付片面両矢印付

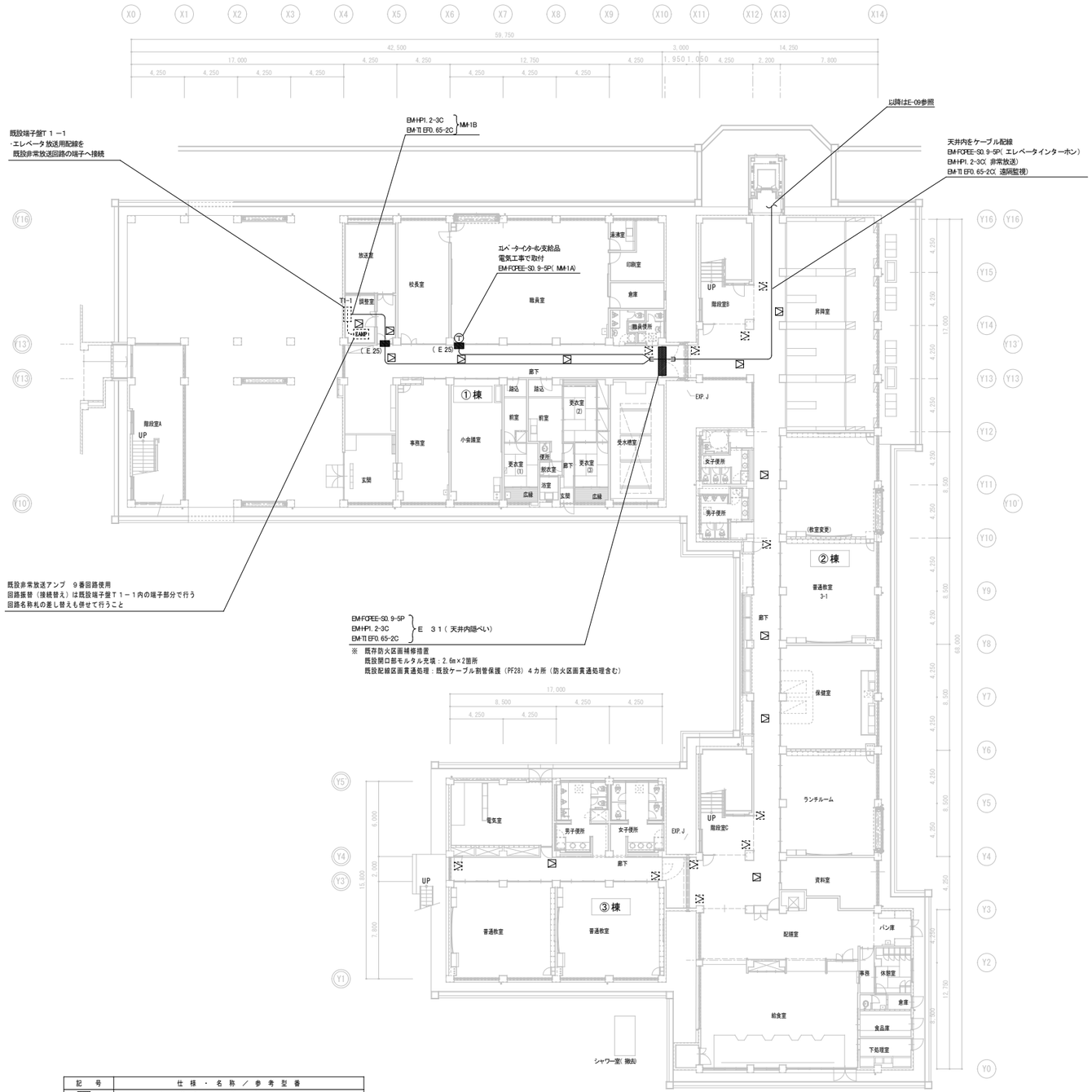


公共施設型番：ＳＴ１－ＦＳＦ２２－ＢＬ

記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
特記等無き配管・配線は下記による。	
——//——	ケーブル新設　ＥＭ－ＥＥＦ１．６－３Ｃ（天井内ケーブル配線）
	新設点検口（建築工事）
	既設点検口

３　階　平　面　図

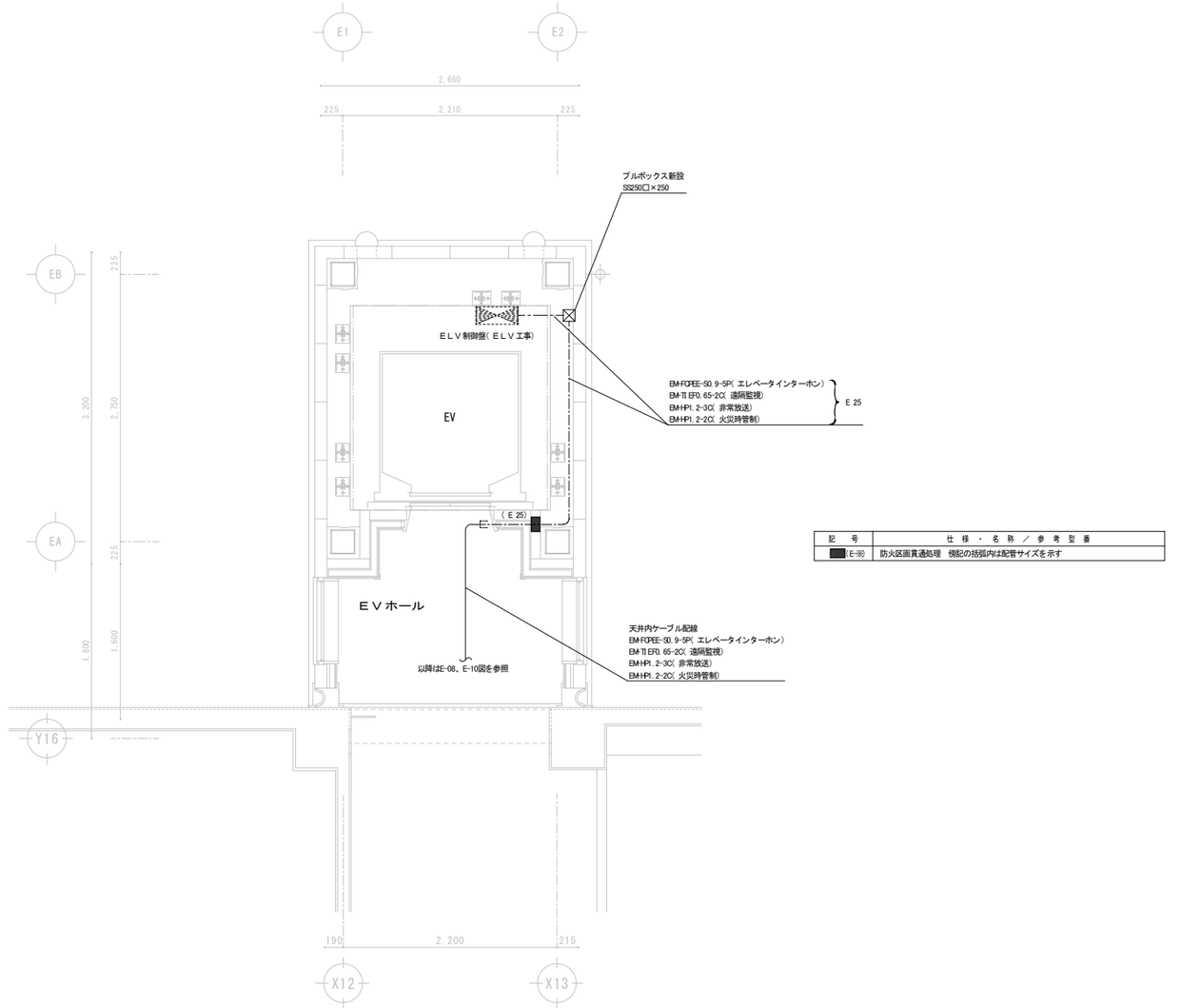
千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	誘導灯　３階平面図	縮尺	A1	1/200	図面番号	E-07
			特記事項		特記事項		特記事項					A3	1/400		



記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　製　番
(E 350)	防火区画貫通処理　傍記の括弧内は配管サイズを示す
	新設点検口（建築工事）
	既設点検口

1 階 平 面 図

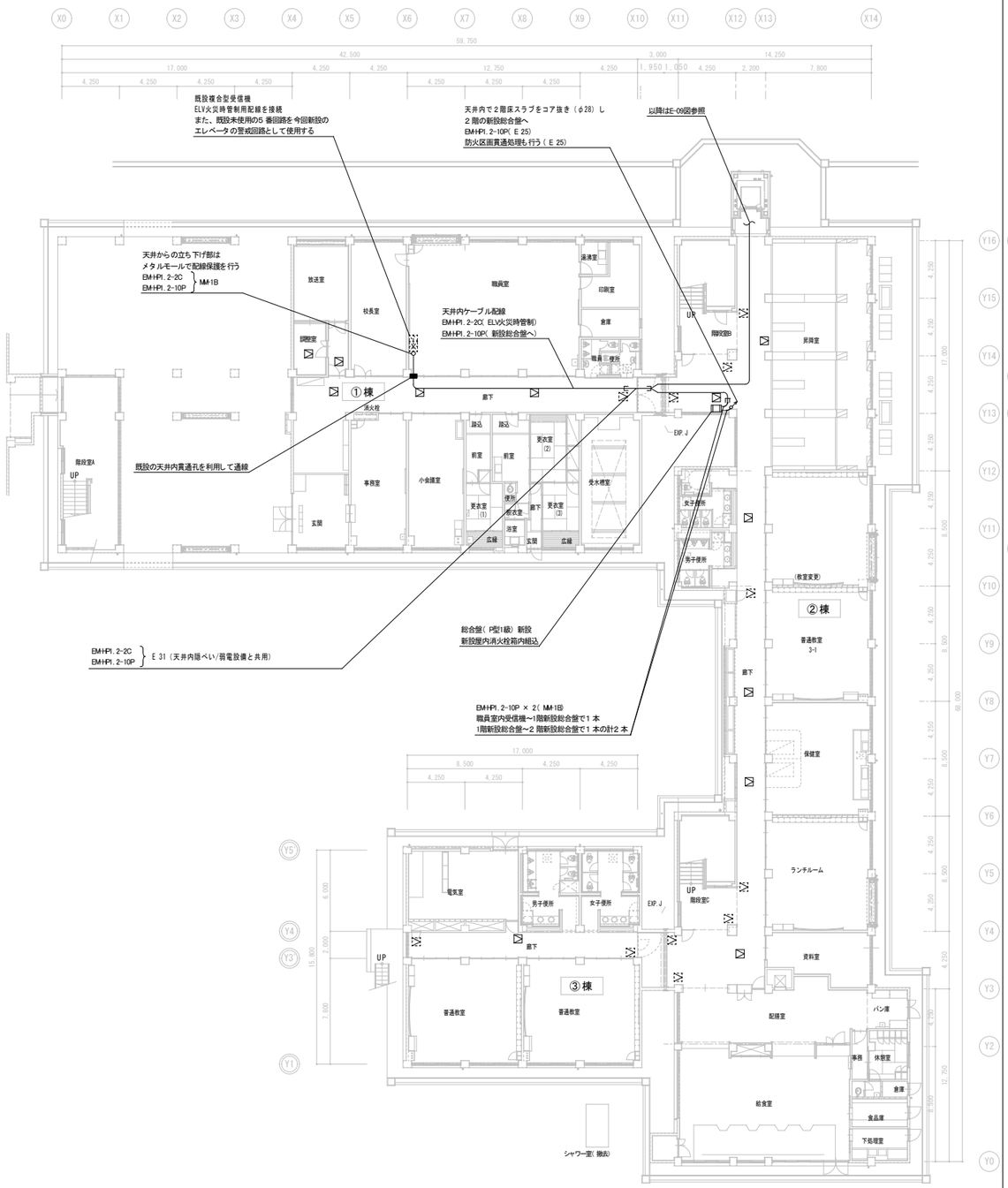
| | | |



記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
■(E-30)	防火区画貫通処理　傍記の括弧内は配管サイズを示す

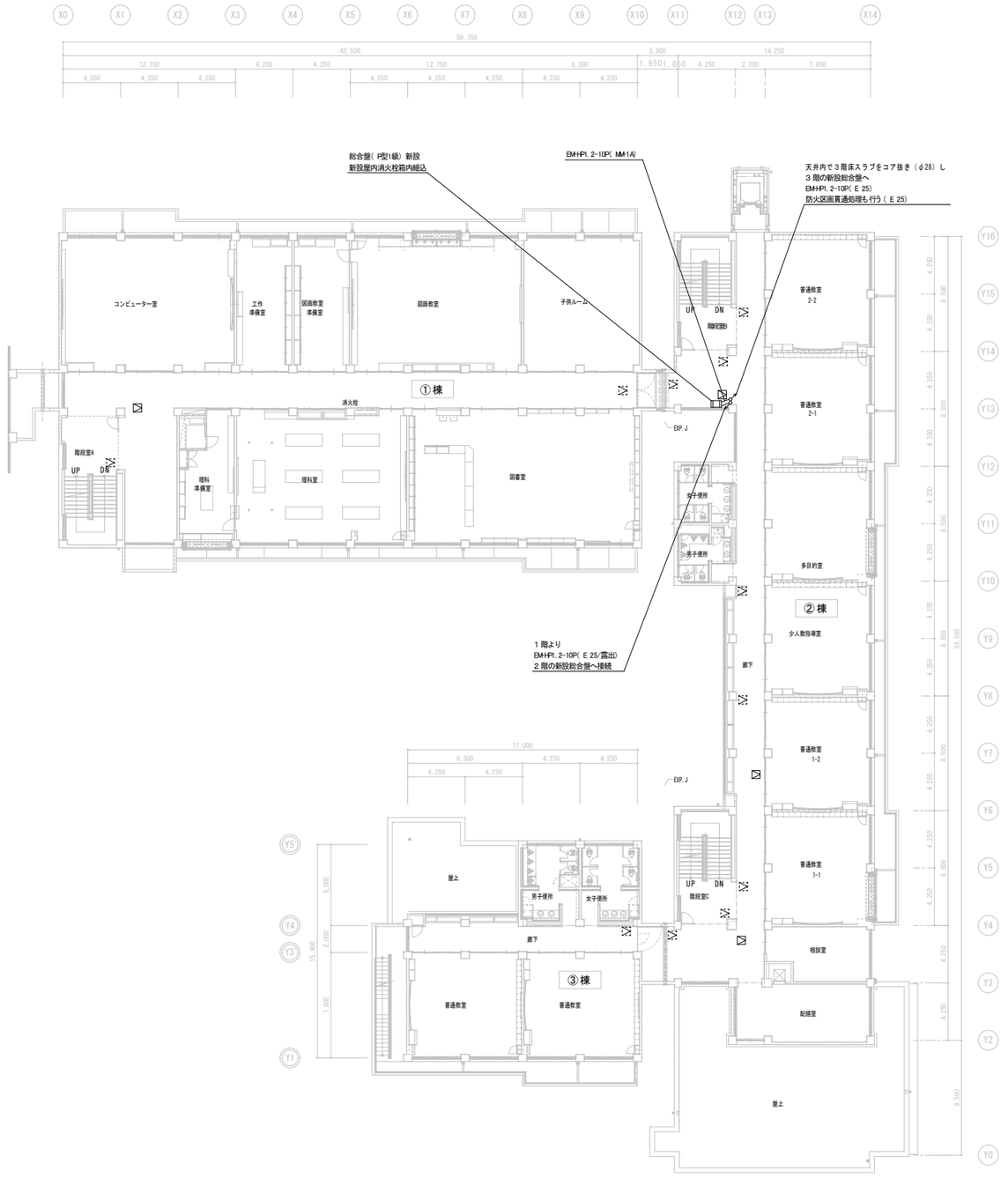
1階平面詳細図　S=1:30

| | | |



記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
	新設点検口（ 建築工事）
	既設点検口

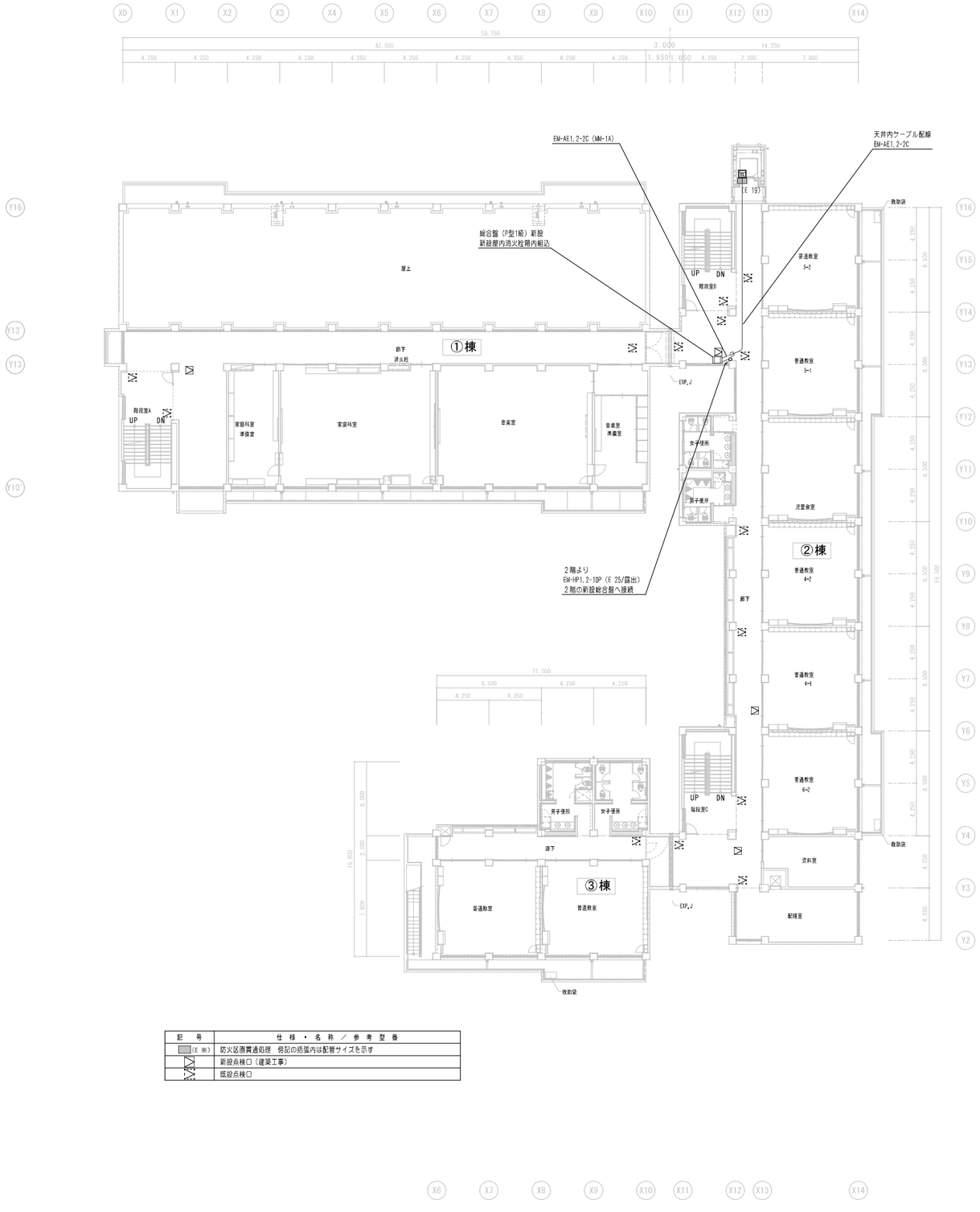
1 階 平 面 図



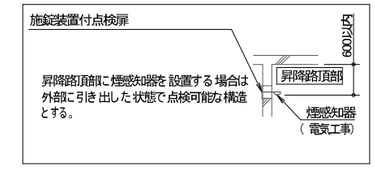
記　号	仕　様　・　名　称　／　参　考　型　番
	新設点検口（ 建築工事）
	既設点検口

2 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名	千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和　7年　10月　日	変更年月日	令和　年　月　日	変更年月日	令和　年　月　日	図面名	自動火災報知設備　1 階2 階平面図	縮尺	A1 1/200 A3 1/400	図面番号	E-10
			特記事項		特記事項		特記事項							

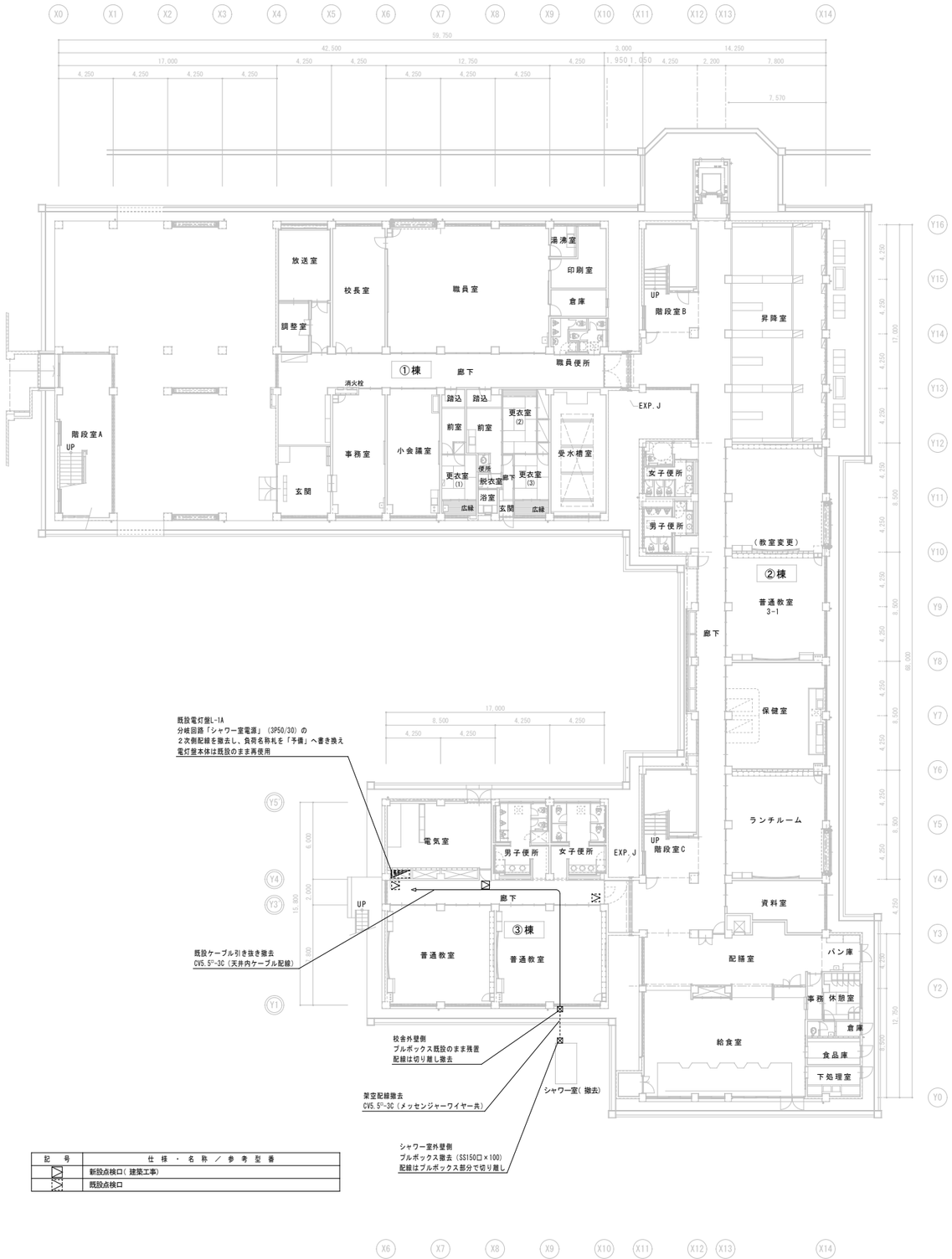


エレベータシャフト内煙感知器詳細



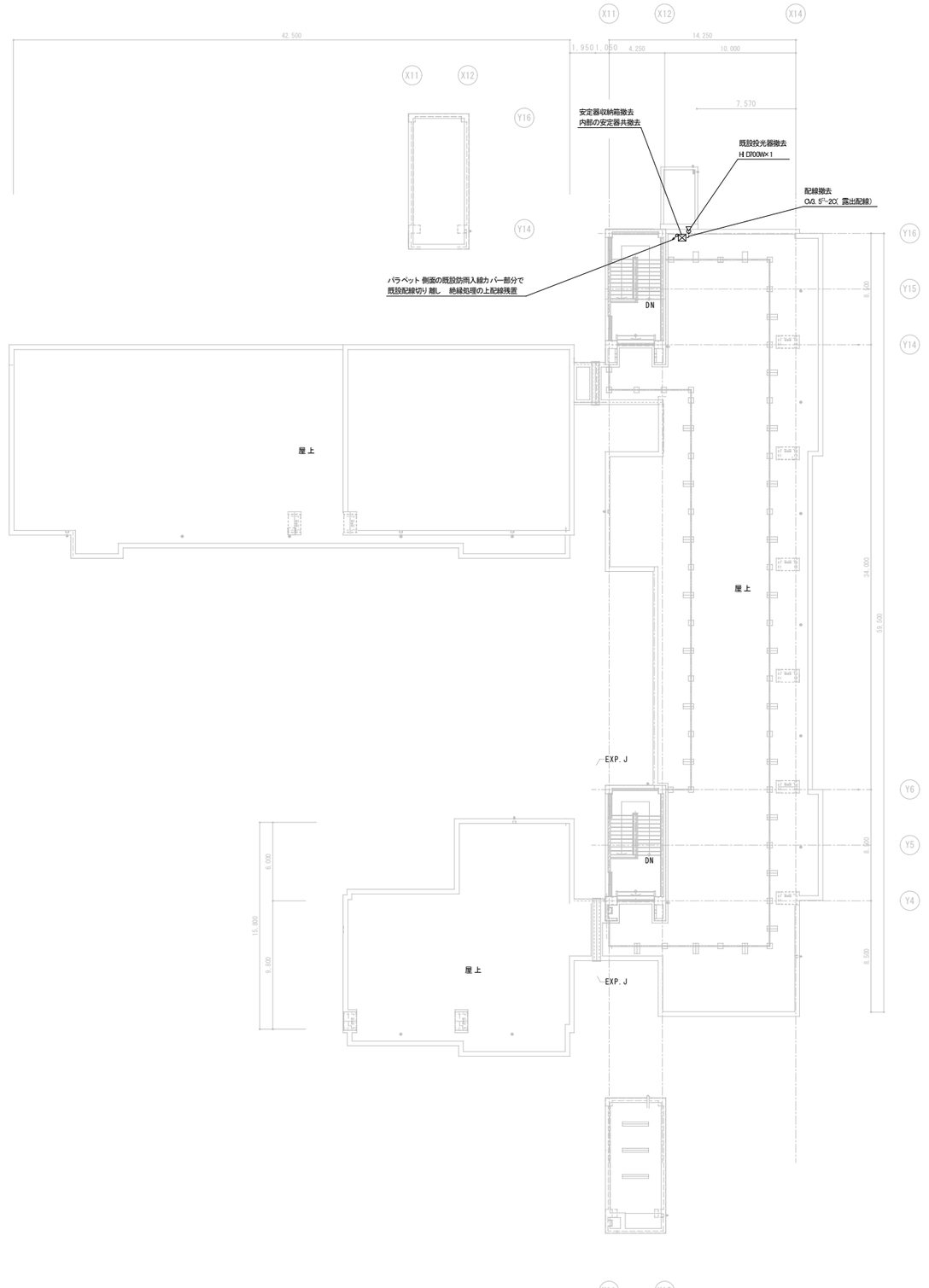
3 階 平 面 図

千葉市都市局建築部営繕課	工事名 千葉市立磯辺第三小学校エレベータ設置工事	設計年月日 令和 7年 10月 日	変更年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日	図面名 自動火災報知設備 3階平面図	縮尺 A1 1/200 A3 1/400	図面番号 E-11



記号	仕様・名称／参考型番
	新設点検口(建築工事)
	既設点検口

1階平面図



R階・PHR階平面図

| | | |